

青森県埋蔵文化財調査報告書 第169集

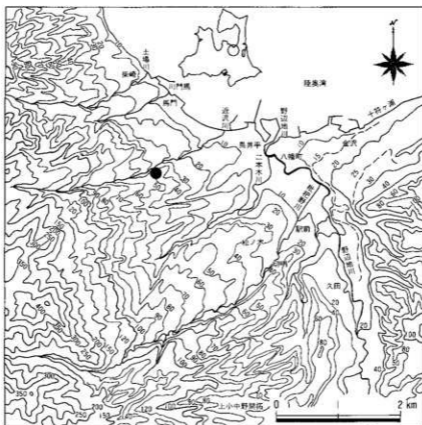
槻ノ木（1）遺跡

平成6年度

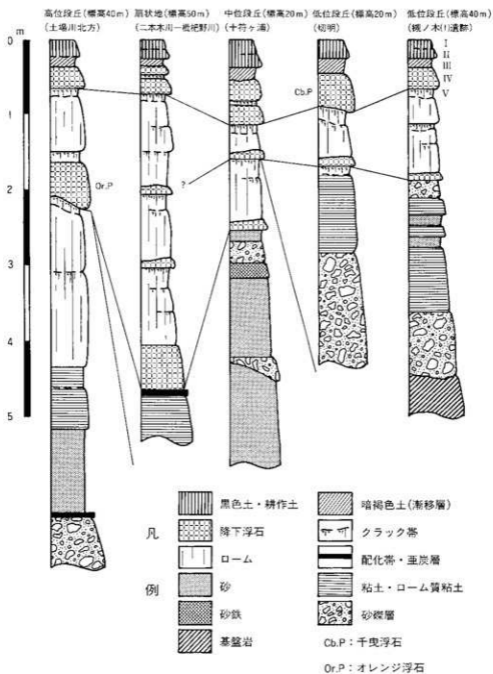
青森県教育委員会

の小河川の流域内には小規模ながら低位段丘（小湊付近では葉師野段丘と呼ぶ）が認められる。

槻ノ木遺跡は第3図に示したように野辺地町の西方約2km地点にあって、その調査区域は近沢川右岸沿いに位置している。背後には奥羽脊梁山脈北東端部の一角を占める烏帽子岳山塊が占めている。近沢川流域では山塊外縁部にあたる標高150m付近を扇頂部とする扇状地が展開していて、扇状地前面には野辺地段丘が位置し比高5～10mの段急崖で接している。これらの地形を分断して流れる近沢川流域内には低位段丘相当の古期氾濫原が認められる。古期氾濫原は原河床面と約5～6mの比高差が認められる。本遺跡の調査区域は近沢川右岸に分布する扇状地を被覆する古期氾濫原上に立地し、調査区域北端は近沢川に臨む比高4～5mの急崖となっている。調査区域からは、縄文時代中期の遺物密集部分が検出されており、これは、標準土層の第Ⅰ～Ⅲ層からの出土である。ただ本来の遺物包含層が雨水等に絡む崩落によって一部流された可能性があり、また薄く残った遺物包含層に、後世の崩落土（遺物を包含する）や耕作による土が被覆した部分も多く認められる。



第2図 遺跡周辺の等高線図



第4図 遺跡周辺における露頭の模式柱状図

先土器時代（旧石器時代）の遺跡では、ブレードが出土した目ノ越遺跡が知られているが、現在ではその出土地点は不明瞭である。また、樫ノ木（1）遺跡に隣接する獅子沢遺跡からも表採資料ではあるが、ナイフ型石器の出土例があり、今後、周辺において発掘調査の機会があるならば、ローム層中の調査も念頭にいれなければならないと考えている。

時代は前後するが、古代、中世においても、有戸雲雀牧場内からは古墳時代の遺物である剣形石製模造品の発見例（註1）や平安時代の明前館、二十平館、坊ノ塚館など館跡の分布も確認されている。

この他、遺跡確認の困難な山林地にも、遺跡立地条件を備えた場所が多くあり、今後も遺跡の数が増えることは確実である。

註1：伊東信雄 昭和28年「東北地方に於ける石製模造品の分布とその意義」『歴史 第六集』
東北史学会



第5図 周辺の遺跡（遺跡番号は、表と対応している）

野辺地町遺跡一覧表 - 1

遺跡番号	遺跡名	所在地	種別	立地	現状	時代	出土遺物の遺構
40001	槻ノ木(1)遺跡	字槻ノ木31、外	散佈地	丘陵	埋地	縄文時代前期・中期、弥生時代	縄文土器、石器、土偶、有孔石製品、土甕
40002	槻ノ木(2)遺跡	字槻ノ木84-48、外	散佈地	丘陵	埋地	縄文時代前期・後期	縄文土器
40003	八幡町遺跡	字笠館23、外	散佈地	丘陵	埋地	奈良時代・平安時代	土師器、須恵器
40004	上山川遺跡	字上山田5-1、 字上山田21-3、外	散佈地	丘陵	山林	縄文時代後期	縄文土器、石器、輝石土器店
40005	明前(1)遺跡	園科林339林裡	散佈地	丘陵	山林	奈良時代・平安時代	土師器、耳皿、鉄製品、壺穴住居跡、竈
40006	寺ノ沢遺跡	字寺ノ沢15、外	散佈地	丘陵	埋地	縄文時代前期・中期	縄文土器、石器
40007	有戸沢遺跡	字向田234、外	散佈地	海岸	埋地	奈良時代・平安時代	土師器
40008	阿高川原(1)遺跡	字上河原町42-3、外	散佈地	丘陵	埋地	縄文時代前期～後期	縄文土器
40009	梨崎(1)遺跡	字梨崎8、外	散佈地	丘陵	埋地	縄文時代前期・中期	縄文土器、石器
40010	二十平(1)遺跡	字二十平1-1、外	散佈地	丘陵	埋地	奈良時代・平安時代	土師器、須恵器、壺、壺穴住居跡
40011	野辺地代官所跡	字野辺地1	代官所跡	河原段	埋地	江戸時代	瓦
40012	坊ノ塚(1)遺跡	字坊ノ塚48-2、外	散佈地	丘陵	山林	奈良時代・平安時代	土師器、壺、壺穴住居跡
40013	新岡遺跡	字尾備9	散佈地	丘陵	山林	縄文時代後期	縄文土器、フレーク
40014	野辺地舞出(1)遺跡	字舞出33	散佈地	丘陵	山林	縄文時代後期	縄文土器
40015	野辺地舞出(2)遺跡	字舞出39-1	散佈地	河原段	埋地	縄文時代前期、弥生時代	縄文土器、弥生土器
40016	千草崎(1)遺跡	字千草崎16-2	散佈地	丘陵	山林	縄文時代後期	縄文土器
40017	千草崎(2)遺跡	字千草崎16 字千草崎東段44、外	散佈地	丘陵	埋地	縄文時代後期	縄文土器、フレーク
40018	千草崎(3)遺跡	字千草崎112、外	散佈地	丘陵	山林	縄文時代後期	縄文土器

野辺地町遺跡一覧表 - 2

遺跡名	所在地	種別	立地	現状	時代	出土遺物及び遺構
40019 神馬川原(2)遺跡	字神馬川原67-4、外	散布地	阪段丘陵	畑地	縄文時代後期	縄文土器、石器
40020 白石遺跡	字白石7-1、外	散布地	河原丘陵	畑地	縄文時代後期	縄文土器
40021 二十平(2)遺跡	字二十平165-1 字獅子谷263-2、外	集落跡	丘陵	山林	奈良時代・平安時代、 縄文時代	土師器、須恵器、縄文土器、石器、彫穴住居跡
40022 獅子谷遺跡	字獅子谷48-1、外	集落跡	丘陵	畑地	奈良時代・平安時代、 旧石器時代	土師器、須恵器、彫穴住居跡、ナイフ形石器
40023 切ノ塚一里塚	字切ノ塚52、外	一里塚	丘陵	山林	江戸時代	一里塚
40024 十文字(1)遺跡	字十文字43、外	散布地	丘陵	畑地	縄文時代後期	縄文土器、石器
40025 向田(1)遺跡	字向田118-5、外	散布地	海岸	荒廃地	16世紀～17世紀	陶磁器、キセル、笄、銅銭
40026 木明(1)遺跡	字木明44、外	散布地	河原丘陵	水田	縄文時代後期	縄文土器、石器、土偶
40027 松肥野遺跡	字松肥野3-3、外	散布地	丘陵	山林	縄文時代後期	縄文土器、石器
40028 向田(2)遺跡	字向田472、外	散布地	丘陵	山林	縄文時代前期	縄文土器、フレーク
40029 向田(3)遺跡	字向田303-1、外	散布地	丘陵	畑地	縄文時代	縄文土器、石器
40030 向田(4)遺跡	字向田576-2、外	散布地	丘陵	畑地	縄文時代後期	縄文土器
40031 観音林徳遺跡	字観音林25-3、外	散布地	丘陵	畑地	縄文時代後期	縄文土器、フレーク
40032 野辺地窪田(3)遺跡	字窪田36-2、外	散布地	丘陵	山林	奈良時代・平安時代	土師器
40033 神馬川原(3)遺跡	字神馬川原8、外	散布地	丘陵	畑地	縄文時代中期	縄文土器、石器
40034 西ノ森遺跡	字西ノ森8-81	塚	海岸	山林	江戸時代	塚
40035 木野(2)遺跡	字木野100-1、外	集落跡	河原丘陵	荒廃地	奈良時代・平安時代	土師器、柱穴、彫穴住居跡
40036 向田(5)遺跡	字向田118-11	散布地	丘陵	山林	縄文時代後期、 奈良時代・平安時代	縄文土器、土師器、藤土遺跡

野辺地町遺跡一覧表 - 3

遺跡名	遺跡名	所在地	種別	立地	現状	時代	出土遺物及び遺構
40037	向田 (6) 遺跡	字向田117	集落跡 包蔵地	台地	山林 草地	奈良時代・平安時代、 縄文時代後期	土師器、縄文土器、竪穴住居跡、土壇
40038	向田 (7) 遺跡	字向田117	集落跡 包蔵地	台地	山林 草地	奈良時代・平安時代	土師器、竪穴住居跡、土壇
40039	向田 (8) 遺跡	字向田117	散佈地	台地	草地	縄文時代	土器
40040	内田 (9) 遺跡	字内田117	集落跡	丘陵	草地	時期不明	竪穴住居跡、土壇
40041	内田 (10) 遺跡	字内田118-71	散佈地	丘陵	荒蕪地	縄文時代、 奈良時代・平安時代	縄文土器、土師器
40042	内田 (11) 遺跡	字内田118-5、118-72	包蔵地	丘陵	荒蕪地	縄文時代	縄文土器
40043	内田 (12) 遺跡	字内田118-5	散佈地	段丘	荒蕪地	縄文時代後期、奈良・ 平安・江戸時代	縄文土器、土師器、陶器、柱穴
40044	内田 (13) 遺跡	字内田451-1	散佈地	海岸 段丘	荒蕪地	縄文時代後期、 奈良時代・平安時代	縄文土器、土師器
40045	内田 (14) 遺跡	字内田557-1、外	集落跡	台地	畑 山林	奈良時代	土師器
40046	内田 (15) 遺跡	字内田585	包蔵地	丘陵	山林	縄文時代後期	縄文土器
40047	内田 (16) 遺跡	字内田585、外	包蔵地	台地	山林 畑地	時期不明	フラスコ状ビット
40048	内田 (17) 遺跡	字内田433、外	散佈地	台地	畑地 山林	縄文時代奈良・前期・ 後期、奈良・平安時代	縄文土器、石器、土師器
40049	内田 (18) 遺跡	字内田296、外	散佈地	丘陵	水田 山林	縄文時代後期、 奈良時代	縄文土器、弥生土器
40050	内田 (19) 遺跡	字内田25-14、外	散佈地	丘陵	水田 山林	縄文時代前期	縄文土器、石器
40051	内田 (20) 遺跡	字内田321-1、外	散佈地	台地	荒蕪地 山林	縄文時代早期・前期	縄文土器、石器、土壇
40052	内田 (21) 遺跡	字内田146 4、外	散佈地	丘陵	畑地	縄文時代後期、 奈良時代・平安時代	縄文土器、土師器
40053	内田 (22) 遺跡	字内田101-1、外	散佈地	台地	畑地	奈良時代・平安時代	柱穴
40054	内田 (23) 遺跡	字内田106-15、外	散佈地	台地	畑地 山林	奈良時代・平安時代	土師器

野辺地町遺跡一覧表 - 4

遺跡名	遺跡名	所在	種別	立地	現状	時代	出土遺物及び遺構
40055	向田 (24) 遺跡	字向田59、外	台地	台地	行跡 林跡	縄文時代後期	縄文土器、フレーク
40056	向田 (25) 遺跡	字向田75-2、外	散佈地	台地	畑地 山林	縄文時代	縄文土器
40057	向田 (26) 遺跡	字向田75-210、75-221	散佈地	台地	畑地 遺跡	奈良時代・平安時代	土師器、竪穴住居跡
40058	向田 (27) 遺跡	字向田545、外	散佈地	台地	山林	縄文時代	縄文土器
40059	向田 (28) 遺跡	字向田395-1、外	散佈地	台地	遺跡	縄文時代中期・後期	縄文土器
40060	下道 (1) 遺跡	字下道49、50、外	散佈地	台地	畑地 山林	縄文時代	縄文土器、石器
40061	小沢平 (1) 遺跡	字小沢平34-1 字中田34-3、外	集落跡	台地	山林	奈良時代・平安時代、 縄文時代後期	土師器、垂草器、 縄文土器、竪穴住居跡
40062	中野田 (1) 遺跡	田有林530林道	包蔵地	丘陵	山林	縄文時代前期	縄文土器、土環
40063	中野田 (2) 遺跡	字向田247、 田有林530林道	散佈地	台地	畑地 山林	縄文時代、 奈良時代・平安時代	縄文土器、土師器
40064	東太田沢 (1) 遺跡	字東太田沢1-264、 1-16、外、	包蔵地	丘陵	山林	縄文時代中期・後期	縄文土器、石器
40065	東太田沢 (2) 遺跡	字東太田沢1-17、外	散佈地	台地	畑地	縄文時代後期	縄文土器
40066	野辺地蟹田 (4) 遺跡	字蟹田36 1、外	包蔵地	台地	山林	奈良時代、 奈良時代・平安時代	縄文土器、土師器
40067	野辺地蟹田 (5) 遺跡	字蟹田24-5、34-143	包蔵地	台地	畑地 蟹田地	時期不明	丁ゼット、土環
40068	野辺地蟹田 (6) 遺跡	字蟹田34-37	散佈地	台地	畑地	縄文時代後期、 奈良時代・平安時代	縄文土器、土師器、須磨器
40069	野辺地蟹田 (7) 遺跡	字蟹田34-38、34-59	散佈地	台地	畑地 遺跡	縄文時代後期、 奈良時代・平安時代	縄文土器、土師器
40070	野辺地蟹田 (8) 遺跡	字蟹田34-147	散佈地	台地	畑地 山林	縄文時代後期	縄文土器、石器
40071	野辺地蟹田 (9) 遺跡	字蟹田187-1、外	散佈地	台地	畑地 遺跡	縄文時代後期、 奈良時代・平安時代	縄文土器、土師器
40072	明前 (2) 遺跡	字明前の60、84-3、 田有林530林道	散佈地	台地	畑地 山林	縄文時代後期	縄文土器、石器

野辺地町遺跡一覧表 - 5

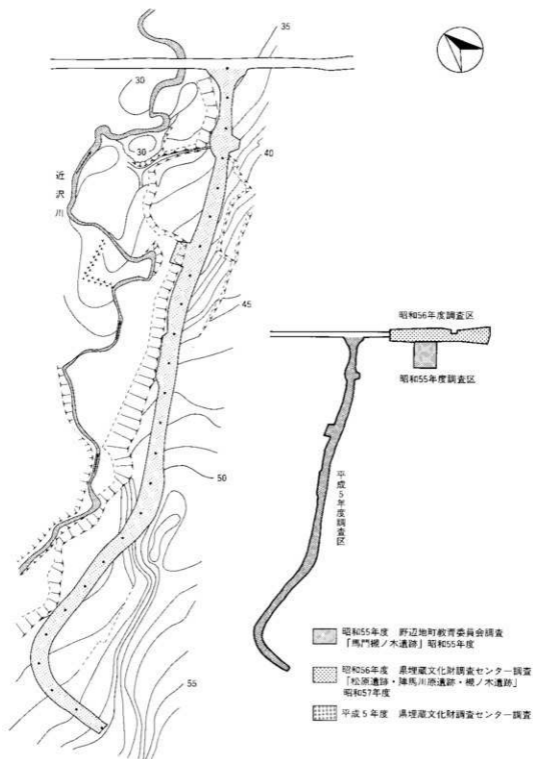
遺跡番号	遺跡名	所在地	種別	立地	現状	時代	出土遺物及び遺構
40073	明前 (3) 遺跡	字のつ2-1、72-9	包蔵地	台地	山林	縄文時代後期	縄文土器
40074	古明前 (1) 遺跡	字古明前1-1、29-8、 29-3、4-1	散布地	台地	畑地	縄文時代前期・ 奈良時代・平安時代	縄文土器、石器、土師器
40075	有戸島井平 (1) 遺跡	字有戸島井平281-1、外	散布地	台地	畑地	縄文時代後期	縄文土器、土師器
40076	有戸島井平 (2) 遺跡	字有戸島井平64-22、64-23、 64-1	包蔵地	台地	山林	奈良時代・平安時代	縄文土器、石器、土師器
40077	有戸島井平 (3) 遺跡	字有戸島井平63	包蔵地	台地	山林	縄文時代後期	縄文土器、石器
40078	千草圃 (4) 遺跡	字千草圃38-2	包蔵地	台地	山林	縄文時代後期	縄文土器
40079	千草圃 (5) 遺跡	字千草圃64-5	散布地	台地	畑地	奈良時代・平安時代	土師器
40080	神木田沢 (1) 遺跡	阿有林326林趾	包蔵地	河原段	山林	縄文時代早期・中期・ 後期	縄文土器
40081	香木田沢 (2) 遺跡	阿有林329林趾	包蔵地	河原段	山林	縄文時代後期	縄文土器
40082	大谷地津沢 (1) 遺跡	字大谷地津沢3、12-2、 12-6	散布地	台地	畑地	縄文時代後期	縄文土器
40083	大谷地津沢 (2) 遺跡	阿有林326林趾	包蔵地	台地	山林	縄文時代	縄文土器
40084	大谷地津沢 (3) 遺跡	字大谷地津沢44、45	散布地	台地	畑地	縄文時代後期	縄文土器
40085	河内 (1) 遺跡	字河内6-19、外	包蔵地	台地	山林	縄文時代	縄文土器
40086	タラノ木 (1) 遺跡	字タラノ木115-1、115-4、外	散布地	台地	畑地	縄文時代前期・中期・ 後期	縄文土器
40087	切ノ塚 (2) 遺跡	字切ノ塚13-6、外	散布地	台地	畑地	縄文時代早期・前期・ 中期	縄文土器
40088	戸田ノ沢 (1) 遺跡	字戸田ノ沢17-2、外	散布地	台地	畑地	縄文時代後期	縄文土器
40089	米内沢 (1) 遺跡	字米内沢28-1、外	散布地	台地	畑地	縄文時代後期	縄文土器
40090	浜掛 (1) 遺跡	字浜掛107-1、外	散布地	台地	畑地	縄文時代後期・晩期、 奈良時代・平安時代	縄文土器、土師器

野辺地町遺跡一覧表 - 6

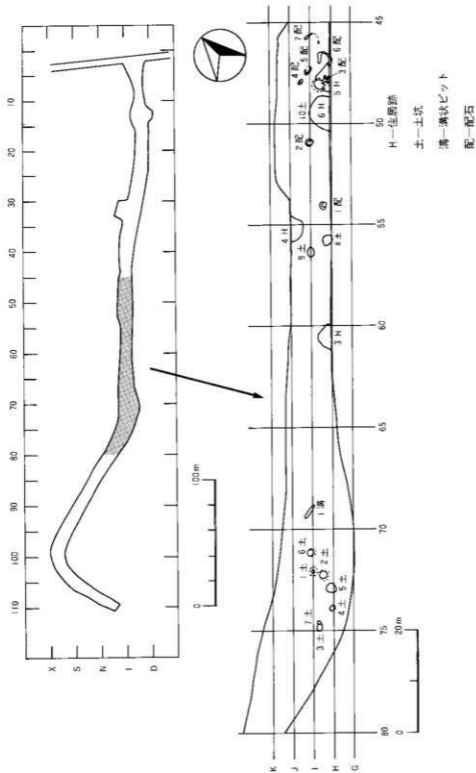
遺跡名	遺跡名	所在地	種別	立地	現状	時代	出土遺物及び遺構
40091	上小野(1)遺跡	字上小野995、 字仙地野3-1	散佈地	台地	畑 山林	縄文時代・ 奈良時代・平安時代	縄文土器、土師器
40092	下松ノ木平(1)遺跡	字下松ノ木27-1、外	散佈地	丘陵	畑 宅地	縄文時代後期・縄文時代	縄文土器
40093	松ノ木(1)遺跡	字松ノ木114-2 字仙地野51-17、外	包蔵地	台地	山林 道	縄文時代後期	縄文土器
40094	南高川原(4)遺跡	字南高川原53、外	散佈地	台地	畑	縄文時代前期・後期	縄文土器
40095	家ノ上(1)遺跡	字家ノ上84-1、外	散佈地	台地	畑	縄文時代後期、 奈良時代・平安時代	縄文土器、石器、土師器
40096	樺ノ木(3)遺跡	字樺ノ木118-11、188-12、 外	散佈地	丘陵	畑	縄文時代後期	縄文土器、フレーク
40097	樺ノ木(4)遺跡	字樺ノ木84-7、外	散佈地	台地	山林 畑	縄文時代前期・中期・ 後期、奈良・平安時代	縄文土器、石器、土師器
40098	樺ノ木(5)遺跡	字樺ノ木130、134、外	包蔵地	台地	山林 畑	縄文時代中期・後期	縄文土器
40099	樺ノ木(6)遺跡	字樺ノ木75-24、外	散佈地	台地	畑	縄文時代後期	縄文土器
40100	樺ノ木(7)遺跡	字樺ノ木1-1、 字大平下65-17、外	集積跡	丘陵	山林 道	縄文時代中期・後期	縄文土器、石器、 片断状土製品
40101	樺ノ木(8)遺跡	字樺ノ木132、外	包蔵地	台地	山林 運路	縄文時代後期	縄文土器、石器
40102	樺ノ木(9)遺跡	字樺ノ木72-1、外	包蔵地	台地	山林	縄文時代後期	縄文土器
40103	十文字(2)遺跡	字十文字1、外	散佈地	台地	畑	縄文時代後期	縄文土器、石器
40104	大平下(1)遺跡	字大平下2-1、外	散佈地	海岸 段丘	畑 宅地	縄文時代前期・後期、 奈良時代・平安時代	縄文土器、フレーク、 土師器
40105	大平下(2)遺跡	字大平下29-12、外	散佈地	台地	畑	縄文時代後期	縄文土器
40106	大平下(3)遺跡	字大平下115-1、外	散佈地	台地	畑 山林	縄文時代後期	縄文土器、フレーク、 土器
40107	大平下(4)遺跡	字大平下65-107、65-75、 外	包蔵地	台地	山林 畑	縄文時代後期	縄文土器
40108	上河渡頭(1)遺跡	畑山林78林班	包蔵地	台地	山林 道	縄文時代後期	縄文土器、フレーク

野辺地町遺跡一覧表 - 7 -

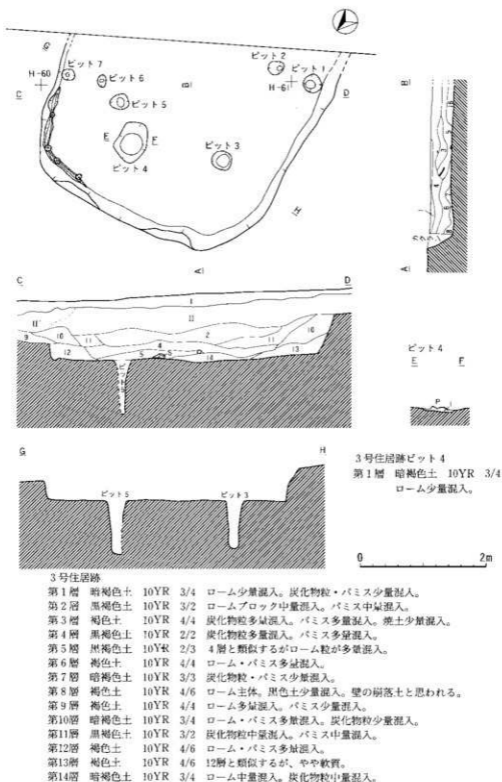
遺跡名	所在地	種別	立地	現状	時代	出土遺物及び遺構
40109 七河波頭(2)遺跡	字上河波頭21-3、 區自然林林班	包蔵地	台地	山林 遺跡	縄文時代後期	縄文土器
40110 稲刈(1)遺跡	字高沢16、37-7、外	包蔵地	台地	山林 遺跡	縄文時代前期・後期	縄文土器
40111 田圃(1)遺跡	字田圃59-1、外	散布地	台地	畑地	縄文時代前期・後期	縄文土器
40112 田圃(2)遺跡	字田圃30、31-3	散布地	台地	畑地 遺跡	縄文時代後期、 奈良時代・平安時代	縄文土器、土師器
40113 田圃(3)遺跡	字田圃12-1、外	散布地	台地	畑地 遺跡	縄文時代前期・後期	縄文土器
40114 中置(1)遺跡	字中置7-1、 字田圃64-2、外	散布地	台地	畑地 遺跡	縄文時代前期・後期	縄文土器
40115 中置(2)遺跡	字中置220、外	散布地	台地	畑地 遺跡	縄文時代後期	縄文土器
40116 中置(3)遺跡	字中置64-2、外	散布地	台地	畑地 遺跡	縄文時代後期	縄文土器
40117 ハノ木谷地(1)遺跡	字ハノ木谷地31-1、30-3、 外	散布地	扇形 段丘 台地	畑地 遺跡	縄文時代後期	縄文土器、フレータ
40118 桑崎(2)遺跡	字桑崎10-20、外	散布地	台地	畑地 山林 遺跡	縄文時代後期	縄文土器
40119 桑崎(3)遺跡	字桑崎17、18、外	散布地	台地	畑地 山林 遺跡	縄文時代中期・後期	縄文土器



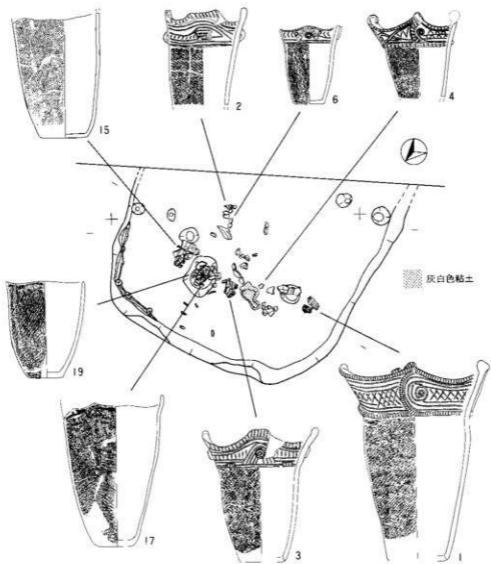
第6図 調査区の地形と調査範囲



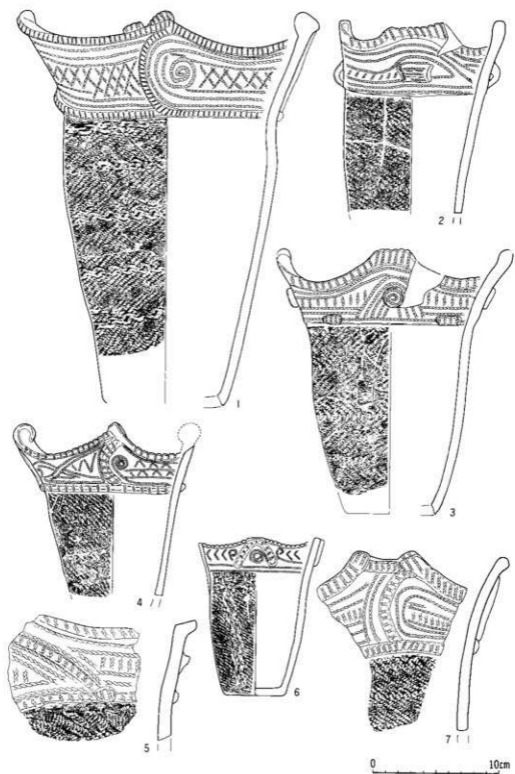
第7図 遺構配置図



第8図 第3号竪穴住居跡平面図



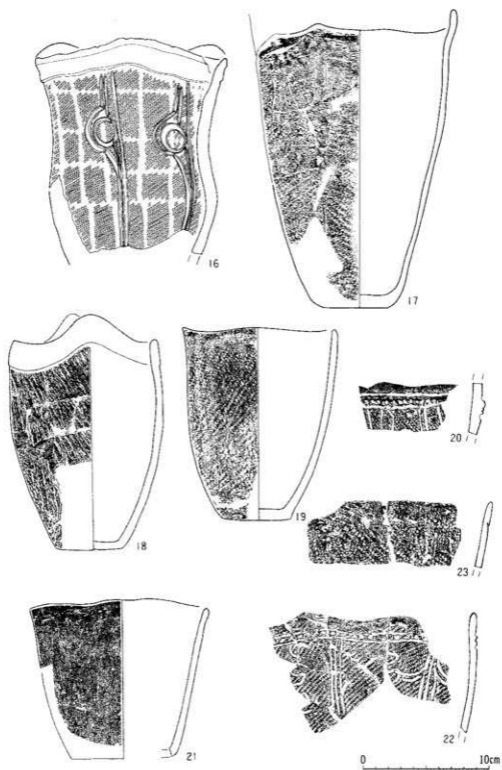
第9圖 第3号竖穴住居跡遺物出土狀況



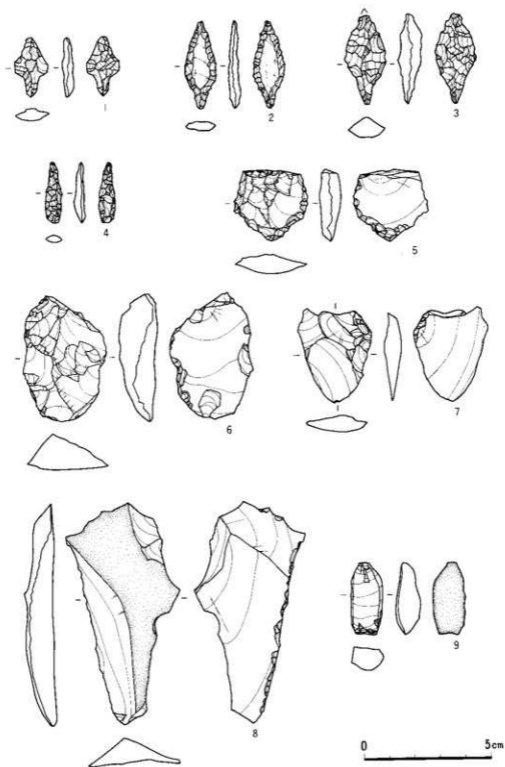
第10图 第3号竖穴住居跡出土土器-1



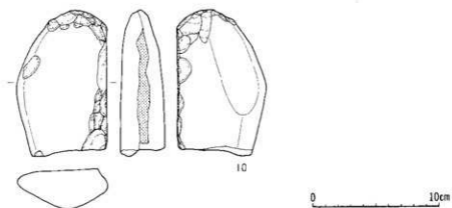
第11图 第3号竖穴住居跡出土土器-2



第12图 第3号竖穴住居跡出土土器-3



第13图 第3号竖穴住居跡出土石器-1



第14図 第3号竪穴住居跡出土石器-2

図版番号	遺構名	部	部位	口頸部文様	胴部文様	分類	数量
第10図-1	3H	フ	完形	波状口縁(4) 燃糸圧痕	斜縄文RL ループ	III群1類	110
-2	3H	フ	略完形	波状口縁(4) 燃糸圧痕 橋状把手	羽状縄文	III群1類	37
-3	3H	床	略完形	波状口縁(4) 燃糸圧痕 ボタン状突起	羽状縄文	III群1類	62
-4	3H	フ	略完形	波状口縁(4) 燃糸圧痕	斜縄文RL	III群1類	18
-5	3H	フ	口縁	波状口縁 燃糸圧痕		III群1類	206
-6	3H	フ	略完形	波状口縁(4) 燃糸圧痕	斜縄文RL(無節) 縦位ループ	III群1類	13
-7	3H	フ	口縁	波状口縁 燃糸圧痕		III群1類	204
第11図-8	3H	フ	口縁	波状口縁 燃糸圧痕	羽状縄文	III群1類	200
-9	3H	フ	口縁	波状口縁 燃糸圧痕		III群1類	207
-10	3H	フ	口縁	波状口縁 橋状把手 ボタン状突起		III群1類	208
-11	3H	フ	口縁	平口縁 燃糸圧痕		III群1類	205
-12	3H	皿	口縁	波状口縁 燃糸圧痕		III群1類	201
-13	3H	フ	口縁	波状口縁 燃糸圧痕 橋状把手		III群1類	203
-14	3H	フ	口縁	波状口縁 燃糸圧痕 橋状把手		III群1類	202
-15	3H	フ	胴~底		斜縄文LR	III群6類	131
第12図-16	3H	フ	略完形	波状口縁(4) 折り返し状口縁 無文	斜縄文LR わらびて文	IV群1類	64
-17	3H	フ	略完形	波状口縁(3)	横位斜縄文LR	IV群1類	68
-18	3H	フ	完形	波状口縁(2) 折り返し状口縁	綾絡文	IV群2類	35
-19	3H	フ	完形	波状口縁(3)	斜縄文LR	IV群2類	36
-20	3H	フ	口縁	刺突文 無文		IV群2類	211
-21	3H	フ	略完形	平口縁	磨痕	IV群2類	33
-22	3H	フ	口縁	波状口縁 刺突文		IV群2類	210
-23	3H	フ	口縁	折り返し状口縁		IV群4類	209

図版番号	遺構名	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	種類	整理番号
第13図-1	3H	フク土	23	13	5	1.1	玉髄質珪質頁岩	石鏝	95
-2	3H	フク土	35	12	5	1.6	玉髄	石鏝	119
-3	3H	床直	(36.0)	16	9.5	(3.6)	珪質頁岩	石鏝	361
-4	3H	床直	23.5	6.5	4.5	0.5	玉髄質珪質頁岩	石鏝	717
-5	3H	フク土	28	30	8	6.9	珪質頁岩	不定形	1292
-6	3H	フク土	50.5	33	15.5	21.4	珪質頁岩	不定形	1290
-7	3H	フク土	37	29	7	6.9	玉髄質珪質頁岩	不定形	1091
-8	3H	フク土	87.5	45.5	12.5	30.6	珪質頁岩	不定形	1288
-9	3H	フク土	28.5	13.5	10	4.9	珪質頁岩	肉楯	403
-10	3H	フク土	(117.0)	77	35.5	(409.2)	安山岩	スリ石	5031

第4号竪穴住居跡 (第15~19図)

〔位置〕 I-54・55グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 北側の半分、もしくはそれ以上が調査区外にあるため、全体形を確認できなかった。柱穴の配置及び東壁の形状から、隅丸方形か、またはやや南北に長い隅丸長方形を呈するものと考えられる。調査区の北側は約5メートルで急崖となるため、現段階では長楕円形は想定できないが、川岸の崩落が数カ所認められることから、構築時にはより川側に台地がのびていた可能性もあり断定し得ない。確認部分は、南北で360cm、東西で410cmである。

また、南東端が木根により攪乱を受けている。

〔壁〕 第Ⅲ・Ⅳ層を壁としているが、最上部は不明瞭である。壁はほぼ垂直であり、上部はややもろく、下部はしまりがある。床面近くは若干粘性が認められる。

〔床面〕 第Ⅳ層を掘り込み、地山を床面としている。貼り床面の痕跡は確認できなかった。床面は若干粘性が認められ、全体に緩やかな起伏がみられ、特に中央部がくぼんでいる。

〔壁溝〕 東壁で2箇所ほど途切れるが、他の部分は壁直下に、幅20~30cm、深さ約10~20cmの溝が存在する。

〔柱穴・ピット〕 14個の柱穴及びピットを検出した。この内、ピット10・11・14の3個が主柱穴と考えられる。ただ、この3個のピットは、深さが約60cm~80cmと非常に深いものであるが、直径が22~30cmと非常に細いものである。ピット1・3・4・5・7の5個が支柱の壁柱穴と考えられる。ピット9・12・13は、なんらかの付属施設と考えられる。

〔灰〕 調査区の境界線上から4個の礫が出土し、この下部に埋設土器を確認した。埋設土器は60×30cmの不整楕円形を呈するピットの東側に埋められている。土器は、頸部から胴部上半部までで、口縁部と底部を欠失している。ピットは深さ10cm程で、底面は平坦である。土器内部の堆積土は、浮石の多く混じった褐色土を主体としており、ピット内では、暗褐色土を主体

として、全体に炭化物粒を混入している。明瞭な焼土は確認できなかったが、土器埋設炉と考えられる。また、位置的には、住居の形状が隅丸方形の場合は、ほぼ住居の中央部分と考えられる。

【付属施設】 ビット9・12・13が付属した施設と考えられるが、用途等は不明である。これらは、柱穴の近くに存在することから、柱との関連性が考えられる。

【堆積土】 22層に分層できた。黒褐色土及び暗褐色土を主体としており、全体に炭化物粒を混入している。上部は粘性がなく、しまりも少ないが、下部は、特に壁際及び床面直上は、粘性がありしまりも強い。

【出土遺物】 確認面から床面まで遺物が出土している。

土器は、上部からは、第Ⅳ群1・2類（椀林・最花式）が散発的に出土しているが、特に後者の出土が多い。床面及び床面直上からは、第Ⅲ群1類（円筒上層a式）の土器が数個体出土している。

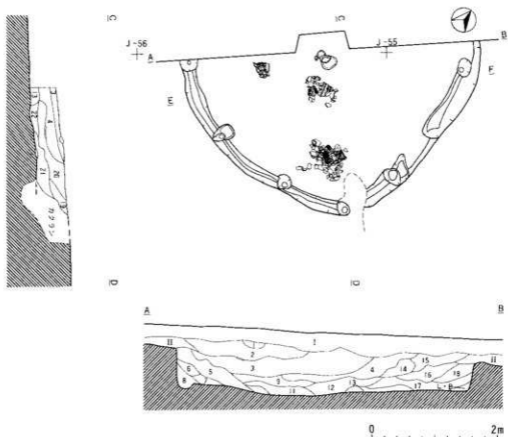
石器は、石鏃8点と軽石が出土している。このほかに玉髓の小礫を打ち欠いた両極石核が数点出土している。

【小結】 本住居跡の構築時期は、炉の埋設土器及び床面出土の土器型式から、縄文時代中期初頭、円筒上層a式期の後半と考えられる。また、柱穴の配置からは、拡張（増築）はなかったと考えられるが、東側の壁溝が一部途切れる部分は、出入口の可能性も考えられる。

ビット計測表

(単位：cm)

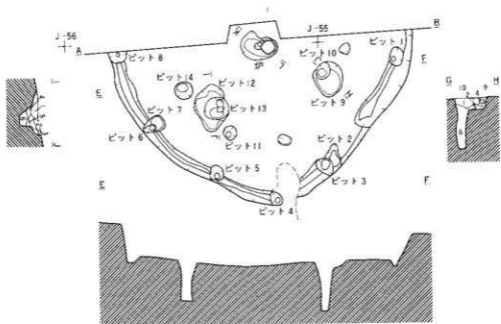
番号	長軸×短軸	深さ	備考	番号	長軸×短軸	深さ	備考
1	27×20	31	壁柱穴	8	26×(16)	14	壁溝の凹
2	38×26	20		9	58×46	20	
3	35×25	32	壁柱穴	10	30×22	83	主柱穴
4	26×18	31	壁柱穴	11	23×20	62	主柱穴
5	25×25	40	壁柱穴	12	78×55	12	
6	20×10	56	根跡?	13	36×30	29	
7	32×26	33	壁柱穴	14	28×30	65	主柱穴



4号住居跡

第1層	灰黄褐色土	10YR	4/2	炭化物粒若干混入。シルト質火山灰混入。
第2層	暗褐色土	10YR	3/4	炭化物粒微量混入。
第3層	黒褐色土	10YR	2/2	ローム・バミス少量混入。炭化物粒多量混入。焼土粒微量混入。
第4層	黒褐色土	10YR	2/2	ローム少量、炭化物粒・バミス多量、焼土粒少量混入。
第5層	暗褐色土	10YR	3/4	ローム・バミス多量混入。炭化物少量混入。
第6層	暗褐色土	10YR	3/4	ローム・バミス多量混入。炭化物中量混入。
第7層	暗褐色土	10YR	3/4	ローム・バミス多量混入。炭化物中量混入。
第8層	暗褐色土	10YR	3/3	ローム多量混入。炭化物粒・バミスごく少量混入。
第9層	黒褐色土	10YR	2/2	炭化物・バミスやや多量混入。
第10層	暗褐色土	10YR	3/4	ローム・バミス多量混入。炭化物少量混入。
第11層	黒褐色土	10YR	2/2	炭化物中量混入。バミス若干混入。
第12層	黒色土	10YR	2/1	炭化物多量混入。バミス若干混入。
第13層	黒褐色土	10YR	2/2	ローム少量混入。炭化物粒・バミス多量混入。粘性強い。
第14層	黒褐色土	10YR	2/3	炭化物・バミスやや多量混入。しまり大。
第15層	黒褐色土	10YR	3/2	炭化物・バミスやや多量混入。
第16層	暗褐色土	10YR	3/4	炭化物少量混入。バミスやや多量混入。
第17層	褐色土	10YR	4/4	ローム多量混入。炭化物・バミス・焼土粒少量混入。
第18層	暗褐色土	10YR	3/4	バミス中量混入。
第19層	黒褐色土	10YR	2/2	ローム・バミス少量混入。炭化物粒多量混入。
第20層	黒褐色土	10YR	2/2	ローム少量混入。炭化物粒・バミス多量混入。しまりやや強い。
第21層	黒褐色土	10YR	2/2	ローム少量混入。バミス多量混入。
第22層	暗褐色土	10YR	3/4	ローム・炭化物粒・バミス少量混入。粘性強い。

第15図 第4号竪穴住居跡遺物出土状況



4号住居跡 ピット12

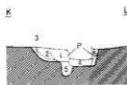
- 第1層 黒褐色土 10YR 3/2
ローム・パミス多量混入。炭化物粒微量混入。
- 第2層 暗褐色土 10YR 3/3
ローム・パミス多量混入。
- 第3層 暗褐色土 10YR 3/4
ローム・パミス多量混入。炭化物粒微量混入。
- 第4層 暗褐色土と 10YR 3/3+10YR 4/5
褐色土の混合土 ローム多量混入。パミス少量混入。
- 第5層 褐色土 10YR 4/5
ローム多量混入。
- 第6層 褐色土 10YR 4/4
ローム多量混入。炭化物粒・パミス少量混入。

0 2m

4号住居跡 ピット9・10

- 第1層 暗褐色土 10YR 3/3
ローム・パミス多量混入。炭化物粒少量混入。
- 第2層 暗褐色土 10YR 3/3
ローム多量混入。炭化物粒微量混入。パミス少量混入。
- 第3層 暗褐色土と 10YR 3/3+10YR 4/4
褐色土の混合土 ローム・パミス少量混入。
- 第4層 黄褐色土 10YR 2/3
ローム多量混入。
- 第5層 褐色土 10YR 5/8
パミス多量混入。暗褐色土少量混入。
- 第6層 暗褐色土 10YR 4/5
ローム・パミス少量混入。炭化物粒ごく少量混入。

炉跡

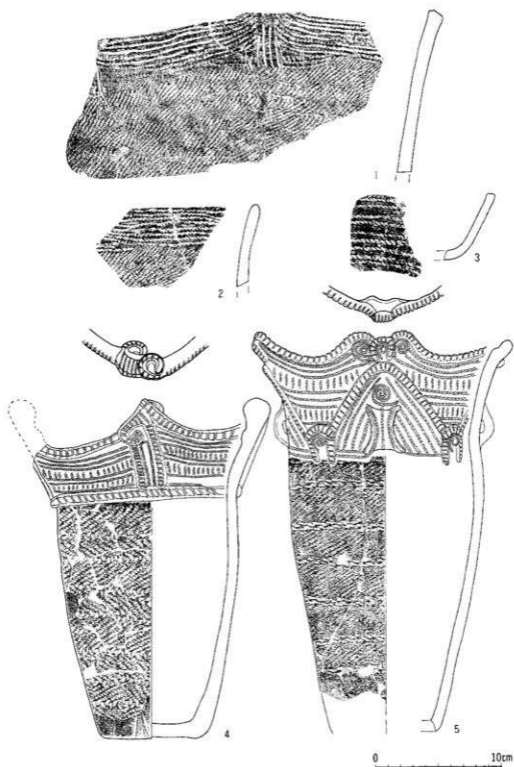


4号住居跡 炉

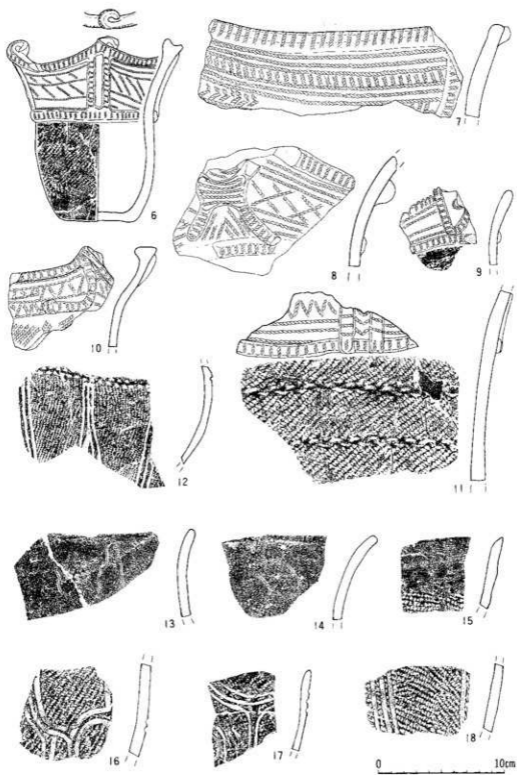
- 第1層 黒褐色土 10YR 2/2
ローム・炭化物粒・パミス少量混入。
- 第2層 暗褐色土 10YR 3/3
ローム・炭化物粒・パミス微量混入。
- 第3層 暗褐色土 10YR 3/4
ロームブロック多量混入。炭化物粒少量混入。
- 第4層 褐色土 10YR 4/6
ローム・炭化物粒少量混入。パミス多量混入。
- 第5層 黒褐色土 10YR 2/2
ローム多量混入。炭化物粒・粘土粒微量混入。パミス少量混入。

0 1m

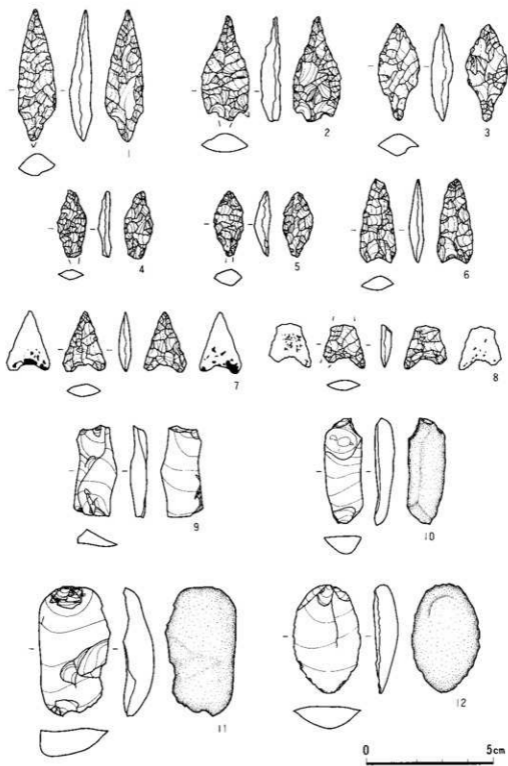
第16図 第4号竪穴住居跡平面図



第17图 第4号竖穴住居跡出土土器-1



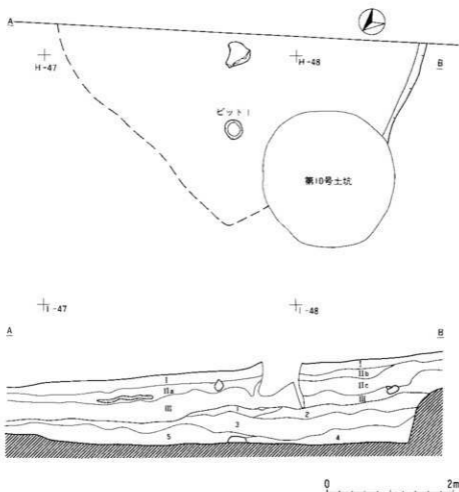
第18图 第4号竖穴住居跡出土土器—2



第19图 第4号竖穴住居跡出土石器

図版番号	遺構名	部	部位	口縁部文様	胴部文様	分類	数量
第17図-1	4 H	フ	口~胴	波状口縁 燃糸圧痕	斜縄文LR	II群	330
-2	4 H	フ	口縁	平口縁 燃糸圧痕		II群	219
-3	4 H	フ	口~底	平口縁	燃糸圧痕	III群1類	217
-4	4 H	フ	完形	波状口縁(4) 燃糸圧痕	羽状縄文	III群1類	91
-5	4 H	フ	完形	波状口縁 燃糸圧痕 橋状把手	横位斜縄文RL ループ	III群1類	93
第18図-6	4 H	フ	完形	波状口縁(4) 燃糸圧痕	斜縄文LR	III群1類	29
-7	4 H	フ	口縁	波状口縁 燃糸圧痕		III群1類	224
-8	4 H	フ	口縁	波状口縁 燃糸圧痕 橋状把手		III群1類	213
-9	4 H	フ	口縁	波状口縁 燃糸圧痕		III群1類	223
-10	4 H	フ	口縁	波状口縁 燃糸圧痕		III群1類	220
-11	4 H	部	胴部	隆帯+隆帯上に圧痕 横位山形圧痕	横位斜縄文RL ループ	III群6類	130
-12	4 H	フ	口~胴	刺突文2列	垂下文	IV群2類	221
-13	4 H	フ	口縁	平口縁 無文		IV群2類	214
-14	4 H	フ	口縁	平口縁 無文		IV群2類	218
-15	4 H	フ	口縁	平口縁 無文		IV群2類	216
-16	4 H	フ	口~胴		沈線文	IV群2類	222
-17	4 H	フ	口縁	波状口縁 沈線文		IV群2類	212
-18	4 H	フ	胴部		斜縄文LR 垂下文	IV群2類	215

図版番号	遺構名	部位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	器種	整理番号
第19図-1	4 H	フク土	(52.5)	15	9	(5.5)	珪質頁岩	石鉢	111
-2	4 H	フク土	(42.0)	18.5	7.5	(4.9)	珪質頁岩	石鉢	252
-3	4 H	フク土	48.5	16	8.5	3.7	玉髄質珪質頁岩	石鉢	107
-4	4 H	フク土	(26.0)	11	5	(1.3)	珪質頁岩	石鉢	262
-5	4 H	床直	(26.0)	12	6	(1.6)	玉髄質珪質頁岩	石鉢	266
-6	4 H	フク土	(33.0)	14	6.5	(2.3)	珪質頁岩	石鉢	101
-7	4 H	フク土	23.5	17	5	1.3	珪質頁岩	石鉢	106
-8	4 H	フク土	(17.0)	(16.5)	(4.5)	(1.1)	珪質頁岩	石鉢	164
-9	4 H	フク土	36	18	7	3.7	珪質頁岩	不定形	1289
-10	4 H	フク土	41.5	15.5	8	5.8	珪質頁岩	両極	402
-11	4 H	フク土	51	28.5	11.5	16.9	珪質頁岩	両極	401
-12	4 H	フク土	43	27	10	10.5	珪質頁岩	両極	404



5号住居跡

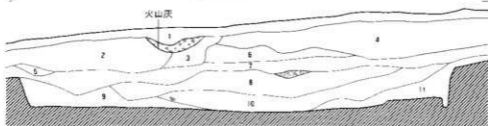
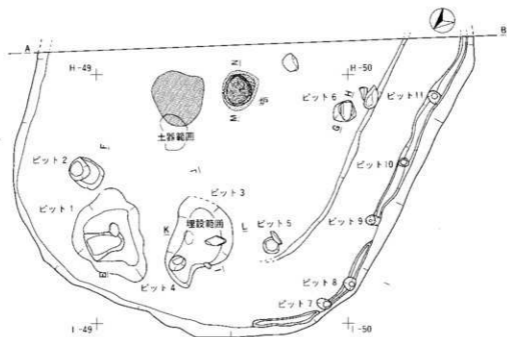
- | | | | | |
|-----|------|------|-----|------------------------------|
| 第1層 | 暗褐色土 | 10YR | 3/3 | ローム少量混入。炭化物粒少量混入。 |
| 第2層 | 暗褐色土 | 10YR | 3/4 | ローム少量混入。炭化物粒少量混入。 |
| 第3層 | 暗褐色土 | 10YR | 3/4 | ローム少量混入。炭化物粒中量混入。 |
| 第4層 | 黄褐色土 | 10YR | 5/6 | 炭化物粒微量混入。暗褐色土少量混入。 |
| 第5層 | 褐色土 | 10YR | 4/6 | ローム少量混入。炭化物粒少量混入。暗褐色土まばらに混入。 |

第20図 第5号竪穴住居跡平面図



第21図 第5号竪穴住居跡出土石器

図版番号	遺構名	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	材質	器種	整理番号
第21図	J11	フク土	(66.5)	(45.5)	(34.0)	(156.9)	閃緑岩	石杵	2022



6号住居跡

- | | | | |
|------|-------|---------------------|-------------------------------|
| 第1層 | 黒褐色土 | 10YR 2/2 | ローム多量混入。炭化物粒多量混入。灰土粒微量混入。 |
| 第2層 | 暗褐色土 | 10YR 3/3 | ローム多量混入。炭化物粒多量混入。パミス少量混入。 |
| 第3層 | 黒褐色土 | 10YR 2/3 | ローム少量混入。炭化物粒・パミス少量混入。黄土粒微量混入。 |
| 第4層 | 暗褐色土 | 10YR 3/4 | ローム多量混入。炭化物粒多量混入。パミス少量混入。 |
| 第5層 | 暗褐色土上 | 10YR 3/3 + 10YR 4/6 | 褐色土の混合土 |
| 第6層 | 暗褐色土上 | 10YR 3/4 + 10YR 4/6 | 褐色土の混合土 |
| 第7層 | 黒褐色土上 | 10YR 2/3 + 10YR 3/3 | 褐色土の混合土 |
| 第8層 | 褐色土 | 10YR 4/1 | ローム多量混入。炭化物粒多量混入。パミス多量混入。 |
| 第9層 | 褐色土 | 10YR 4/4 | ローム多量混入。炭化物粒少量混入。パミス多量混入。 |
| 第10層 | 暗褐色土 | 10YR 3/3 | ローム多量混入。炭化物粒多量混入。パミス多量混入。 |
| 第11層 | 褐色土 | 10YR 4/6 | ローム多量混入。炭化物粒少量混入。パミス多量混入。 |

0 2m

第22図 第6号竪穴住居跡平面図

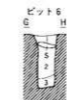


- 6号住居跡 ピット1
- 第1層 褐色土 10YR 4/6
ローム微量混入。
- 第2層 暗褐色土 10YR 3/4
ローム少量混入。
- 第3層 褐色土 10YR 4/4
ローム微量混入。
- 第4層 濃い黄褐色土 10YR 4/3
ローム微量混入。炭化物粒微量混入。



- 6号住居跡 ピット3
- 第1層 黒褐色土 10YR 2/3
ローム微量混入。炭化物粒少量混入。
- 第2層 褐色土 10YR 4/4
ローム少量混入。炭化物粒微量混入。
- 第3層 濃い黄褐色土 10YR 4/3
ローム少量混入。炭化物粒微量混入。

炉跡



- 6号住居跡 ピット6
- 第1層 暗褐色土 10YR 3/4
ローム中量混入。炭化物粒多量混入。
- 第2層 褐色土 10YR 4/4
ローム多量混入。炭化物粒多量混入。
- 第3層 褐色土 10YR 4/6
粘性・塑性非常にあり。



- 6号住居跡 埋戻土面
- 第1層 暗褐色土 10YR 3/4
ローム少量混入。炭化物粒少量混入。
- 第2層 黄褐色土 10YR 5/8
埋戻土。
- 第3層 褐色土 10YR 4/4
炭化物粒混入。

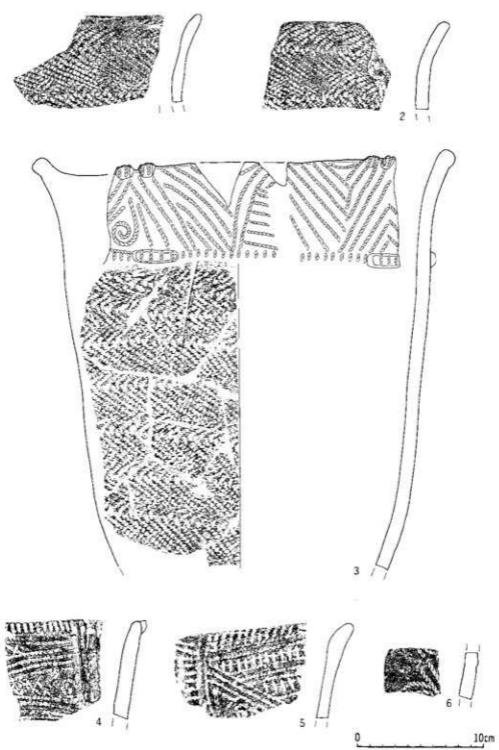
0 2m

6号住居跡 跡

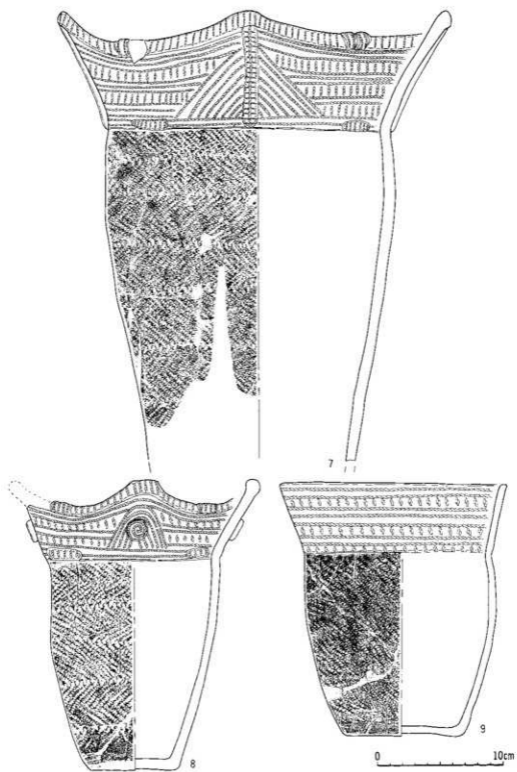
- 第1層 暗褐色土 10YR 3/4
ローム少量混入。炭化物粒多量混入。炭土粒少量混入。
- 第2層 褐色土 10YR 4/4
ローム多量混入。炭化物粒多量混入。炭土粒多量混入。
- 第3層 暗褐色土 10YR 3/4
ローム多量混入。炭化物粒多量混入。炭土粒多量混入。
- 第4層 暗褐色土 10YR 3/3
ローム多量混入。炭化物粒多量混入。
- 第5層 暗褐色土 10YR 3/4
ローム少量混入。炭土粒少量混入。
- 第6層 褐色土 10YR 4/4
ローム多量混入。炭化物粒多量混入。炭土粒多量混入。
- 第7層 赤褐色土 2.5YR
4/6 焼土層
- 第8層 赤褐色土 10YR 5/8
ロームブロック
- 第9層 赤褐色土 2.5YR
4/6 黄褐色土が所状に混入。

0 1m

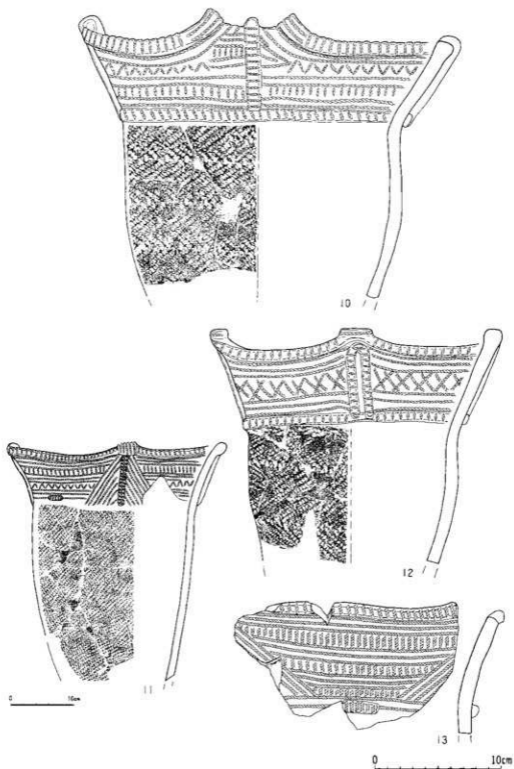
第23図 6号竪穴住居跡平面図



第24图 第6号竖穴住居跡出土土器-1



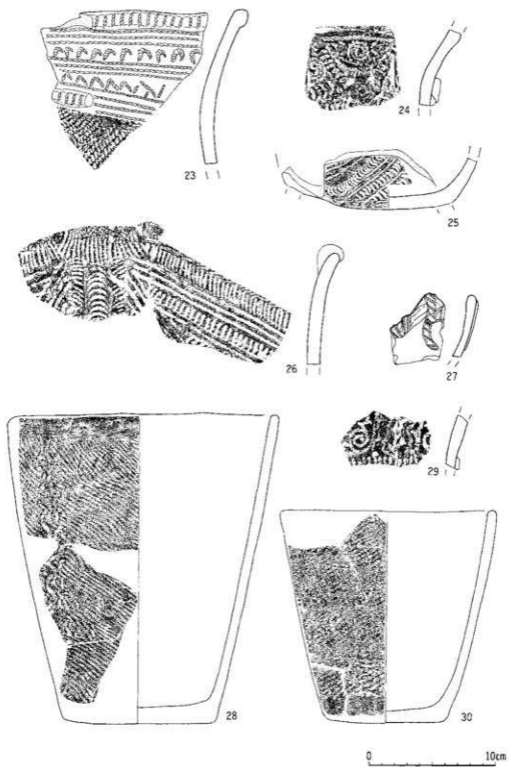
第25图 第6号竖穴住居跡出土土器-2



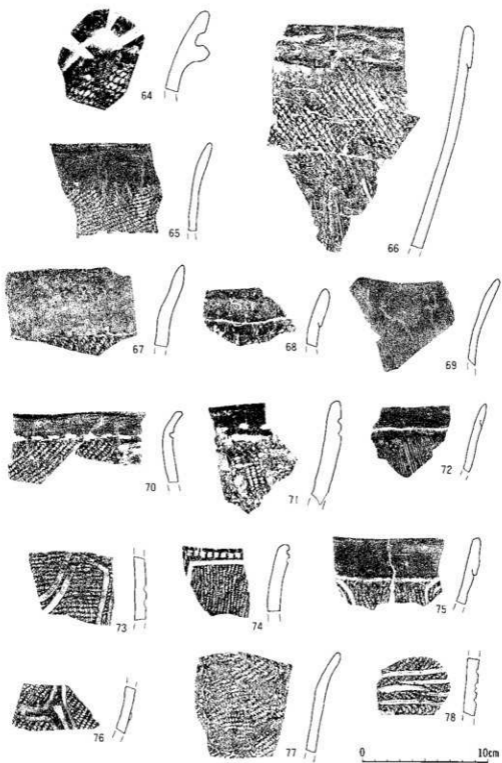
第26图 第6号竖穴住居跡出土土器-3



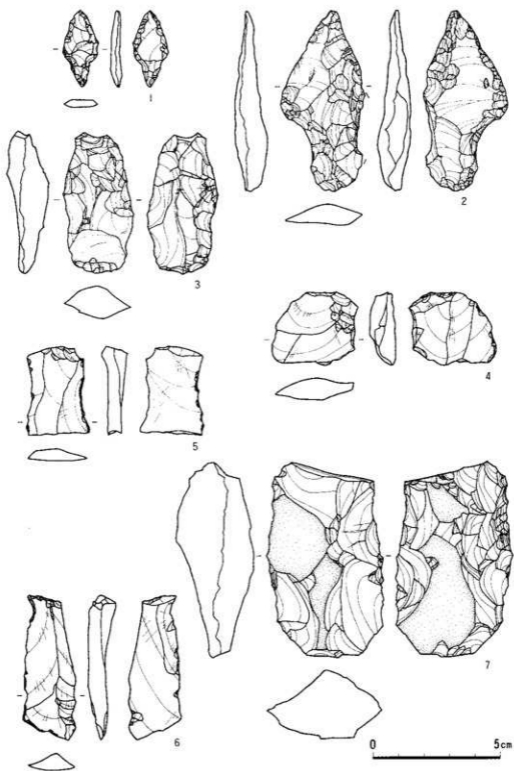
第27图 第6号竖穴住居跡出土土器-4



第28图 第6号竖穴住居跡出土土器—5



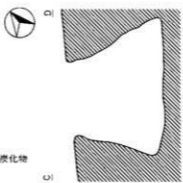
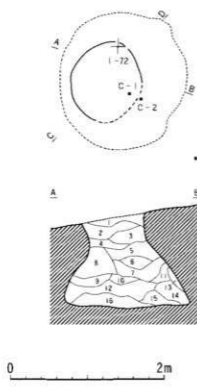
第29图 第6号竖穴住居跡出土土器-6



第30图 第6号竖穴住居跡出土石器

図版番号	漢名	部	部位	口顔部文様	鬚部文様	分類	資料
第24回-1	6 H	フ	口縁	平口縁		I群	237
-2	6 H	フ	口縁	平口縁		I群	245
-3	6 H	床	口～胴	平口縁 髷糸圧痕	羽状縄文	II群	122
4	6 H	フ	口縁	平口縁 髷糸圧痕		III群1類	235
-5	6 H	フ	口縁	波状口縁 髷糸圧痕		III群1類	236
-6	6 H	フ	口縁	髷糸圧痕		III群1類	256
第25回-7	6 H	フ	完形	波状口縁(4) 髷糸圧痕	羽状縄文	III群1類	119
-8	6 H	フ	完形	波状口縁(4) 髷糸圧痕 ボタン状突起	羽状縄文	III群1類	72
-9	6 H	フ	完形	平口縁 髷糸圧痕	斜縄文LR	III群1類	92
第26回-10	6 H	フ	口～胴	波状口縁(4) 髷糸圧痕	羽状縄文	III群1類	328
-11	6 H	床	口～胴	波状口縁(4) 髷糸圧痕	斜縄文LR	III群1類	329
-12	6 H	フ	略完形	波状口縁(4) 髷糸圧痕	羽状縄文	III群1類	70
-13	6 H	床	口縁	波状口縁 髷糸圧痕		III群1類	225
第27回-14	6 H	床	口～胴	波状口縁 髷糸圧痕	斜縄文LR 横位結緒文	III群1類	227
15	6 H	フ	口縁	波状口縁 髷糸圧痕		III群1類	226
-16	6 H	フ	口縁	平口縁 髷糸圧痕		III群1類	332
17	6 H	フ	口縁	髷糸圧痕 ボタン状突起		III群1類	234
-18	6 H	フ	口縁	波状口縁 髷糸圧痕		III群1類	228
-19	6 H	フ	口縁	波状口縁 髷糸圧痕		III群1類	250
-20	6 H	フ	口縁	波状口縁 髷糸圧痕		III群1類	232
-21	6 H	フ	口縁	平口縁 髷糸圧痕		III群1類	229
22	6 H	フ	口縁	波状口縁 髷糸圧痕		III群1類	233
第28回-23	6 H	フ	口縁	波状口縁 髷糸圧痕		III群2類	585
-24	6 H	フ	口縁	髷糸圧痕 ボタン状突起		III群2類	248
-25	6 H	フ	胴～底		髷糸圧痕 刺突文(馬蹄形)	III群2類	243
-26	6 H	フ	口縁	波状口縁 髷糸圧痕		III群2類	231
-27	6 H	フ	口縁	波状口縁 髷糸圧痕		III群6類	252
-28	6 H	フ	胴～底		斜縄文RL 縦位結緒文	III群6類	127
-29	6 H	フ	口縁	髷糸圧痕		III群6類	251
-30	6 H	床	胴～底		斜縄文RL	III群6類	61
第29回-31	6 H	フ	口縁	波状口縁		IV群1類	254
-32	6 H	フ	口縁	平口縁 無文		IV群2類	240
-33	6 H	フ	口～胴	平口縁 折り返し状口縁	斜縄文RL 押痕	IV群2類	230
-34	6 H	フ	口縁	平口縁 折り返し状口縁		IV群2類	247
-35	6 H	フ	口縁	平口縁 折り返し状口縁		IV群2類	239
-36	6 H	フ	口縁	波状口縁 無文		IV群2類	238
-37	6 H	フ	口縁	平口縁 無文 刺突文1列		IV群2類	257
-38	6 H	フ	口縁	波状口縁 刺突文1列		IV群2類	241
-39	6 H	フ	口縁	平口縁 折り返し状口縁		IV群2類	244
-40	6 H	フ	胴部		斜縄文LR 沈線文	IV群2類	258
-41	6 H	フ	口縁	刺突文1列 平口縁		IV群3類	255
-42	6 H	フ	口縁	平口縁 折り返し状口縁		IV群3類	242
43	6 H	フ	胴部		斜縄文RL	IV群3類	253
-44	6 H	フ	口縁	波状口縁		IV群4類	246
-45	6 H	フ	胴部		沈線文	VI群	249

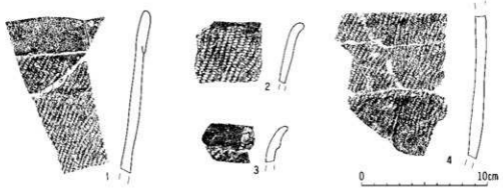
図版番号	遺構名	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	器種	整理番号
第30図-1	6H	フク土	30.5	13	3	1.5	珉質頁岩	石鏃	362
-2	6H	フク土	71.5	(33.5)	13	(20.8)	珉質頁岩	石槍	523
-3	6H	フク土	55.5	28	16.5	17.8	珉質頁岩	石鏃	624
-4	6H	フク土	29.5	34.5	10.5	6.2	珉質頁岩	不定形	1283
-5	6H	フク土	35	25	10	9.5	玉髓質珉質頁岩	不定形	1282
-6	6H	フク土	57	21	11	8	珉質頁岩	不定形	1281
7	6H	フク土	77.5	46.5	31	95	珉質頁岩	不定形	1293



●炭化物

- 第1号土坑
- | | | | | |
|------|--------|------|-----|---------------------------|
| 第1層 | 暗褐色土 | 10YR | 3/3 | ローム粒少量混入。炭化物粒・焼土微量混入。 |
| 第2層 | 黒褐色土 | 10YR | 2/2 | ローム粒・炭化物粒少量混入。焼土微量混入。 |
| 第3層 | 灰色黄褐色土 | 10YR | 4/3 | ローム粒・炭化物粒少量混入。焼土微量混入。 |
| 第4層 | 灰色黄褐色土 | 10YR | 4/3 | ローム粒中量混入。炭化物粒少量混入。焼土微量混入。 |
| 第5層 | 褐色土 | 10YR | 4/4 | ローム少量混入。炭化物粒少量混入。 |
| 第6層 | 暗褐色土 | 10YR | 3/4 | ローム粒少量混入。炭化物粒微量混入。 |
| 第7層 | 褐色土 | 10YR | 4/4 | ローム中量混入。炭化物粒微量混入。 |
| 第8層 | 褐色土 | 10YR | 4/4 | ロームを中心とした層。炭化物粒微量混入。 |
| 第9層 | 褐色土 | 10YR | 4/4 | ロームを中心とした層。 |
| 第10層 | 褐色土 | 10YR | 4/4 | ロームを中心とした層。 |
| 第11層 | 褐色土 | 10YR | 4/5 | ローム少量混入。炭化物粒微量混入。 |
| 第12層 | 褐色土 | 10YR | 4/4 | ローム層。炭化物粒微量混入。焼土微量混入。 |
| 第13層 | 褐色土 | 10YR | 4/5 | ローム中量混入。 |
| 第14層 | 褐色土 | 10YR | 4/5 | ローム多量混入。炭化物粒微量混入。 |
| 第15層 | 褐色土 | 10YR | 4/4 | ローム粒。崩落？ |
| 第16層 | 褐色土 | 10YR | 4/4 | 15層と類似しているが非常にもろい。崩落？ |

第31図 第1号土坑

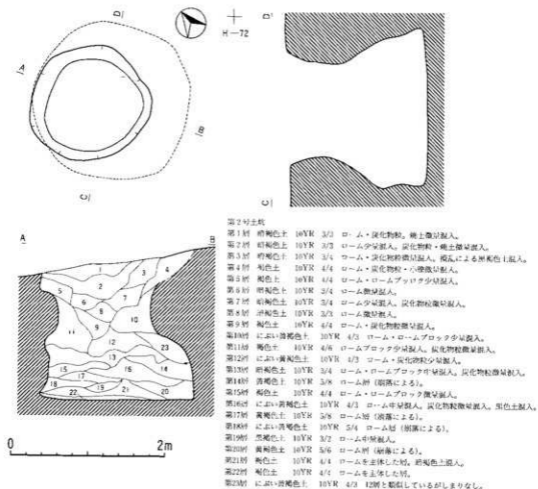


第32図 第1号土坑出土土器

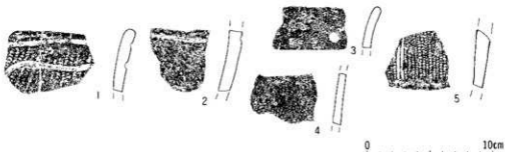
〔出土遺物〕 土坑中位に炭化物を多く含む層が存在し、この上下から土器片及び礫が出土している。また、ほぼ同レベルから小型の土偶が出土している。

〔その他〕 確認面上に遺物包含層が認められたことや出土遺物から、本土坑の構築時期は縄文時代中期と考えられる。

覆土中から出土した炭化木片は、樹種同定の結果「クリ」及び「エノキ」と報告されている。(第IV章参照。)



第33図 第2号土坑



第34図 第2号土坑出土土器

第7号土坑 (第35図)

[位置] H-74グリッドに位置する。

[重複] 第3号土坑と重複しており、本土坑が古い。

[平面形・規模] 北西側の半分を第3号土坑により切られており、全体形は不明である。残存部は、開口部で南北110cm、底面で100cm、深さは、70cmである。壁は、ほぼ垂直で、底面は若干の起伏が認められるが、全体に平坦である。

[堆積土] 6層に分層できた。暗褐色土を主体としており、ローム粒および炭化物粒が混入している。中位以下はローム粒の混入が多く、底面よりは暗褐色土とロームとの混合土である。

[出土遺物] 覆土上部から土器片が数片出土したが、流れ込みと考えられる。

[その他] 本土坑の構築時期は、重複している土坑の時期から、縄文時代中期またはそれ以前と考えられる。

第4号土坑 (第38・39図)

[位置] H-73グリッドほかに位置する。

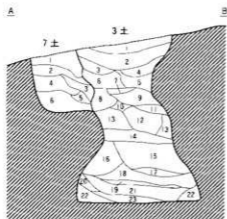
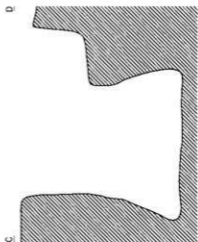
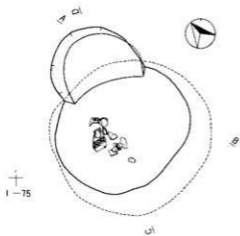
[重複] 重複は認められない。

[平面形・規模] 木根等による攪乱で、特に北東側の形状は不明瞭である。全体に不整な楕円形を呈する。推定長軸約160cm、短軸140cmで、深さは約10~40cmである。全体にスリ鉢状を呈し、底面は傾斜している。

[堆積土] 9層に分層できた。上部は暗褐色土を主体として、下部はローム主体の堆積である。全体に炭化物粒を混入しており、しまりが認められる。人為堆積と考えられる。

[出土遺物] 出土しなかった。

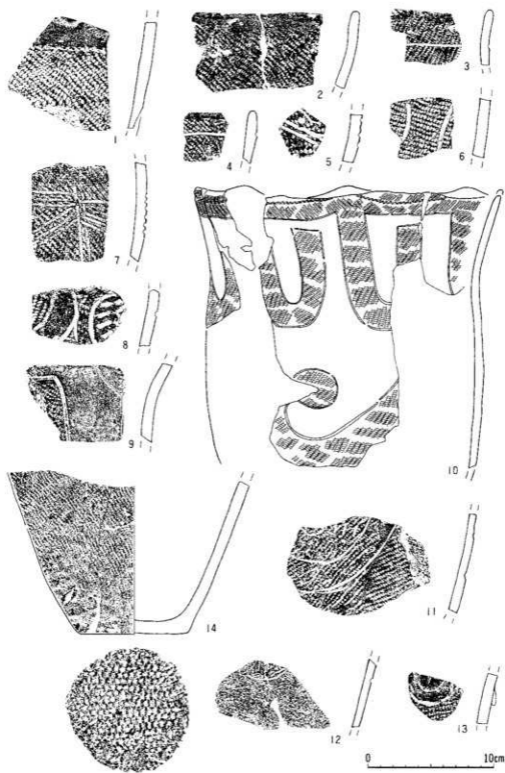
[その他] 構築時期は不明であるが、他の土坑同様、縄文時代の可能性が高い。



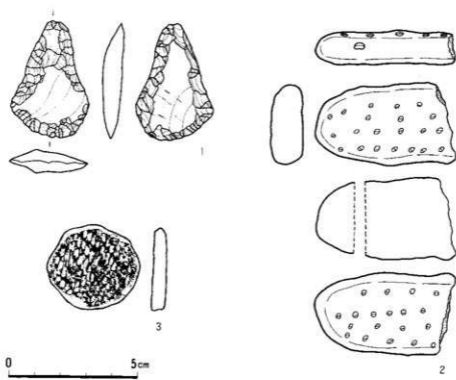
- 第7号土坑
- 第1層 暗褐色土 10YR 3/3
ローム少量混入。炭化物少量混入。
- 第2層 暗褐色土 10YR 3/4
ローム少量混入。炭化物粒少量混入。
- 第3層 褐色土 10YR 4/6
ローム多量混入。炭化物微量混入。
- 第4層 暗褐色土 10YR 3/3
ローム多量混入。炭化物粒少量混入。
- 第5層 褐色土 10YR 4/3
粘土質のロームが全体的に多量混入。黒褐色土がまだらに混入。
- 第6層 暗褐色土 10YR 3/3
ローム粒多量混入。粘土質のローム多量混入。炭化物少量混入。

- 第3号土坑
- 第1層 暗褐色土 10YR 2/3 ローム・炭化物少量混入。粘土混入。
- 第2層 暗褐色土 10YR 2/2 ローム・炭化物多量混入。粘土混入。
- 第3層 暗褐色土 10YR 3/2 ローム多量混入。炭化物粒多量混入。
- 第4層 暗褐色土 10YR 3/3 ローム・粘土質のローム多量混入。炭化物少量混入。
- 第5層 暗褐色土 10YR 3/3 ローム多量混入。炭化物多量混入。
- 第6層 暗褐色土 10YR 3/3 ローム多量混入。炭化物多量混入。
- 第7層 暗褐色土 10YR 3/3 ローム多量混入。
- 第8層 暗褐色土 10YR 3/3 ローム多量混入。粘土質ローム・炭化物少量混入。
- 第9層 暗褐色土 10YR 3/3 ローム多量混入。炭化物粒多量混入。
- 第10層 褐色土 10YR 4/4 コーム・炭化物粒少量混入。暗褐色土がまだらに混入。
- 第11層 褐色土 10YR 4/4 ローム多量混入。暗褐色土がまだらに混入。
- 第12層 暗褐色土 7.5YR 3/8 暗褐色土がまだらに混入。
- 第13層 暗褐色土 7.5YR 3/8 炭化物粒微量混入。暗褐色土少量混入。
- 第14層 暗褐色土 7.5YR 3/8 炭化物微量混入。
- 第15層 暗褐色土 7.5YR 5/6 ローム少量混入。
- 第16層 褐色土 7.5YR 4/6 粘土質のローム多量混入。
- 第17層 暗褐色土 7.5YR 5/6 粘土質のロームがまだらに多量混入。
- 第18層 暗褐色土 7.5YR 3/8 褐色土6層(7.5YR)が少量混入。暗褐色土微量混入。
- 第19層 褐色土 7.5YR 4/6 粘土質のローム多量混入。暗褐色土少量混入。
- 第20層 暗褐色土 7.5YR 3/8 しまりよく粘付あり。
- 第21層 暗褐色土 7.5YR 3/8 褐色土多量混入。暗褐色土少量混入。
- 第22層 暗褐色土 7.5YR 3/8 暗褐色土微量混入。
- 第23層 暗褐色土 10YR 2/2 第1層のローム多量混入。暗褐色土少量混入。

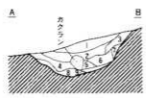
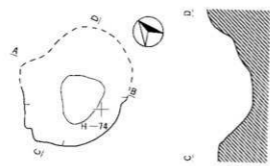
第35図 第3・7号土坑



第36图 第3号土坑出土土器



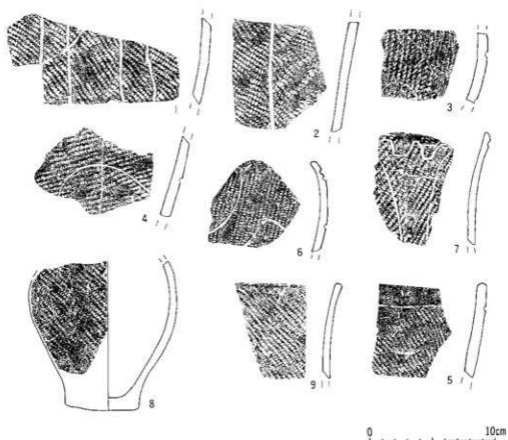
第37図 第3号土坑出土遺物



第4号土坑

第1層	暗褐色土	10YR	3/4	ローム微量混入。炭化物微量混入。細礫混入。
第2層	暗褐色土	10YR	3/3	ローム微量混入。炭化物微量混入。
第3層	褐色土	10YR	4/4	ローム少量混入。炭化物微量混入。
第4層	にぶい黄褐色土	10YR	4/3	ローム少量混入。
第5層	褐色土	10YR	4/6	ローム少量混入。炭化物微量混入。
第6層	褐色土	10YR	4/4	ローム少量混入。
第7層	黄褐色土	10YR	5/6	ロームを主体とした層。炭化物微量混入。
第8層	黄褐色土	10YR	5/6	7層と類似しているがしまりあり。
第9層	褐色土	10YR	4/6	ロームを主体とした層。炭化物微量混入。

第38図 第4号土坑



第39図 第4号土坑出土遺物

第5号土坑 (第40図)

〔位置〕 G・II-72・73グリッドに位置する。

〔重複〕 重複は認められない。ただ、本土坑上部には、後世の風倒木による黄褐色ロームが堆積していた。

〔平面形・規模〕 風倒木痕により開口部の形状は不明瞭であるが、開口部は楕円形を、底面はほぼ円形を呈する。壁は全体に北西側(斜面)に向かい傾斜している。底面は平坦である。開口部では長軸235cm、短軸135cmで、底面は長軸155cm、短軸145cmである。深さは、約160cmである。

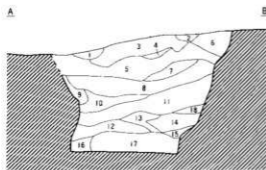
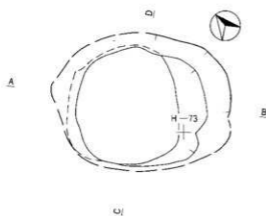
〔堆積土〕 18層に分層できた。上部は褐色土を主体としており、下部はロームを主体としている。全体にしまりが認められる。上部には炭化物粒の混入が認められ、中位以下には小礫・細礫の混入する層が多い。これらの礫が多量に混入している層も数層認めらる。また、最下層

には小礫及び細砂が多量に混入していた。

堆積状態から人為的堆積と考えられる。

【出土遺物】 堆積土の上部から土器片が少量出土しているが、本遺構に伴う可能性は低い。

【その他】 確認面上部の風倒木及び本遺構とも、縄文時代の所産と考えられる。



0 2m

- 第17層 黄褐色土 10YR 3/8
ロームと小礫を多量に含む層が混じって 黄褐色土中量混入。
- 第18層 明黄褐色土10YR 6/8
小礫・細砂が多量混入。

- 第5号土坑
- 第1層 緑褐色土 10YR 3/2
ローム粒・焼土少量混入。炭化物粒微量混入。
- 第2層 暗褐色土 10YR 3/4
ローム粒少量混入。炭化物粒微量混入。
- 第3層 褐色土 10YR 4/6
ローム粒・炭化物粒少量混入。焼土粒ごく微量混入。
- 第4層 褐色土 10YR 4/6
ローム粒中量混入。焼土粒ごく微量混入。炭化物粒微量混入。
- 第5層 暗褐色土 10YR 3/4
ロームブロック・炭化物粒中量混入。
- 第6層 褐色土 10YR 4/6
ローム粒・炭化物粒少量混入。
- 第7層 褐色土 10YR 4/6
ローム粒・炭化物粒少量混入。
- 第8層 褐色土 10YR 4/4
ロームブロック・炭化物多量混入。
- 第9層 黄褐色土 10YR 5/8
褐色土少量混入。
- 第10層 黄褐色土 10YR 5/6
ローム粒多量混入。炭化物少量混入。
- 第11層 黄褐色土 10YR 5/8
ロームブロック多量混入。小礫少量混入。
- 第12層 黄褐色土 10YR 5/8
ロームブロック中量混入。小礫少量混入。
- 第13層 褐色土 10YR 4/6
ローム粒多量混入。炭化物粒微量混入。
- 第14層 黄褐色土 10YR 5/6
小礫少量混入。
- 第15層 黄褐色土 10YR 5/8
褐色土少量混入。
- 第16層 黄褐色土 10YR 5/8
ロームブロック少量混入。小礫中量混入。

第40図 第5号土坑

第6号土坑 (第41～43図)

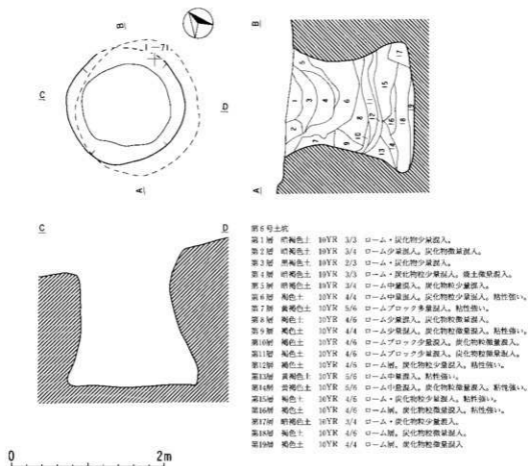
[位置] I-71グリッドほかに位置する。

[重複] 重複は認められない。

[平面形・規模] 開口部の一部が抜根により攪乱を受けており、一部不明瞭である。平面形は、開口部及び底面とも円形である。断面形状は、内部が広がるフラスコ状を呈するが、開口部及び底面では規模に大きな差は認められず、くびれ部分も非常に緩く長い。

開口部では直径約150cm、底面で170cm～180cmで、深さは約170cmである。

[堆積土] 19層に分層できた。上部は暗褐色土を主体としており、中位は褐色土を、下部はロームを主体としている。ほぼ、全層にわたり炭化物粒を含んでいるが、特に多量に混入して

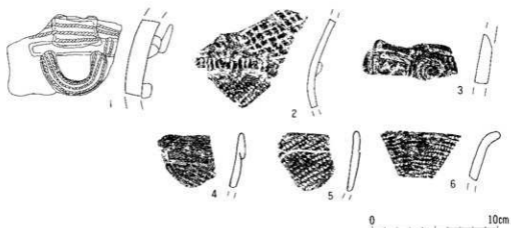


第41図 第6号土坑

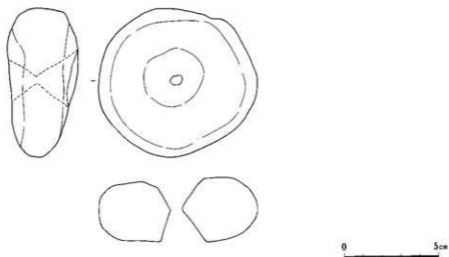
いる層は認められない。上部の堆積土を除いて全体にしまりに欠ける。

〔出土遺物〕 上部から少量の土器片が出土しているが、本遺構に伴う可能性は低い。

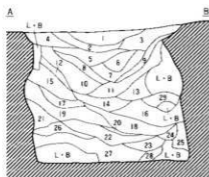
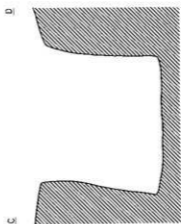
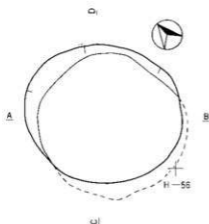
〔その他〕 確認面上部の遺物包含層の存在から、縄文時代中期、またはそれ以前の所産と考えられる。



第42図 第5号土坑出土土器



第43図 第6号土坑出土石製品

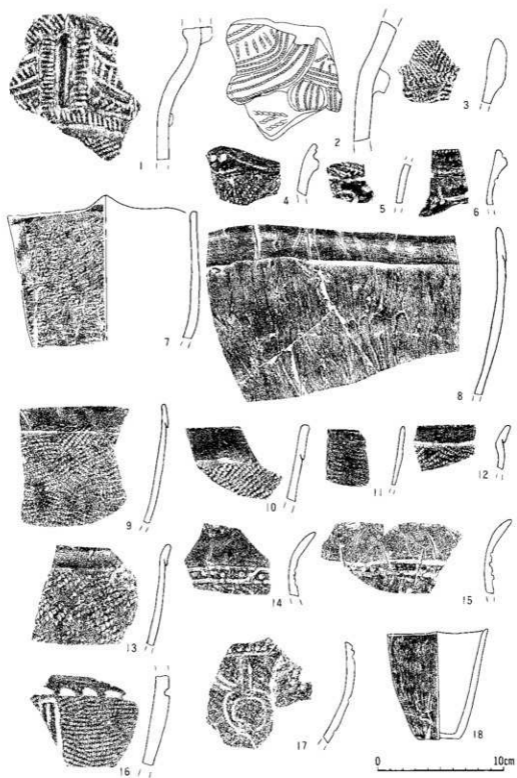


0 2m

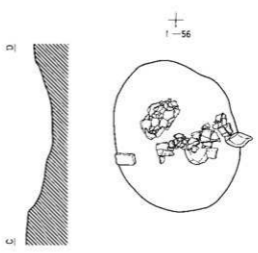
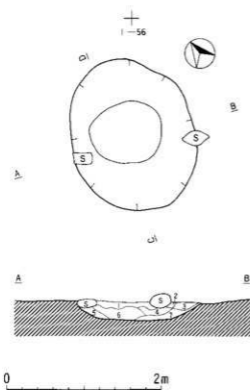
第8号土坑

- | | | | | |
|------|---------|------|-----|----------------------------|
| 第1層 | 暗褐色土 | 10YR | 3/4 | ローム少量混入。炭化物粒・鉄土・パミス微量混入混入。 |
| 第2層 | 黒褐色土 | 10YR | 2/3 | ローム・炭化物粒・パミス微量混入。 |
| 第3層 | 黒褐色土 | 10YR | 3/2 | ローム・炭化物粒微量混入。 |
| 第4層 | 黒褐色土 | 10YR | 2/2 | ローム・炭化物粒少量混入。 |
| 第5層 | 黒褐色土 | 10YR | 3/1 | ローム・炭化物粒少量混入。パミス微量混入。 |
| 第6層 | 黒褐色土 | 10YR | 3/2 | ローム少量混入。炭化物粒微量混入。 |
| 第7層 | 黒褐色土 | 10YR | 2/3 | ローム少量混入。炭化物粒中量混入。 |
| 第8層 | 暗褐色土 | 10YR | 3/4 | ローム・炭化物粒微量混入。 |
| 第9層 | 暗褐色土 | 10YR | 3/4 | ローム中量混入。炭化物粒微量混入。 |
| 第10層 | 暗褐色土 | 10YR | 3/3 | ローム・炭化物粒微量混入。 |
| 第11層 | にじい黄褐色土 | 10YR | 3/4 | ローム中量混入。 |
| 第12層 | 褐色土 | 10YR | 4/1 | ローム中量混入。パミス微量混入。 |
| 第13層 | 褐色土 | 10YR | 4/4 | ローム中量混入。 |
| 第14層 | にじい黄褐色土 | 10YR | 4/3 | ローム中量混入。炭化物粒微量混入。 |
| 第15層 | 褐色土 | 10YR | 4/6 | ローム多量混入。炭化物粒微量混入。 |
| 第16層 | 暗褐色土 | 10YR | 3/4 | ローム中量混入。炭化物粒微量混入。 |
| 第17層 | にじい黄褐色土 | 10YR | 4/3 | ローム少量混入。ロームブロック微量混入。 |
| 第18層 | にじい黄褐色土 | 10YR | 4/3 | ローム少量混入。炭化物中量混入。 |
| 第19層 | 暗褐色土 | 10YR | 4/3 | ローム・炭化物粒微量混入。 |
| 第20層 | 褐色土 | 10YR | 4/4 | ローム少量混入。炭化物粒少量混入。 |
| 第21層 | 暗褐色土 | 10YR | 3/3 | ローム少量混入。炭化物粒微量混入。 |
| 第22層 | 褐色土 | 10YR | 4/4 | ローム微量混入。炭化物粒・鉄土少量混入。 |
| 第23層 | 褐色土 | 10YR | 4/4 | ローム・炭化物粒微量混入。 |
| 第24層 | にじい黄褐色土 | 10YR | 4/3 | ローム少量混入。炭化物粒微量混入。 |
| 第25層 | 暗褐色土 | 10YR | 3/4 | ローム少量混入。炭化物粒中量混入。 |
| 第26層 | 褐色土 | 10YR | 4/4 | ロームブロック中量混入。 |
| 第27層 | 暗褐色土 | 10YR | 3/4 | ロームブロック多量混入。炭化物粒微量混入。 |
| 第28層 | 暗褐色土 | 10YR | 3/3 | ローム微量混入。 |
| 第29層 | 褐色土 | 10YR | 4/4 | ロームブロック微量混入。 |

第44図 第8号土坑

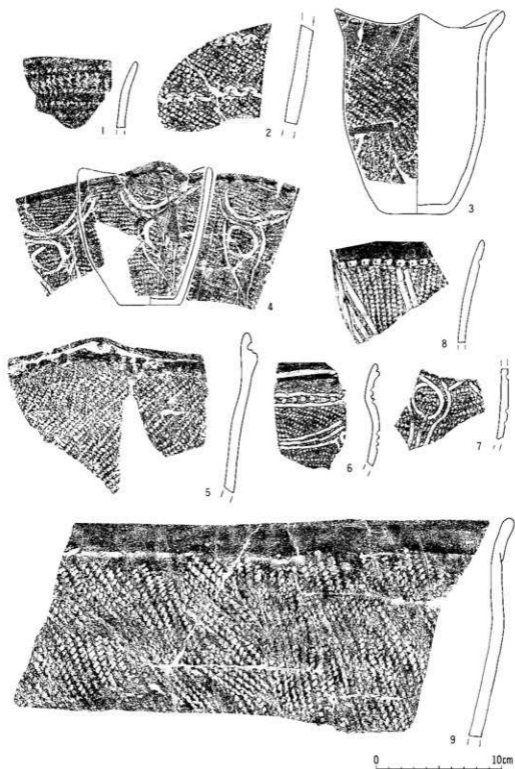


第45图 第8号土坑出土土器

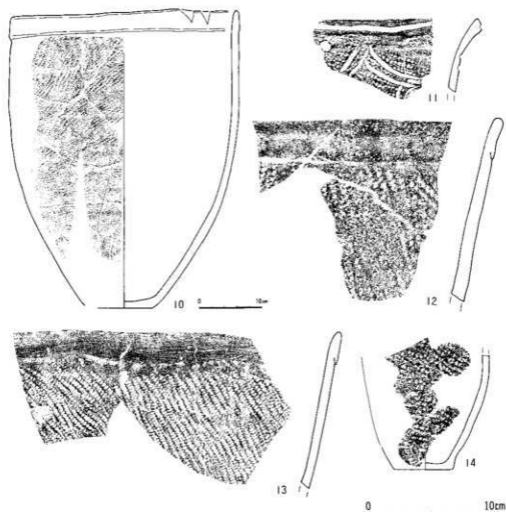


- 第9号土坑
- 第1層 褐褐色土 10YR 2/3
ローム・炭化物粒混入。パミス少量混入。
 - 第2層 暗褐色土 10YR 3/3
ローム微量混入。粘性強い。
 - 第3層 暗褐色土 10YR 3/3
ローム少量混入。炭化物粒・パミス微量混入。
 - 第4層 暗褐色土 10YR 3/4
ローム中量混入。炭化物粒微量混入。パミス少量混入。粘性強い。
 - 第5層 褐色土 10YR 4/6
ローム質。炭化物粒微量混入。パミス少量混入。
 - 第6層 褐色土 10YR 4/6
ローム質。炭化物粒微量混入。パミス少量混入。暗褐色土多量混入。
 - 第7層 褐色土 10YR 4/6
ローム質。パミス・暗褐色土中量混入。粘性強い。

第46図 第9号土坑



第47图 第9号土坑出土土器—1



第48図 第9号土坑出土土器-2

第10号土坑 (第49～51図)

[位置] H-47・48グリッドに位置する。

[重複] 第5号住居跡と重複し、本土坑が新しいと考えるが、断定できない。

[平面形・規模] 開口部及び底面とも円形を呈する。当初、住居跡の一部と考えたため、上部の調査は詳細に行わなかった。このため、住居跡との関係は不明瞭な部分が多い。

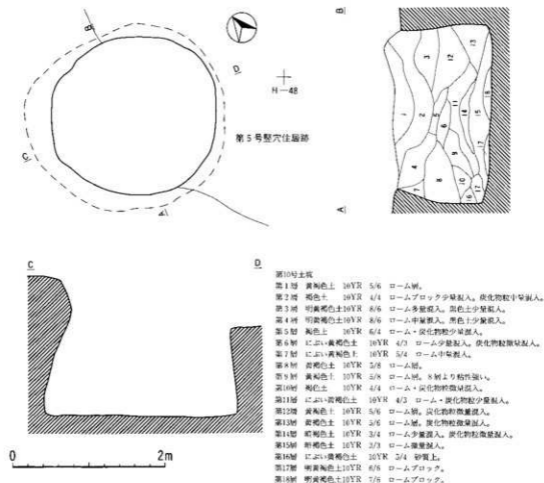
開口部では、直径約210cm、底面では、約250cmで西方向にやや長い。深さは、約180cmである。断面形状は、底面が開口部より広がるフラスコ状を呈する。壁面はやや粘性が認められる。底面は、壁際でやや湾曲するが、ほぼ平坦である。

【堆積土】 第5号住居跡の床面とほぼ同レベルからの確認であるが、18層に分層できた。ほとんどの層がローム主体の層で、褐色土及び炭化物粒が混入している。人為的堆積と考えられる。最上部の層は、住居跡の堆積土の一部とも考えられる。

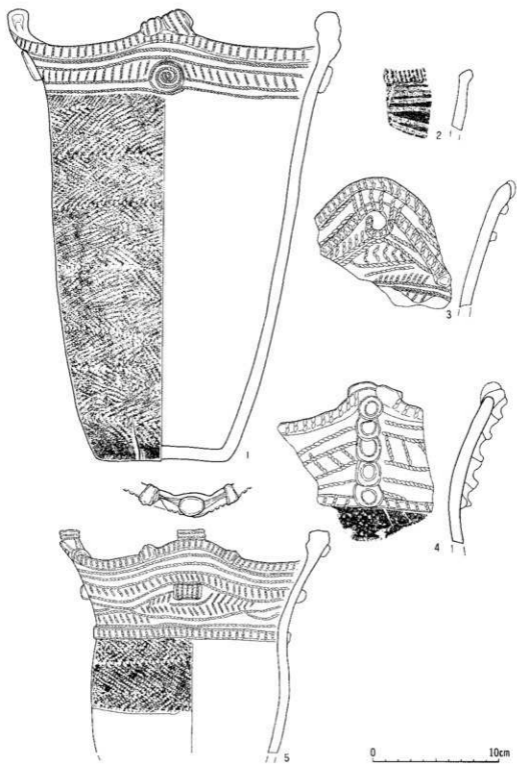
【出土遺物】 覆土上部から、縄文時代中期前半期（円筒上層a式）の土器が数個体出土している。

【その他】 出土した遺物は、本土坑が住居より新しい場合、上部に埋設したと考えられるが、本土坑の廃絶後に、住居跡の堆積土中の土器の流れ込みや、埋め戻し時に混入した可能性も考えられる。

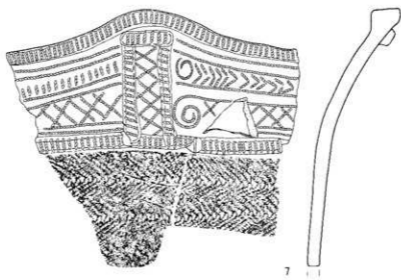
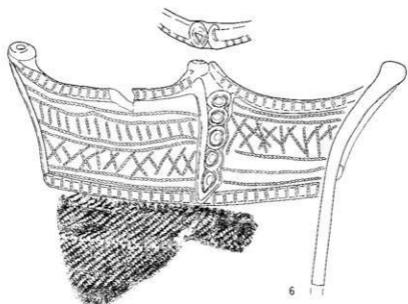
本土坑が古い場合には、住居跡に伴う遺物の堆積土中への沈下も考えられ、出土遺物が本遺構へ伴うかどうかは、断定し得ない。しかし、遺構上部の包含層等の存在から、ほぼ土器の時期と同時期の所産と考えたい。



第49図 第10号土坑



第50图 第10号土坑出土土器-1



0 10cm

第51图 第10号土坑出土土器—2

図版番号	通称名	組	部位	口部部文様	胴部文様	分類	冊数
第32図-1	1上	フ	口～胴	折り返し状口縁	斜織文RL	IV群2類	259
-2	1上	フ	口縁	平口縁		IV群2類	261
-3	1上	フ	口縁	平口縁 折り返し状口縁		IV群2類	262
-4	1上	フ	胴部		縦位斜織文RL	IV群2類	260
第34図-1	2上	フ	口縁	平口縁 沈線文		IV群2類	263
-2	2上	フ	胴部		斜織文 沈線文	IV群2類	265
-3	2上	フ	口縁	平口縁 無文 補修孔		VI群	266
-4	2上	フ	胴部		斜織文	VI群	264
-5	2上	フ	胴部		縦位織文	VI群	267
第36図-1	3上	フ	口～胴	無文	斜織文LR	IV群2類	268
-2	3上	フ	口縁	平口縁		IV群2類	269
-3	3上	フ	口縁	平口縁		IV群2類	277
-4	3上	フ	口縁	平口縁		IV群2類	278
-5	3上	フ	口縁	沈線文		IV群2類	276
-6	3上	フ	胴部		斜織文RL	IV群2類	274
-7	3上	フ	胴部		斜織文LR 沈線文	IV群2類	271
-8	3上	フ	胴部		沈線文 刺突文	IV群3類	275
-9	3上	フ	口縁	沈線文		IV群3類	270
-10	3上	フ	口～胴	波状口縁	J字文(磨消織文)	IV群3類	331
-11	3上	フ	胴部		斜織文RL	IV群3類	272
-12	3上	フ	胴部		沈線文 磨消織文	IV群3類	279
-13	3上	フ	口縁	ボタン状突起		IV群3類	273
-14	3上	フ	胴～底		斜織文LR	IV群4類	51
第39図-1	4上	フ	胴部		斜織文LR 縦位沈線文	IV群2類	281
-2	4上	フ	胴部		斜織文LR 縦位沈線文	IV群2類	280
-3	4上	フ	胴部		沈線文 辻底文	IV群2類	286
-4	4上	フ	胴部		沈線文	IV群2類	284
-5	4上	フ	口縁	平口縁 無文		IV群2類	283
-6	4上	皿	口縁	波状口縁 沈線文		IV群3類	285
-7	4上	フ	口縁	折り返し状口縁 波状沈線文		IV群3類	327
-8	4上	フ	胴～底		斜織文LR	IV群4類	136
-9	4上	皿	口縁	平口縁		VI群	282
第42図-1	6上	フ	口縁	燃糸圧痕 U字伏帯		III群1類	287
-2	6上	フ	口縁	波状口縁 燃糸圧痕		III群1類	288
-3	6上	フ	口縁	燃糸圧痕		III群1類	290
-4	6上	フ	口縁	平口縁 折り返し状口縁		IV群2類	292
-5	6上	フ	口縁	平口縁		IV群2類	291
-6	6上	フ	口縁	平口縁 折り返し状口縁		VI群	334
第45図-1	8上	フ	口縁	波状口縁 燃糸圧痕		III群1類	295
-2	8上	フ	口縁	燃糸圧痕		III群1類	294
-3	8上	フ	口縁	波状口縁 燃糸圧痕		III群6類	300
-4	8上	フ	口縁	波状口縁		IV群1類	301
-5	8上	フ	胴部		沈線文	IV群1類	303
-6	8上	フ	口縁	波状口縁		IV群1類	304
-7	8上	フ	略完形	波状口縁(4)	縦位斜織文LR	IV群1類	46

図版番号	遺構名	部	部位	口部部文様	胴部文様	分類	冊数
第45図-8	8土	フ	口～胴	波状口縁 折り返し状口縁	磨痕	IV群2類	293
-9	8土	フ	口～胴	平口縁 折り返し状口縁	横位斜縄文LR	IV群2類	296
-10	8土	フ	口縁	平口縁 折り返し状口縁		IV群2類	299
-11	8土	フ	口～胴	平口縁	横位斜縄文LR	IV群2類	305
-12	8土	フ	口縁	平口縁 折り返し状口縁		IV群2類	302
13	8土	フ	口～胴	平口縁 折り返し状口縁	斜縄文LR	IV群2類	297
-14	8土	フ	口縁	平口縁 無文 刺突文1列		IV群2類	333
-15	8土	フ	口縁	平口縁 無文 刺突文1列		IV群2類	333
-16	8土	フ	口～胴	無文 刺突文1列	横位斜縄文LR 垂下文	IV群2類	298
-17	8土	フ	胴部		沈線文	IV群2類	333
-18	8土	フ	略完形	波状口縁(3)	条痕	VI群	11
第47図-1	9土	皿	口～底	平口縁	燃糸圧痕	III群1類	312
-2	9土	皿	胴部		羽状縄文 ループ	III群6類	309
-3	9土	フ	完形	波状口縁(4) 無文	斜縄文LR	IV群1類	31
-4	9土	フ	完形	波状口縁(2)	横位縄文LR わらびて文	IV群1類	20
-5	9土	皿	口～胴	波状口縁	斜縄文LR	IV群1類	307
-6	9土	皿	口～胴	波状口縁 刺突文1列	横位斜縄文LR 沈線文	IV群1類	314
-7	9土	皿	胴部		横位斜縄文 沈線文	IV群1類	311
-8	9土	皿	口～胴	波状口縁 無文 刺突文1列	縦位斜縄文RL 縦位沈線文	IV群2類	313
-9	9土	皿	口～胴	平口縁 折り返し状口縁	斜縄文RL	IV群2類	326
第48図-10	9土	皿	略完形	平口縁 折り返し状口縁	斜縄文RL 条痕	IV群2類	141
-11	9土	皿	口～胴	波状口縁 補修孔	横位斜縄文 沈線文	IV群1類	310
-12	9土	皿	口～胴	平口縁 折り返し状口縁	縦位斜縄文LR	IV群2類	306
-13	9土	皿	口～胴	波状口縁 折り返し状口縁	斜縄文RL	IV群2類	308
-14	9土	フ	胴～底		斜縄文LR(無節)	IV群4類	17
第50図-1	10土	フ	完形	波状口縁(4) 燃糸圧痕 ボタン状突起	羽状縄文	III群1類	116
-2	10土	フ	口縁	波状口縁 燃糸圧痕		III群1類	319
-3	10土	フ	口縁	波状口縁 燃糸圧痕		III群1類	317
-4	10土	フ	口縁	波状口縁 燃糸圧痕 ボタン状突起		III群1類	316
-5	10土	フ	口～胴	波状口縁(4) 燃糸圧痕	羽状縄文	III群1類	57
第51図-6	10土	フ	口～胴	波状口縁(4) 燃糸圧痕 ボタン状突起	斜縄文LR	III群1類	101
-7	10土	フ	口～胴	波状口縁 燃糸圧痕	羽状縄文	III群1類	315

図版番号	遺構名	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	材質	器種	整理番号
第37図-1	3土	フク土	46.5	30.5	9	11.1	玉髓質硬質頁岩	石筥	605

3 屋外炉

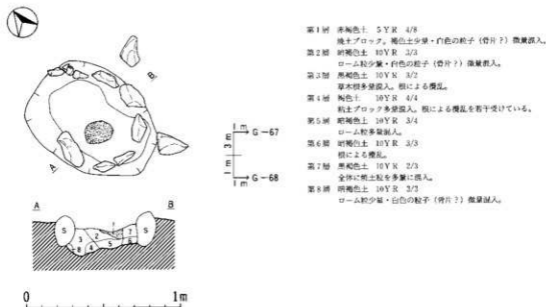
第1号屋外炉 (第52図)

G-67グリッドに位置している。調査区域内では単独での検出である。石囲炉であり、配石の確認時に周囲を同レベルで精査したが、住居跡の床面ほかの痕跡は検出できず、屋外炉として取扱った。石組みは北側の一部が開放されているため、この部分の石材の抜き取り痕の確認を行ったが、草木根による攪乱が著しく未検出に終わった。

石組みは、ほぼ南北方向に長い楕円形で、長軸は約150cm、短軸80cmである。確認できた焼土は、38×30cmの範囲で、厚さは最大15cmである。焼土は、炉底が焼化された状態ではなく、焼土ブロックと褐色土の混合土的な様相を呈し、全体にしまりがなく、ボソボソしている。

炉本体は、石組みよりやや大きめに地山を掘り込んでおり、暗褐色土とロームの混合土を埋めて構築している。第1層(焼土層)及び第2層中から、骨片の可能性のある白色の微小な粒子が検出されている。

構築時期は、伴出遺物がないことから不明であるが、縄文時代の所産と考えられる。



第52図 第1号屋外炉

4 埋設土器遺構 (第53図)

I-73グリッドに位置し、第Ⅲ層下部で確認した。第Ⅳ層を掘り込んでいるものと考えられるが、明瞭な掘り方は確認できなかった。埋め土及び土器内の堆積土もローム主体の褐色土ないしは黄褐色土で、炭化物粒を少量混入している。また、土器内部からの伴出遺物はなく、堆積土自体もしまりが感じられない。土器は、第Ⅲ群第1類の円筒上層a式である。

図版番号	遺構名	部	部位	口部文様	胴部文様	分類	番号
第53図	1	1埋	ア	完形	平口縁 燃糸瓦痕	羽状縄文	Ⅲ群1類 113

5 配石遺構

今回の調査区内からは、7基の配石遺構が検出されている。この内の2基は下部に土坑を伴うものである。また、第9号土坑として取扱ったものも、この2基と同様の性格を有していた可能性が高い。

また、第3～7号配石遺構は、それぞれがひとつの構成単位として、より大きな配石遺構を構成している可能性も考えられる。また、これらは、急崖に隣接した斜面の上部に位置し、地滑り等により、一部、石材の移動があったものと考えられる。

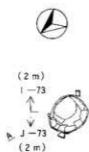
第1号配石遺構 (第54図)

H-54グリッドに位置する。第Ⅲ層下部で、円形に一巡する石組みとして確認した。20cmから30cm程の18個の礫によって構成されており、石組みの直径は約160cmである。

当初、大型の石囲炉の可能性が考えられたが、規模があまりに大きいことや焼土がまったく検出されないことから、平地上に組まれた配石として、土層観察用のベルトのうち1本を撤去し、精査を行った。この後、下部に掘り込みが確認され、土坑の存在が明確になった。

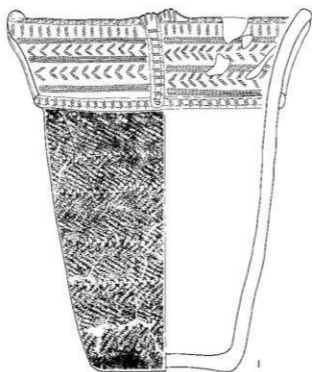
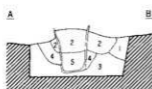
配石下部の土坑は、東西にやや長い楕円形を呈し、開口部では、長軸210cm、短軸180cmで、底面では、長軸120cm、短軸100cmである。深さは、配石面から約70cmである。壁は若干粘性があり、しまりがある。断面形状はスリ鉢状を呈する。

土坑内の堆積土は、混入物の量により、より細分は可能であったが、大きく9層に分層した。ローム主体の褐色土を主体とし、全体に炭化物粒を混入している。上部の第4層中には、ごく微量の焼土粒が混入している。また、下部の堆積土中には小礫の混入が目立つ。人為的堆積と考えられる。



1号埋設土器

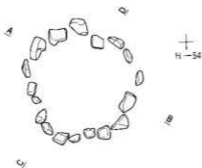
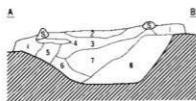
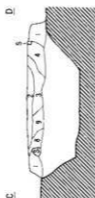
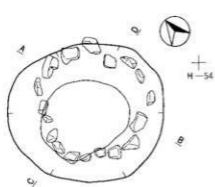
- | | | | | |
|-----|------|------|-----|--------------------------|
| 第1層 | 褐色土 | 10YR | 4/4 | ローム主体の層。炭化物粒微量混入。暗褐色土混入。 |
| 第2層 | 褐色土 | 10YR | 4/4 | ローム主体の層。砂粒混入。全体に暗褐色土混入。 |
| 第3層 | 黄褐色土 | 10YR | 5/8 | ローム主体の層。炭化物粒微量混入。 |
| 第4層 | 黄褐色土 | 10YR | 5/6 | ローム主体の層。炭化物粒微量混入。暗褐色土混入。 |
| 第5層 | 黄褐色土 | 10YR | 5/6 | ローム主体の層。粘性強い。 |



第53図 埋設土器遺構

出土遺物は、遺構上面で土器片が数片出土したが、本遺構に伴う可能性は少ない。

本遺構の構築時期は、伴出遺物がないことから不明であるが、上部の包含層との関係から、縄文時代中期後半以前と考えられる。また、用途の面からは、土坑上部に配石を有することから、土城墓の可能性が高いと考えられる。



1号配石

- 第1層 暗褐色土 10YR 3/4
ローム中量混入。黒褐色土少量混入。
- 第2層 暗褐色土 10YR 3/3
ローム中量混入。炭化物粒微量混入。
- 第3層 褐色土 10YR 4/4
ローム多量混入。炭化物粒少量混入。
- 第4層 暗褐色土 10YR 3/4
ローム少量混入。炭化物粒微量混入。焼土粒微量混入。
- 第5層 黒褐色土 10YR 2/3
ローム中量混入。炭化物粒少量混入。
- 第6層 黄褐色土 10YR 5/6
ローム少量混入。炭化物粒少量混入。小砂少量混入。
- 第7層 褐色土 10YR 4/6
ローム中量混入。炭化物粒中量混入。小砂中量混入。
- 第8層 褐色土 10YR 4/4
ローム微量混入。炭化物粒微量混入。
- 第9層 褐色土 10YR 4/6
ローム中量混入。竊植したバミスブロック状に混入。

0 2m

第54図 第1号配石遺構

第2号配石遺構 (第55～56図)

H・I-51・52グリッドに位置する。第Ⅲ層下部において弧状の配石を確認した。配石は5個の礫が弧状に巡り、3個の小礫が直線状に並んでいたが、後者は、掘り方が検出されなかったことから、移動した可能性が高い。推定できる直径は約150cm程である。

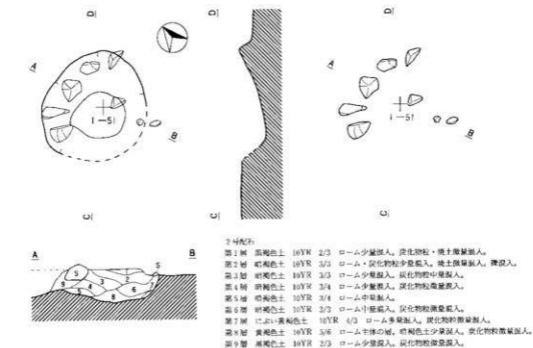
配石下には、緩やかな傾斜を持つ土坑が確認された。壁は、北側が概ね確認できたものの南側は不明瞭である。土坑の深さは、配石面から約50cmである。

土坑内の堆積土は、9層に分層できた。暗褐色土を主体としておりローム及び炭化物が混入している。底面直上はローム主体の層である。

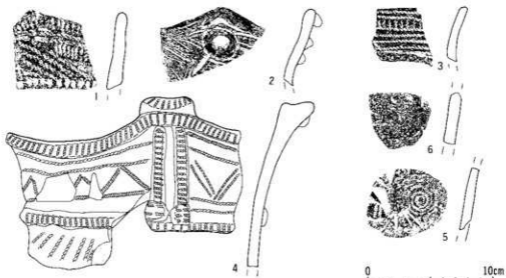
堆積土中から土器片及び円盤状土製品が1点出土している。

本遺構の構築時期は、底面からの伴出遺物がないことから不明であるが、第1号配石遺構と同時期の可能性が考えられ、縄文時代中期の可能性が高い。

用途では、土壇墓の可能性は否定できないが、配石下部の土坑形状が不明瞭のため、断定し得ない。



第55図 第2号配石遺構

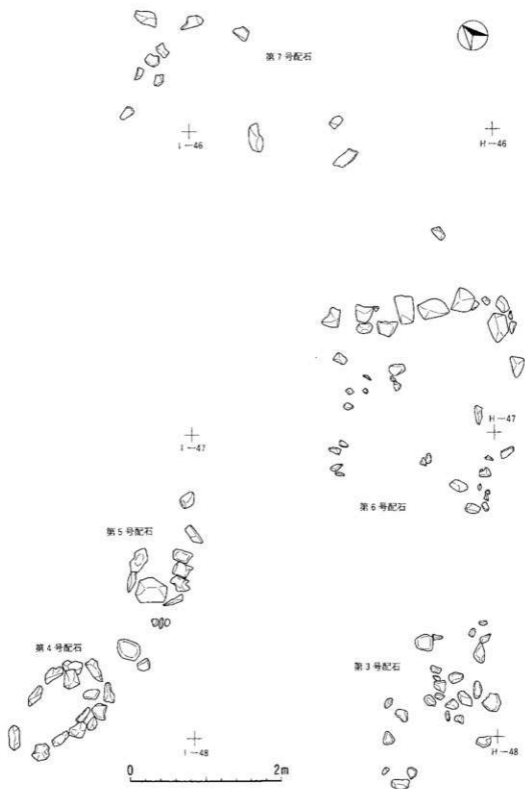


第56図 第2号配石遺構出土土器

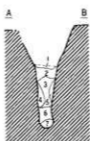
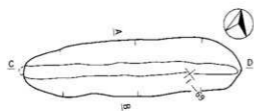


第57図 第2号配石遺構出土土製品

図版番号	遺構名	配	部位	口頸部文様	胴部文様	分類	数量
第56図-1	1配	フ	口縁	波状口縁 縞糸圧痕		Ⅲ群1類	320
-2	2配	フ	口縁	波状口縁 縞糸圧痕		Ⅲ群1類	321
-3	2配	フ	口縁	平口縁 縞糸圧痕		Ⅲ群1類	324
-4	2配	フ	胴部		文様は摩耗	Ⅲ群1類	325
-5	2配	フ	口縁	縞帯 縞糸圧痕		Ⅲ群1類	323
-6	2配	フ	口縁	波状口縁 縞糸 ボタン状突起		Ⅲ群5類	322



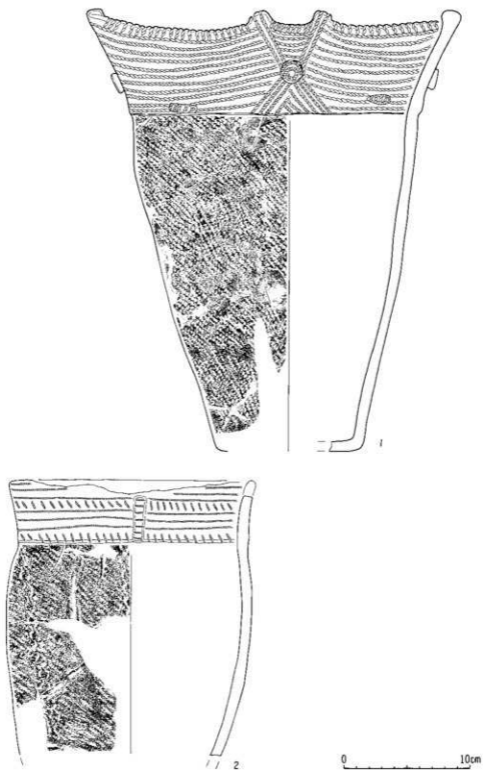
第58图 第3・4・5・6・7号配石遺構



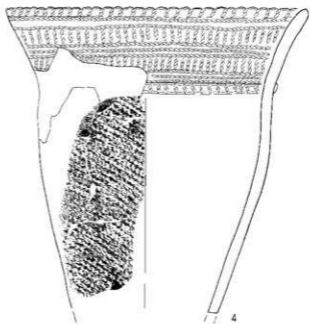
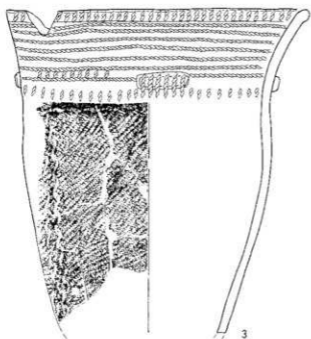
1号溝状ピット

- 第1層 暗褐色土 10YR 3/3
ローム粒・砂粒混入。
- 第2層 暗褐色土 10YR 3/4
ロームを全体に混入。炭化物粒少量混入。しまり大。
- 第3層 暗褐色土 10YR 3/4
ロームを全体に混入。
- 第4層 灰褐色土 10YR 5/4
5/4 ロームブロック、暗褐色土少量混入。地山の崩落。しまり大。
- 第5層 褐色土 10YR 4/6
4層と類似するが、やや軟質。地山の崩落。
- 第6層 暗褐色土 10YR 3/3
ローム粒・砂粒混入。炭化物粒微量混入。
- 第7層 暗褐色土 10YR 3/4
ローム粒・砂粒混入。

第59図 第1号溝状ピット

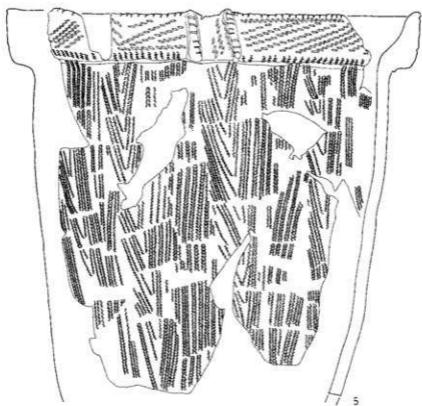


第60図 遺構外出土土器-1 (II群-1)



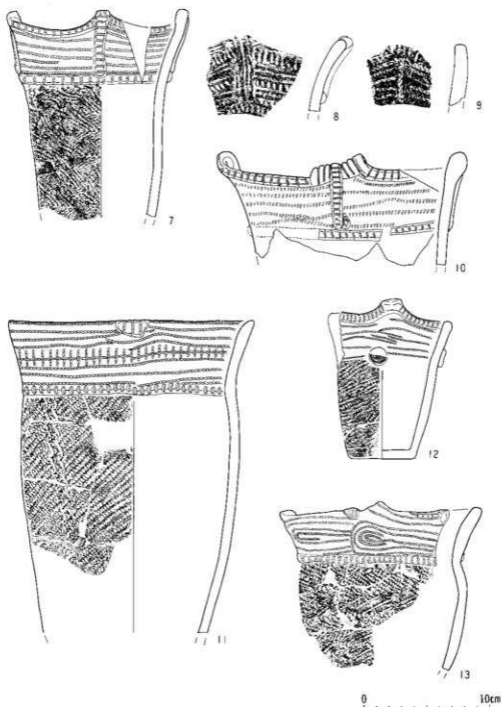
0 10cm

第61图 遺構外出土土器-2 (II群-2)

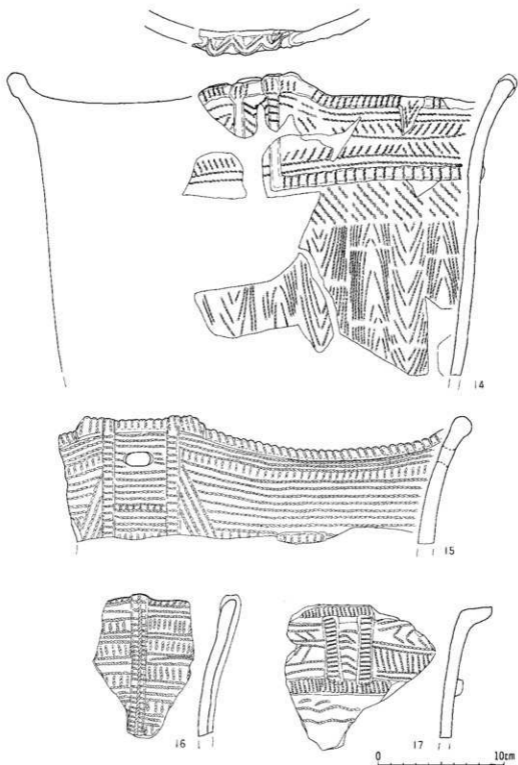


0 10cm

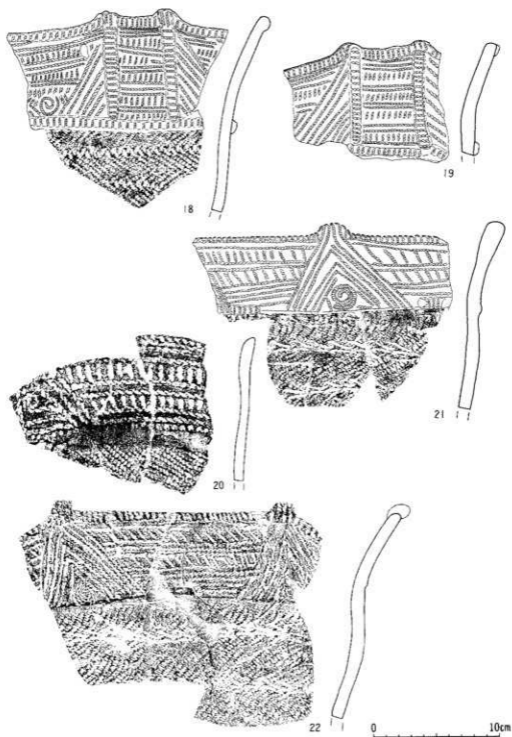
第62圖 遺構外出土土器-3 (II群-3)



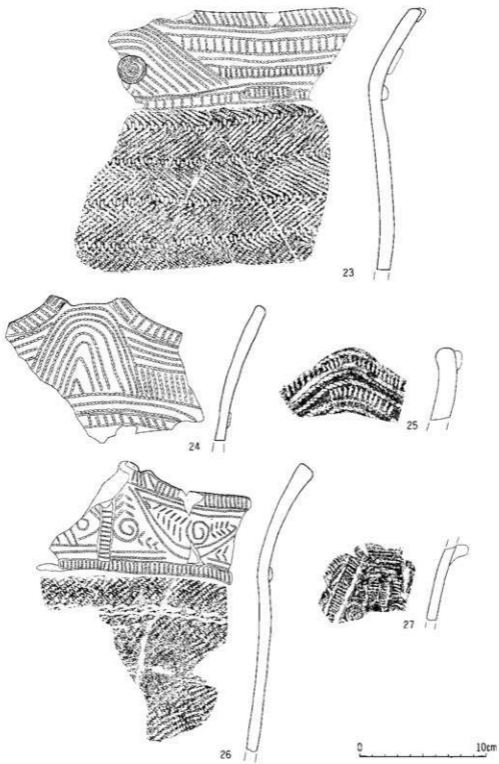
第63圖 遺構外出土土器-4 (Ⅲ群1類-1)



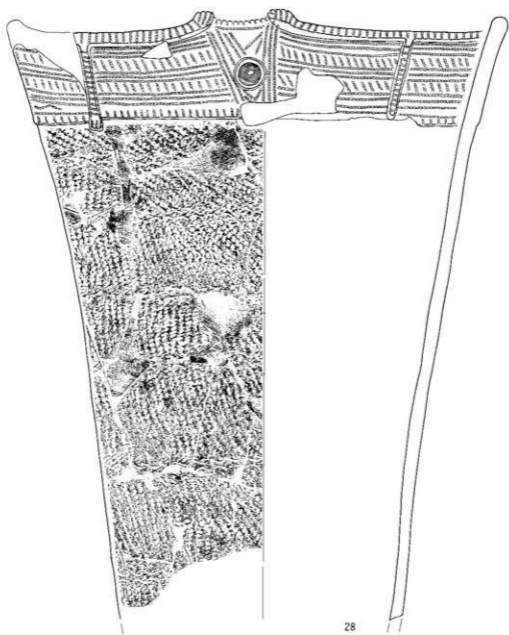
第64图 遺構外出土土器-5 (Ⅲ群I類-2)



第65圖 遺構外出土土器-6 (Ⅲ群1類-3)



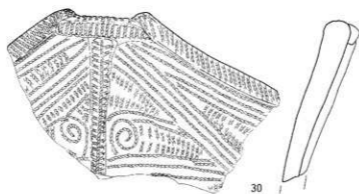
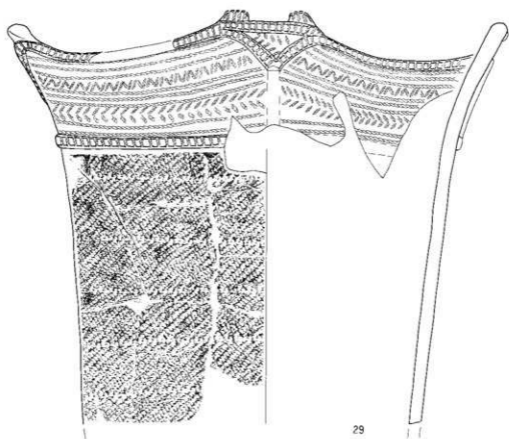
第66圖 遺構外出土土器-7 (III群1類-4)



28

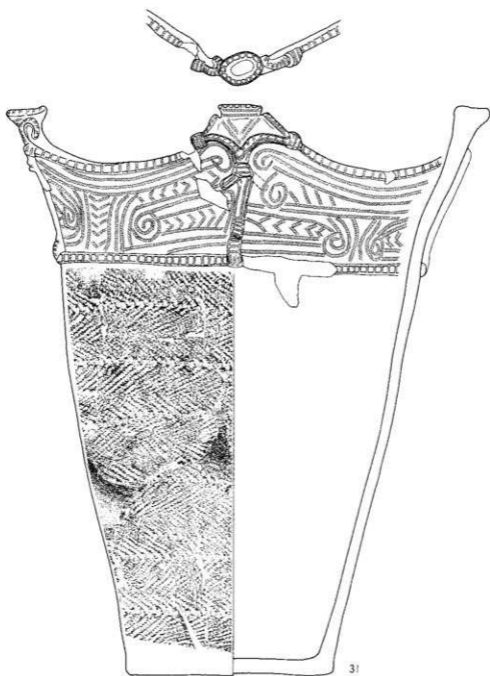
0 10cm

第67圖 遺構外出土土器-8 (Ⅲ群1類-5)

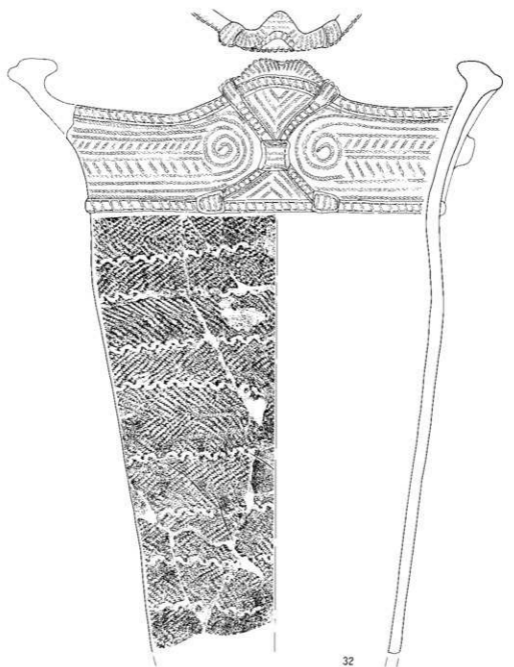


0 10cm

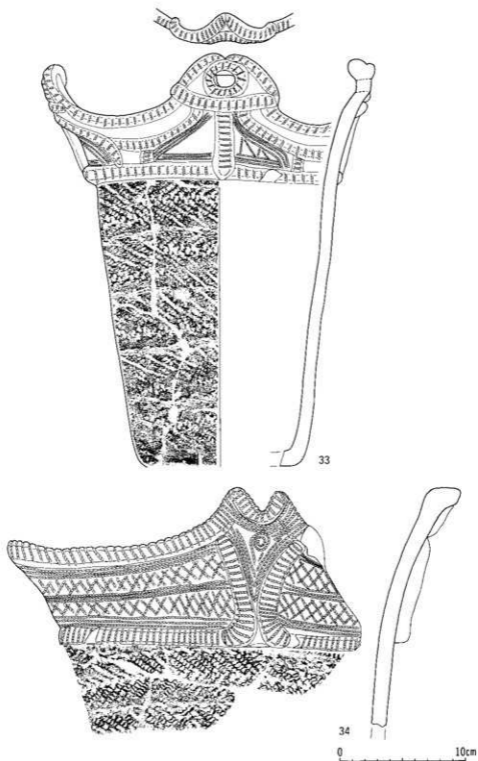
第68圖 遺構外出土土器-9 (III群1類-6)



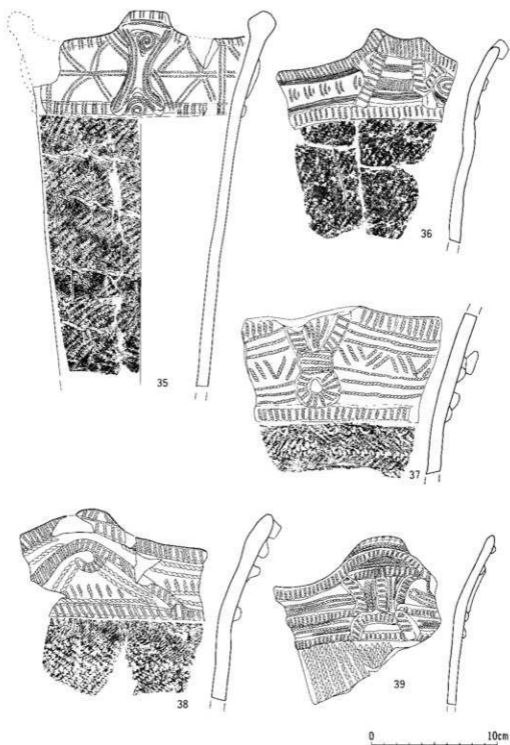
第69圖 遺構外出土土器-10 (III群1類-7)



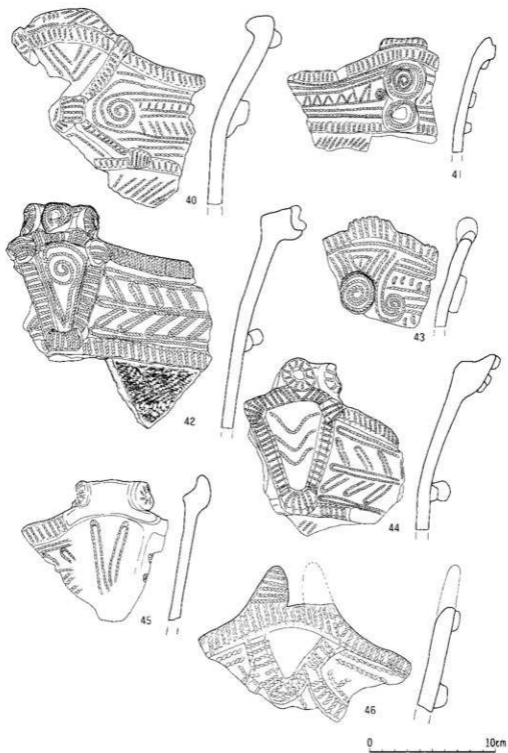
第70圖 遺構外出土器-11 (Ⅲ群1類-8)



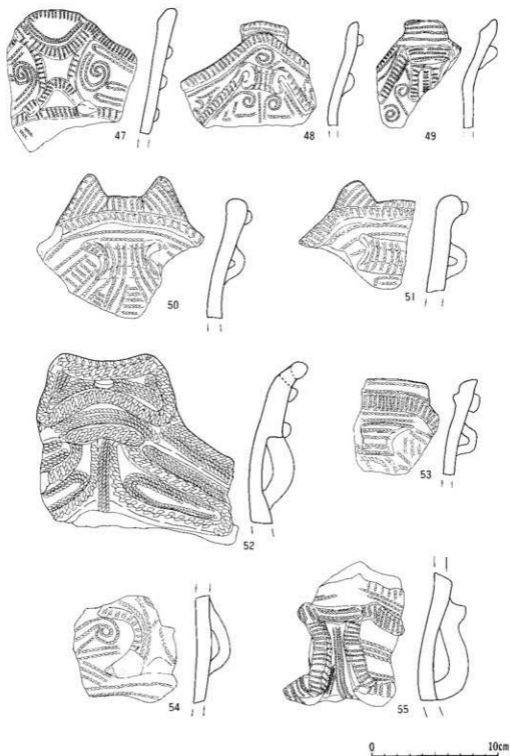
第71圖 遺構外出土土器-12 (Ⅲ群1類-9)



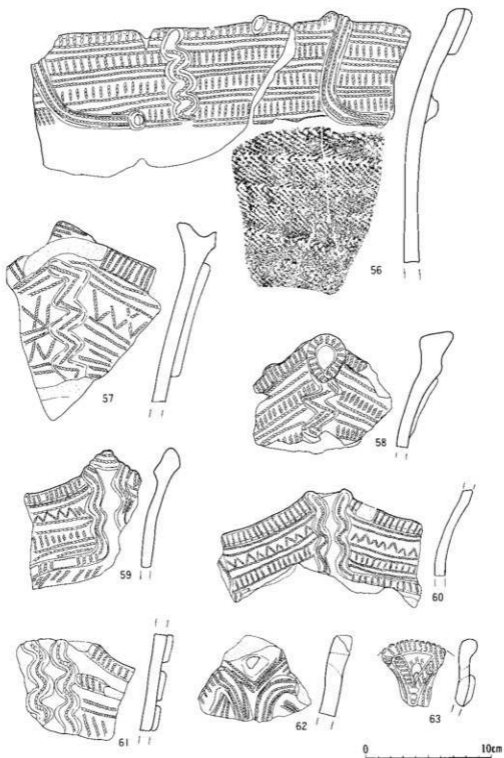
第72圖 遺構外出土土器-13 (III群I類-10)



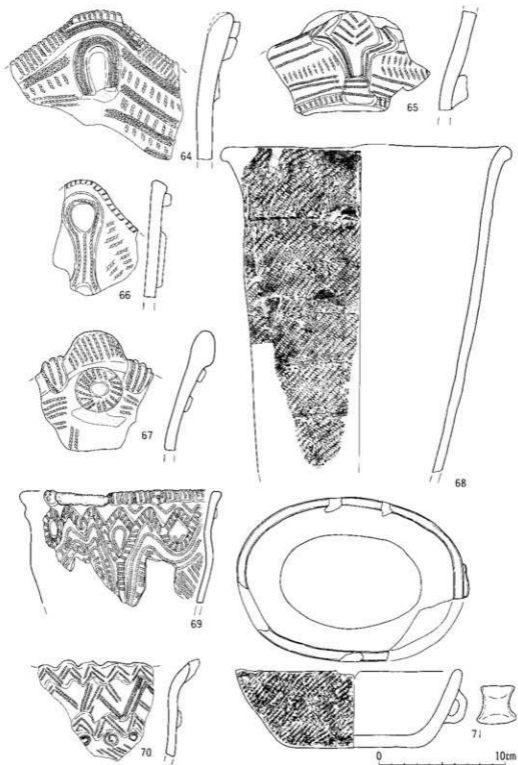
第73圖 遺構外出土器-14 (Ⅲ群1類-11)



第74圖 遺構外出土土器-15 (Ⅲ群1類-12)



第75圖 遺構外出土土器-16 (Ⅲ群1類-13)



第76圖 遺構外出土土器-17 (Ⅲ群1類-14)

図版番号	道標名	種	部位	口額部文様	洞部文様	分類	冊数	
第63図-7	I-55	II	略完形	波状口縁(4) 懸糸圧痕	羽状縄文	山群1類	52	
	-8	E-28	II	口縁 波状口縁 懸糸圧痕		山群1類	496	
	-9	E-28	II	口縁 波状口縁 懸糸圧痕		山群1類	497	
	-10	I-57	II	口縁 波状口縁(4) 懸糸圧痕		山群1類	81	
	-11	H-59	III	略完形	平口縁 懸糸圧痕	斜縄文LR 横位ループ	山群1類	97
	-12	F-32	III	略完形	波状口縁 懸糸圧痕 ボタン状突起	横位斜縄文LR	山群1類	8
-13	M-82	II	口へ胴	平口縁 懸糸圧痕	羽状縄文	山群1類	407	
第64図-14	L-41	II	口へ胴	波状口縁 懸糸圧痕	木目状圧痕	山群1類	597	
	-15	K-76	III	口縁 波状口縁(4) 懸糸圧痕 貫通孔		山群1類	598	
	-16	H-47	III	口縁 平口縁 懸糸圧痕		山群1類	446	
	-17	H-34	III	口縁 平口縁 懸糸圧痕		山群1類	453	
第65図-18	I-49	II	口へ胴	波状口縁(4) 懸糸圧痕	羽状縄文	山群1類	444	
	-19	I-50	II	口縁 波状口縁(4) 懸糸圧痕		山群1類	445	
	-20	H-52	II	口へ胴	平口縁 懸糸圧痕	斜縄文RL	山群1類	408
	-21	L-80	III	口へ胴	平口縁 懸糸圧痕	斜縄文 ループ	山群1類	403
	-22	L-80	II	口へ胴	平口縁 懸糸圧痕	斜縄文LR	山群1類	402
	第66図-23	J-75	III	口へ胴	波状口縁 懸糸圧痕 ボタン状突起	羽状縄文	山群1類	401
-24		H-52	II	口縁 波状口縁(4) 懸糸圧痕		山群1類	609	
-25		H-51	II	口縁 波状口縁(4) 懸糸圧痕		山群1類	613	
-26		L-80	II	口へ胴	波状口縁(4) 懸糸圧痕	斜縄文LR ループ	山群1類	442
-27		G-35	III	口縁 波状口縁(4) 懸糸圧痕		山群1類	486	
第67図-28	J-75	III	略完形	波状口縁 懸糸圧痕 ボタン状突起	斜縄文RL	山群1類	142	
第68図-29	H-52	II	略完形	波状口縁 懸糸圧痕	斜縄文LR	山群1類	147	
	-30	I-51	II	口縁 波状口縁(4) 懸糸圧痕		山群1類	443	
第69図-31	H-55	II	完形	波状口縁(4) 懸糸圧痕	羽状縄文 横位ループ	山群1類	144	
第70図-32	I-55	II	略完形	波状口縁(4) 懸糸圧痕	羽状縄文 ループ	山群1類	149	
第71図-33	F-33	III	略完形	波状口縁(4) 貫通孔	斜縄文RL ループ	山群1類	112	
	-34	D-14	II	口へ胴	波状口縁(4) 懸糸圧痕 網目状圧痕	羽状縄文	山群1類	414
第72図-35	I-54	II	略完形	波状口縁(4) 懸糸圧痕	斜縄文LR 横位ループ	山群1類	88	
	-36	F-32	II	口へ胴	波状口縁(4) 懸糸圧痕	斜縄文LR	山群1類	429
	-37	G-42	II	口へ胴	波状口縁 懸糸圧痕 ボタン状突起	羽状縄文	山群1類	432
	-38	H-50	II	口へ胴	波状口縁(4) 懸糸圧痕	羽状縄文	山群1類	412
	-39	H-35	III	口へ胴	波状口縁(4) 懸糸圧痕	斜縄文RL	山群1類	439
第73図-40	I-55	III	口縁	波状口縁(4) 懸糸圧痕		山群1類	428	
	-41	H-51	II	口縁 波状口縁(4) 懸糸圧痕 ボタン状突起	斜縄文LR	山群1類	433	
	-42	G-33	III	口縁 波状口縁(4) 懸糸圧痕		山群1類	415	
	43	K-75	I	口縁 波状口縁 ボタン状突起		山群1類	495	
	-44	G-33	III	口縁 波状口縁(4) 懸糸圧痕		山群1類	417	
	-45	G-33	III	口縁 波状口縁(4) 懸糸圧痕		山群1類	420	
	-46	F-34	II	口縁 波状口縁(4) 懸糸圧痕		山群1類	430	
第74図-47	G-34	II	口縁	波状口縁(4) 懸糸圧痕		山群1類	438	
	-48	G-35	III	口縁 波状口縁(4) 懸糸圧痕		山群1類	424	
	-49	G-35	III	口縁 波状口縁(4) 懸糸圧痕		山群1類	467	
	-50	G-44	II	口縁 波状口縁(4) 懸糸圧痕 筋状肥手		山群1類	419	
	-51	G-43	II	口縁 波状口縁(4) 懸糸圧痕 筋状肥手		山群1類	423	

図版番号	遺構名	部	部位	口頸部文様	胴部文様	分類	数
第74回-52	G-43	II	口縁	波状口縁(4) 燃糸圧痕 貫通孔	斜織文LR	III群1類	416
-53	G-44	II	口縁	波状口縁 燃糸圧痕 橋状把手		III群1類	426
54	H-34	III	口縁	波状口縁 燃糸圧痕 橋状把手		III群1類	425
-55	G-33	III	I口縁	波状口縁 燃糸圧痕 橋状把手		III群1類	418
第75回-56	J-74	III	口~胴	平口縁 燃糸圧痕	羽状隆文	III群1類	599
-57	G-43	II	口縁	波状口縁(4) 燃糸圧痕		III群1類	448
-58	N-45	III	I口縁	波状口縁(4) 燃糸圧痕 ボタン状突起	斜織文LR	III群1類	449
-59	G-33	III	口縁	波状口縁 燃糸圧痕		III群1類	451
-60	G-33	III	I口縁	波状口縁(4) 燃糸圧痕		III群1類	447
61	G-33	III	口縁	波状口縁(4) 燃糸圧痕		III群1類	450
-62	E-26	II	I口縁	波状口縁(4) 燃糸圧痕 貫通孔	斜織文LR	III群1類	422
-63	G-34	III	口縁	波状口縁 燃糸圧痕 貫通孔		III群1類	427
第76回-64	D-20	III	口縁	波状口縁(4) 燃糸圧痕		III群1類	434
-65	H-55	II	口縁	波状口縁(4) 燃糸圧痕		III群1類	440
-66	G-33	III	口縁	波状口縁 燃糸圧痕 斜織文LR		III群1類	436
-67	D-20	III	口縁	波状口縁(4) 燃糸圧痕 ボタン状突起	斜織文LR	III群1類	441
-68	H-45	III	口~胴	平口縁 口唇部に短い隆帯(4)	斜織文LR	III群1類	94
-69	H-57	III	I口縁	平口縁 ボタン状突起	燃糸圧痕	III群1類	437
-70	H-50	III	口縁	波状口縁 燃糸圧痕 波状に隆帯		III群1類	435
-71	M-81	II	兜形	平口縁	斜織文RL 橋状把手	III群1類	69

2類 (第77~79回)

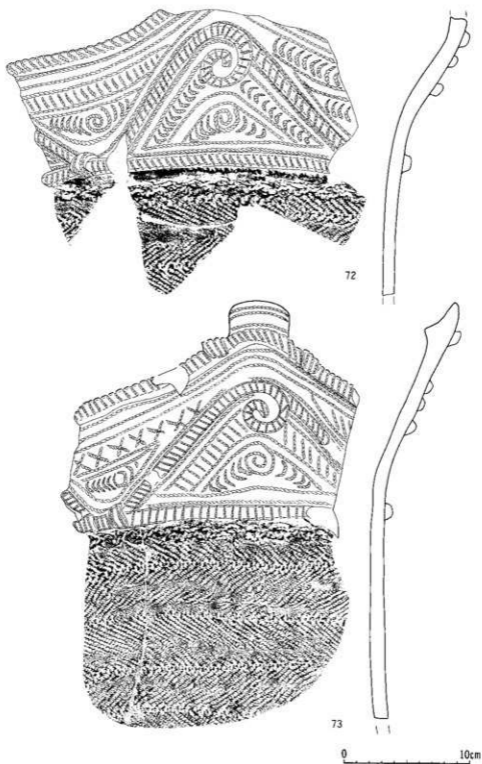
円筒上層b式を一括した。

主たる文様構成は1類と大きな差違はないが、馬蹄形の燃糸圧痕が施文されたものをこの類とした。

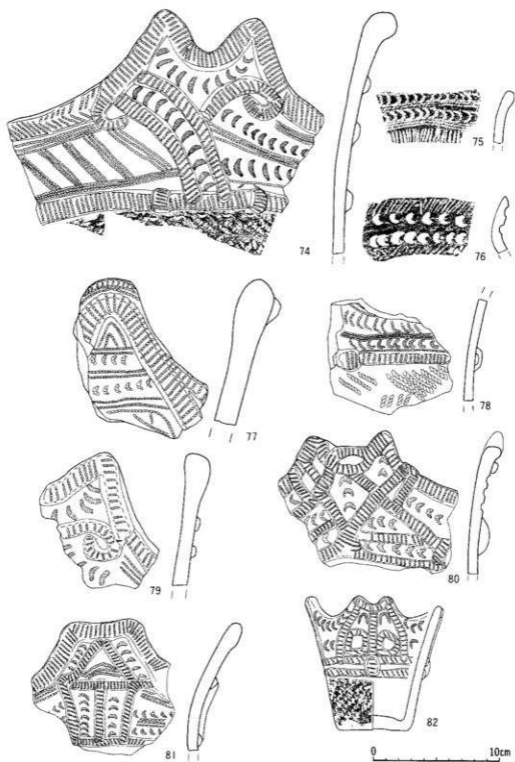
口頸部文様帯は、1類と同様に粘土紐の貼付けによる隆帯、及び燃糸圧痕による文様施文である。72はやや長めの馬蹄形の燃糸圧痕と、短線圧痕の両者がみられ、73は短線圧痕の比率が高い。74は「ハ」の字状の短線圧痕と併用されている。75・76・78は横位の燃糸圧痕の間に馬蹄形の燃糸圧痕が細かく充填されており、他は概ね間隔が広めに施文されている。

87は口縁部直下に鋸歯状に蛇行する隆帯を貼り付けており、1類の69・70などと同様に、他の個体とは文様構成を異にしているが、施文技法により本類とした。隆帯の特徴などは3類に近いものである。

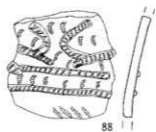
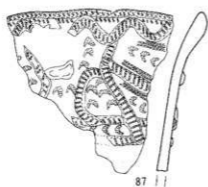
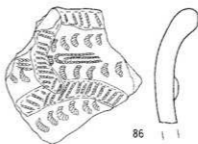
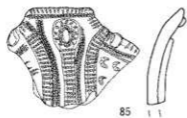
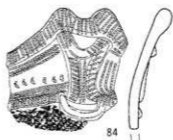
本類は出土点数が少なく、全体形を知り得る資料も少ないため、胴部文様及び内面調整などに多く言及できないが、概ね1類とに差違はないようである。胎土・焼成もほぼ同様である。ただ、77などにみられるように、突起が大きく延びるものや、82のような口頸部文様帯が広くなるものが認められる。



第77圖 遺構外出土土器-18 (Ⅲ群2類-1)

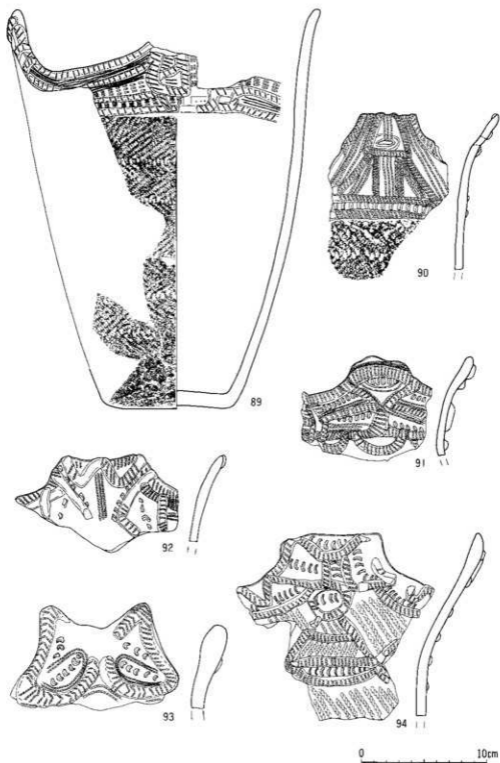


第78圖 遺構外出土土器-19 (III群2類-2)

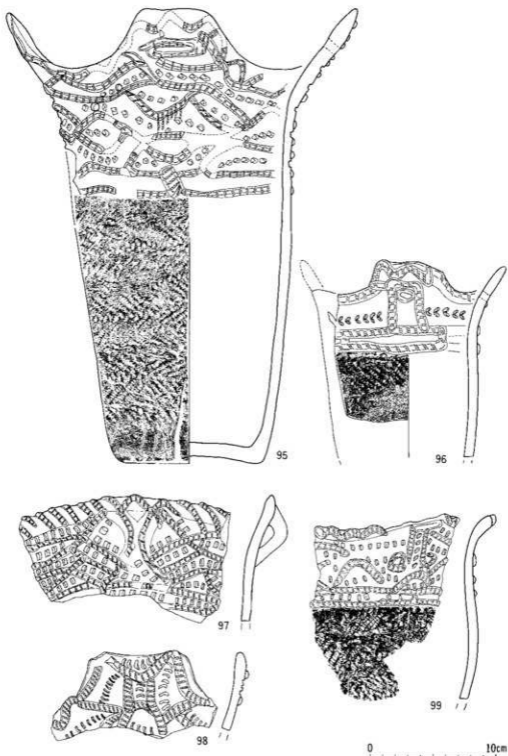


0 10cm

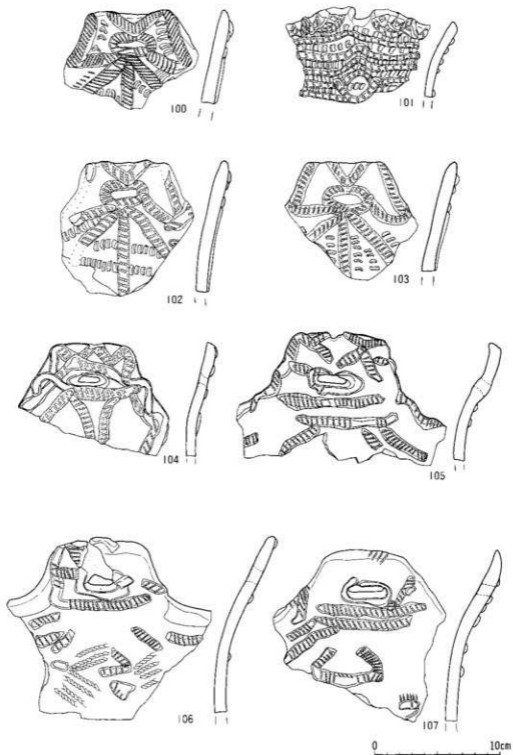
第79图 遼構外出土土器-20 (III群2類-3)



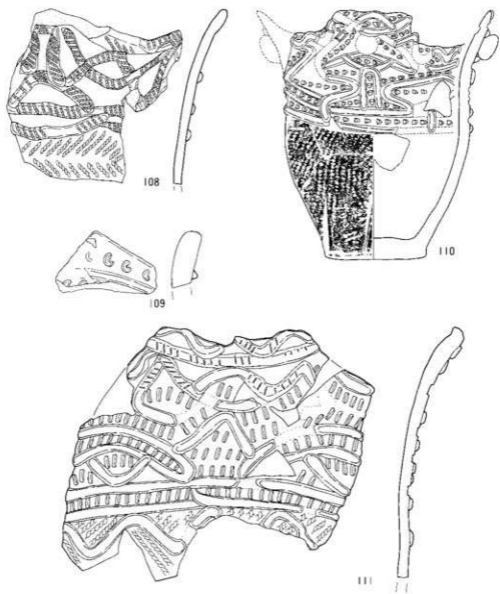
第80圖 遺構外出土土器-21 (Ⅲ群3類-1)



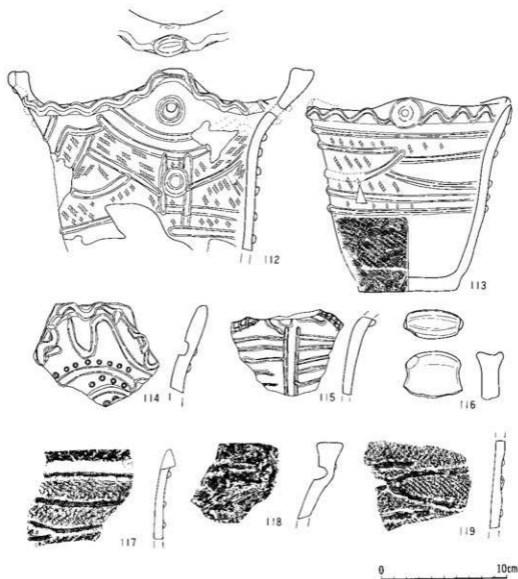
第81圖 遺構外出土土器-22 (Ⅲ群3類-2)



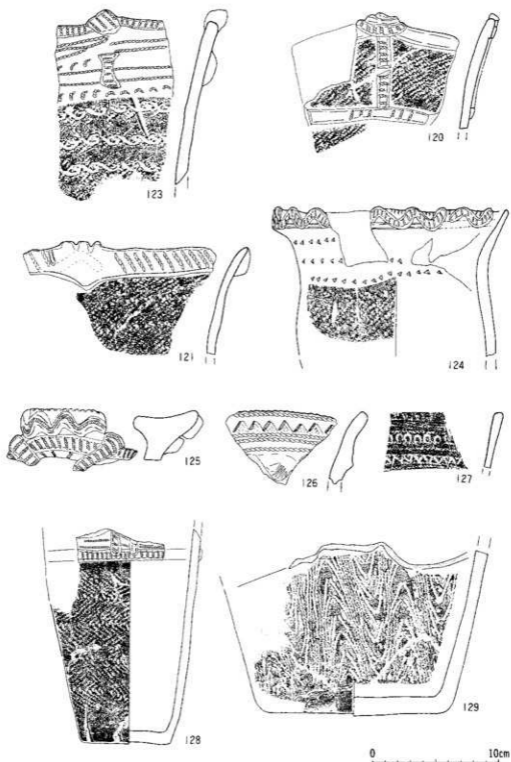
第82圖 遺構外出土土器-23 (III群3類-3)



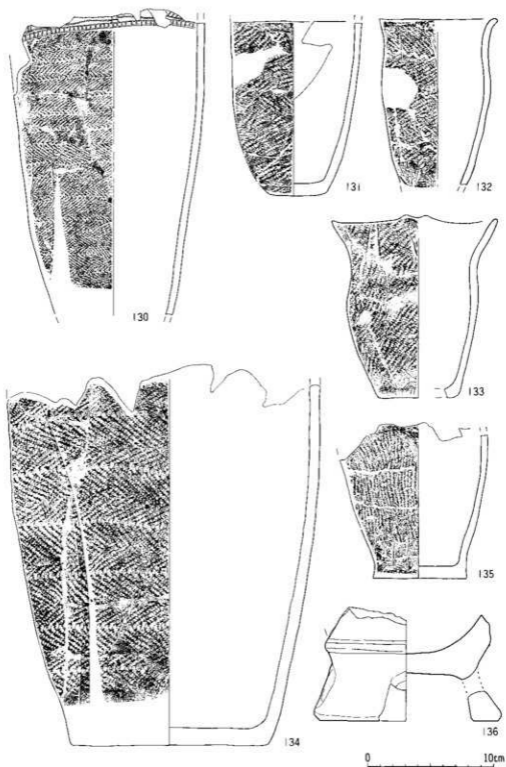
第83圖 遺構外出土土器—24 (Ⅲ群3類—4)



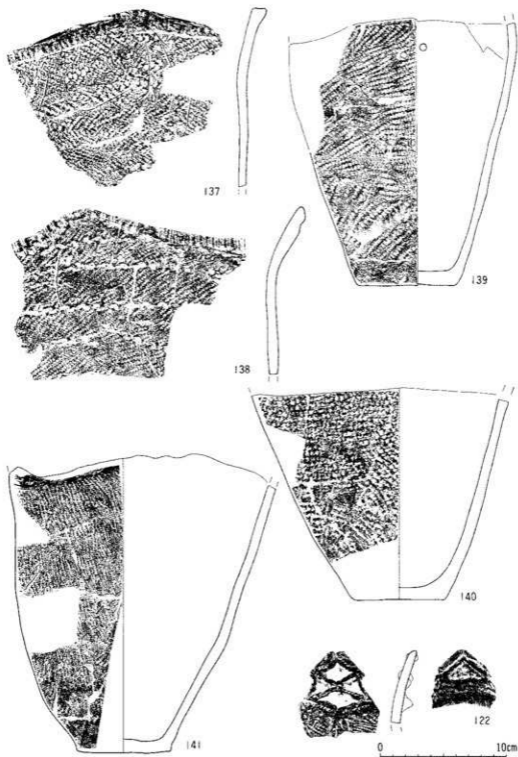
第84圖 遺構外出土土器-25 (III群4類)



第85圖 遺構外出土土器-26 (III群5類・6類-1)



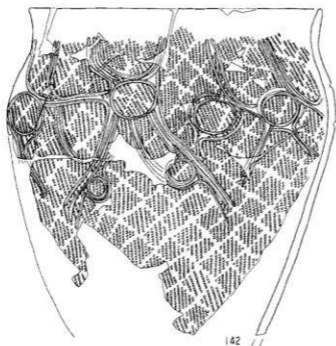
第86図 遺構外出土土器-27 (Ⅲ群6類-2)



第87圖 遺構外出土土器-28 (Ⅲ群6類-3)

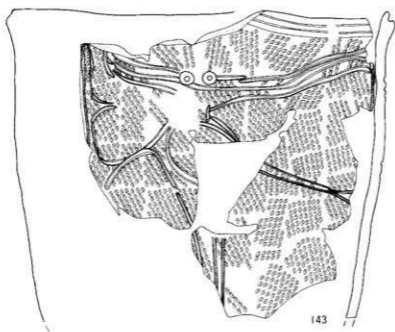
図版番号	遺構名	組	部位	口部原文様	胴部文様	分類	冊数
第77図-72	H-50	Ⅲ	口~胴	波状口縁(4) 燃糸圧痕	羽状縄文	Ⅲ群2類	411
-73	H-50	Ⅱ	口~胴	波状口縁(4) 燃糸圧痕	羽状縄文	Ⅲ群2類	410
第78図-74	H-51	Ⅱ	口縁	波状口縁(4) 燃糸圧痕		Ⅲ群2類	452
-75	G-33	Ⅲ	口縁	波状口縁 燃糸圧痕		Ⅲ群2類	468
-76	F-33	Ⅲ	口縁	平口縁 燃糸圧痕		Ⅲ群2類	469
-77	G-51	Ⅱ	口縁	波状口縁 燃糸圧痕		Ⅲ群2類	454
-78	G-33	Ⅲ	口~胴	燃糸圧痕	羽状縄文	Ⅲ群2類	466
-79	I-51	Ⅱ	口縁	波状口縁(4) 燃糸圧痕		Ⅲ群2類	458
-80	G-33	Ⅲ	口縁	波状口縁(4) 燃糸圧痕		Ⅲ群2類	456
-81	E-30	Ⅲ	口縁	波状口縁(4) 燃糸圧痕		Ⅲ群2類	462
-82	H-35	Ⅲ	口~底	波状口縁 燃糸圧痕	斜縄文LR	Ⅲ群2類	617
第79図-83	G-33	Ⅲ	口縁	波状口縁(4) 燃糸圧痕		Ⅲ群2類	464
-84	H-55	Ⅱ	口縁	波状口縁(4) 燃糸圧痕		Ⅲ群2類	481
-85	F-33	Ⅲ	口縁	波状口縁(4) 燃糸圧痕		Ⅲ群2類	460
-86	I-38	Ⅲ	口縁	波状口縁 燃糸圧痕		Ⅲ群2類	459
-87	H-33	Ⅲ	口縁	平口縁 燃糸圧痕		Ⅲ群2類	455
-88	H-48	Ⅲ	口縁	燃糸圧痕		Ⅲ群2類	465
第80図-89	H-54	Ⅱ	略完形	波状口縁 刺突文	羽状縄文	Ⅲ群3類	100
-90	D-19	Ⅲ	口~胴	波状口縁(4) 刺突文 貫通孔	羽状縄文	Ⅲ群3類	480
-91	G-50	Ⅱ	口縁	波状口縁(4) 刺突文		Ⅲ群3類	475
-92	G-34	Ⅲ	口縁	波状口縁(4) 刺突文		Ⅲ群3類	471
-93	F-30	Ⅱ	口縁	波状口縁(4) 燃糸圧痕		Ⅲ群3類	457
-94	F-31	Ⅲ	口~胴	波状口縁(4) 刺突文	羽状縄文	Ⅲ群3類	477
第81図-95	E-26	Ⅱ	完形	波状口縁 刺突文 貫通孔	羽状縄文	Ⅲ群3類	115
-96	F-32	Ⅱ	口~胴	波状口縁(4) 燃糸圧痕 貫通孔	斜縄文RL	Ⅲ群3類	41
-97	E-19	Ⅲ	口縁	平口縁 刺突文 橋状把手		Ⅲ群3類	474
-98	F-32	Ⅱ	口縁	波状口縁(4) 刺突文		Ⅲ群3類	484
-99	H-35	Ⅲ	口~胴	波状口縁 刺突文	羽状縄文LR	Ⅲ群3類	138
第82図-100	H-36	Ⅲ	口縁	波状口縁(4) 燃糸圧痕 ボタン状突起	斜縄文LR	Ⅲ群3類	461
-101	H-34	Ⅱ	口縁	波状口縁(4) 刺突文 貫通孔		Ⅲ群3類	482
-102	H-34	Ⅲ	口縁	波状口縁(4) 刺突文		Ⅲ群3類	473
-103	H-34	Ⅲ	口縁	波状口縁(4) 燃糸圧痕 ボタン状突起	斜縄文LR	Ⅲ群3類	463
-104	H-49	Ⅱ	口縁	波状口縁(4) 貫通孔		Ⅲ群3類	479
-105	G-33	Ⅲ	口縁	波状口縁(4) 貫通孔		Ⅲ群3類	470
-106	G-33	Ⅲ	口~胴	波状口縁(4) 貫通孔	羽状縄文	Ⅲ群3類	478
-107	G-33	Ⅲ	口縁	波状口縁(4) 貫通孔		Ⅲ群3類	476
第83図-108	H-49	Ⅱ	口~胴	波状口縁(4)	羽状縄文	Ⅲ群3類	483
-109	G-40	Ⅲ	略完形	波状口縁(4) 刺突文 ボタン状突起	斜縄文LR	Ⅲ群3類	63
-110	H-42	Ⅰ	口縁	波状口縁 刺突文		Ⅲ群3類	485
-111	F-34	Ⅲ	口縁	波状口縁 刺突文		Ⅲ群3類	596
第84図-112	H-35	Ⅲ	口縁	波状口縁 ボタン状突起 貫通孔	斜縄文LR	Ⅲ群4類	83
-113	I-45	Ⅲ	略完形	波状口縁(3) ボタン状突起	斜縄文RL 隆帯による胸骨文	Ⅲ群4類	44
-114	H-47	Ⅲ	口縁	波状口縁(4) 刺突文		Ⅲ群4類	472
-115	E-29	Ⅱ	口~胴	波状口縁	胸骨文	Ⅲ群4類	488
-116	G-34	Ⅲ	口縁	波状口縁(4)		Ⅲ群4類	491

図版番号	通称名	部	部位	I) 顔部文様	顔部文様	分類	冊数
第84図-111	H-40	II	口～胴	平口縁	羽状縄文 胸骨文	III群4類	487
-118	G-40	III	口縁	波状口縁(4) 燃糸圧痕		III群4類	490
-119	H-55	II	胴部		羽状縄文 胸骨文	III群4類	489
第85図-120	I-52	II	口縁	波状口縁 折返状口縁 斜縄文LR		III群5類	584
-121	I-58	II	口～胴	平口縁 ひし形状貼付	斜縄文LR	III群5類	494
第87図-122	H-48	III	口縁	波状口縁(4) 枕縁文 ひし形状貼付	斜縄文LR	III群5類	493
第85図-123	H-39	III	口～胴	平口縁 燃糸圧痕 橋状把手	斜縄文&L ループ	III群6類	421
-124	I-48	II	口～胴	平口縁 刺突文2列	斜縄文LR	III群6類	163
-125	H-50	II	口縁	波状口縁(4) 燃糸圧痕		III群6類	431
-126	F-22	III	口縁	平口縁 燃糸圧痕 刺突文		III群6類	498
-127	I-52	II	口縁	平口縁 燃糸圧痕		III群6類	586
-128	H-54	II	胴～底		羽状縄文	III群6類	28
-129	L-41	II	胴～底		木目状圧痕	III群6類	594
第86図-130	J-75	II	胴部		羽状縄文	III群6類	146
-131	I-55	II	胴～底		斜縄文RI	III群6類	26
-132	H-55	II	略完形	平口縁	斜縄文LR ループ	III群6類	24
-133	H-50	II	略完形	波状口縁	斜縄文LR	III群6類	25
-134	H-45	III	胴～底		羽状縄文	III群6類	126
-135	I-49	II	胴～底		縦位縄文LR	III群6類	16
-136	E-29	III	底部		貫通孔	III群6類	610
第87図-137	K-76	III	口～胴	波状口縁(4)	羽状縄文	III群6類	406
-138	F-34	II	口～胴	波状口縁(4)	斜縄文LR ループ	III群6類	405
-139	H-55	III	胴～底		横位斜縄文LR 補修孔	III群6類	107
-140	I-58	III	胴～底		横位斜縄文LR	III群6類	60
-141	I-52	II	胴～底		斜縄文LR	III群6類	75



142

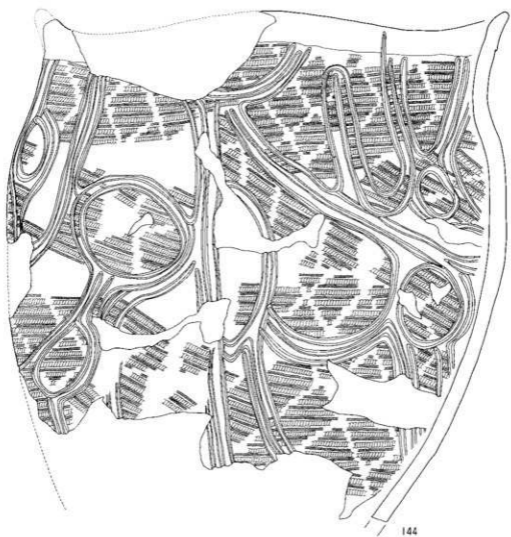
0 20cm



143

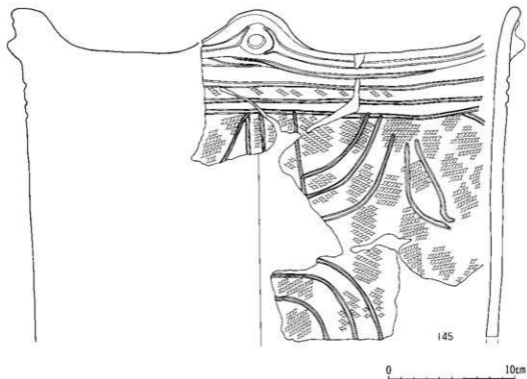
0 10cm

第88圖 遺構外出土土器-29 (IV群1類-1)

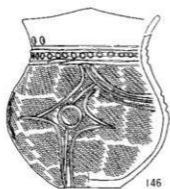


0 10cm

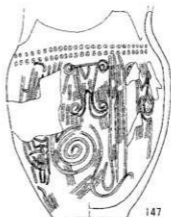
第86圖 遺構外出土土器-30 (IV群1類-2)



第90圖 遺構外出土土器-31 (IV群1類-3)



146



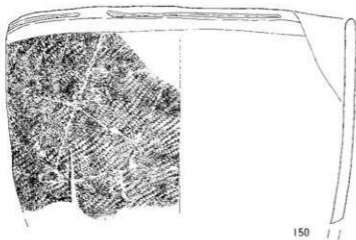
147



148



149



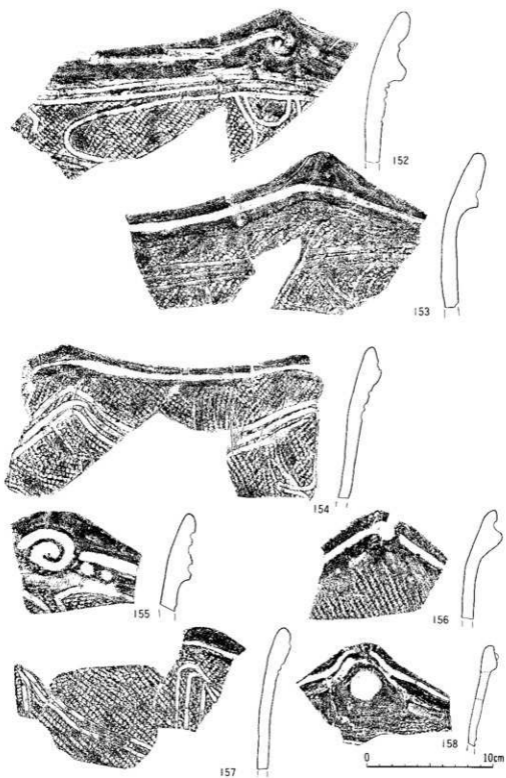
150



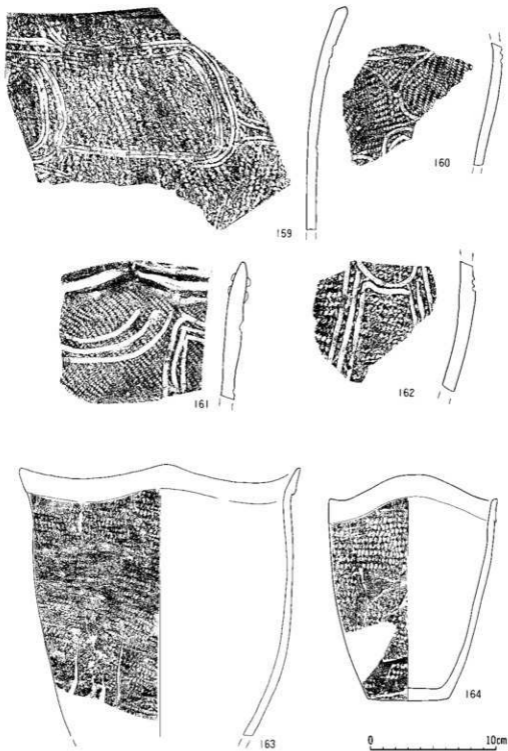
151

0 10cm

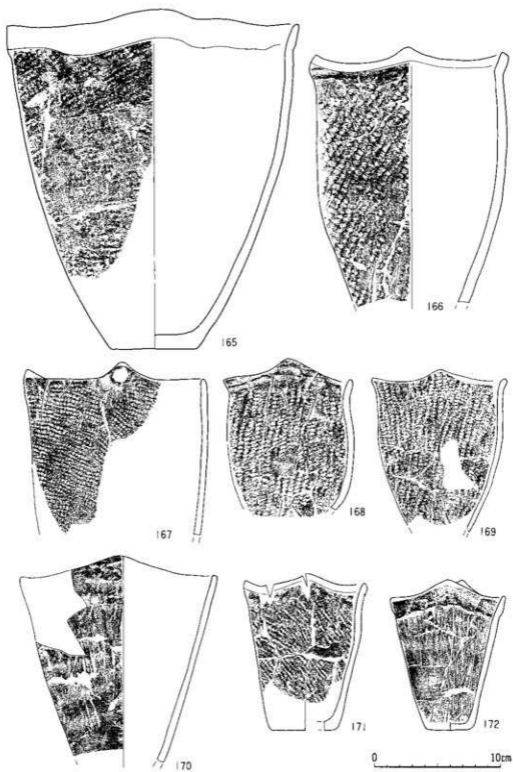
第91图 遺構外出土土器-32 (IV群1類-4)



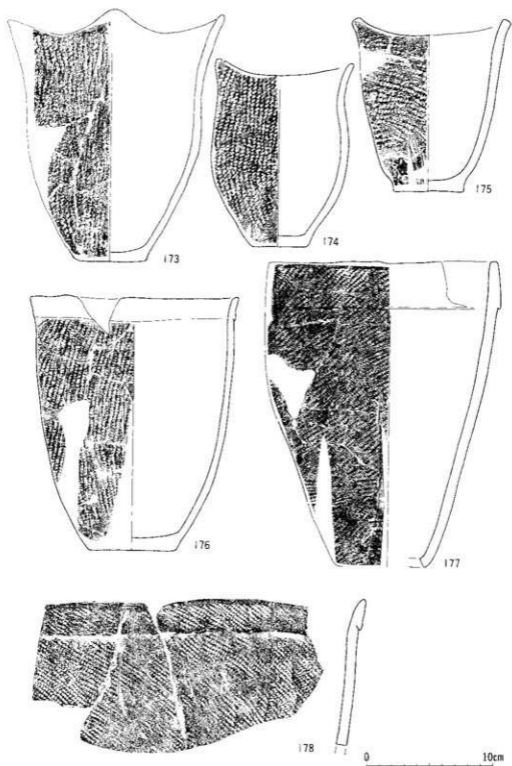
第92圖 遺構外出土土器-33 (IV群1類-5)



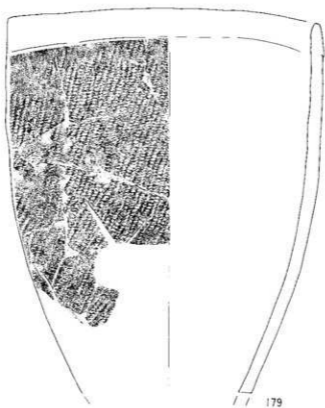
第93圖 遺構外出土土器—34 (IV群1類—6)



第94図 遺構外出土土器-35 (IV群1類-7)

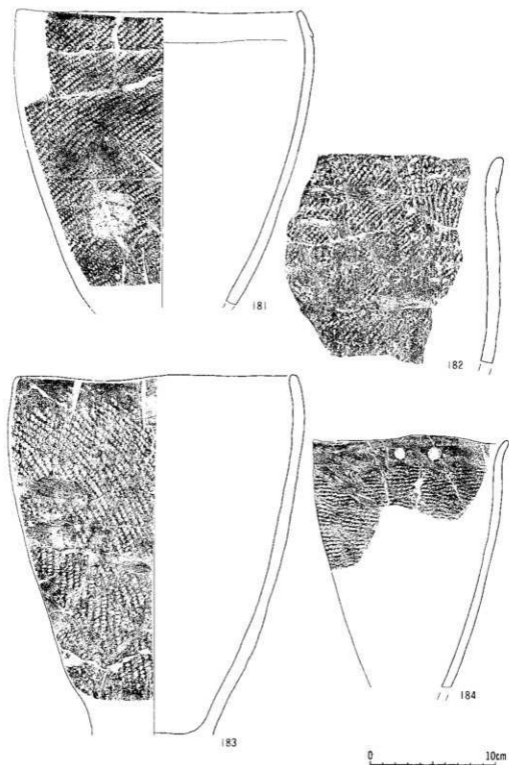


第95圖 遺構外出土土器-36 (IV群1類-8)

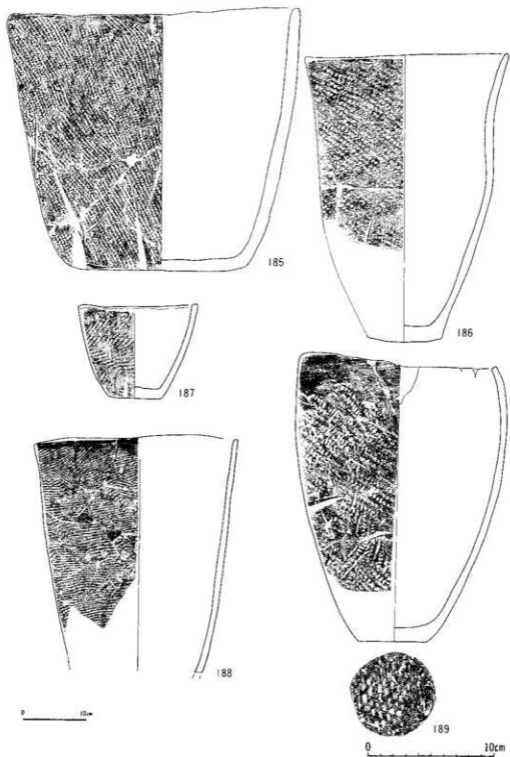


0 10cm

第96图 遺構外出土土器-37 (IV群1類-9)



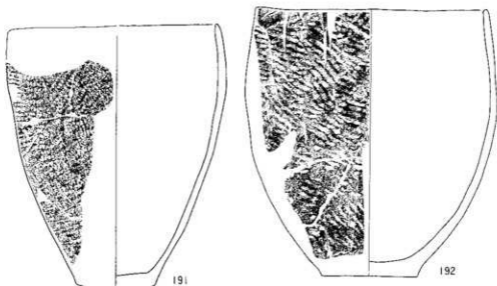
第97回 遺構外出土土器-38 (IV群1類-10)



第98圖 遺構外出土土器-39 (IV群1類-11)



190



191

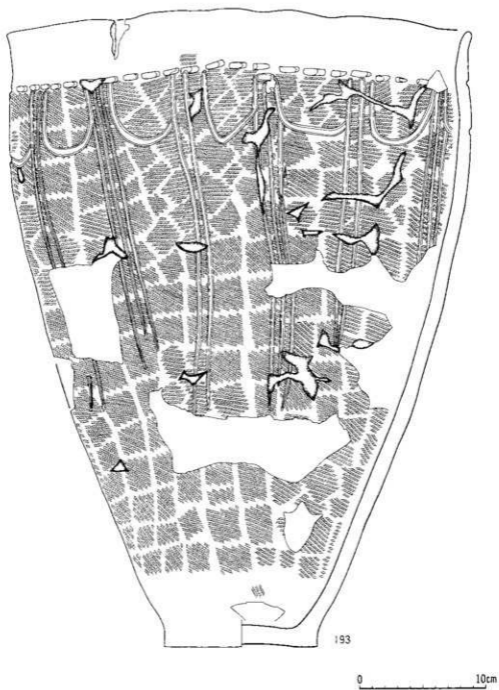
192

0 10cm

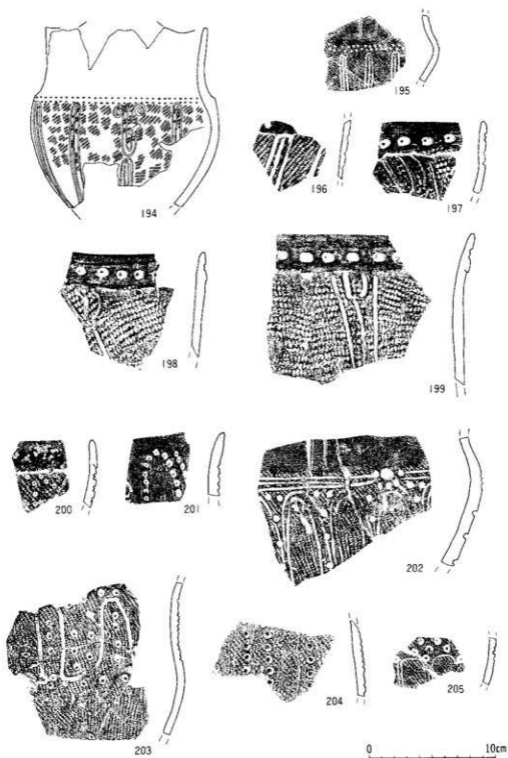
第99図 遺構外出土土器-40 (IV群1類-12)

図版番号	遺構名	群	部位	口部文様	胴部文様	分類	数量
第88図-10	H-51	II	口~胴	平口縁 無文	縦位斜縄文LR 沈線文	IV群1類	143
-10	I-52	II	口~胴	波状口縁 補修孔	斜縄文RL 沈線文	IV群1類	501
第89図-10	H-51	II	口~胴	平口縁 折返状口縁 無文	横位斜縄文LR 沈線文	IV群1類	140
第90図-16	F-10	II	口~胴	波状口縁	斜縄文LR 沈線文	IV群1類	600
第91図-18	G-45	III	完形	波状口縁(2) 刺突文 沈線文 補修孔	斜縄文LR 沈線文 ループ	IV群1類	30
-17	H-45	II	略完形	無文 刺突文2列	斜縄文RL わらび手文	IV群1類	32
-18	H-58	II	口~胴	平口縁 無文	斜縄文RL 沈線文	IV群1類	603

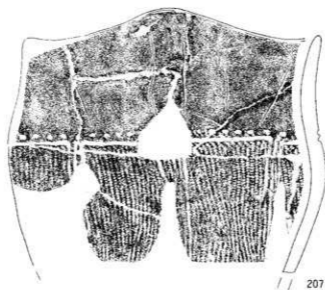
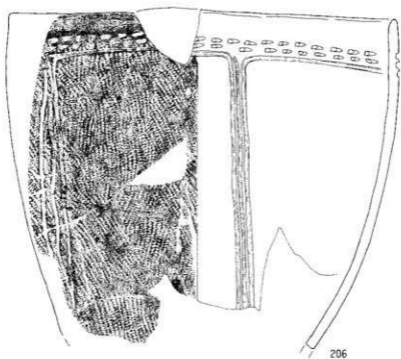
図版番号	漢字名	部	部位	口類部文様	解部文様	分類	冊数
第91回-148	I-45	皿	胴~底		斜縄文LR わらび千文	IV群1類	10
-149	H-43	皿	口~胴	平口縁 口唇部に沈線1本	斜縄文RL	IV群1類	135
-151	F-28	フ	口~胴	波状口縁 折返状口縁	横位斜縄文LR 沈線文	IV群1類	532
第92回-152	H-69	皿	口~胴	波状口縁	斜縄文RL 沈線文	IV群1類	499
-153	H-48	皿	口~胴	波状口縁	斜縄文LR 沈線文	IV群1類	500
-154	I-52	皿	口~胴	波状口縁	斜縄文RL 沈線文	IV群1類	502
-155	H-48	皿	口~胴	波状口縁 刺突文	沈線文	IV群1類	506
-156	G-35	皿	口~胴	波状口縁 沈線文	斜縄文RL	IV群1類	507
-157	I-52	皿	口~胴	波状口縁	斜縄文RL 沈線文	IV群1類	503
-158	G-41	皿	口縁	波状口縁(4) 沈線文 貫通孔		IV群1類	492
第93回-159	H-43	皿	口~胴	平口縁	斜縄文LR 沈線文	IV群1類	513
-160	H-43	フ	胴部		斜縄文LR 沈線文	IV群1類	531
-161	H-66	皿	口~胴	波状口縁	斜縄文LR 沈線文	IV群1類	504
-162	E-28	フ	胴部		横位斜縄文LR 沈線文	IV群1類	521
-163	H-50	皿	口~胴	波状口縁(4) 折返状口縁 無文	斜縄文LR	IV群1類	104
-164	H-49	皿	完形	波状口縁(2) 折返状口縁 無文	横位斜縄文LR	IV群1類	42
第94回-165	H-49	皿	略完形	波状口縁(2) 折返状口縁 無文	横位斜縄文LR	IV群1類	77
-166	H-56	皿	略完形	波状口縁(4)	斜縄文RL	IV群1類	58
-167	H-55	皿	口~胴	平口縁 無文	横位斜縄文LR	IV群1類	40
-168	I-54	皿	口~胴	波状口縁(4) 折返状口縁 無文	縦位縄文RL	IV群1類	15
-169	H-35	皿	略完形	波状口縁(4)	縦位縄文RL(複節)	IV群1類	19
-170	H-55	皿	略完形	波状口縁(2) 折返状口縁	型版	IV群1類	45
-171	H-35	皿	略完形	波状口縁(2)	斜縄文RL	IV群1類	14
-172	D-21	皿	完形	波状口縁(2) 折返状口縁 無文	型版	IV群1類	7
第95回-173	G-41	皿	略完形	波状口縁(3)	縦位縄文RL(複節)	IV群1類	65
-174	H-56	皿	完形	波状口縁(2)	縦位縄文RL(複節)	IV群1類	21
-175	D-20	皿	略完形	波状口縁	横位斜縄文LR	IV群1類	27
-176	D-14	皿	略完形	平口縁 折返状口縁	斜縄文LR	IV群1類	74
-177	I-55	皿	完形	平口縁 折返状口縁 無文	縦位斜縄文RL	IV群1類	47
-178	D-15	皿	口~胴	平口縁 折返状口縁	斜縄文RL	IV群1類	514
第96回-179	H-51	皿	略完形	平口縁 折返状口縁 無文	縦位斜縄文RL	IV群1類	124
-180	G-41	皿	口~胴	平口縁 折返状口縁	斜縄文LR	IV群1類	108
第97回-181	D-14	皿	略完形	平口縁 折返状口縁	斜縄文LR	IV群1類	76
-182	D-15	フ	口~胴	平口縁 折返状口縁	斜縄文(無節)	IV群1類	516
-183	H-49	皿	略完形	平口縁 無文	斜縄文RL	IV群1類	114
-184	I-51	皿	略完形	平口縁 無文 補修孔	横位斜縄文LR	IV群1類	50
第98回-185	H-48	皿	略完形	平口縁	斜縄文RL	IV群1類	123
-186	P-84	皿	完形	平口縁	斜縄文RL	IV群1類	73
-187	H-48	皿	完形	平口縁	斜縄文LR	IV群1類	5
-188	I-38	皿	口~胴	平口縁	横位斜縄文LR	IV群1類	150
-189	H-47	皿	完形	平口縁	斜縄文RL	IV群1類	87
第99回-190	I-45	皿	口~胴	平口縁 無文	横位斜縄文LR	IV群1類	589
-191	H-58	皿	略完形	波状口縁 折返状口縁	横位斜縄文LR	IV群1類	55
-192	H-50	皿	完形	平口縁 折返状口縁	斜縄文(無節)	IV群1類	67



第100圖 遺構外出土土器-41 (IV群2類-1)

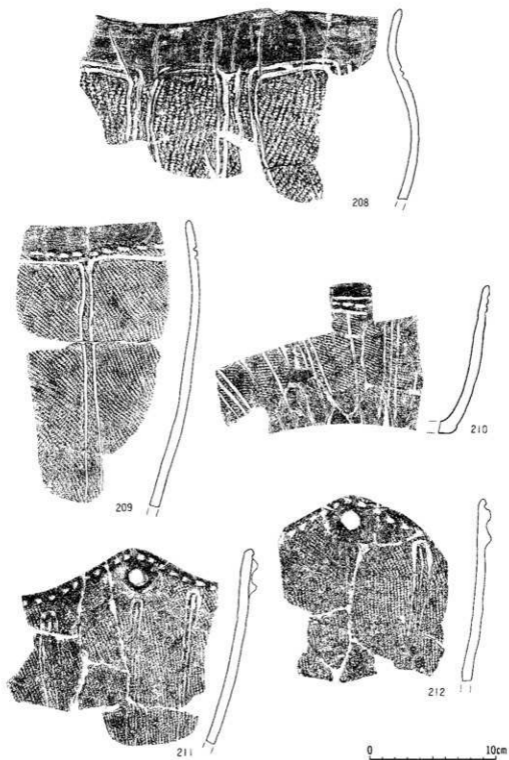


第101圖 遺構外出土土器-42 (IV群2類-2)

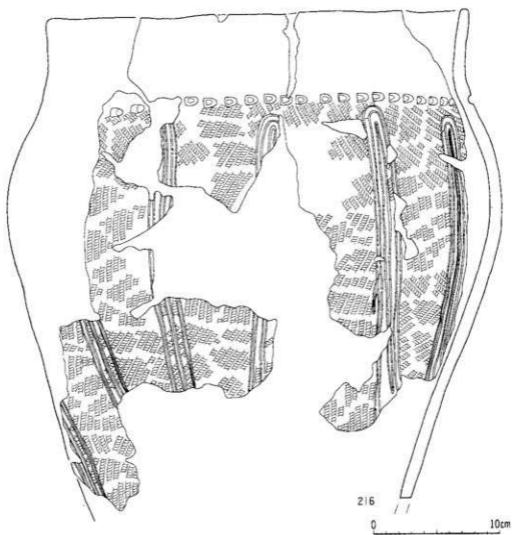
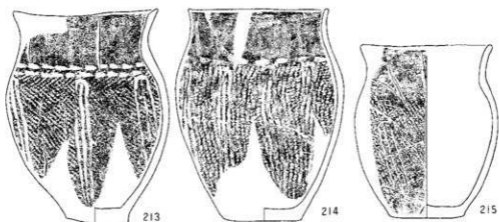


0 10cm

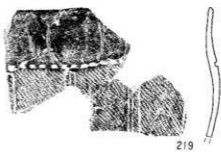
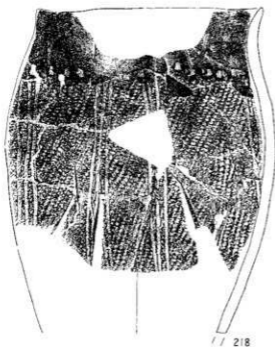
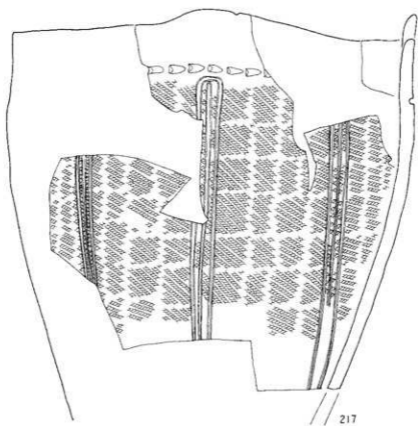
第102図 遺構外出土土器-43 (IV群2類-3)



第103圖 遺構外出土器-44 (IV群2類-4)

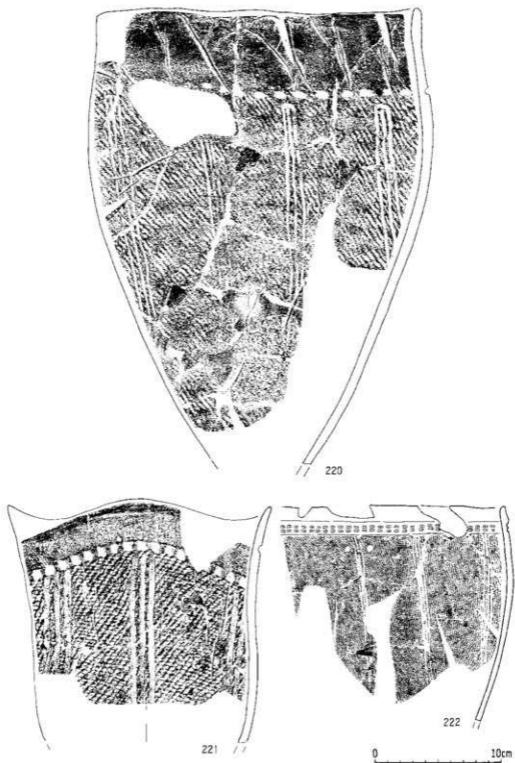


第104図 遠構外出土土器-45 (IV群2類-5)

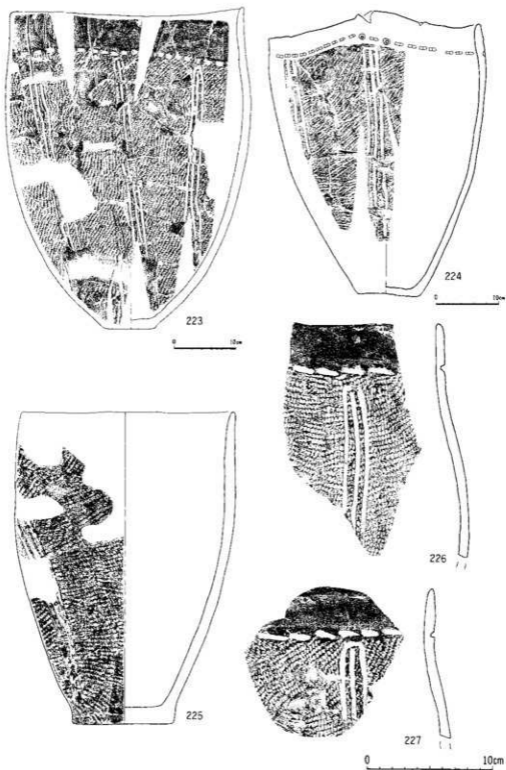


0 10cm

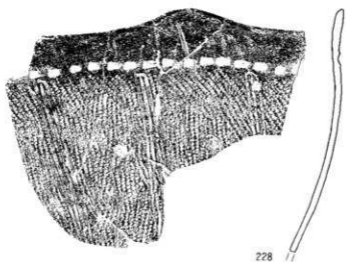
第105図 遺構外出土土器-46 (IV群2類-6)



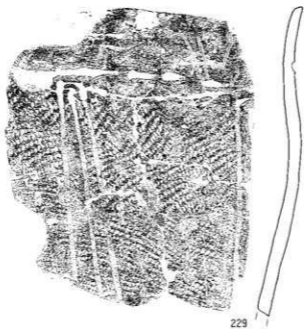
第106圖 遺構外出土土器-47 (Ⅳ群2類-7)



第107回 遺構外出土土器-48 (IV群2類-8)



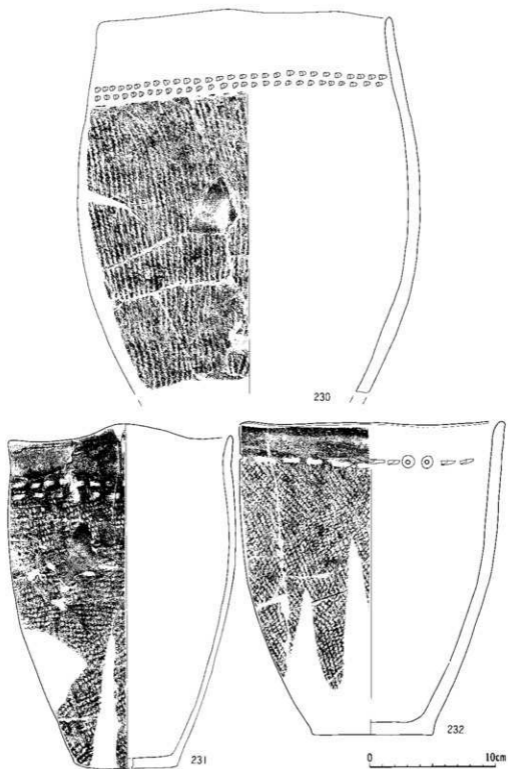
228



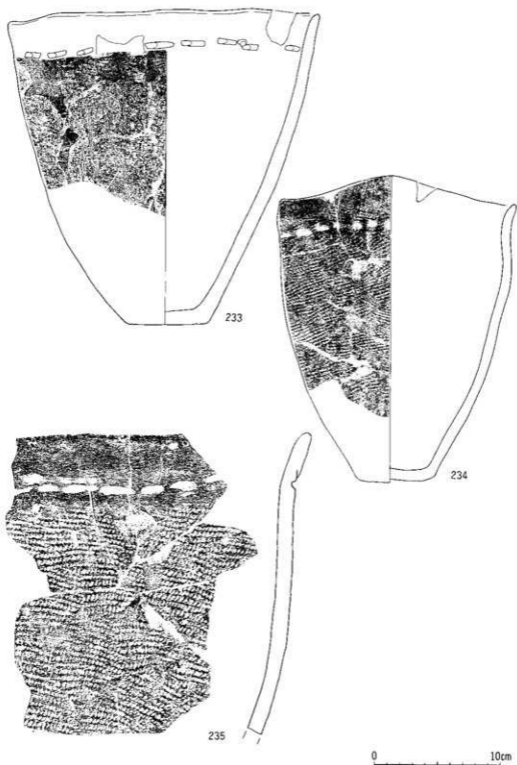
229

0 10cm

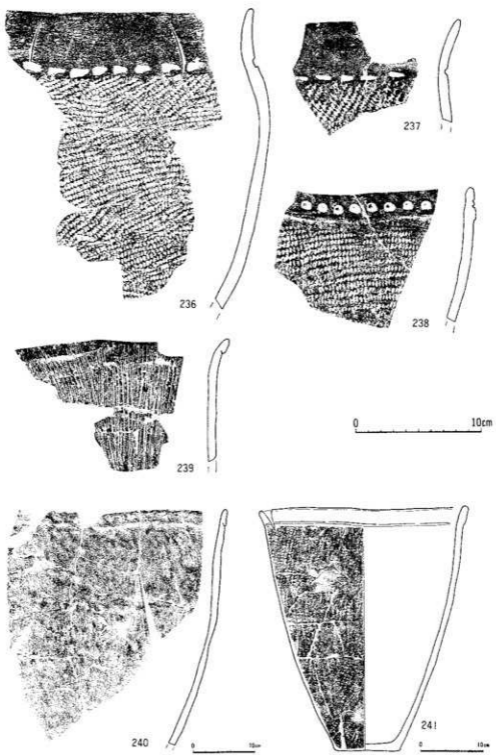
第108圖 遺構外出土土器—48 (IV群2類—9)



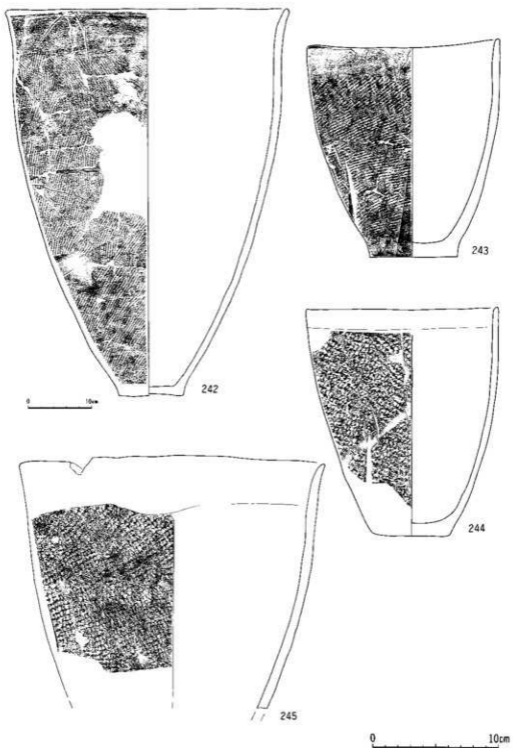
第109図 遺構外出土土器-50 (IV群2類-10)



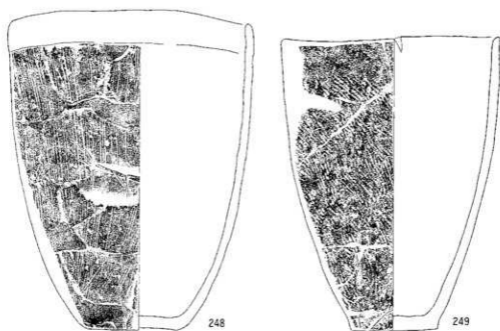
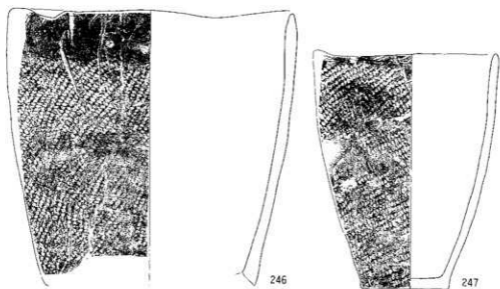
第110図 遺構外出土土器-51 (IV群2類-11)



第111圖 遠構外出土土器-52 (IV群2類-12)

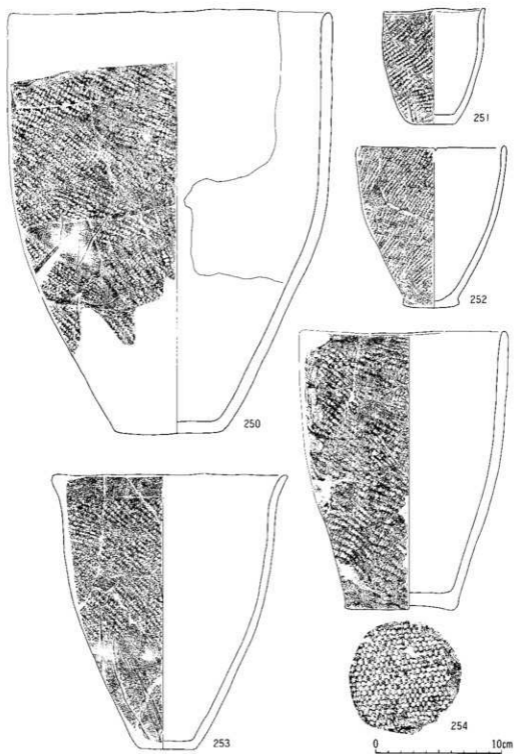


第112図 遺構外出土土器-53 (IV群2類-13)

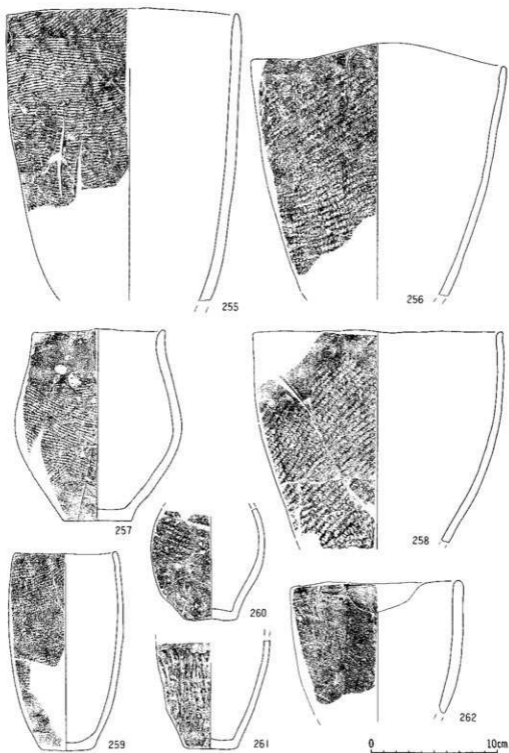


0 10cm

第113圖 遠構外出土土器—54 (IV群2類—14)



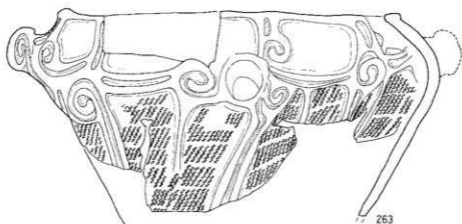
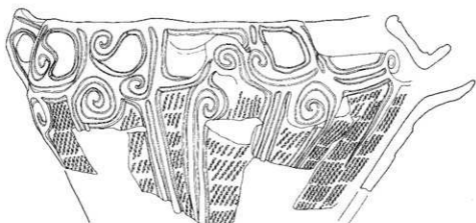
第114圖 遠構外出土土器—55 (IV群2類—15)



第115圖 遺構外出土土器-56 (IV群2類-16)

図版番号	漢字名	部	部位	口蓋部文様	胴部文様	分類	冊数
第001回-153	H-56	II	兜形	平口縁 無文 刺突文1列	横位縹文LR 沈線文	IV群2類	148
第001回-154	G-69	III	口へ胴	無文 刺突文2列	斜縹文LR 垂下文 おろび手文	IV群2類	82
155	I-56	II	口へ胴	無文 刺突文2列	斜縹文RL 縦位沈線文	IV群2類	615
-156	H-51	II	口へ胴	折返状口縁 補修孔	斜縹文LR 垂下文上に刺突文列	IV群2類	538
-157	H-50	III	口へ胴	波状口縁 折返状口縁 刺突文1列	斜縹文LR 沈線文	IV群2類	536
-158	H-50	III	口へ胴	平口縁 折返状口縁 刺突文1列	斜縹文LR 沈線文	IV群2類	534
-158	H-50	II	口へ胴	平口縁 折返状口縁 刺突文1列	横位斜縹文LR 垂下文	IV群2類	522
-200	N-84	II	口へ胴	平口縁 折返状口縁 刺突文	斜縹文RL	IV群2類	539
-201	H-39	III	口縁	平口縁 沈線上に刺突文列		IV群2類	537
-202	G-42	III	口へ胴	平口縁 刺突文(縦、横)列	縦位斜縹文RL 沈線文	IV群2類	519
203	G-42	II	口へ胴	刺突文(縦、横)列	斜縹文RL 沈線文	IV群2類	530
-204	H-47	II	胴部		斜縹文RL 縦位沈線文 刺突文	IV群2類	535
-205	H-63	II	口へ胴	刺突文 垂下文	斜縹文RL	IV群2類	540
第002回 206	G-44	II	口へ胴	平口縁 無文 刺突文2列	縦位斜縹文RL 垂下文	IV群2類	134
-207	H-50	II	口へ胴	波状口縁(4) 無文 刺突文1列	斜縹文LR 垂下文	IV群2類	106
第003回-208	H-51	II	口へ胴	波状口縁(3) 無文	縦位斜縹文RL 垂下文	IV群2類	515
-209	H-48	II	口へ胴	波状口縁 刺突文1列	斜縹文RL 沈線文	IV群2類	526
-210	I-52	II	口へ底	平口縁 刺突文1列	横位斜縹文LR 垂下文	IV群2類	601
-211	H-49	II	口へ胴	波状口縁 刺突文1列 ボタン状突起	縦位斜縹文RL 垂下文	IV群2類	528
-212	H-49	II	口へ胴	波状口縁 刺突文1列	縦位斜縹文RL 垂下文	IV群2類	527
第004回-213	H-49	II	兜形	波状口縁 無文 刺突文2列	斜縹文LR 垂下文	IV群2類	43
-214	H-50	II	略兜形	平口縁 無文 刺突文1列	縦位縹文RL 垂下文	IV群2類	53
-215	I-45	III	略兜形	平口縁 無文 刺突文2列	斜縹文RL 垂下文	IV群2類	9
-216	H-48	III	口へ胴	平口縁 無文 刺突文1列	縦位斜縹文RL 垂下文	IV群2類	604
第005回-217	H-50	II	口へ胴	波状口縁 無文 刺突文1列	斜縹文LR 垂下文	IV群2類	612
-218	I-52	II	口へ胴	平口縁 無文 刺突文	縦位斜縹文RL 垂下文	IV群2類	118
-219	I-37	III	口へ胴	平口縁 無文 刺突文1列	斜縹文RL 垂下文	IV群2類	592
第006回-220	F-36	III	略兜形	平口縁 無文 刺突文1列 補修孔	斜縹文LR 垂下文	IV群2類	117
-221	H-55	II	口へ胴	波状口縁(2) 無文 刺突文1列	斜縹文RL 垂下文 補修孔	IV群2類	105
-222	G-44	II	口へ胴	平口縁 無文 刺突文2列	縦位斜縹文RL 垂下文 補修孔	IV群2類	133
第007回-223	H-55	II	略兜形	波状口縁 無文 刺突文1列	斜縹文RL 垂下文	IV群2類	613
-224	H-47	III	兜形	波状口縁 無文 刺突文1列	縦位斜縹文 垂下文	IV群2類	151
-225	H-45	III	略兜形	平口縁	斜縹文RL 垂下文	IV群2類	71
-226	H-47	III	口へ胴	波状口縁 刺突文1列	横位斜縹文LR 垂下文	IV群2類	517
227	H-47	III	口へ胴	平口縁 刺突文1列	斜縹文LR 垂下文	IV群2類	518
第008回-228	H-51	II	口へ胴	波状口縁 刺突文1列	縦位斜縹文RL 垂下文	IV群2類	524
229	G-44	II	口へ胴	平口縁 刺突文1列	斜縹文LR 垂下文	IV群2類	511
第009回-230	I-51	II	口へ胴	平口縁 無文 刺突文2列	縦位縹文LR	IV群2類	139
-231	I-51	II	兜形	波状口縁 無文 刺突文2列	斜縹文LR	IV群2類	90
-232	H-55	II	兜形	平口縁 刺突文1列 補修孔	斜縹文RL(投簡)	IV群2類	95
第010回-233	H-50	II	兜形	平口縁 刺突文1列	斜縹文(覆頂)	IV群2類	125
-234	H-48	III	兜形	波状口縁(2) 刺突文1列 補修孔	斜縹文LR	IV群2類	96
-235	G-41	III	口へ胴	平口縁 刺突文1列	横位斜縹文LR	IV群2類	523
第011回-236	H-47	III	口へ胴	平口縁 無文 刺突文1列	横位斜縹文LR	IV群2類	525
-237	H-47	III	口へ胴	平口縁 無文 刺突文1列	斜縹文LR	IV群2類	533

図版番号	図標名	種	部位	口歯部文様	唇部文様	分類	資料
第10図-28	H-50	III	口～唇	波状口縁 折返状口縁 刺突文1列	横位斜織文LR	IV群2類	529
-29	I-51	II	口～唇	波状口縁 折返状口縁	縹旗	IV群2類	520
-29	G-51	II	口～唇	波状口縁 折返状口縁	縹旗	IV群2類	588
-29	H-56	II	完形	平口縁 折返状口縁	斜織文RL	IV群2類	132
第11図-2C	G-45	II	略完形	平口縁 無文	斜織文RL	IV群2類	145
-2D	I-37	III	完形	平口縁 無文	斜織文LR(無節)	IV群2類	49
-2H	II-50	III	完形	平口縁 折返状口縁 無文	斜織文LR	IV群2類	54
-2E	I-48	II	I口～唇	平口縁 折返状口縁 無文	横位斜織文LR	IV群2類	121
第12図-2E	H-50	II	略完形	平口縁 無文 補修孔	斜織文RL	IV群2類	102
-2F	F-20	II	略完形	平口縁	斜織文LR	IV群2類	85
-2B	H-47	III	完形	平口縁 折返状口縁 補修孔	縹旗	IV群2類	611
-2G	II-36	III	完形	平口縁	斜織文RL	IV群2類	89
第14図-29	G-50	II	略完形	平口縁 折返状口縁 無文	斜織文RL	IV群2類	109
-29	E-29	II	完形	平口縁	斜織文LR	IV群2類	4
-2I	H-48	II	略完形	平口縁	斜織文RL	IV群2類	22
-2J	H-48	II	略完形	平口縁 折返状口縁 無文	縦位斜織文RL	IV群2類	66
-24	O-85	II	略完形	平口縁 無文	斜織文LR	IV群2類	86
第15図-25	H-43	II	略完形	平口縁 斜織文	横位織文(無節)	IV群2類	84
-26	II-47	III	略完形	波状口縁(2) 無文	斜織文LR	IV群2類	99
-2G	G-45	II	略完形	平口縁 無文	横位斜織文LR	IV群2類	39
-28	H-47	III	口～唇	平口縁 無文	斜織文RL	IV群2類	56
-29	G-42	II	略完形	平口縁	横位斜織文LR	IV群2類	23
-28	H-48	III	唇～底		横位斜織文LR	IV群2類	12
-29	I-55	II	唇～底		縹旗	IV群2類	6
-2E	I-41	III	口～唇	平口縁	斜織文RL	IV群2類	80



263



264



265



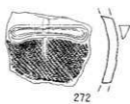
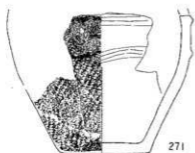
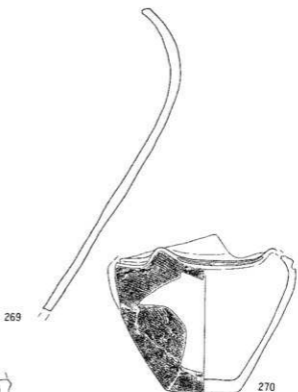
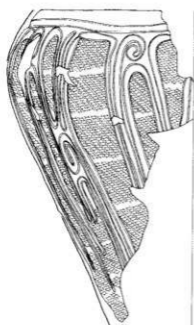
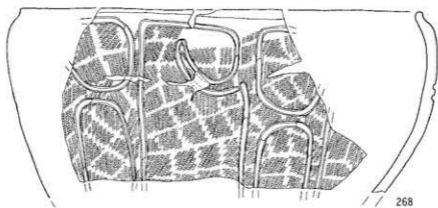
266



267

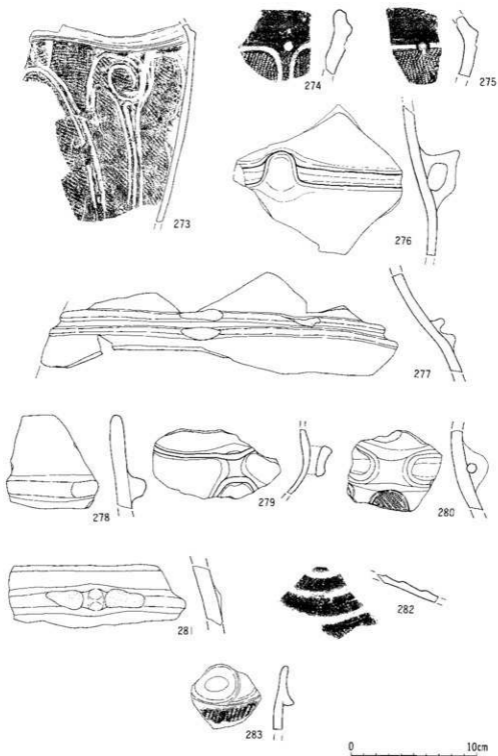
0 10cm

第116図 遺構外出土土器-57 (IV群3類-1)

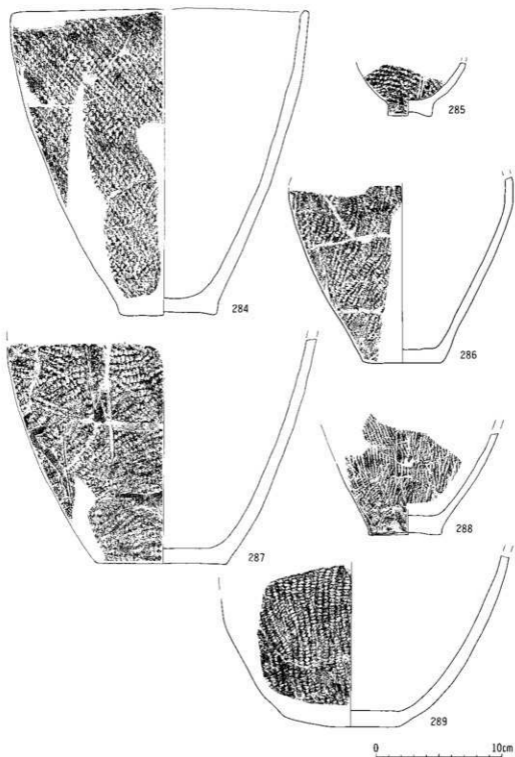


0 10cm

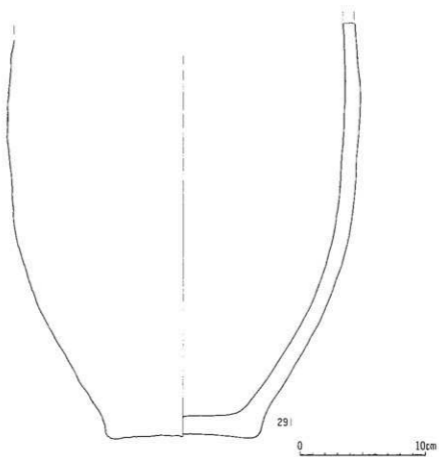
第117圖 遺構外出土土器-58 (IV群3類-2)



第118回 遺構外出土土器-59 (IV群3類-3)



第119圖 遺構外出土土器-60 (IV群4類-1)



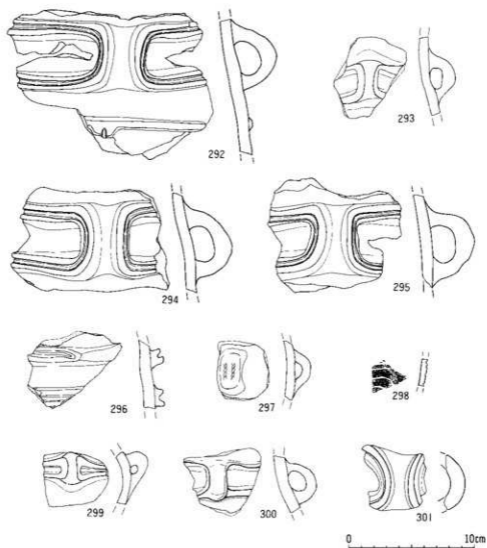
第120図 遺構外出土土器-61 (IV群4類-2)

図版番号	遺構名	群	部位	口縁部文様	胴部文様	分類	資料
第116図-253	H-51	II	口~胴	平口縁 わらび手文 橋状把手 注口	斜縄文RL	IV群3類	174
-254	E-23	III	胴部		沈線文 貫通孔 朱塗り	IV群3類	556
-255	I-50	I	口~胴	沈線文 橋状把手	斜縄文LR	IV群3類	509
-256	G-36	III	口~胴	平口縁	斜縄文LR 沈線文	IV群3類	616
-257	H-64	II	口縁	平口縁 沈線文		IV群3類	516
第117図-258	I-60	III	口~胴	平口縁 無文	縦位斜縄文RL 沈線文	IV群3類	591
-259	H-48	III	IJ~胴	平口縁	斜縄文LR 沈線文	IV群3類	609
270	H-48	II	略完形	無文 釣手 1本の沈線+4つの突起	斜縄文LR	IV群3類	34
-271	H-49	III	略完形	無文 朱塗り	斜縄文RL	IV群3類	79
-272	I-47	III	口~胴	貫通孔	斜縄文	IV群3類	505
第118図-273	I-50	III	口~胴	波状口縁 無文	斜縄文LR わらび手文	IV群3類	137
274	I-60	III	口~胴	平口縁 貫通孔	斜縄文RL 沈線文	IV群3類	551
-275	I-60	III	口~胴	貫通孔	斜縄文RL	IV群3類	550
-276	I-56	II	胴部		橋状把手 朱塗り	IV群3類	553
-277	I-56	II	胴部		橋状把手 朱塗り	IV群3類	552
-278	H-65	III	口縁	平口縁 無文		IV群3類	548
-279	I-48	III	胴部		斜縄文LR 橋状把手	IV群3類	555
-280	S-91	III	口~胴	橋状把手	斜縄文LR 沈線文	IV群3類	508
-281	H-65	II	胴部		橋状把手	IV群3類	554
-282	H-48	II				IV群3類	542
-283	I-74	III	口~胴	波状口縁 折返状口縁 ボタン状突起	斜縄文RL	IV群3類	541
第119図-284	I-68	II	胴~底		斜縄文 補修孔	IV群4類	120
-285	F-22	III	胴~底		横位斜縄文LR	IV群4類	607
-286	H-52	II	胴~底		縦位斜縄文RL	IV群4類	48
-287	H-40	III	胴~底		斜縄文LR 沈線文	IV群4類	128
-288	I-37	III	胴~底		縦位斜縄文RL 垂下文	IV群4類	595
-289	H-51	II	胴~底		斜縄文RL	IV群4類	98
第120図-290	H-50	II	胴~底		横位斜縄文LR	IV群4類	593
-291	H-51	II	胴~底		斜縄文LR	IV群4類	129

第V群土器 (第121図)

縄文時代後期の土器を一括した。

1点を除き、甕棺土器の破片と考えられる。297が一部に縄文施文の痕跡が認められるだけで、他はすべて無文である。大きく突出した隆帯と、これをつなぐ橋状把手からなり、器面全体にいいいな磨きがなされている。十腰内I式に比定されるものと考えられる。298は無文地に沈線が施文されているもので、これも同型式と考えられる。



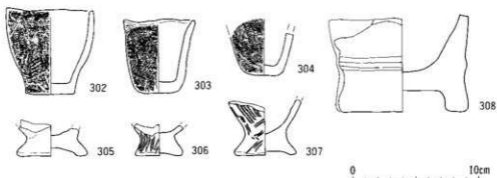
第121図 遺構外出土土器-62 (V群)

図版番号	遺構名	層	部位	口頸部文様	胴部文様	分類	番号
第10図-29	H-49	II	胴部		沈線文 橋状把手	V群	559
-30	I-60	III	胴部		橋状把手 朱塗り	V群	545
-29	H-49	II	胴部		沈線文 橋状把手	V群	557
-28	H-49	II	胴部		沈線文 橋状把手	V群	558
-28	E-15	III	胴部		沈線文	V群	549
-27	G-71	III	胴部		無文 橋状把手	V群	546
-28	O-11	I	胴部		沈線文 朱塗り	V群	543
-28	G-39	III	胴部		橋状把手	V群	547
-30	I-60	III	胴部		橋状把手 朱塗り	V群	544
-31	H-49	III	胴部		沈線文 橋状把手	V群	560

第VI群土器 (第122図)

縄文時代の土器で、時期及び型式を特定できない小型土器を一括した。

302～304は小型のミニチュア土器で、全面に縄文が施文されている。305～307は台部の破片で、305は無文、他の2点は縄文が施文されている。308は厚手の無文の土器である。筒状の台が作出されており、外面に小規模のつまみ出しによると考えられる隆帯が巡っている。

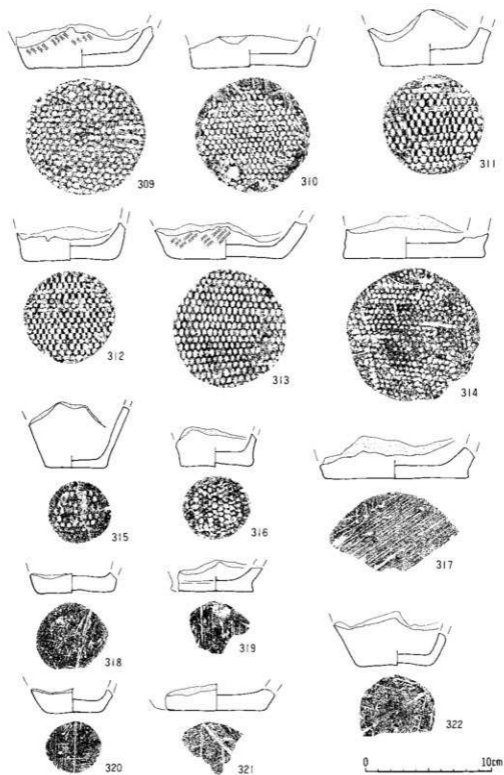


第122図 遺構外出土土器-63 (VI群)

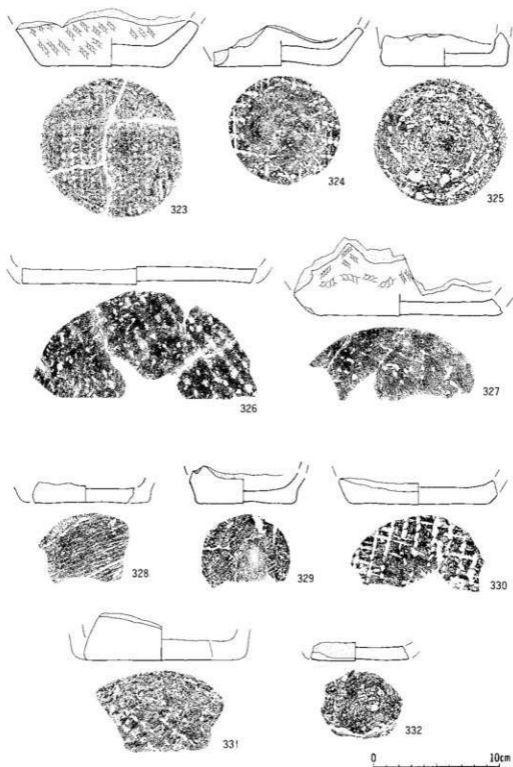
第VII群土器 (第123・124図)

土器の底部資料で、底外面に文様のあるものを一括した。大型で肉厚のものは、概ね円筒式土器のものと考えられる。

網代の痕跡のものが多い傾向があるが、317・319などのような板目？状の圧痕のあるものや、木葉痕、縄目の圧痕のものなどがみられる。325は縄を渦巻き状に巻いたと考えられる圧痕がみられる特殊なものである。

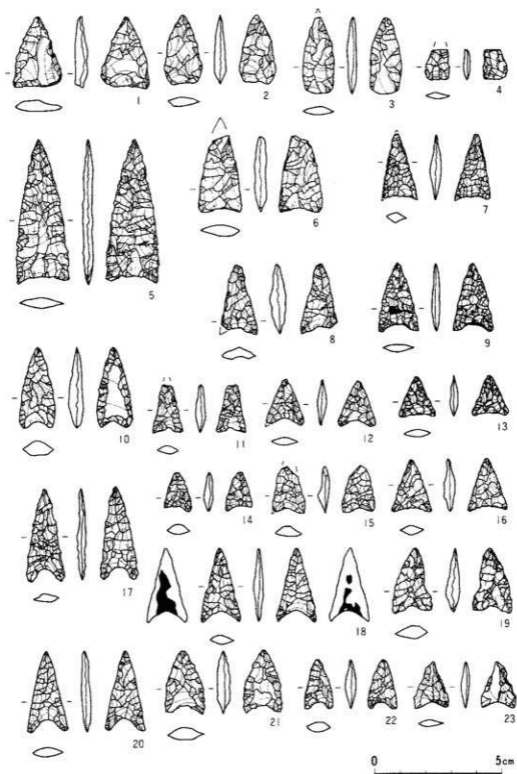


第123图 遺構外出土土器-64 (底部-1)

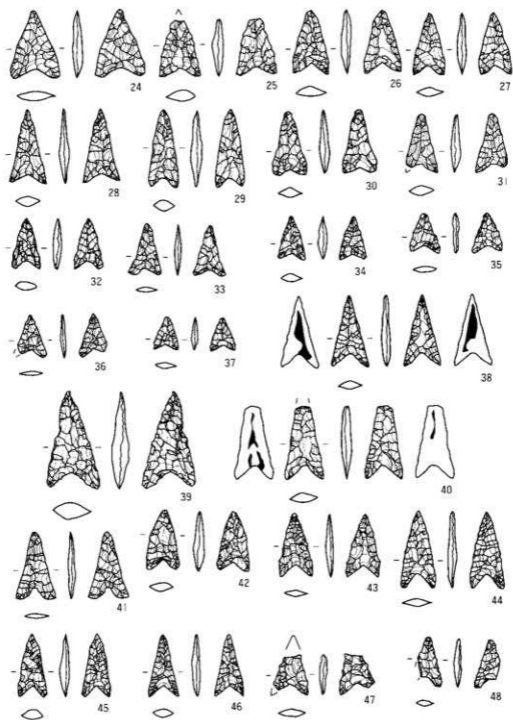


第124回 遺構外出土土器-65 (底部-2)

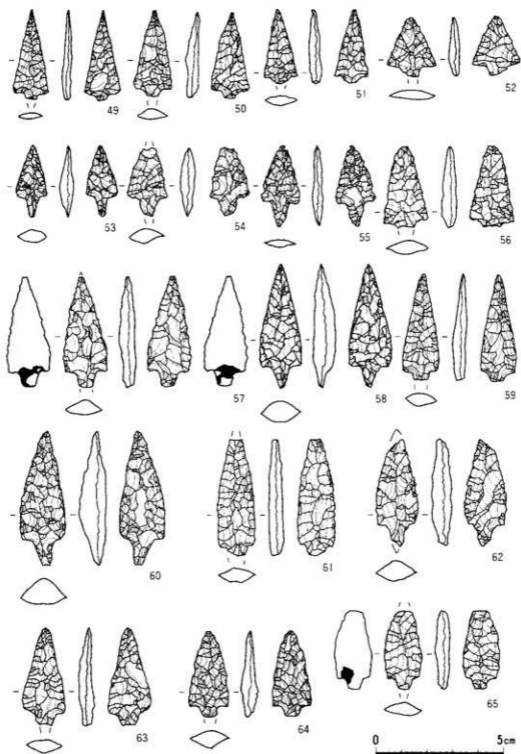
図版番号	漢字名	和	部位	口源部文様	胴部文様	分類	資料
第12図-30	H-49	II	略完形	平口縁	織文	VI群	3
-30	H-34	III	略完形	平口縁	織文	VI群	1
-30	I-55	II	胴~底		織文	VI群	2
-35	H-63	II	底部		新織文	VI群	605
-38	I-50	II	底部		縦位斜織文RL	VI群	608
-30	G-42	III	胴~底		新織文LR	VI群	606
第12図-38	H-55	II	底部		斜織文	VI群	602
-38	H-73	III	底部		斜織文LR 網代痕	VI群	561
-39	P-84	II	底部		網代痕	VI群	562
-31	H-74	III	底部		斜織文 網代痕	VI群	563
-32	P-85	II	底部		斜織文LR 網代痕	VI群	564
-32	F-19	III	底部		斜織文LR 網代痕	VI群	565
-34	I-52	II	底部		網代痕	VI群	614
-35	G-71	III	底部		横位斜織文LR 網代痕	VI群	567
-36	H-65	II	底部		斜織文RL 網代痕	VI群	566
-37	G-44	II	底部			VI群	568
-38	J-75	II	底部			VI群	569
-39	G-69	II	底部		斜織文LR	VI群	574
-30	I-65	III	底部			VI群	571
-32	O-84	II	底部		木葉痕	VI群	573
-32	H-35	III	底部			VI群	570
第14図-33	H-47	III	底部		斜織文RL 縄目痕	VI群	575
-34	G-66	II	底部		斜織文RL 縄目痕	VI群	577
-35	G-43	II	底部		横位斜織文RL 縄目痕	VI群	576
-35	H-52	II	底部		縄目痕	VI群	578
-37	H-51	III	底部		斜織文RL ループ 縄目痕	VI群	580
-38	H-70	II	底部			VI群	572
-39	E-30	III	底部		縄目痕	VI群	582
-30	I-35	II	底部		縄目痕	VI群	579
-31	I-57	III	底部		縄目痕	VI群	583
-32	I-58	II	底部		縄目痕	VI群	581



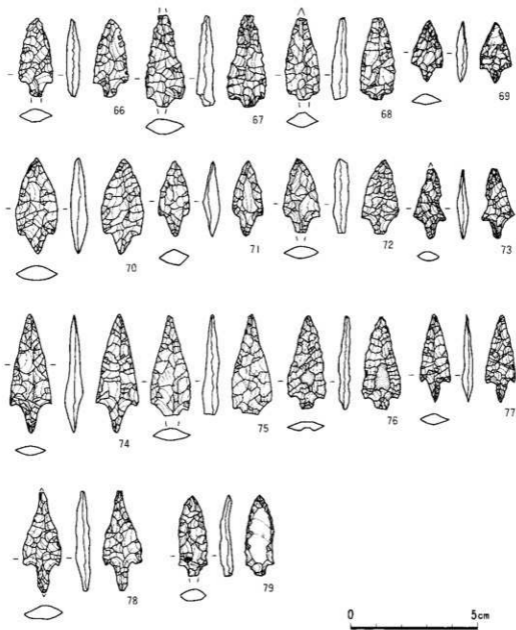
第125図 遺構外出土石器（石鏃一）



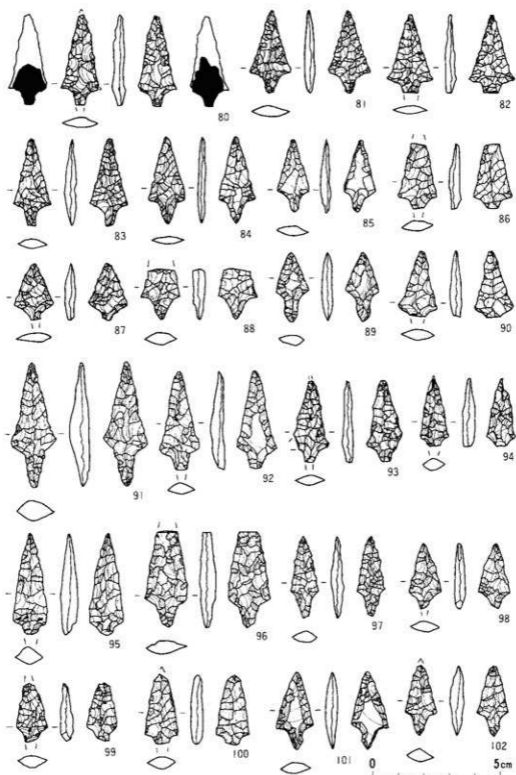
第126図 遠構外出土石器（石鏃-2）



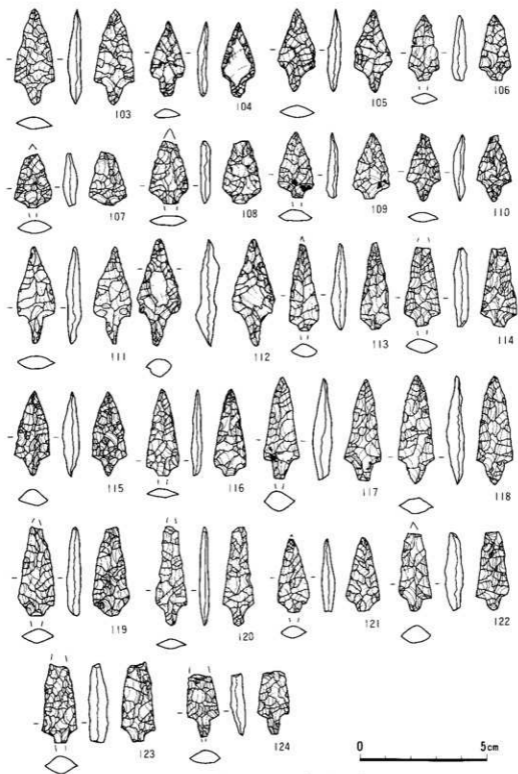
第127图 遗物外出土石器(石鏃—3)



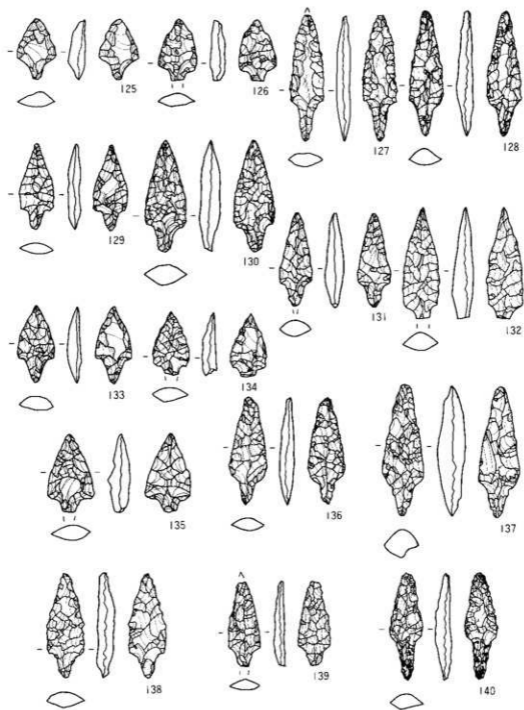
第128圖 遺構外出土石器（石鏃—4）



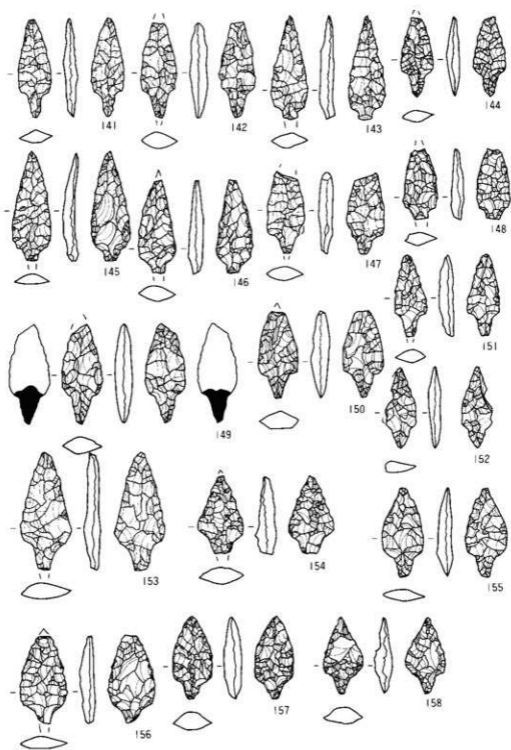
第129图 遗棚外出土石器(石簇—5)



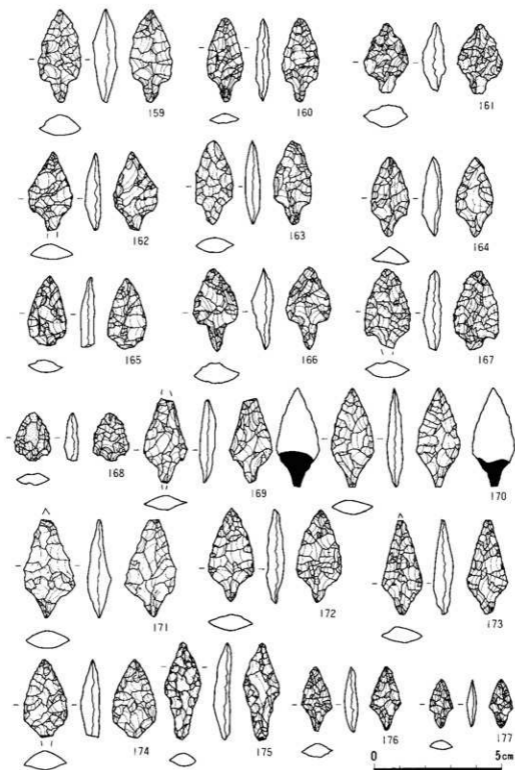
第130圖 遺構外出土石器(石鏃—6)



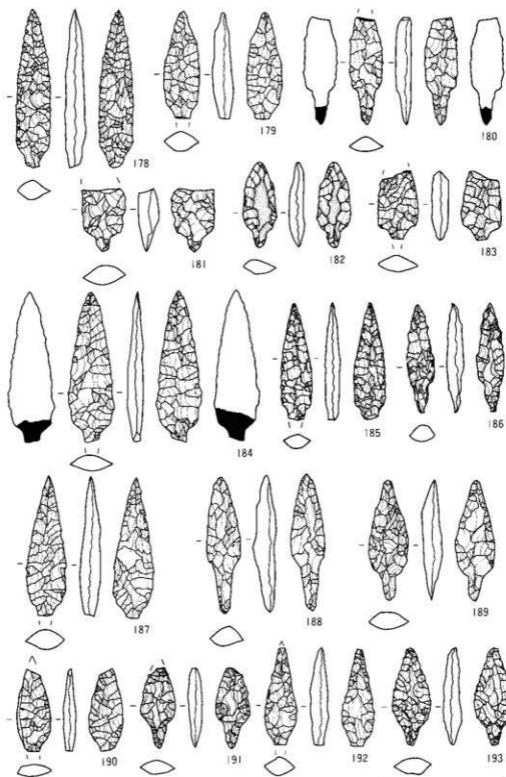
第131圖 遠構外出土石器（石嶽一7）



第132图 遗構外出土石器 (石球-8)

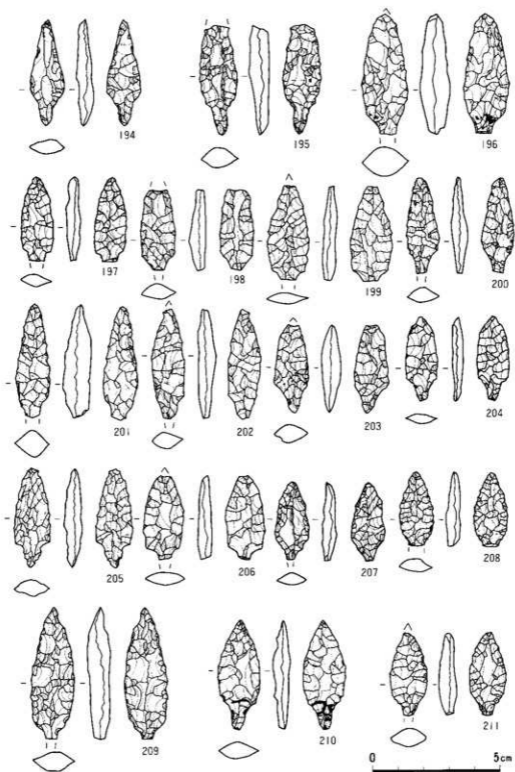


第133圖 遺構外出土石器(石鏃一9)

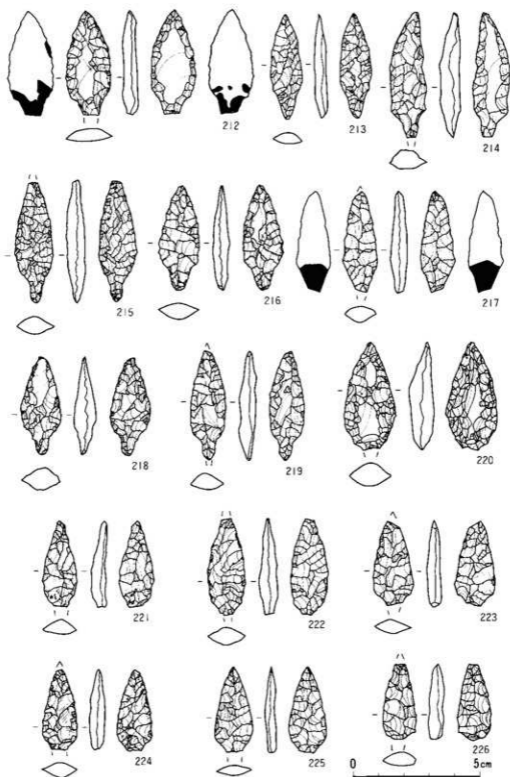


第134图 遗構外出土石器 (石跡-10)

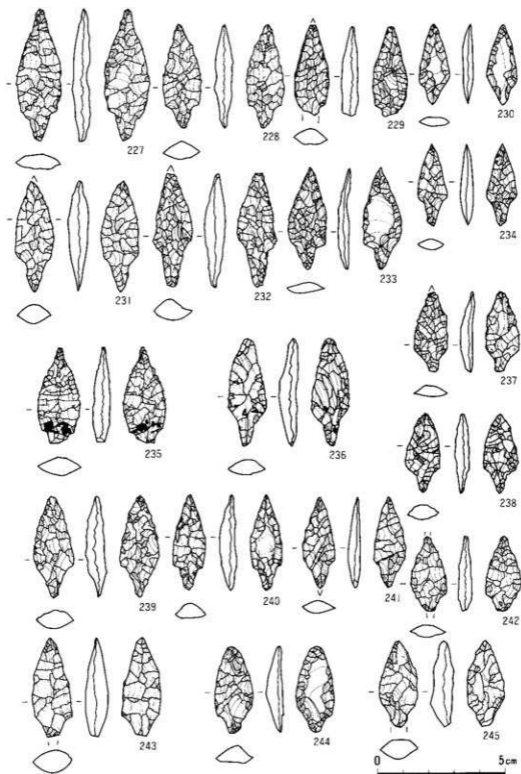
0 1cm



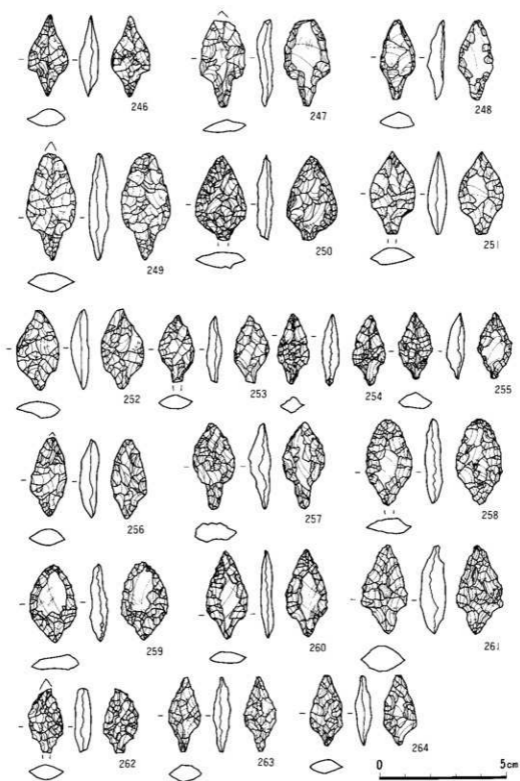
第135圖 遺構外出土石器 (石鏃—11)



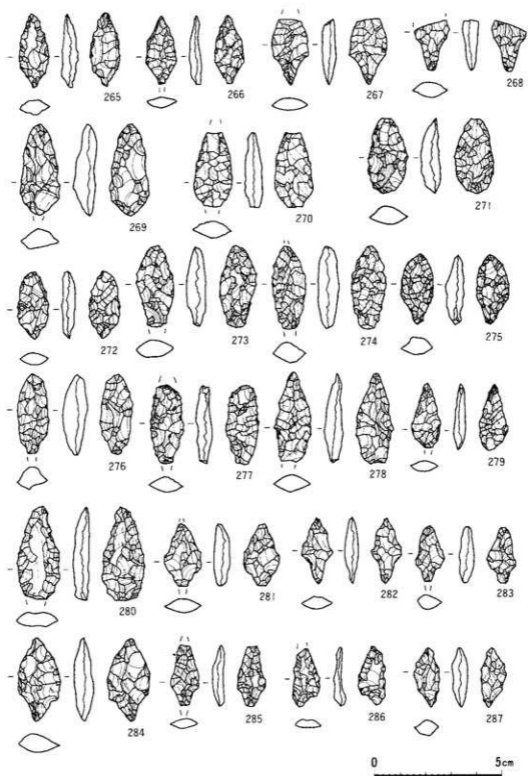
第136圖 遺構外出土石器（石鏃—12）



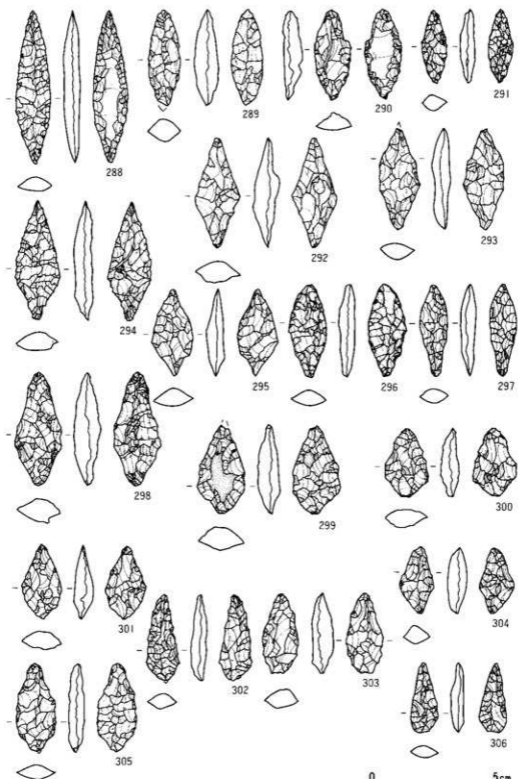
第137图 遠柵外出土石器 (石嶽一13)



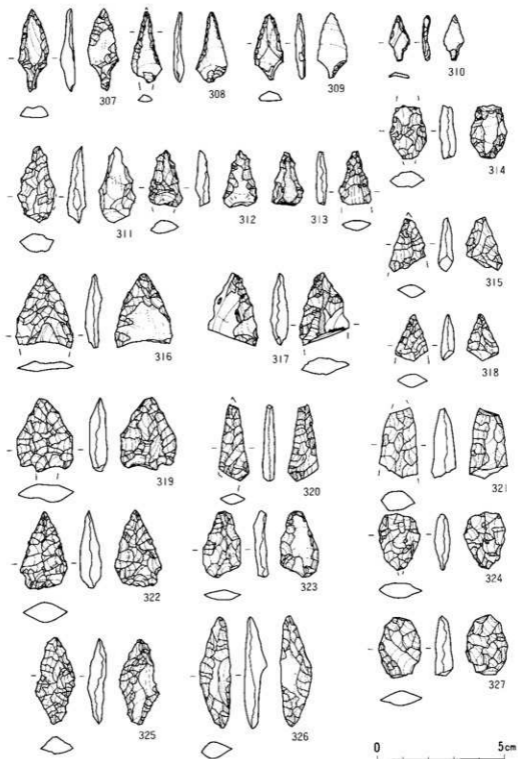
第138圖 遺構外出土石器(石鏃—14)



第139圖 遺構外出土石器（石鏃—15）



第140图 道模外出土石器 (石炭-16)



第141圖 遠構外出土石器（石器一七）

石鏡

図版番号	出土地点	層	長さ (cm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	石質	整理番号
第125図-1	H-62	II	28	18	4.5	1.8	珪質頁岩	349
-2	F-32	I	27.5	14.5	5	1.7	玉髓	102
-3	G-66	II	(30.5)	12	4	(1.6)	珪質頁岩	208
-4	G-42	I	(12.0)	9.5	3	(0.4)	玉髓	314
-5	N-80	II	57	21	4	3.7	珪質頁岩	324
-6	H-37	II	(30.0)	17	4.5	(2.3)	珪質頁岩	193
-7	H-49	III	(26.0)	(14.0)	4.5	(1.2)	珪質頁岩	257
8	H-61	I	(38.0)	(14.0)	6	(1.7)	珪質頁岩	274
-9	H-75	III	27	16	3	0.9	珪質頁岩	53
-10	H-50	II	32	14	5.5	1.9	珪質頁岩	11
11	H-50	II	(19.0)	13.5	4	(0.5)	珪質頁岩	155
-12	I-70	II	(18.0)	(15.0)	4	(0.6)	珪質頁岩	37
-13	H-68	I	16	14	3	0.4	珪質頁岩	26
-14	I-52	I	15.5	10.5	4	0.5	珪質頁岩	57
-15	H-35	I	(19.0)	(13.0)	4.5	(0.8)	珪質頁岩	336
-16	G-42	III	21	15.5	4	0.8	珪質頁岩	103
-17	H-48	II	36	15	4	1.3	珪質頁岩	72
-18	I-61	II	29	16	4	1	珪質頁岩	20
-19	G-41	II	26.5	15	5	1.4	珪質頁岩	28
-20	F-31	II	32	16	4	1.4	珪質頁岩	84
-21	I-52	II	25	15	5	1.9	珪質頁岩	21
-22	I-70	II	19.5	11.5	4	0.6	玉髓質珪質頁岩	62
-23	H-75	III	18.5	13.5	3	0.5	珪質頁岩	254
第126図-24	I-45	III	27	19	4	1.6	珪質頁岩	39
-25	D-15	I	(22.5)	16	4.5	(1.2)	玉髓質珪質頁岩	224
-26	G-68	III	2.5	14.5	4	1.2	珪質頁岩	73
-27	H-48	II	24.5	13	3.5	0.9	玉髓質珪質頁岩	74
-28	J-68	II	29.5	14.5	4	0.9	珪質頁岩	52
-29	I-50	II	31	12	4.5	1.1	珪質頁岩	36
-30	H-66	II	25.5	14	4	0.9	珪質頁岩	83
-31	H-75	II	(23.0)	12	4	(0.7)	玉髓質珪質頁岩	220
-32	F-29	III	20.5	11	3.5	0.5	玉髓質珪質頁岩	54
-33	H-53	II	20	13	2	0.4	珪質頁岩	85
-34	I-69	III	17.5	11	3.5	0.4	玉髓質珪質頁岩	325
-35	H-64	III	15.5	12	2.5	0.3	珪質頁岩	110
-36	I-70	II	(17.0)	(11.0)	2.5	(0.3)	珪質頁岩	204
-37	J-56	I	13	9.5	2.5	0.2	玉髓質珪質頁岩	8
38	G-71	III	28.5	15	3.5	0.8	珪質頁岩	17
-39	G-36	II	38.5	20.5	7	3.2	珪質頁岩	9
-40	H-46	II	(39.0)	16	4	(1.2)	珪質頁岩	166
-41	G-35	II	25.5	16	3	0.8	珪質頁岩	46
-42	H-69	III	23.5	13.5	4.5	1	珪質頁岩	38
-43	H-48	II	25	13.5	3	0.7	玉髓質珪質頁岩	333
44	I-70	II	30.5	14	3.5	0.9	珪質頁岩	69
-45	H-75	II	25	11	4	0.7	珪質頁岩	68

図版番号	出土地点	層	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	石質	整理番号
第126図-46	H-71	I	24.5	11.5	4	0.6	玉髄質珪質頁岩	67
-47	F-31	II	(16.0)	13.5	3	(0.5)	玉髄質珪質頁岩	198
-48	H-38	II	20	(10.0)	3	(0.3)	珪質頁岩	338
第127図-49	G-41	II	(36.0)	14	4	(1.1)	玉髄質珪質頁岩	234
-50	J-50	I	(34.0)	15	5.5	(2.0)	珪質頁岩	227
-51	H-59	III	(29.0)	13	5	(1.4)	珪質頁岩	359
-52	G-68	II	(23.5)	19.5	4	(1.3)	珪質頁岩	356
-53	H-53	II	28.5	12	5.5	1	玉髄質珪質頁岩	27
-54	I-51	II	(27.0)	16	6	(1.8)	珪質頁岩	222
-55	H-61	I	32	14.5	4	1.5	珪質頁岩	125
-56	I-77	II	(32.0)	17	6	(2.5)	玉髄質珪質頁岩	197
-57	F-32	III	(43.0)	17	6	(3.6)	珪質頁岩	150
-58	G-33	III	49	16.5	9	5.6	玉髄	7
-59	F-31	II	(42.5)	14.5	6.5	(2.5)	珪質頁岩	245
-60	D-18	I	53	18	10	7.5	珪質頁岩	132
-61	I-53	II	(46.0)	15	6.5	(4.5)	珪質頁岩	223
-62	I-58	II	(43.0)	17	8	(4.7)	玉髄質珪質頁岩	271
-63	G-50	II	(39.0)	17	7	(2.9)	珪質頁岩	264
-64	F-35	I	(34.0)	15.5	7	(2.4)	珪質頁岩	98
-65	F-35	I	(31.0)	14.5	6	(2.7)	珪質頁岩	178
第128図-66	G-47	II	(31.0)	14	5	(2.0)	珪質頁岩	261
-67	I-61	II	(36.0)	16	7	(3.3)	珪質頁岩	354
-68	H-49	III	(33.0)	13.5	6	(2.6)	珪質頁岩	195
-69	F-33	III	24.5	12.5	4.5	0.9	玉髄質珪質頁岩	30
-70	II-46	II	37.5	16.5	7	3.4	珪質頁岩	19
-71	H-66	II	30	12.5	7	1.6	珪質頁岩	16
-72	H-34	III	(30.5)	14.5	6.5	(2.3)	玉髄質珪質頁岩	168
-73	G-66	II	(28.0)	12.5	4	(0.9)	珪質頁岩	29
-74	H-43	II	47	16	7.5	2.8	珪質頁岩	40
-75	F-32	I	(34.5)	15.5	6.5	(3.1)	珪質頁岩	180
-76	H-34	III	37	15	4.5	2	玉髄質珪質頁岩	127
-77	Q-107	II	34.5	12	4	1.1	玉髄質珪質頁岩	328
-78	II-50	II	(39.5)	15	5.5	(2.3)	珪質頁岩	210
-79	H-57	III	(32.0)	11	5	(1.5)	珪質頁岩	148
第129図-80	II-55	II	(36.0)	(14.0)	4	(1.3)	珪質頁岩	51
-81	H-48	II	33	16.5	4.5	1.4	珪質頁岩	322
-82	I-56	II	(31.0)	18	3.5	(1.2)	珪質頁岩	141
-83	G-72	III	34	15	4.5	1.3	珪質頁岩	255
-84	I-38	II	34	14	3	1	珪質頁岩	48
-85	H-38	III	29	12	4	1	玉髄質珪質頁岩	94
-86	H-61	I	(25.5)	14	4.5	(1.5)	珪質頁岩	153
-87	G-30	II	(22.0)	15	4	(1.0)	珪質頁岩	251
-88	G-71	III	(20.0)	15	5	(1.1)	珪質頁岩	358
89	H-75	I	27.5	13	4	1	珪質頁岩	35
-90	M-82	II	(26.0)	15	4.5	(1.2)	珪質頁岩	211

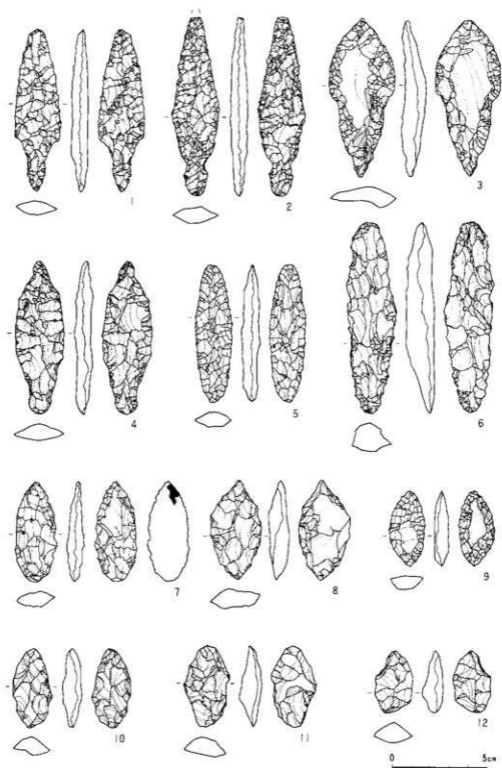
図版番号	出土地点	層	長さ (cm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	石質	整理番号	
第129図	-91	H-62	I	49	17.5	8	3.4	珧質頁岩	334
	-92	H-48	II	(38.3)	15.5	5.5	(2.1)	珧質頁岩	157
	-93	G-43	II	(32.0)	(14.0)	4	(1.3)	珧質頁岩	321
	-94	G-35	I	(26.5)	11	5	(2.4)	玉髓	296
	-95	II-47	II	(40.0)	13	6.5	(2.4)	珧質頁岩	233
	-96	H-48	II	(38.0)	17	6	(3.3)	珧質頁岩	273
	-97	F-34	III	32	11	5	1.1	珧質頁岩	116
	98	H-48	III	(25.5)	13	4.5	(1.2)	玉髓質珧質頁岩	169
	-99	G-42	I	(23.0)	12	5	(1.2)	玉髓質珧質頁岩	275
	-100	H-50	II	(27.0)	13.5	5	(1.7)	珧質頁岩	202
	-101	I-53	II	30.5	14.5	5	1.6	珧質頁岩	44
	-102	G-69	I	(27.5)	12.5	5.5	(1.1)	玉髓質珧質頁岩	217
第130図	-103	D-18	I	38	16.5	5.5	2.4	珧質頁岩	71
	-104	J-75	III	30	13.5	3.5	1	珧質頁岩	10
	-105	I-58	III	33.5	15	5	1.5	玉髓質珧質頁岩	5
	-106	I-59	III	(26.0)	12	6	(1.4)	珧質頁岩	230
	-107	F-37	II	(21.0)	14	5	(1.3)	珧質頁岩	229
	-108	I-56	II	(24.3)	15	4	(1.5)	珧質頁岩	348
	-109	H-47	II	(25.0)	14.5	4	(1.4)	珧質頁岩	225
	-110	H-45	II	26	13.5	4.5	1	玉髓質珧質頁岩	247
	-111	G-46	II	38	15	6	2.5	珧質頁岩	100
	-112	E-22	I	42.5	17	8	3.4	珧質頁岩	22
	-113	F-24	I	(34.0)	12	6.5	(2.0)	珧質頁岩	203
	-114	I-51	II	(31.5)	14	6	(2.3)	珧質頁岩	246
	-115	D-20	III	33.5	13.5	6.5	2.3	珧質頁岩	50
	-116	H-70	II	34	12.5	4	1.7	珧質頁岩	278
	-117	I-51	II	(40.0)	14.5	8	(3.1)	珧質頁岩	89
	-118	II-48	III	43	14	7	2.9	珧質頁岩	297
	-119	I-51	II	(35.0)	14	5.5	(2.6)	流紋岩	238
	-120	I-62	I	(38.5)	12	4.5	(1.5)	珧質頁岩	174
-121	II-61	I	(29.0)	12.5	5	(1.5)	珧質頁岩	138	
-122	I-70	II	(30.5)	12.5	7.5	(2.4)	珧質頁岩	242	
-123	H-49	III	(31.0)	13.5	6.5	(3.1)	珧質頁岩	285	
-124	II-59	II	(25.0)	12	6	(1.8)	珧質頁岩	300	
第131図	-125	I-76	II	24	14.5	7	1.8	玉髓質珧質頁岩	219
	-126	E-27	II	(24.0)	15	6	(2.0)	珧質頁岩	276
	-127	H-55	II	(50.0)	13	5	(3.0)	流紋岩	216
	-128	F-30	I	50	13.5	6.5	3.5	褐色細粒凝灰岩	77
	-129	F-33	I	34	14	5	1.7	玉髓	12
	-130	I-70	II	44.5	16.5	8	4.7	玉髓質珧質頁岩	4
	-131	H-41	I	(37.0)	13.5	7.5	(2.7)	玉髓質珧質頁岩	31
	-132	F-35	I	(44.0)	15	8.5	(4.5)	珧質頁岩	165
	-133	F-34	III	30.5	14	5.5	1.7	珧質頁岩	45
	-134	I-53	II	(25.0)	14	5.5	(1.7)	珧質頁岩	146
	-135	H-53	II	(30.5)	18	9	(3.3)	珧質頁岩	253

図版番号	出土地点	層	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	整理番号
第131図-136	H-58	I	42.5	15	5.5	2.6	珧質頁岩	6
-137	F-33	II	52	16.5	11	7	珧質頁岩	70
-138	H-35	III	42	15	7	3.4	珧質頁岩	269
-139	G-69	I	(33.5)	13	4.5	(1.2)	珧質頁岩	226
-140	H-60	III	42.5	13	6	2.2	珧質頁岩	326
-141	G-41	III	39.5	13	6	2.2	珧質頁岩	114
-142	F-35	I	(38.5)	14.5	7	(3.3)	珧質頁岩	232
-143	H-49	III	(42.0)	14	6	(2.7)	珧質頁岩	268
-144	I-58	II	(31.5)	13	5.5	(1.5)	珧質頁岩	167
-145	F-32	III	(44.0)	15	4	(2.8)	珧質頁岩	209
-146	I-66	II	47	15	6	2.8	珧質頁岩	287
-147	F-29	I	(32.0)	15	6.5	(2.8)	珧質頁岩	158
-148	H-49	III	(28.0)	13.5	5.5	(2.2)	珧質頁岩	286
-149	F-34	III	(39.0)	15.5	7	(3.4)	珧質頁岩	249
-150	F-32	I	(34.5)	16	8	(3.5)	玉髓質珧質頁岩	243
-151	J-74	III	(32.0)	12.5	5.5	(1.9)	玉髓質珧質頁岩	149
-152	F-28	I	32	(12.0)	5	(1.5)	玉髓質珧質頁岩	184
-153	I-51	II	(46.5)	20	7	(3.6)	珧質頁岩	170
-154	II-41	III	(31.0)	18	8	(3.2)	珧質頁岩	279
-155	H-48	III	35	16.5	6.5	2.8	珧質頁岩	113
-156	I-51	II	(34.5)	18.5	6	(3.8)	珧質頁岩	282
-157	G-45	II	32.5	15.5	7	3.4	珧質頁岩	99
-158	G-34	III	30	15	7	2.3	珧質頁岩	288
第133図-159	F-34	III	37	16	9.5	4.3	珧質頁岩	115
-160	E-21	I	33.5	14.5	5.3	2.1	紫色珧質頁岩	49
-161	F-22	III	28	18	9	3	玉髓質珧質頁岩	291
-162	H-48	III	(31.0)	17	6	(2.5)	珧質頁岩	303
-163	H-47	III	33	14.5	6	2.7	玉髓質珧質頁岩	104
-164	II-51	II	31	15	8	2.8	玉髓質珧質頁岩	32
-165	D-91	II	28	15	5.5	2.1	玉髓質珧質頁岩	315
-166	I-56	II	32	17	9	3.1	珧質頁岩	294
-167	F-32	III	31.5	18	7	(3.5)	玉髓質珧質頁岩	129
-168	F-35	I	19	14	6	1.3	珧質頁岩	118
-169	F-29	I	(33.0)	17	6.5	(2.8)	玉髓	283
-170	H-55	II	39	17	6.5	3.1	珧質頁岩	13
-171	H-45	III	(38.5)	19.5	9.5	(4.5)	珧質頁岩	181
-172	F-32	III	37	18	7	3.5	珧質頁岩	295
-173	H-52	II	(37.0)	16	8	(3.3)	珧質頁岩	272
-174	II-58	I	(31.0)	16	8	(3.5)	玉髓質珧質頁岩	172
-175	F-33	I	38.5	14	6.5	2.7	珧質頁岩	23
-176	H-48	III	26	12	5	1.3	珧質頁岩	289
-177	H-65	II	19	9	4	0.5	玉髓質珧質頁岩	66
第134図-178	G-51	II	63.5	14	7.5	7	珧質頁岩	330
-179	E-28	I	(42.5)	14	9	(4.8)	珧質頁岩	139
-180	II-60	III	(42.5)	13	6	(3.4)	珧質頁岩	163

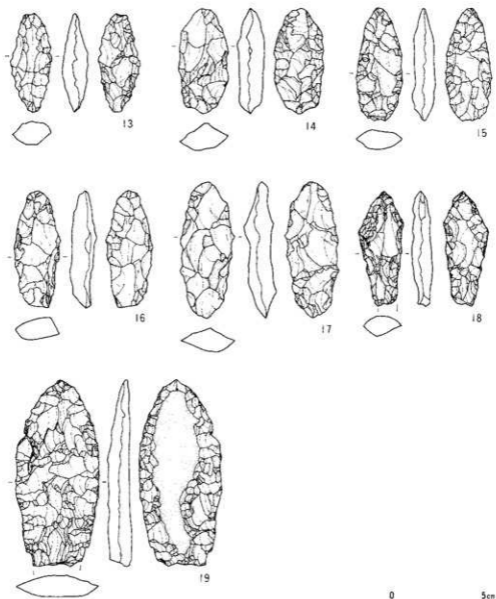
図版番号	出土地点	層	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	整理番号
第134図-181	I-45	III	25	17	8	3.3	玉髄質珪質頁岩	331
-182	H-52	I	33.5	14	6.5	2.4	玉髄質珪質頁岩	2
-183	F-33	II	(27.0)	15.5	7	(3.0)	玉髄質珪質頁岩	176
-184	H-47	II	(59.5)	18	6.5	(5.5)	珪質頁岩	228
-185	I-45	II	46.5	12	6	3	珪質頁岩	332
-186	II-37	III	42.5	11	6.5	2.6	珪質頁岩	91
-187	F-25	III	(55.5)	16	8.5	(5.7)	珪質頁岩	108
-188	G-69	II	54	13.5	10	5	珪質頁岩	15
-189	II-73	II	47	15.5	8.5	0.5	珪質頁岩	47
-190	H-58	II	(33.5)	13.5	5	(2.3)	珪質頁岩	207
-191	I-75	II	(31.5)	13.5	6	(2.0)	珪質頁岩	241
-192	F-29	I	(38.5)	12.5	8	(2.8)	珪質頁岩	151
-193	I-60	II	38.5	15	7	3.4	珪質頁岩	192
第135図-194	I-56	II	43	14	7	2.5	珪質頁岩	290
-195	H-43	I	(44.0)	15	7.5	(4.9)	珪質頁岩	345
-196	F-33	III	(47.5)	18.5	12	(8.8)	珪質頁岩	335
-197	F-32	I	(33.5)	12.5	7	(2.3)	珪質頁岩	14
-198	G-40	II	(32.0)	13.5	7	(2.9)	珪質頁岩	218
-199	F-29	I	(37.5)	16.5	6	(3.4)	珪質頁岩	177
-200	H-51	II	(38.0)	13	6	(2.3)	珪質頁岩	267
-201	F-33	III	(45.0)	13	10.5	(5.3)	渦紋岩	200
-202	I-62	III	(43.5)	13.5	7	(3.8)	珪質頁岩	173
-203	H-59	II	34.5	13.5	8	3.2	玉髄	136
-204	H-35	I	33	13	5	1.7	珪質頁岩	340
-205	E-28	I	39	14.5	7	3.3	珪質頁岩	109
-206	F-34	III	(33.0)	16	6	(2.9)	珪質頁岩	159
-207	H-58	I	(31.0)	14	6	(2.1)	珪質頁岩	61
-208	I-48	III	(29.0)	13.5	5.5	(2.0)	珪質頁岩	191
-209	I-51	II	(52.0)	17	9	(7.5)	珪質頁岩	256
-210	I-55	III	43	16.5	6.5	3.8	玉髄質珪質頁岩	105
-211	E-15	I	(33.0)	14.5	7	(2.7)	珪質頁岩	215
第136図-212	H-52	II	(42.0)	18	5	(4.4)	珪質頁岩	360
-213	H-51	II	40.5	12.5	5	2.1	珪質頁岩	34
-214	H-54	II	(50.0)	14.5	8	(5.0)	珪質頁岩	179
-215	I-61	III	(48.0)	16	8	(4.5)	珪質頁岩	280
-216	H-55	II	41.5	16	7	3.5	珪質頁岩	3
-217	II-39	III	(40.0)	14	7	(3.0)	珪質頁岩	205
-218	G-34	III	39	16	9	3.8	珪質頁岩	292
-219	I-46	III	(43.0)	14	7	(3.3)	珪質頁岩	112
-220	H-47	II	(43.0)	20.5	9.5	(6.3)	珪質頁岩	25
-221	I-54	I	(34.0)	14	6.5	(2.5)	珪質頁岩	206
-222	E-25	II	(38.0)	16	8	(3.3)	渦紋岩	298
-223	H-52	II	(34.5)	16	6	(2.9)	珪質頁岩	201
-224	G-30	III	(31.5)	13.5	5.5	(2.3)	珪岩	194
-225	H-47	II	(33.5)	14	4.5	(2.1)	珪質頁岩	156

図版番号	出土地点	層	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	整理番号
第136図-226	K-76	III	(30.0)	13	6.5	(2.2)	玉髓珪質頁岩	237
第137図-227	G-38	II	53	18	7	5.1	珪質頁岩	296
-228	H-48	III	41	15	7.5	3.6	珪質頁岩	128
-229	G-35	I	(36.0)	13	7	(2.9)	珪質頁岩	258
-230	I-57	II	32	11.5	4.5	1.3	玉髓	41
-231	E-26	I	(43.5)	15	7	(3.9)	珪質頁岩	131
-232	I-34	III	(44.5)	15	8	(3.9)	玉髓	196
-233	F-31	II	40.5	10	4.5	2.2	珪質頁岩	96
-234	G-71	III	32.5	12	5	1.3	珪質頁岩	42
-235	H-47	II	38	18	6.5	3.4	玉髓珪質頁岩	329
-236	H-65	II	43	15	6.5	3.7	玉髓珪質頁岩	1
-237	H-54	II	(32.0)	13	4.5	(1.8)	玉髓珪質頁岩	117
-238	I-55	II	31	14	6	1.9	珪質頁岩	18
-239	H-58	II	40	15	8	3.5	珪質頁岩	341
-240	H-51	II	38	13	6.5	2.4	珪質頁岩	24
-241	H-48	II	(36.0)	13	5	(1.7)	珪質頁岩	43
-242	I-22	II	(30.0)	14	5	(1.9)	珪質頁岩	260
-243	J-54	II	(39.0)	15.5	9	(4.3)	珪質頁岩	231
-244	D-25	I	34	15	7	2.8	玉髓	81
-245	H-44	III	(34.0)	16	9.5	(3.9)	玉髓	162
第138図-246	H-52	II	32.5	15.5	7	2.5	玉髓珪質頁岩	64
-247	I-54	II	(34.5)	18	6	(2.7)	珪質頁岩	239
-248	G-47	II	32	13	7	2.4	珪質頁岩	186
-249	E-30	III	(42.0)	19	7.5	(4.6)	玉髓珪質頁岩	144
-250	I-57	II	(33.0)	20	6	(3.6)	珪質頁岩	92
-251	H-53	II	(33.0)	17.5	7.5	(3.5)	珪質頁岩	161
-252	I-56	I	31.5	17	6.5	2.8	珪質頁岩	33
-253	H-48	II	27	13	7	1.9	珪質頁岩	76
-254	H-46	II	26.5	14	7	1.8	玉髓	327
-255	I-52	II	(31.0)	14	7.5	(2.8)	珪質頁岩	87
-256	H-48	III	34	17	9	3.4	玉髓	293
-257	F-29	I	(34.0)	18.5	7	(3.7)	珪質頁岩	124
-258	G-71	II	30.5	18.5	7	3.3	珪質頁岩	78
-259	H-65	II	34.5	16.5	5	2.4	珪質頁岩	60
-260	G-71	I	35	19	10	4.6	玉髓珪質頁岩	126
-261	G-31	I	(25.0)	13	6	(2.0)	珪質頁岩	143
-262	H-62	II	29.5	13	7	1.9	玉髓	122
-263	H-50	II	28	13	6.5	1.6	玉髓	82
-264	I-52	II	29	12	6	1.7	珪質頁岩	342
第139図-265	E-25	II	(27.0)	11.5	4	(1.4)	玉髓	309
-266	E-29	III	(21.0)	14.5	5	(1.8)	珪質頁岩	187
-267	G-35	II	(20.0)	(15.0)	(6.5)	(1.2)	珪質頁岩	160
-268	E-28	I	(36.0)	15	9	(4.0)	珪質頁岩	240
-269	I-53	II	(30.0)	15	7	(2.9)	珪質頁岩	188
-270	H-40	III	30	17	8	3.6	珪質頁岩	346

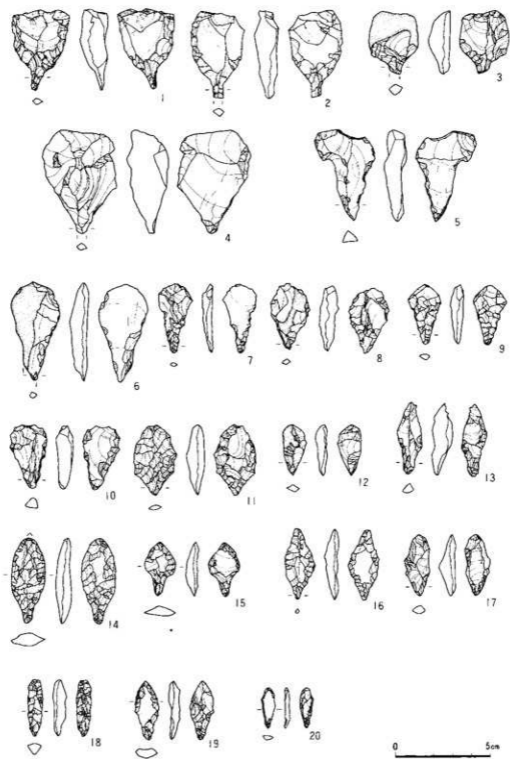
採取番号	出土地点	層	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	整理番号
第139図-271	G-40	Ⅲ	27	12	6	1.7	珪質頁岩	352
-272	F-33	I	(32.0)	15	7	(3.6)	珪質頁岩	270
-273	I-20	Ⅱ	(33.0)	13	8	(3.7)	玉髄質珪質頁岩	299
-274	H-48	Ⅱ	27.5	12.5	7	2.4	珪質頁岩	79
-275	H-53	Ⅱ	(31.5)	12.5	9.5	(3.4)	珪質頁岩	250
-276	I-55	Ⅱ	(31.0)	13	6	(2.5)	珪質頁岩	347
-277	H-53	Ⅱ	(35.5)	14.5	7	(2.7)	珪質頁岩	147
-278	I-39	Ⅱ	(25.5)	11.5	4.5	(1.2)	珪質頁岩	145
-279	F-32	I	(37.0)	17	6	(3.7)	珪質頁岩	221
-280	I-74	Ⅲ	(26.0)	14	6	(2.1)	玉髄質珪質頁岩	281
-281	G-34	Ⅲ	(24.5)	14.5	6.5	(2.2)	珪質頁岩	304
-282	F-32	Ⅱ	26	12	5	1.2	珪質頁岩	93
-283	G-68	I	(22.0)	11.5	6	(0.9)	珪質頁岩	183
-284	H-48	Ⅲ	32.5	16.5	8	3	珪質頁岩	189
-285	H-61	I	(24.0)	11.5	5	(1.1)	玉髄質珪質頁岩	244
-286	G-42	I	23.5	10	6	1.3	玉髄	213
-287	F-31	I	23	10.5	3.5	0.9	珪質頁岩	302
第140図-288	I-62	Ⅲ	61	13.5	6	4.9	珪質頁岩	323
-289	J-68	Ⅱ	(38.5)	12.5	14	(4.4)	珪質頁岩	171
-290	I-56	Ⅱ	36	15	7	2.9	珪質頁岩	350
-291	G-31	Ⅲ	29.5	10	6		珪質頁岩	75
-292	H-38	Ⅱ	43.5	18	10.5	4.7	玉髄	133
-293	H-55	Ⅱ	(40.0)	16	7.5	(3.5)	珪質頁岩	88
-294	H-45	Ⅲ	47	18	8	5	珪質頁岩	120
-295	F-29	I	34.5	16.5	7	2.7	珪質頁岩	135
-296	E-22	Ⅲ	36.5	15	6.5	3.1	珪質頁岩	90
-297	H-61	I	36	11	6.5	2.1	珪質頁岩	86
-298	H-46	Ⅱ	45	18.5	10.5	6.1	玉髄質珪質頁岩	80
-299	H-47	Ⅲ	(35.0)	19	9	(4.8)	玉髄質珪質頁岩	259
-300	I-51	Ⅱ	27	17	7.5	2.9	珪質頁岩	123
-301	K-68	Ⅲ	29	16	8	2.9	珪質頁岩	263
-302	E-21	I	(34.0)	13	6	(2.3)	玉髄質珪質頁岩	199
-303	G-33	Ⅲ	32	14.5	8	3.6	珪質頁岩	343
-304	F-33	Ⅲ	26	13.5	7.5	2.1	珪質頁岩	248
-305	H-55	Ⅱ	(35.0)	15.5	6	(3.0)	珪質頁岩	214
-306	F-24	Ⅲ	27.5	10.5	5	1.2	玉髄質珪質頁岩	65
第141図-307	H-48	Ⅲ	33	11	5	1.4	珪質頁岩	142
-308	H-34	Ⅲ	(28.0)	12	4	(0.9)	珪質頁岩	305
-309	I-39	Ⅱ	26	11	3.5	0.9	珪質頁岩	63
-310	I-51	Ⅱ	18	8	3.5	0.2	玉髄質珪質頁岩	55
-311	H-75	I	(30.0)	(14.0)	7	(2.6)	珪質頁岩	97
-312	H-56	Ⅲ	(23.0)	13	6	(1.3)	珪質頁岩	285
-313	I-61	Ⅱ	(21.0)	(13.0)	4	(1.1)	珪質頁岩	344
-314	D-17	I	(21.0)	14	6	(2.0)	珪質頁岩	351
-315	H-49	Ⅲ	(21.0)	(14.5)	(6.0)	(1.3)	玉髄質珪質頁岩	152



第142图 遺構外出土石器(石槍一)



第143図 遺構外出土石器（石槍—2）



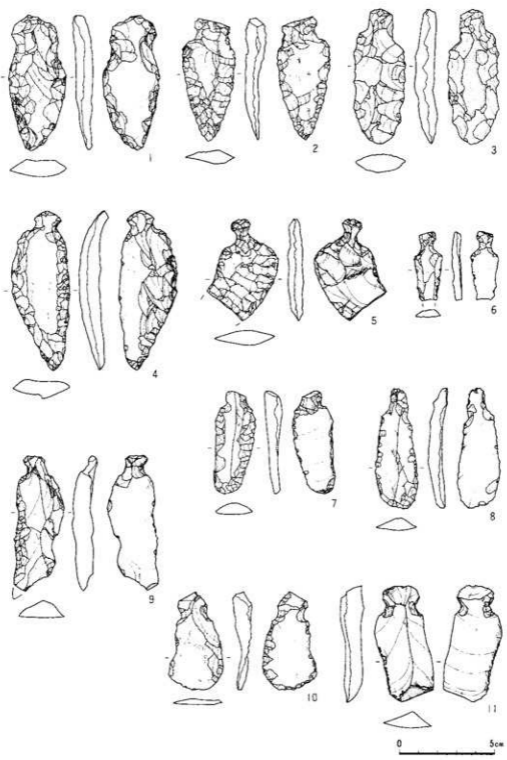
第144回 遺構外出土石器（石錐）

石楯

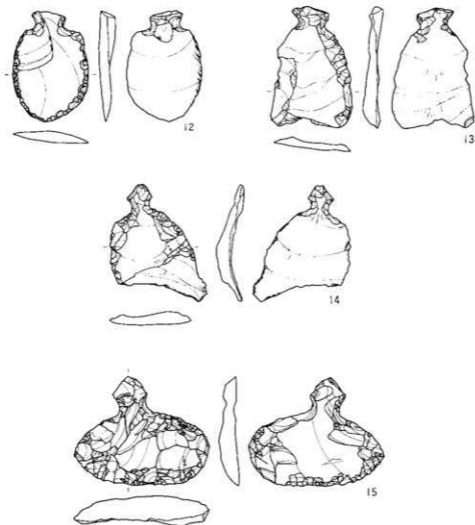
図版番号	出土地点	層	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	整理番号
第142図-1	H-46	II	(87.0)	24	8	(15.9)	珧質頁岩	515
-2	H-46	II	(96.0)	26	10	(17.1)	珧質頁岩	517
-3	I-49	II	83.5	34	11	23.3	玉髄質珧質頁岩	508
-4	H-46	II	81	26	9	17.6	珧質頁岩	516
-5	I-49	II	73	19.5	9	13.3	珧質頁岩	504
-6	H-48	II	101	26.5	15.5	35.1	珧質頁岩	502
-7	H-58	II	53	22.5	9	8.5	珧質頁岩	501
-8	H-48	III	53	27	10	13	珧質頁岩	503
-9	E-29	II	30	19	7.5	5.9	珧質頁岩	505
-10	F-32	III	41.5	20.5	10.5	6.9	珧質頁岩	511
-11	E-29	III	43	24	12	9.3	珧質頁岩	512
-12	H-38	II	32.5	20	11	6	珧質頁岩	510
第143図-13	F-33	III	53	22.5	19	11.9	珧質頁岩	506
-14	H-45	II	56	26.5	14.5	21.2	珧質頁岩	513
-15	H-48	II	60	24.5	12	16.8	珧質頁岩	520
-16	E-30	I	62	24	14	19.9	珧質頁岩	521
-17	I-45	III	72	29	17	25.6	珧質頁岩	522
-18	H-46	II	(61.0)	23	10.5	(14.0)	珧質頁岩	507
-19	K-76	III	(99.0)	43	12	(54.8)	頁岩	509

石錐

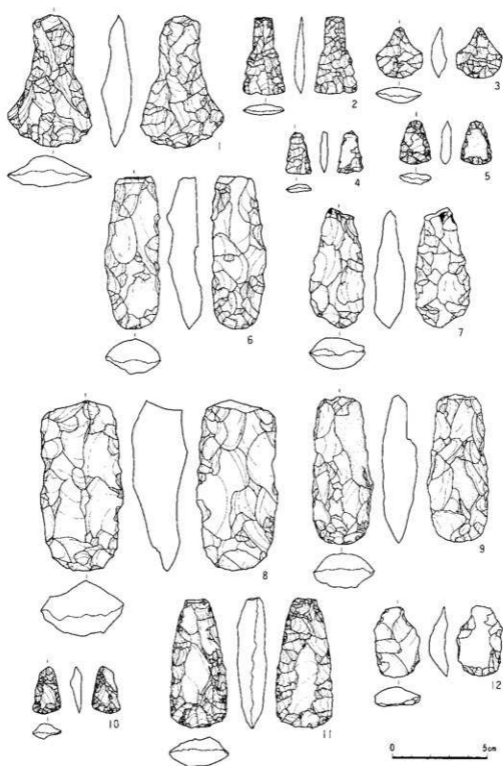
図版番号	出土地点	層	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	整理番号
第144図-1	I-71	II	43	30	14	16.9	玉髄質珧質頁岩	708
-2	H-48	II	(46.5)	28.5	13	(12.4)	チャート	707
-3	H-73	II	(34.0)	26	11.5	(9.0)	珧質頁岩	714
-4	H-54	I	(54.5)	38.5	22	(28.3)	珧質頁岩	712
-5	I-56	I	48.5	32	11.5	8.3	珧質頁岩	709
-6	H-42	III	(52.0)	26	10	(9.4)	凝灰岩	706
-7	F-32	I	36.5	18	5	2.2	珧質頁岩	701
-8	F-32	III	35	20	8	5.1	珧質頁岩	704
-9	H-43	II	31.5	17	6.5	2.9	珧質頁岩	705
-10	I-43	I	33.5	19	9	5.4	珧質頁岩	710
-11	M-81	II	37	22.5	9.5	7	珧質頁岩	716
-12	H-37	I	26.5	13.5	7	1.7	珧質頁岩	711
-13	F-33	III	38	13.5	11	3.7	珧質頁岩	713
-14	H-65	II	(45.5)	18	8.5	(5.8)	珧質頁岩	719
-15	D-21	I	28.5	16.5	7	2.1	凝灰岩	702
-16	H-52	I	37	16	8	3.2	珧質頁岩	703
-17	H-57	III	32	13	9	2.6	珧質頁岩	715
-18	G-36	II	29.5	8	6.5	1.6	珧質頁岩	720
-19	H-46	II	31	31	6	1.6	珧質頁岩	718
-20	I-39	II	21.5	7.5	3	0.3	玉髄質珧質頁岩	721



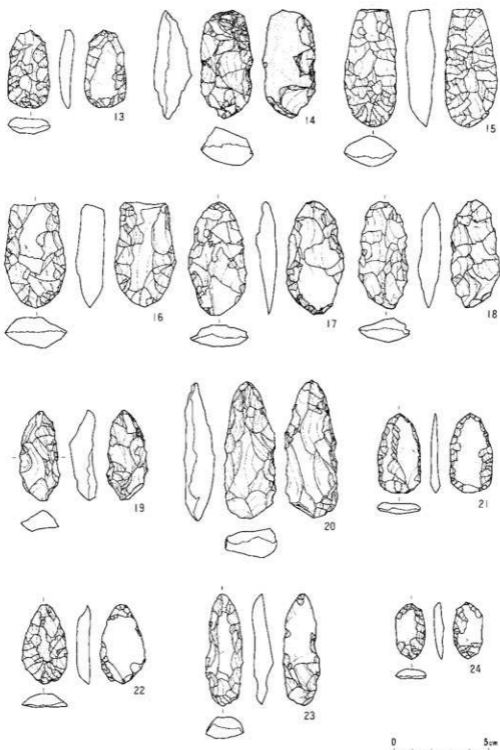
第145図 遺構外出土石器（石匙—1）



第146图 遺構外出土石器（石匙-2）



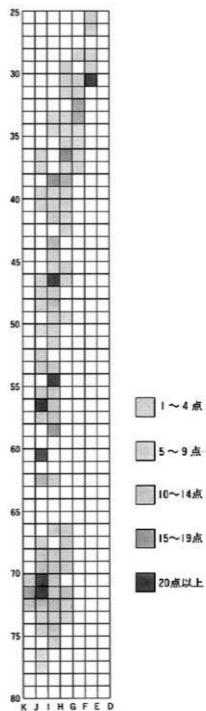
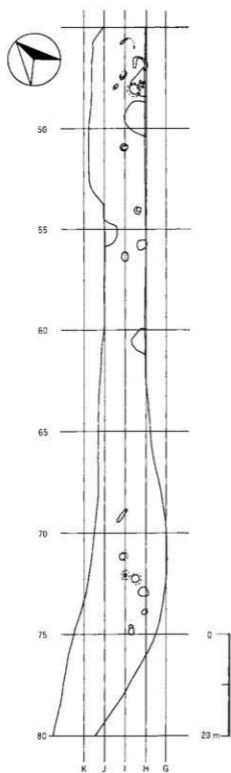
第147图 遼構外出土石器（筲状石器—1）



第148回 遺構外出土石器（筥状石器-2）



第149回 遺構外出土石器（楔形石器）



第150図 両極技法による剝片の出土分布

石匙

図版番号	出土地点	層	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	整理番号
第145図-1	H-48	III	72	30	9	20.1	珧質頁岩	804
-2	I-31	II	65.5	28	12	13.5	珧質頁岩	805
-3	H-59	II	72	27	12	20.3	流紋岩	808
-4	I-37	III	84.5	30	10	25.2	珧質頁岩	801
-5	I-76	II	54	38	8	12.5	珧質頁岩	816
-6	F-32	I	(36.0)	15	5	(2.2)	珧質頁岩	811
-7	F-37	I	54.5	21	8.5	8.1	珧質頁岩	809
-8	I-47	III	63.5	22.5	10.5	9.4	珧質頁岩	812
-9	I-40	III	(71.5)	(23.0)	9	(16.0)	玉髓埋珧頁岩	803
-10	F-33	I	52	29	10.5	7.6	珧質頁岩	802
-11	F-33	II	62	31	13	15.8	珧質頁岩	814
第146図-12	G-72	I	59.5	40	9	15.8	珧質頁岩	815
-13	H-52	III	64.5	43.5	10	15.8	玉髓埋珧頁岩	807
-14	G-34	III	62	45.5	65.5	15.6	玉髓	806
-15	M-81	II	58	72	11	40.2	珧質頁岩	813

石筭

図版番号	出土地点	層	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	整理番号
第147図-1	H-54	I	70.5	43.5	16.5	36.7	玉髓埋珧頁岩	801
-2	G-71	II	41.5	22	5.5	4.7	珧質頁岩	613
-3	G-41	II	27	24	8	3.9	玉髓埋珧頁岩	614
-4	J-69	III	23	14	4	1.4	珧質頁岩	616
-5	J-71	II	23	16.5	6	2.2	珧質頁岩	625
-6	I-61	III	81	28.5	14	41.5	珧質頁岩	609
-7	H-53	II	64	29	16.5	28.9	珧質頁岩	619
-8	H-50	II	90.5	43	29.5	97.1	珧質頁岩	612
-9	G-39	II	78	32	18	47.9	珧質頁岩	620
-10	I-56	II	25.5	15.5	8	2.3	珧質頁岩	626
-11	I-31	II	69	31	15.5	34.6	珧質頁岩	623
-12	F-31	II	37	24	10	8	珧質頁岩	617
第148図-13	K-26	III	41.5	22	9	9	玉髓	618
-14	G-44	II	59	28.5	19	28.4	珧質頁岩	622
-15	H-48	II	(63.0)	27.5	16	(28.7)	珧質頁岩	608
-16	I-48	III	(54.5)	32	16	(29.9)	玉髓埋珧頁岩	610
-17	H-47	III	60	31	11.5	17.9	珧質頁岩	603
-18	F-33	III	57	26	13	13.5	珧質頁岩	607
-19	G-36	II	47.5	21	14.5	12.1	珧質頁岩	611
-20	H-48	III	73	28	11.5	30.8	珧質頁岩	621
-21	D-21	I	42	22.5	6.5	5.5	珧質頁岩	602
-22	H-52	II	42	24	7	8	珧質頁岩	604
-23	H-53	III	59.5	20	11	13.1	流紋岩	606
-24	G-41	I	30	15.5	5.5	2.8	玉髓	615

両極

図版番号	出土地点	層	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	整理番号
第149図-1	H-74	III	25.3	17.5	10.5	4.4	珪質頁岩	406
-2	H-62	II	33.3	25	7.5	8	珪質頁岩	417
-3	F-28	II	38.5	23.5	9.5	6.4	珪質頁岩	415
-4	G-69	III	25	18.5	11	6.6	珪質頁岩	411
-5	H-39	I	26	20	9	4.2	珪質頁岩	412
-6	G-30	I	34	26	13	11.6	珪質頁岩	414
-7	H-39	I	21	22	13	4.4	珪質頁岩	418
-8	H-34	III	30	33	11	12.6	珪質頁岩	405
-9	H-76	III	3	2	1	5.6	珪質頁岩	408
-10	I-71	III	20.5	20.5	10.5	5.6	珪質頁岩	409
-11	H-68	III	32	20.5	11	7.7	珪質頁岩	410
-12	G-69	II	44	23.5	14	15.5	珪質頁岩	416
-13	H-38	II	48	31	14	16.7	珪質頁岩	419
-14	H-75	II	48	14	11	6.2	珪質頁岩	407
	H-35	I	39	25	7	4.1	珪質頁岩	413

異形石器 (第151図)

本類としたものは5点である。形状の異質なものを一括した。

1は独站石様の形状をする小型の石器で、両端部には石鎌に類似した調整を行っている。また、両側縁には左右対称に2箇所づつの浅い抉りを出している。石鎌の可能性も考えられたが、本類とした。鉄石英を素材としている。

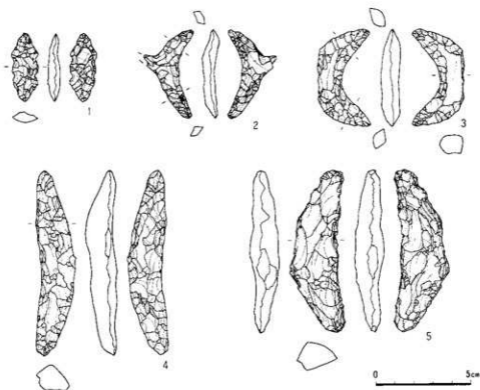
2は弧状を呈する器体で、背の部分に小突起を出している。突起部分は根元で折損している。側縁は、概ね鋭角に調整されており、刃部形状からスクレーパーの類とも考えられる。

3は弧状の器体であり、内湾部には鋭利な刃部調整がなされている。両端部は石鎌等と同様な調整がなされている。背の部分は直線的で平坦に加工され、細かな調整は行われていない。

4・5は緩やかな弧状を呈する器体で、ともに肉厚である。4の先端は石槍ともとれる調整がなされており、全体に丁寧な作りである。背の部分の一部を平坦に剥離している。5は器面調整がやや粗雑である。側縁のほぼ左右対称な位置に、おのおの平坦な面を出している。4・5にみられる側縁の剥離は、ナイフ的用法における把握のための器体調整の可能性も考えられる。

異形石器

図版番号	出土地点	層	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	整理番号
第151図-1	G-41	II	37	14	6.5	3.1	鉄石英	902
-2	F-31	III	47.5	(19.6)	7	(3.4)	褐色細粒凝灰岩	903
-3	I-50	II	52	16	10	10.5	珪質頁岩	901
-4	F-35	II	98	18.5	14	26.4	珪質頁岩	514
3	F-35	I	86	26	15	30.5	珪質頁岩	904



第151図 遺構外出土石器（異形石器）

不定形石器（第152～162図）

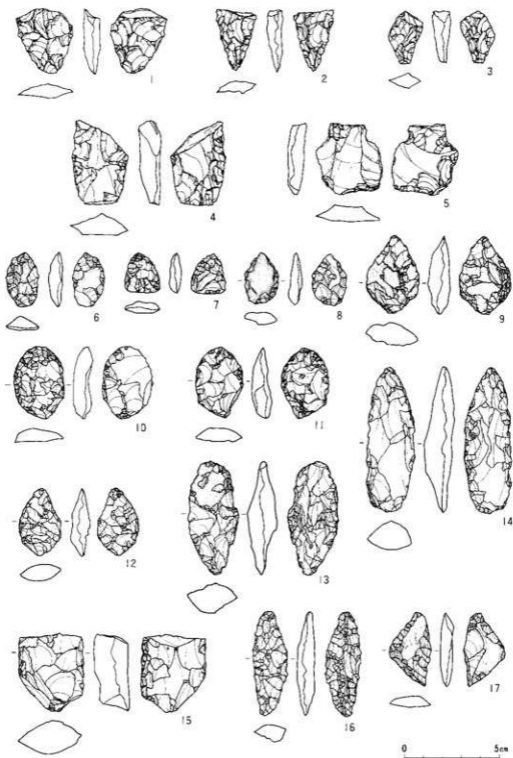
石器の中で両極剥片について出土量の多いもので、約500点出土している。これらは、器面全体を加工しているものと、剥片の縁辺部に刃部を作出しているだけのものとに大別される。また、剥片をそのまま使用したものが認められ、この種が圧倒的に多い。

出土量が多いことから、特徴のあるものを選別して図化した。

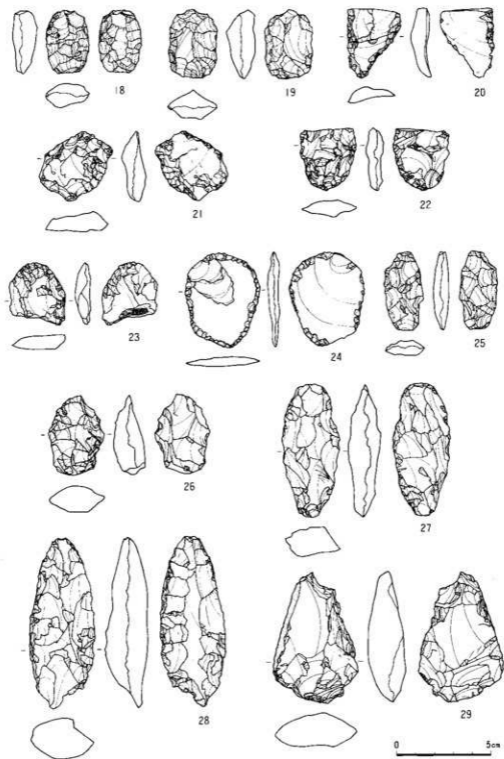
I類 器面全体を調整しているものを本類とした。多くはスクレーパーの類である。これらは、刃部の位置及び調整から9種に細分した。

a種：定形石器の欠損品と考えられるもの。b種：主に横型剥片を素材としたもの。c種：片側縁に主要な刃部をもつもの。d種：両側縁に刃部をもつもの。e種：端部に刃部をもつもの。f種：周縁全体を刃部とするもの。g種：器体の整形途中と考えられるもの。h種：g種の欠損と考えられるもの。i種：刃部調整に至っていないもの。

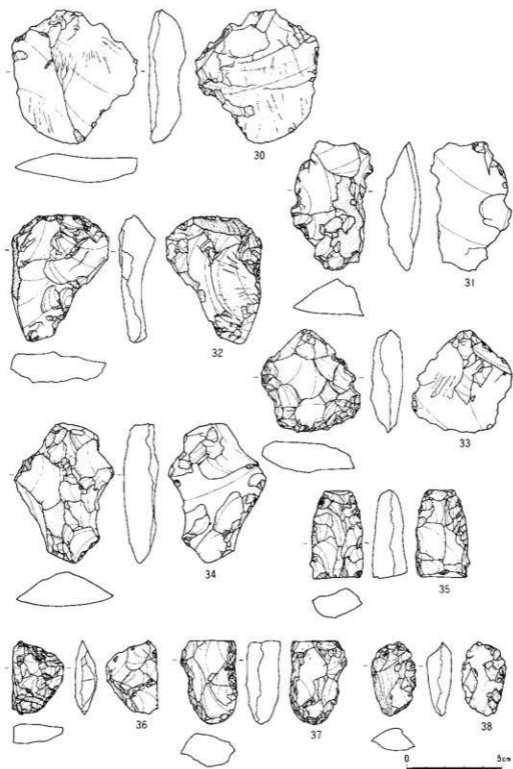
a種とした1・2・5は石匙、3は石錐、4は石筥の欠損品の可能性がある。b種の6～8は、小型の横型剥片を素材としており、6・8は表皮を残している。c種の9～17は、主に片



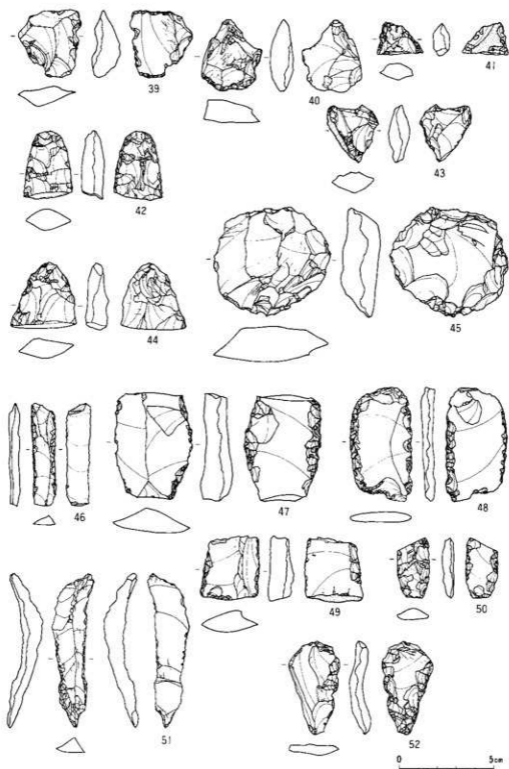
第152図 遺構外出土石器(不定形石器-1)



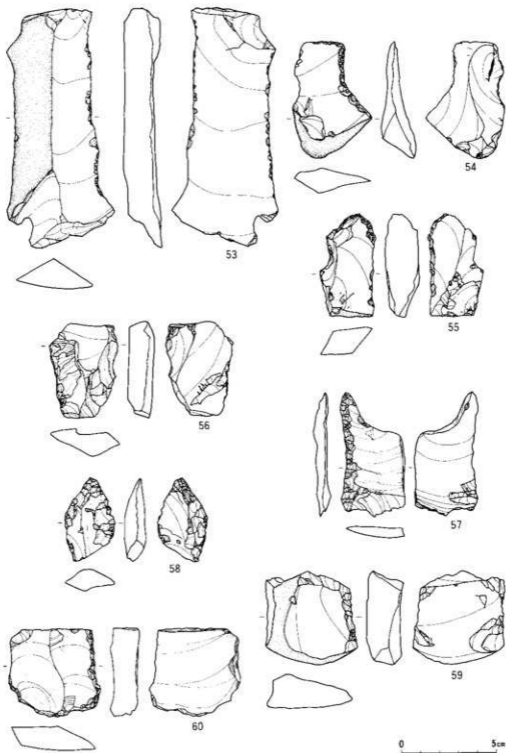
第153圖 遼構外出土石器（不定形石器—2）



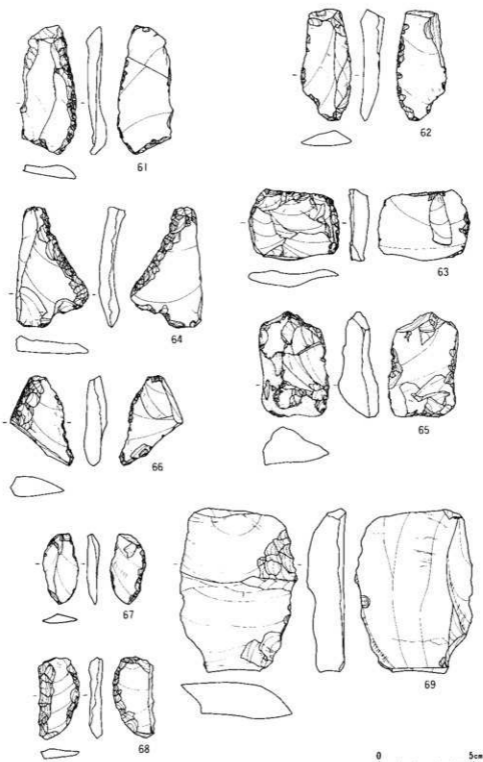
第154圖 遺構外出土石器（不定形石器—3）



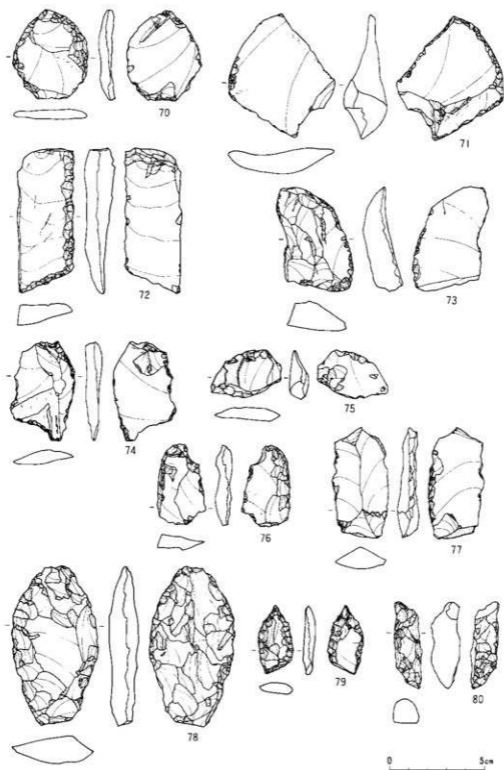
第155圖 遠構外出土石器（不定形石器—4）



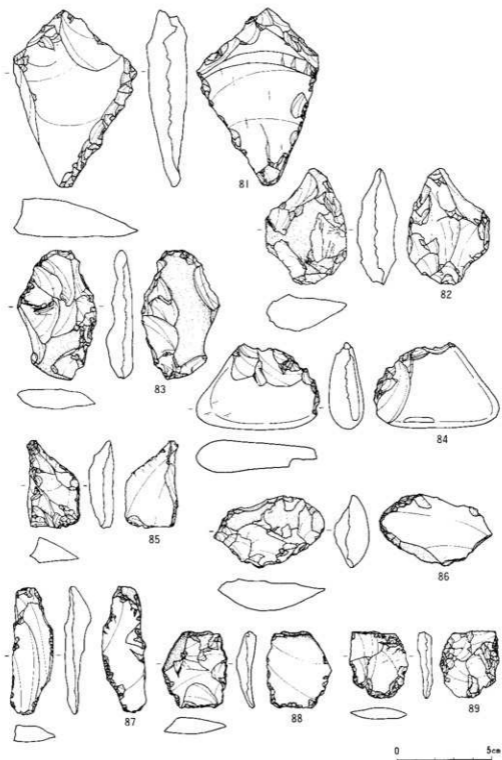
第156圖 遺構外出土石器（不定形石器—5）



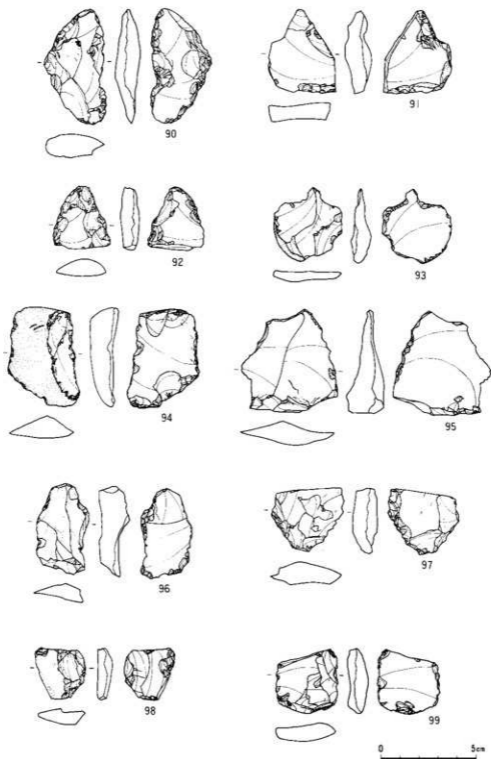
第157圖 遺構外出土石器（不定形石器—6）



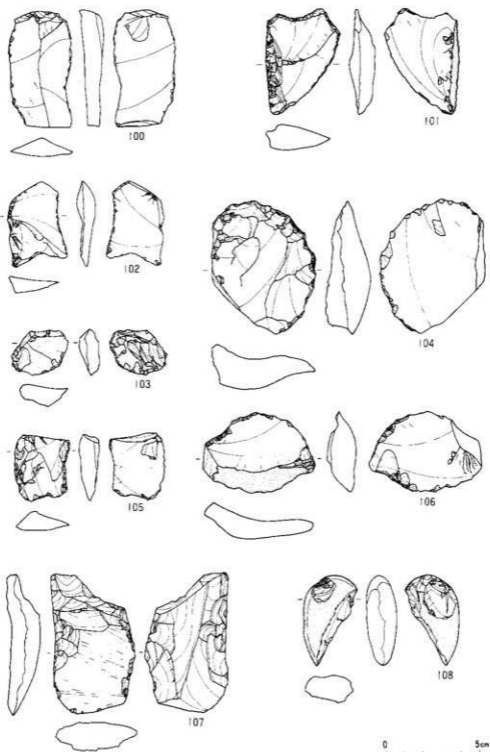
第158圖 遺構外出土石器（不定形石器一）



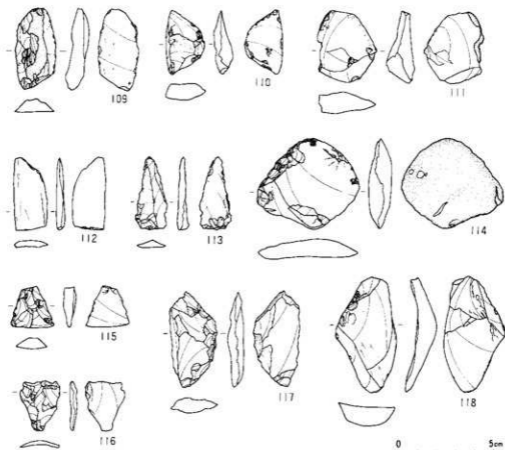
第159回 遺構外出土石器（不定形石器-8）



第160回 遺構外出土石器（不定形石器-9）



第161圖 遺構外出土石器（不定形石器—10）



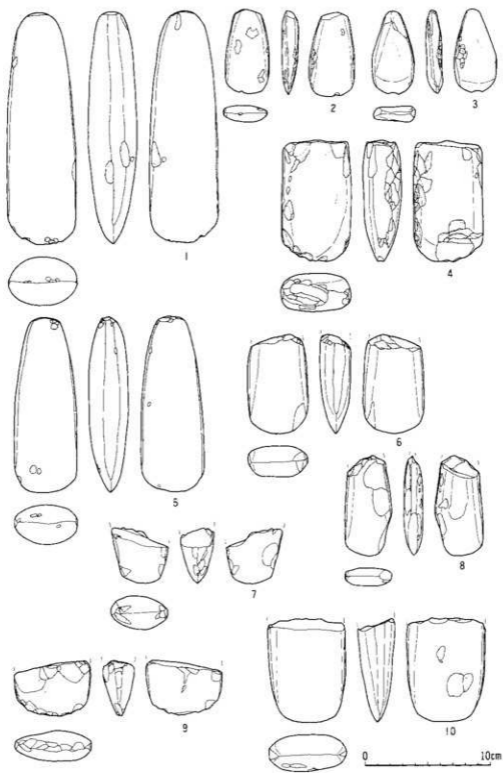
第162圖 遺構外出土石器（不定形石器-11）

不定形石器

図版番号	出土地点	層	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	整理番号	分類	
第152図	1	H-48	III (34.5)	28.5	8	8.8	珧質頁岩	1164	I a	
	2	E-24	II (32.0)	(21.5)	(8.5)	(4.4)	珧質頁岩	1031	I a	
	3	F-35	I	23	15	10	(2.4)	珧質頁岩	1075	I a
	4	H-50	II (45.0)	(29.0)	(13.0)	(14.6)	珧質頁岩	1023	I a	
	5	H-66	II (38.5)	(35.0)	(9.0)	(6.6)	珧質頁岩	1155	I a	
	6	H-35	III	29	17	7.5	3.3	玉髓質珧質頁岩	1276	I b
	7	H-41	III	21	18	6	3.6	珧質頁岩	1275	I b
	8	H-54	II	26.5	18	7	11	玉髓質珧質頁岩	1277	I b
	9	H-68	III	42	27	12	71.1	珧質頁岩	1246	I c
	10	G-73	II	38	26.5	9	25.3	珧質頁岩	1215	I c
	11	F-36	I	37.5	25.5	10	22.8	珧質頁岩	1194	I c
	12	G-68	II	21.5	35.5	10	3.2	珧質頁岩	1303	I c
	13	D-20	II	60	26.5	16	6.7	珧質頁岩	1302	I c
	14	H-84	II	77.5	25	15	37.3	珧質頁岩	1295	I c
	15	I-36	III	41	33.5	1.8	14.3	珧質頁岩	1207	I c
	16	II-63	II	55.5	19	9	2.3	玉髓質珧質頁岩	1285	I d
	17	I-51	II	39	22	7	2.4	珧質頁岩	1274	I d
第153図	18	I-53	III	33.5	23	13	7	珧質頁岩	1278	I d
	19	I-66	II	37	26	15.5	17.9	珧質頁岩	1280	I d
	20	H-58	II	37	28	9.5	16	珧質頁岩	1210	I d
	21	H-66	II	37	38.5	10.5	6.3	珧質頁岩	1225	I d
	22	F-32	III	33	30	9	12.2	珧質頁岩	1197	I d
	23	D-19	III	33	29.5	8	16.7	玉髓質珧質頁岩	1235	I e
	24	H-74	III	50	40	5	7.7	珧質頁岩	1209	I f
	25	I-40	III	41.5	20.5	8.5	12.5	玉髓質珧質頁岩	1279	I g
	26	F-35	I	42	29	16	8.6	珧質頁岩	1229	I g
	27	G-34	III	69.5	31	17	4.2	珧質頁岩	1300	I g
	28	H-49	III	90	34.5	23	31.6	珧質頁岩	1298	I g
	29	-		69	45	19	16.7	珧質頁岩	1321	I g
第154図	30	G-38	III	66.5	65.5	19	21.7	珧質頁岩	1264	I g
	31	H-46	III	68	37	21	(58.3)	珧質頁岩	1251	I g
	32	I-50	II	73	51	19	31	珧質頁岩	1261	I g
	33	I-67	II	55	48	16	44.5	珧質頁岩	1257	I g
	34	I-51	II (74.0)	51	17	62.1	珧質頁岩	1252	I g	
	35	F-35	I	47	28	18	3.1	珧質頁岩	1216	I h
	36	H-58	II	38.5	27	11.5	11.5	珧質頁岩	1190	I h
	37	F-33	II	44.5	30.5	18.5	37.6	玉髓質珧質頁岩	1240	I h
	38	I-56	II	25	15	8	27.7	珧質頁岩	1237	I h
	第155図	39	G-29	I	36	33	1.5	11.9	珧質頁岩	1222
40		I-54	III	38	32	12	7.7	珧質頁岩	1213	I i
41		H-43	I	17	24.5	9	13.9	珧質頁岩	1224	I i
42		F-33	II	36.5	26	12	11.8	珧質頁岩	1314	I i
43		H-38	I	40	27.5	11	7.6	珧質頁岩	1196	I i
44		G-41	III	35	35	11	8.5	珧質頁岩	1315	I i
45		D-21	II	63.5	56	19.5	(47.1)	珧質頁岩	1253	I i

図版番号	出土地点	層	長さ (mm)	幅 (mm)	高さ (mm)	重さ (g)	石質	整理番号	分類		
第155図	-46	H-66	II	54.5	13.5	6	19.9	珧質頁岩	1267	II a	
	-47	K-76	III	57	41	17	57.7	珧質頁岩	1296	II a	
	-48	G-39	I	60.5	32.5	6.5	9.1	珧質頁岩	1234	II a	
	-49	I-70	III	34	31	13.5	9.9	珧質頁岩	1208	II a	
	-50	H-46	I	31.5	17	6	16.9	珧質頁岩	1228	II a	
	-51	I-71	II	81	18	12	10	珧質頁岩	1108	II a	
-52	E-28	I	50	27.5	8	3.3	珧質頁岩	1227	II a		
第156図	-53	G-42	I	180	56.5	20	37.1	珧質頁岩	1268	II a	
	-54	I-55	II	62.5	41	17	7.3	珧質頁岩	1265	II b	
	-55	G-38	I	54.5	28.5	18	6.2	珧質頁岩	1195	II b	
	-56	H-74	II	50	35.5	14.5	6.9	珧質頁岩	1243	II b	
	-57	G-68	II	66	33.5	9.5	5.8	珧質頁岩	1270	II b	
	-58	I-70	III	44.5	26	11	9.7	珧質頁岩	1219	II b	
	-59	H-47	III	(50.0)	(47.0)	(18.0)	(110.2)	珧質頁岩	1254	II b	
	-60	H-43	III	47	48	15.5	108.7	珧質頁岩	1272	II b	
	-61	I-74	II	69	29.5	8	12.4	珧質頁岩	1232	II b	
第157図	-62	F-35	I	39.5	27	12.5	20.7	珧質頁岩	1211	II b	
	-63	I-76	III	38	48.5	8.5	18.9	珧質頁岩	1192	II c	
	-64	H-43	I	64	38	9	7.5	珧質頁岩	1201	II c	
	-65	H-74	II	56.5	37	21	6.5	珧質頁岩	1241	II c	
	-66	I-60	III	48	28.5	10.5	14	珧質頁岩	1198	II c	
	-67	H-38	II	37.5	19	6	14.1	珧質頁岩	1217	II c	
	-68	G-49	II	43	21.5	7.5	37	珧質頁岩	1271	II c	
	-69	E-14	I	87.5	62	20.5	5	珧質頁岩	1273	II c	
	第158図	-70	H-46	II	48	40	7	13.3	珧質頁岩	1199	II d
		-71	H-62	II	66	56.5	21.5	94.1	珧質頁岩	1248	II d
-72		I-71	II	76.5	30	16	13.7	珧質頁岩	1269	II e	
-73		-	-	55.5	39.5	14	15.5	珧質頁岩	1319	II e	
-74		I-47	III	53	33.5	8.5	14.4	珧質頁岩	1233	II e	
-75		I-32	II	25	37	10	3	珧質頁岩	1244	II f	
-76		H-62	II	43	25	9	10.5	珧質頁岩	1221	II a	
-77		I-39	III	58	29	12	27.2	珧質頁岩	1294	II b	
-78		H-55	II	85	45	15.5	58.7	珧質頁岩	1297	II i	
-79		H-60	II	36	18	6.5	17.3	珧質頁岩	1301	II i	
-80		E-28	II	45.5	13.5	14	23.4	珧質頁岩	1203	II j	
第159図		-81	I-51	II	94.5	65.5	21	54.3	珧質頁岩	1249	III
		-82	F-11	I	60	43	20	27	珧質頁岩	1259	III
	-83	G-36	III	68.5	42	14	123.7	珧質頁岩	1262	IV	
	84	H-43	III	45.5	66	18.5	47.4	珧質頁岩	1250	IV	
	-85	E-30	I	46	28	12.5	18	珧質頁岩	1200	IV	
	-86	E-24	II	38	59.5	18.5	30.5	玉髓質珧質頁岩	1299	IV	
	-87	I-60	III	67.5	23	15	16.4	珧質頁岩	1231	IV	
	-88	H-74	II	40.5	35	8.5	3	珧質頁岩	1223	IV	
	-89	I-68	II	35	31	7.5	16.7	珧質頁岩	1266	IV	
第160図	-90	I-70	II	61	31	12.5	8.6	珧質頁岩	1193	IV	

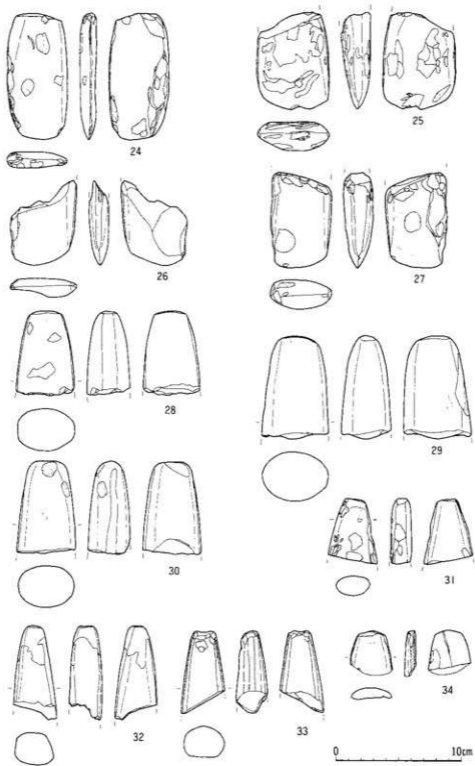
採取番号	出土地点	層	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	石質	整理番号	分類
第160図-91	G-69	II	44.5	36	14	10.4	珧質頁岩	1236	IV
-92	E-28	I	33	30	10	1.3	珧質頁岩	1316	IV
-93	I-69	III	39.5	36	20.5	15.2	珧質頁岩	1230	IV
-94	F-33	II	52.5	37.5	14	19.2	珧質頁岩	1204	V a
-95	H-66	II	61	53	16	46.3	珧質頁岩	1260	V a
-96	I-54	I	48	27	14.5	10.3	珧質頁岩	1218	V a
-97	-	-	34.5	38	13	53.5	珧質頁岩	1320	V a
-98	F-30	III	27	26	8	24.7	珧質頁岩	1206	V a
-99	E-26	I	34	33	10	16	珧質頁岩	1191	V a
第161図-100	I-56	II	62	33	12	6.1	珧質頁岩	1205	V b
-101	G-68	II	56	40	13.5	14.3	珧質頁岩	1212	V b
-102	J-75	II	45	30.5	10	11.6	珧質頁岩	1202	V b
-103	H-74	II	24	29.5	11	23.8	珧質頁岩	1242	V b
-104	H-46	III	71	56	24	38	珧質頁岩	1247	V b
-105	I-60	III	35	29	10.5	7.8	珧質頁岩	1220	V b
-106	I-56	II	42.5	60	14.5	27.1	珧質頁岩	1239	V b
-107	F-33	II	74.5	45	18	2.2	細粒凝	1291	V b
-108	-	-	47.5	29	16	15.3	珧質頁岩	1323	V b
第162図-109	H-74	III	44	17	9.5	9.8	珧質頁岩	1214	VI
-110	E-28	I	29	20	9.5	8.7	珧質頁岩	1226	VI
-111	-	-	(39.0)	(31.5)	(13.0)	66.1	珧質頁岩	1287	VI
112	H-46	II	38.5	19.5	45	11.5	細粒凝	1245	VI
-113	H-61	I	38.5	17	6.5	1.6	珧質頁岩	1286	VI
-114	F-33	II	48	54	12	26.5	珧質頁岩	1238	VI
-115	G-72	III	22	22.5	6	29.6	珧質頁岩	1318	VI
-116	G-41	II	26.5	21	3.5	2.2	玉髓質珧質頁岩	1317	VI
-117	I-39	III	51	25	9	10	チャート	1313	VI
-118	-	-	61	32	11.5	19.9	珧質頁岩	1322	VI



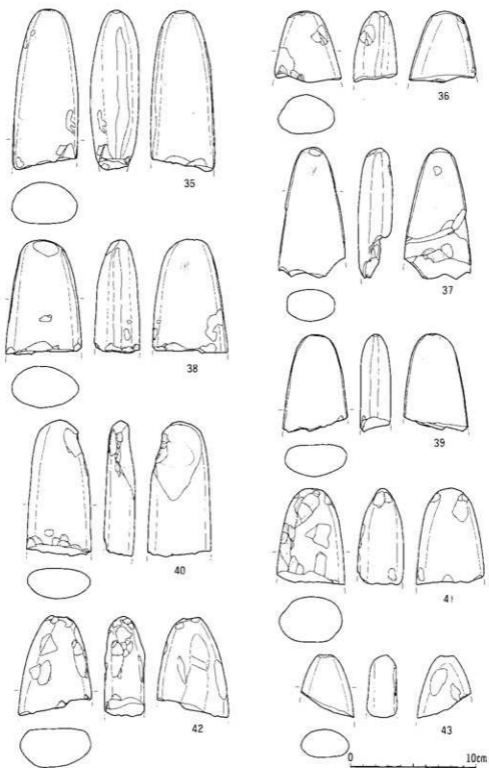
第163图 遠構外出土石器(石斧-1)



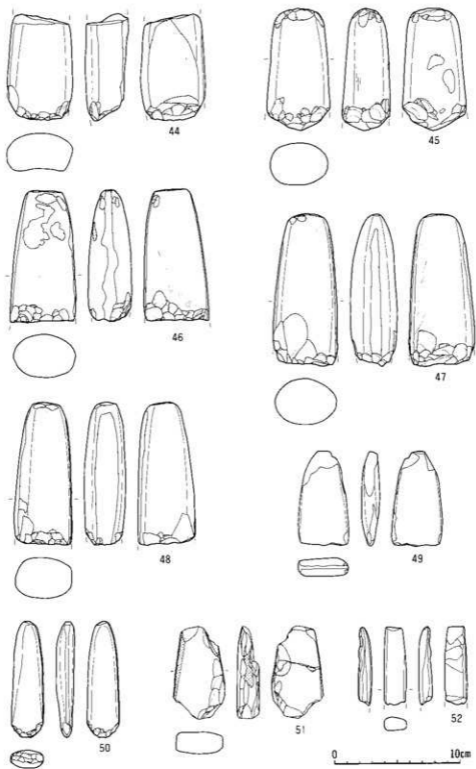
第164图 遼構外出土石器(石斧-2)



第165圖 遺構外出土石器（石斧—3）



第166圖 遼構外出土石器(石斧-4)



第167图 遼構外出土石器(石斧—5)

石斧

図版番号	出土地点	層	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	整理番号
第14図-1	H-67	Ⅲ	186	55	39	633	閃緑岩	2001
-2	H-66	Ⅱ	64.5	33.5	11	53.4	緑色粗粒凝灰岩	2064
-3	D-15	Ⅱ	67.5	33.5	12.5	24.7	凝灰岩	2005
-4	H-35	Ⅲ	(97.0)	(56.0)	(30.0)	(305.1)	輝緑岩凝灰岩	2016
-5	H-67	Ⅲ	140	50	31.5	360.2	閃緑岩	2002
-6	H-50	Ⅱ	(79.5)	48.5	25.5	(156.5)	安山岩	2027
-7	F-33	Ⅱ	44.0	45.5	27.0	52.9	輝緑岩	2052
-8	H-57	Ⅲ	(80.0)	(37.5)	14.5	(76.7)	粘板岩	2058
-9	H-69	Ⅰ	(44.0)	(61.0)	(24.5)	(90.4)	閃緑岩	2044
-10	H-51	Ⅱ	(83.0)	(62.5)	(29.5)	(231.3)	頁岩	2042
第15図-11	H-42	Ⅱ	128	44.5	13.5	128.8	緑色粗粒凝灰岩	2081
-12	H-42	Ⅱ	107	41	13	96.2	緑色粗粒凝灰岩	2084
-13	H-43	Ⅱ	129	25	12.5	67.2	緑色粗粒凝灰岩	2082
-14	N-84	Ⅱ	56	29	8.5	15.7	凝灰岩	2004
-15	H-48	Ⅲ	(73.0)	(44.0)	(12.0)	(44.8)	頁岩	2051
-16	H-47	Ⅲ	(46.0)	(47.0)	(11.5)	(43.8)	緑色粗粒凝灰岩	2050
-17	E-16	Ⅱ	(62.0)	(38.0)	(12.5)	(56.5)	輝緑岩凝灰岩	2040
-18	G-67	Ⅱ	181	55	30	438.7	凝灰岩	2038
-19	H-48	Ⅱ	121.5	66	38.5	422.8	安山岩	2003
-20	F-35	Ⅲ	(57.0)	(21.0)	(9.0)	(12.2)	凝灰岩	2006
-21	W-103	Ⅲ	(62.0)	(38.0)	(18.0)	(69.1)	緑色粗粒凝灰岩	2047
-22	F-33	Ⅲ	(30.0)	(54.0)	(24.0)	(41.8)	閃緑岩	2049
-23	I-36	Ⅰ	(49.5)	(25.0)	(10.5)	(14.2)	凝灰岩	2059
第16図-24	L-81	Ⅱ	112.5	48.0	13.0	114.2	粘板岩	2037
-25	G-68	Ⅱ	(78.0)	(58.0)	(28.5)	(163.7)	緑色粗粒凝灰岩	2041
-26	G-37	Ⅱ	(64.0)	(53.0)	(15.5)	(59.4)	緑色粗粒凝灰岩	2043
-27	L-49	Ⅱ	(76.0)	(49.0)	(23.0)	(143.4)	緑色粗粒凝灰岩	2039
-28	H-55	Ⅱ	(67.5)	(46.5)	(34.5)	(168.1)	閃緑岩	2024
-29	M-82	Ⅱ	(82.5)	(54.0)	(40.0)	(269.1)	閃緑岩	2015
-30	H-70	Ⅲ	(74.0)	(47.0)	(34.0)	(195.9)	閃緑岩	2020
-31	H-46	Ⅲ	(52.5)	(49.0)	(47.5)	(58.4)	緑色粗粒凝灰岩	2030
-32	H-36	Ⅲ	(75.0)	(34.0)	(16.5)	(98.4)	緑色粗粒凝灰岩	2056
-33	H-48	Ⅰ	(65.0)	(35.0)	(25.5)	(77.0)	緑色粗粒凝灰岩	2057
-34	G-71	Ⅱ	(35.5)	(33.5)	(9.0)	(15.0)	輝緑岩	2073
第17図-35	H-49	Ⅱ	(129.0)	(51.0)	(38.0)	(400.0)	輝緑岩	2008
-36	H-44	Ⅲ	(57.0)	(53.0)	(34.5)	(134.9)	閃緑岩	2023
-37	F-28	Ⅲ	(104.0)	(52.5)	(27.0)	(173.9)	輝緑岩	2012
-38	F-34	Ⅰ	(91.0)	(60.0)	(36.0)	(284.1)	砂岩	2013
-39	H-50	Ⅲ	(78.0)	(51.5)	(24.5)	(156.8)	閃緑岩	2021
-40	H-66	Ⅰ	(108.0)	(51.0)	(24.0)	(137.8)	安山岩	2019
-41	E-15	Ⅲ	(76.0)	(54.0)	(37.0)	(211.2)	閃緑岩	2017
-42	H-44	Ⅲ	(80.0)	(57.5)	(31.5)	(205.2)	閃緑岩	2018
-43	F-28	Ⅲ	(50.0)	(42.5)	(24.0)	(71.2)	緑色粗粒凝灰岩	2029
第18図-44	G-71	Ⅰ	(86.0)	(52.0)	(34.0)	(255.6)	閃緑岩	2026
-45	G-33	Ⅲ	(98.5)	(51.0)	(48.0)	(306.1)	閃緑岩	2024

図版番号	出土地点	層	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石 質	整理番号
第168図-46	K-70	Ⅲ	(105.5)	(52.5)	(34.5)	(311.8)	閃緑岩	2009
-47	H-50	Ⅱ	(112.0)	(52.0)	(37.0)	(363.6)	閃緑岩	2011
-48	H-49	Ⅱ	(114.0)	(46.0)	(33.0)	(315.0)	閃緑岩	2010
-49	I-72	Ⅲ	(75.5)	(40.0)	(14.5)	(73.6)	緑色凝灰岩	2083
-50	H-34	Ⅲ	(92.0)	(25.5)	(14.5)	(51.2)	安山岩	2007
-51	K-68	Ⅲ	(74.0)	(41.5)	(18.0)	(82.5)	緑色凝灰岩	2075

石 錘 (第168図)

8点出土した。完形品が4点、欠損品が4点である。

長軸上に袂りを作出しているものがほとんどであるが、5は短軸上に袂りを作出している。7は他とは異なり、長軸上に石冠に類似した帯状の潰しが作出されている。側縁などに擦痕などが認められないことから本類としたが、他に類似した石器の出土はない。

4は明瞭に本類とする根拠に欠けるが、長軸上の剥離痕と敲打による数力所の袂り状のくぼみから本類とした。

使用石材は、安山岩3点、凝灰岩3点、他2点である。出土点数が少ないこともあるが、特に石材の使用傾向は認められない。

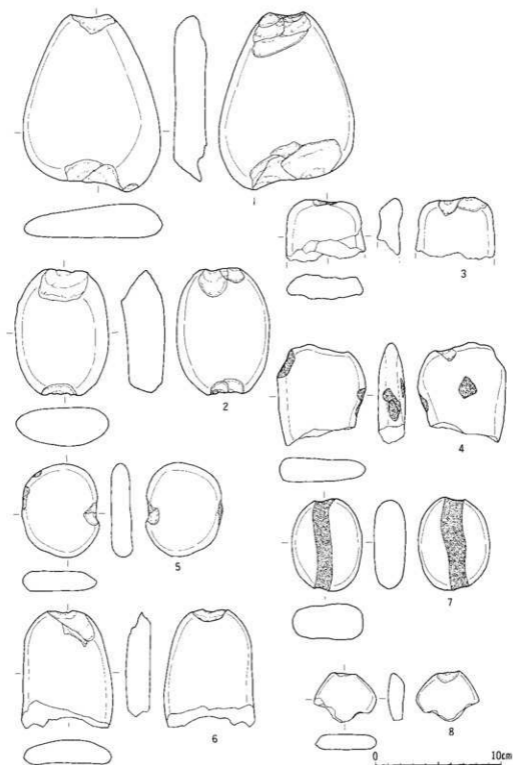
半円状扁平打製石器 (第169～171図)

11点出土した。スリ石として分類したものの中にも、本類と同様の器体加工を行っているものも存在するが、刃部に研磨面が構成されていないものを本類とした。

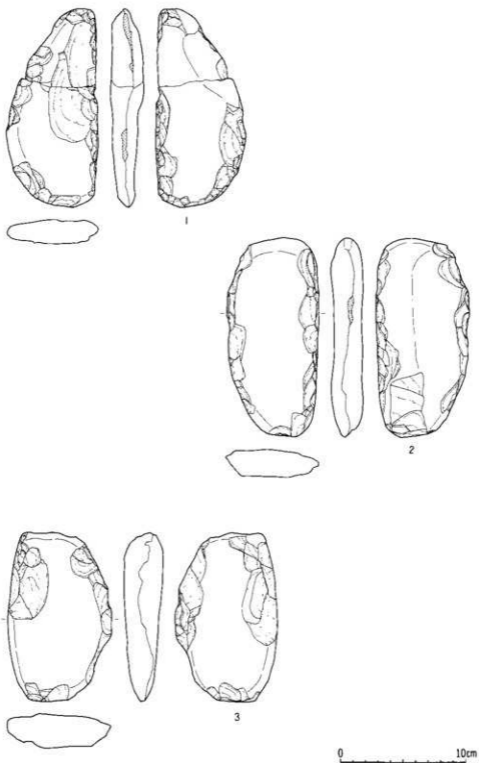
概ね、板状節理起源の石材を使用しており、鋭利で直線的な刃部を作出している。器体の加工は縁辺部に限られており、面の内部には至っていない。2・3・8は端部に袂り状の剥離が加えられている。

10は破片のため全体形は不明であるが、周縁を打ち欠いた後、器面全体に研磨を加えたものである。両側縁の形状などから本類としたが、類似した器種の挟入扁平磨製石器の可能性がある。

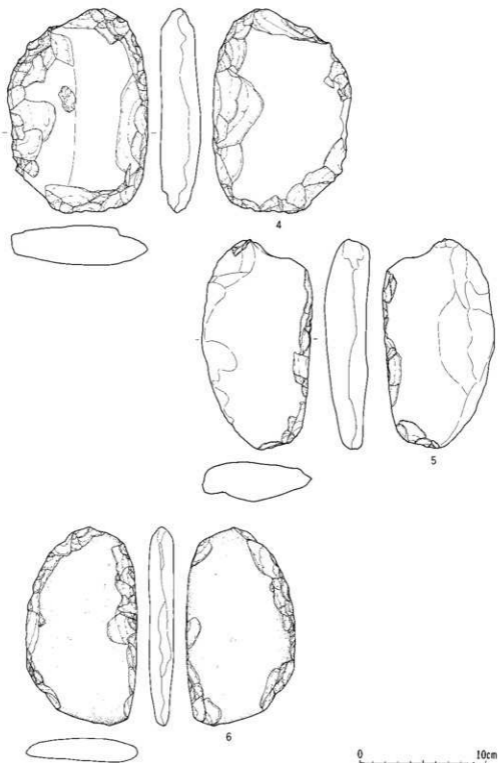
11は一方の側縁に片面から剥離を加えただけのもので、器体自体の加工は行っていない。擦切具の一種かも知れないが、刃部形状から本類とした。



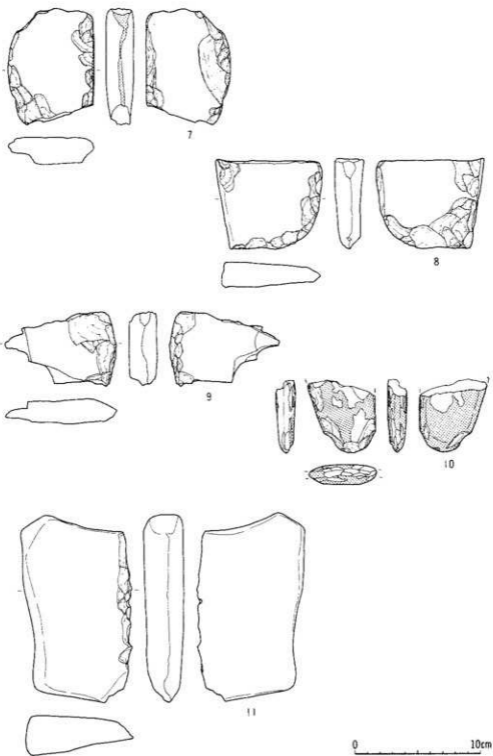
第168圖 遺構外出土石器（石鏟）



第169図 遺構外出土石器（半円状扁平打製石器-1）



第170図 遺構外出土石器（半円状扁平打製石器-2）



第171圖 遺構外出土石器（半円状扁平打製石器-3）

石錘

図版番号	出土地点	型	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	整理番号
第1図-1	G-82	II	130	100	20.4	666.1	安山岩	4081
-2	I-37	III	98	72	26	308.4	粘岩	4082
-3	E-32	II	(71)	(56.5)	14	(105)	安山岩	4087
-4	G-40	II	(69.5)	(55)	(23.5)	(153.2)	砂岩	4086
-5	D-19	II	81	69.5	18.5	216	凝灰岩	4083
-6	G-43	II	(69.5)	(66)	19.5	(132.9)	安山岩	4085
-7	H-38	III	41	58.5	17.5	74.6	凝灰岩	4084
-8	G-40	III	(38)	(43.5)	(11)	(24.6)	凝灰岩	4088

半円状扁平打製石器

図版番号	出土地点	型	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	整理番号
第1図-1	F-35	II	144	89	24	377	砂岩	3006
-2	H-35	II	94	68	22	223.8	安山岩	3028
-3	H-63	III	58	54	15.5	65.5	花崗岩	3010
第2図-4	M-81	II	61	56	24	775.5	安山岩	3009
-5	O-82	II	59.5	89	22.5	146	安山岩	3018
-6	H-58	III	72.5	86.5	23	205.3	安山岩	3011
第3図-7	N-85	II	(97)	74	26.5	(323.1)	安山岩	3003
-8	H-58	III	(164.5)	(111.5)	(32)	(775.8)	安山岩	3007
9	I-55	III	(134.5)	(83)	(31)	(439.4)	安山岩	3006
-10	H-63	III	(58)	(54)	(15.5)	(65.5)	頁岩	3004
-11	H-47	III	150	88	31.5	607.9	安山岩	5029

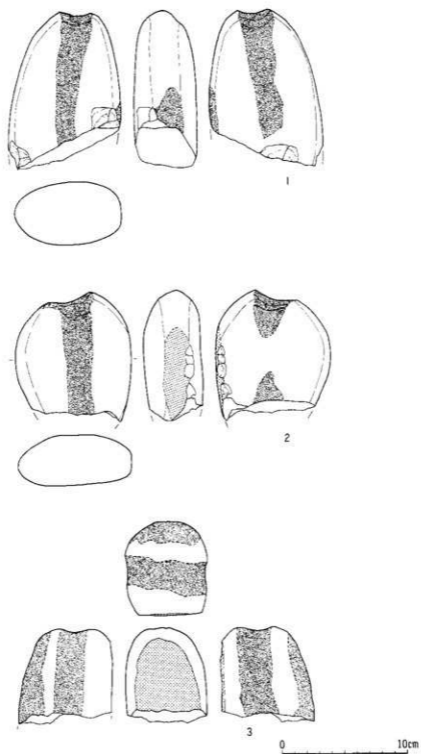
石冠 (第172・173図)

6点出土した。すべて欠損品で全体形を知り得る資料はない。

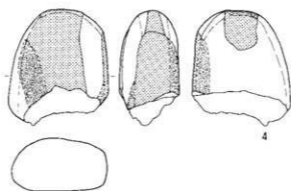
基本的には、敲打による潰しによって器体を一巡する把握部の作出と、幅広の研磨面の存在が本器種の特徴であるが、今回の出土品は、すべての個体で加工痕跡が異なる。

1は把握部が作出されているが、片側縁の研磨面はほとんど機能しておらず、敲打を伴ったざらついた面を構成している。2は研磨面が狭く、他のスリ石のスリ面と大差ないものである。また、面の側端に使用による小剥離がみられる。3は幅広の把握部と、広い研磨面を有し、頭部も全体的に潰しによって整形されている。頭部の整形痕は、把握部のものよりは軽便である。4は敲打による把握部は作出されておらず、ややざらつくスリ面によって構成されている。スリ面の側面及び研磨面の周囲に敲打痕が認められる。基本的な本器種の形態とは異なる点があるが本類とした。5・6は研磨面以外をほぼ全面にわたって加工しているものである。5は敲打とざらついたスリによって、6は敲打によって整形されている。研磨面の幅がやや狭いが、一般のスリ石とは異なり、器体の調整を行っていることから本類とした。

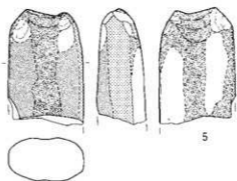
使用した石材は、すべて安山岩である。



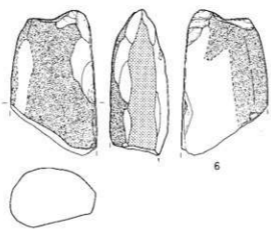
第172図 遺構外出土石器（石冠-1）



4



5



6

第173圖 遼構外出土石器（石冠-2）

石冠

図版番号	出土地点	層	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	整理番号
第12図-1	H-54	II	(127)	91	(51)	(851.7)	安山岩	7091
-2	H-66	III	(104)	92	47	(745.3)	安山岩	7092
-3	K-68	II	(71)	(66)	(75.5)	(596.8)	安山岩	5048
第12図-4	I-70	III	(85)	(79)	(48)	(483.3)	安山岩	5047
-5	I-65	II	(93)	61	39	(367.3)	安山岩	7093
-6	G-65	III	(116)	69	48	(325.6)	安山岩	7094

スリ石 (第174～184図)

約120点出土しており、このうち、明瞭なスリ面を観察できたものは85点である。他は、小規模な痕跡の残る破片資料である。

1～9は、三角柱状磨石の類である。使用面は主に1面で、もっとも鋭角な側縁を機能面としている。器体自体の整形はなされていないが、4は頭部に小規模な研磨と敲打の痕跡が認められる。また、5は頭部の片面に大きな剥離痕とその縁辺に敲打痕が認められる。ともに使用痕跡ではなく、把握のための調整によるものと考えられる。8はやや本類中では異質である。

10～15は1側縁を機能面とした長楕円形のスリ石で、器体の整形、特に機能面の調整を行っていない類である。

スリ面の側端には、使用による小剥離が認められるものが数点あり、スリ面が幅広の10などには、片減りが観察される。

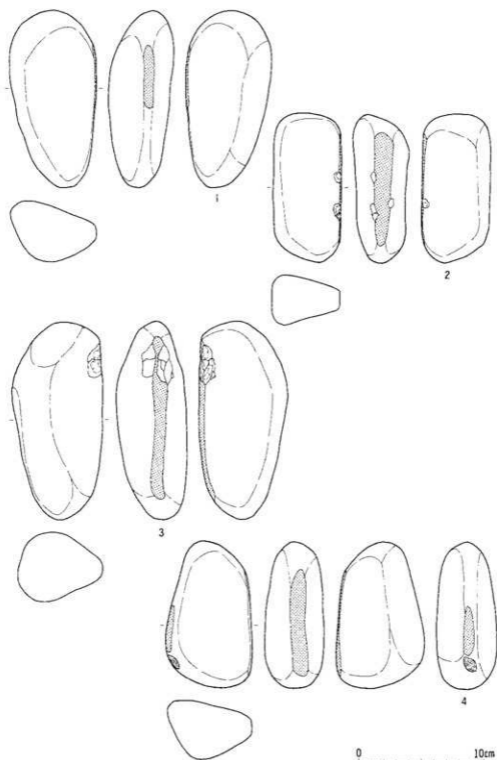
16～17は機能面の側端に大きな剥離痕をもつもので、把握を容易にするためのものと考えられる。また、使用にともなう小剥離も数カ所で観察される。

18～25は1側縁を機能面として、この側端に剥離痕を有する類である。剥離は、24・25などにみられるように、使用による小剥離と意図的な剥離が混在している。使用する素材は厚みには無関係のようである。

27・28は剥離を伴う機能面のほかに、端部に挟り状の器体整形を行っているもので、29・30・33は端部から頭部にかけても整形されているものである。34～37はほぼ器体の周縁全体を整形の対象としているものである。これら中には、機能面の一部、または約半分ほども打ち欠いているものもみられる。

39は肉厚の礫を素材にし、半円状扁平打製石器様の器面の整形を行っている。刃部様の連続剥離を行っており、擦切具の可能性も考えられるが肉厚すぎる。また、打製石斧の可能性も考えられるが断定し得ない。刃部の擦痕と器面の敲打を伴うスリの痕跡から、一応本類とした。

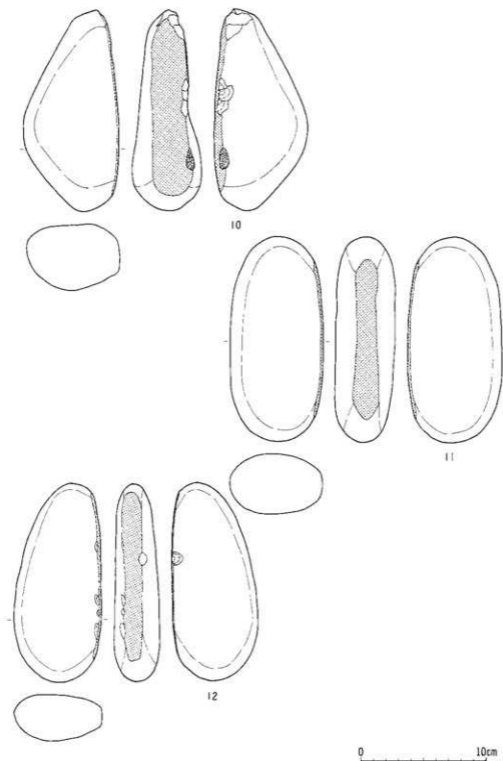
40は小判形の礫の端部と側縁を機能面としており、41は自然礫の側端の3箇所に機能面をもつもので、湾曲面を意図して使用しているようである。石材は、磨製石斧に使用する緑色細粒



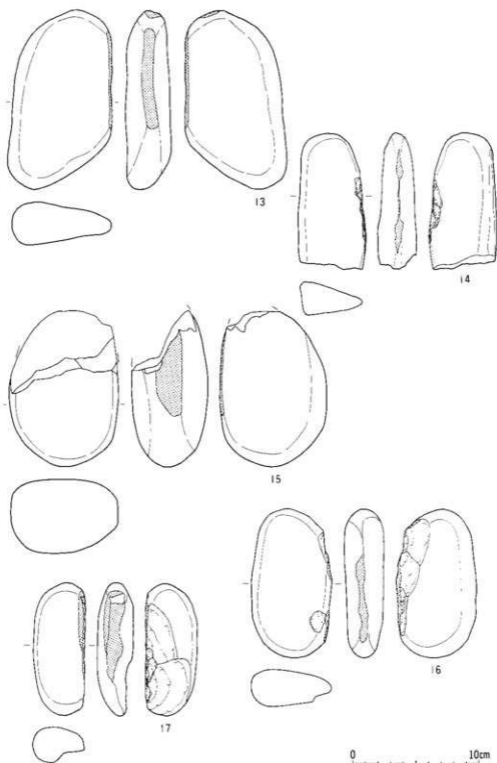
第174図 遺構外出土石器（スリ石-1）



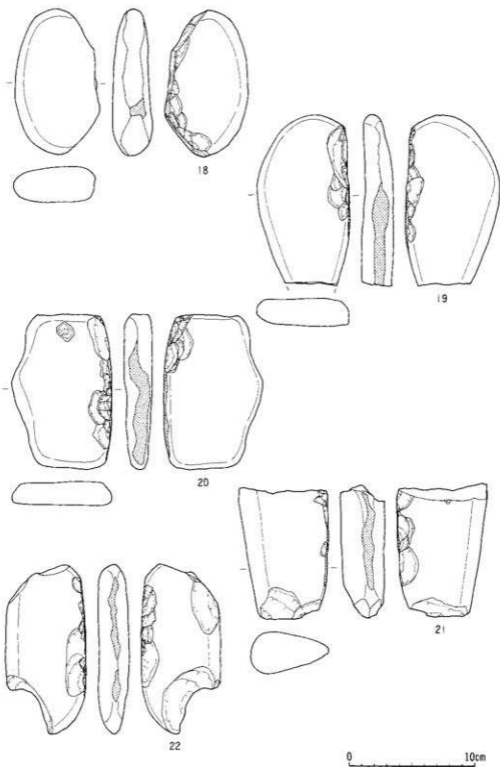
第175図 遺構外出土石器（スリ石-2）



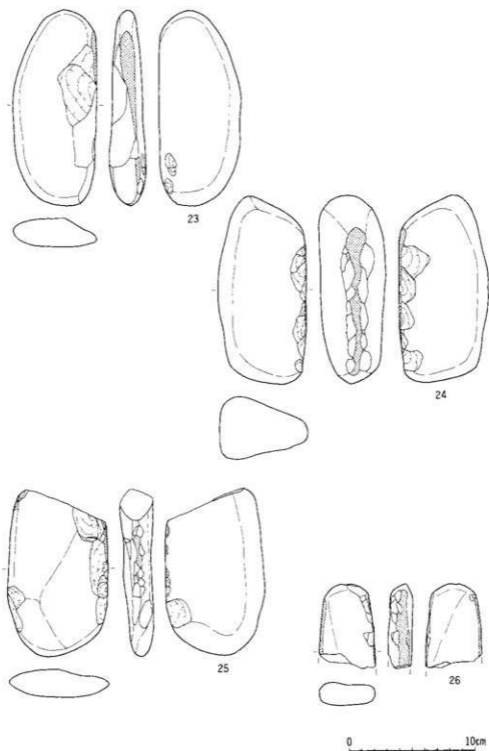
第176図 遠構外出土石器（スリ石-3）



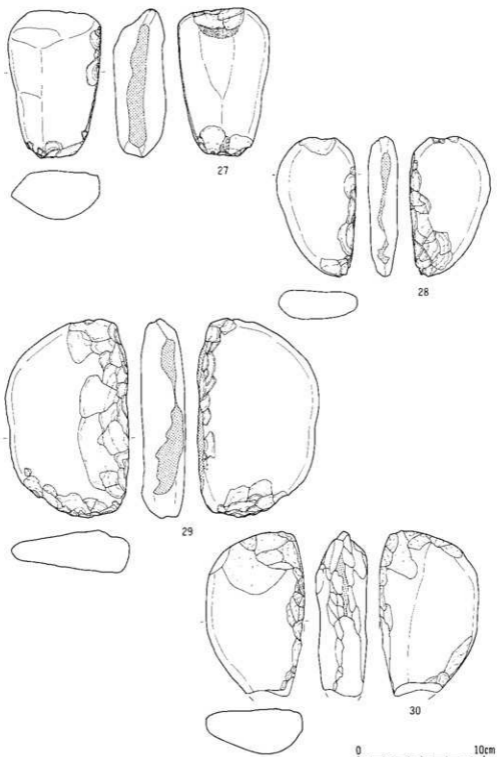
第177図 遺構外出土石器（スリ石-4）



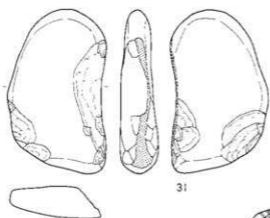
第178図 遺構外出土石器（スリ石-5）



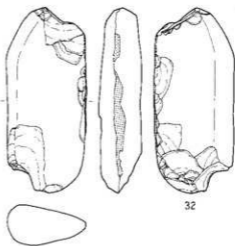
第179図 遺構外出土石器（スリ石-6）



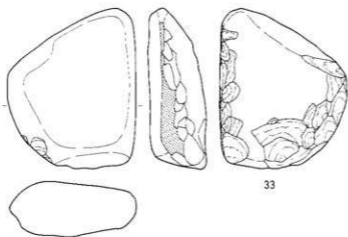
第180図 遺構外出土石器（スリ石-7）



31



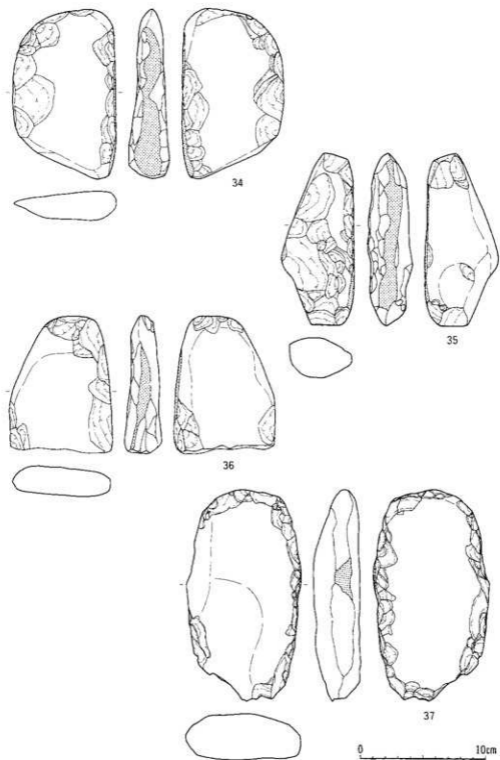
32



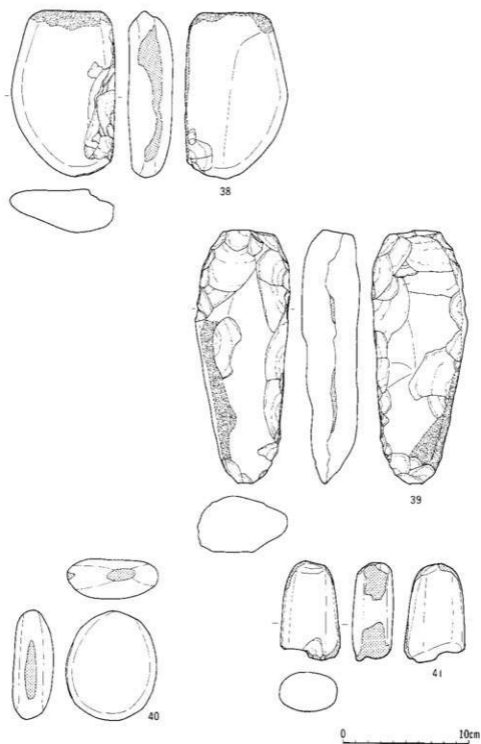
33

0 10cm

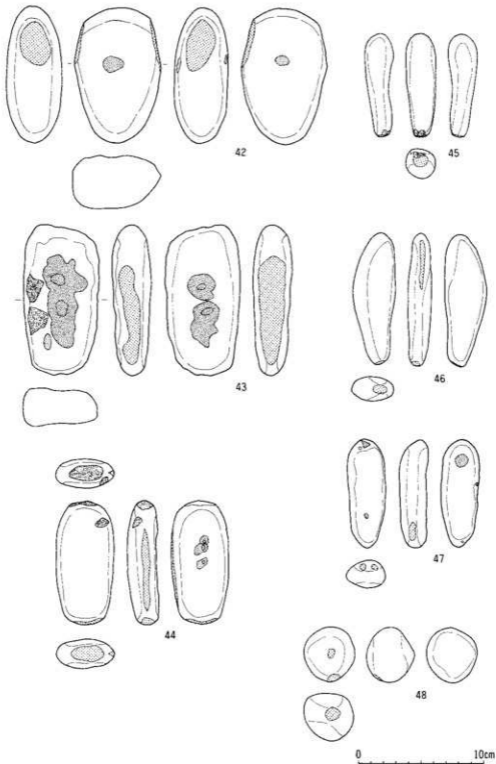
第181図 遺構外出土石器（スリ石-8）



第182図 遺構外出土石器（スリ石-9）



第183図 遺構外出土石器（スリ石-10）



第184図 遺構外出土石器（スリ石-11）

スリ石

図版番号	出土地点	層	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	整理番号
第14図-1	N-85	II	143	79	52		安山岩	5010
-2	F-29	III	119	55	45		閃緑岩	5012
-3	N-84	II	158	72	57		安山岩	5011
-4	G-41	II	117	70	48		安山岩	5009
第15図-5	D-14	I	130	70	58		安山岩	5013
-6	F-8	II	94	54	50		安山岩	5001
-7	G-32	II	127	63	52		安山岩	5014
-8	G-40	III	119	51	68		安山岩	5005
-9	I-39	III	75	54	47		安山岩	5006
第16図-10	E-27	II	162	76	56		安山岩	5003
-11	II-56	III	164	75	48		安山岩	5007
-12	N-82	II	158	69	37		安山岩	5008
第17図-13	II-48	III	145	75	33.5	540.6	安山岩	5061
-14	F-35	II	102	51	27	238.5	安山岩	5039
-15	F-34	III	125	86	60		安山岩	5002
-16	G-33	III	114	59.5	30	268.4	安山岩	5035
-17	H-50	III	102	39	25	118.7	安山岩	5033
第18図-18	H-66	II	114	64	28.5	356.1	安山岩	5034
-19	I-49	II	134	72	21	371.5	安山岩	5038
-20	H-50	III	121	76	16.5	353.7	安山岩	5032
-21	I-48	III	99	66	32	383	閃緑岩	5045
-22	H-47	III	131	63	21	307.6	安山岩	5046
第19図-23	H-56	III	156	66	29	435.2	安山岩	5024
-24	F-22	III	151	71	34		安山岩	5004
-25	H-48	II	133	80	26	328.5	安山岩	5040
-26	H-41	III	67.5	45	19.5		安山岩	5085
第20図-27	H-43	III	119.5	74.5	41.5	498.2	安山岩	5017
-28	H-32	II	112	64	23.5	225	安山岩	5023
-29	E-13	III	159	98.5	35	791	安山岩	5022
-30	H-45	II	132	79	41	574.6	安山岩	5021
第21図-31	F-18	II	132	78	31	394.9	安山岩	5026
-32	N-85	II	148	64	34	446.9	安山岩	5015
-33	G-39	III	128	102	47	858.1	安山岩	5025
第22図-34	G-91	II	137	82	33	479.7	安山岩	5027
-35	H-50	III	138	59	37	343.4	安山岩	5019
-36	G-39	III	110	82	30	358	安山岩	5037
-37	H-57	III	168.5	93	37	820.7	安山岩	5020
第23図-38	E-17	III	133.5	81.5	35	570.6	安山岩	5016
-39	G-37	III	202.5	75.5	45.5	897.1	安山岩	5030
-40	F-36	III	84	70.5	29.5	257.5	安山岩	5057
-41	H-46	III	79	48	35	223	緑色顆粒凝灰岩	2025
第24図-42	G-44	II	110	69	43.5	517.3	閃緑岩	5049
-43	H-35	III	97	45	21	159.7	安山岩	5074
-44	G-41	III	98	46	23	287	砂岩	5077
-45	G-45	II	80.5	23	20	46.3	凝灰岩	5073

図版番号	出土地点	層	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	整理番号
第184図-46	D-22	III	102	32.5	17	90	安山岩	5072
-47	I-70	III	83	27.5	19	86.7	安山岩	5075
-48	II-54	III	42	44	37	84.6	安山岩	5071

凹み石 (第185～194図)

敲磨器類のうち、器面に明瞭な凹みを持つものをこの類とした。凹みの深さが器面より約2mm未満のものは敲打具とした。

また、スリなどとの複合痕跡をもつものでは、使用頻度にかかる主たる機能の痕跡の度合いによって本類または他の類とした。

本類は、282点と礫素材の石器の中で最も出土点数の多い器種である。

ただし、本類の中でも、敲打する側と、台として敲打される側のものが共存していると考えられる。両者の間にはたとえば堅果類などの対象物があり、直接、敲打具(叩き石)で台を敲打するとは考えられないが、この両者を明瞭に分別することは不可能である。このため、本類の細分は機能面の数によった。ただ、点数が多いことから、その種別の典型的なものを抽出して図化している。

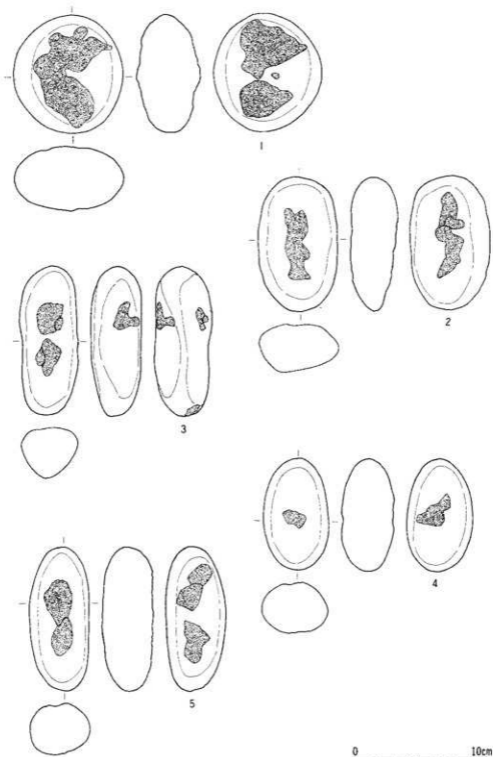
使用面(機能面)は2面使用のものが多く、1面使用のものがこれに続く。

各種の中でも、素材の形状は多岐にわたる。不整形としたものが多いが、概ね、小判形や、やや肉厚な卵形が基本形となり、長楕円形や棒状のものがこれに続く。卵形のものでは片面が平坦なものも多く、また、後続の両者はともに一方が幅広か肉厚な傾向がみられる。

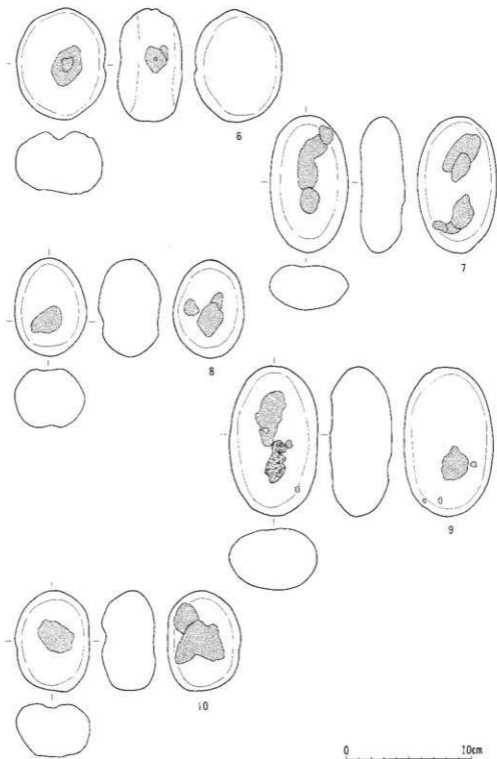
肉厚で、中型以上のもは、前述の台的使用によるものと考えられ、把握しての敲打具としては、重量及び大きさから手に余るものである。

不整形の石材では、1面使用のものには10～14cmほどのものが多く使われており、2面使用のものでは偏平なものが多い。3面使用のものには断面が三角形のものが多く使用されている。4面使用のものでは、不整形のものは少なく、卵形が多い傾向がみられる。

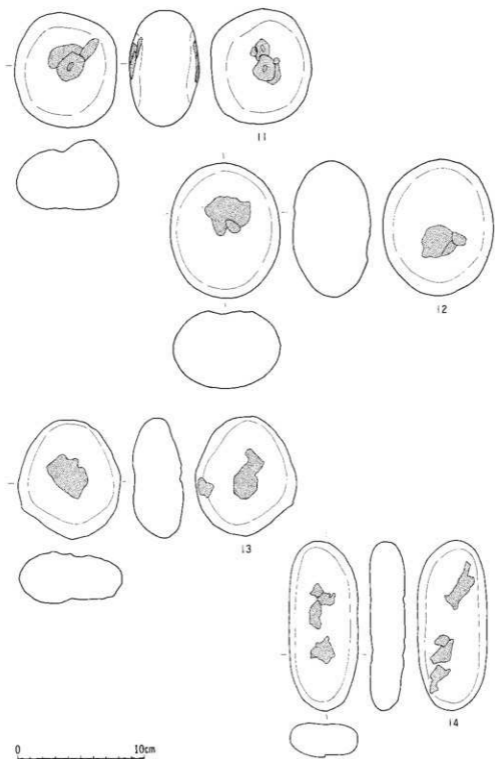
使用石材の石質では、安山岩・砂岩が主体となっており、本類全体の比率では安山岩47%・砂岩33%である。これに凝灰岩の17%が続く。



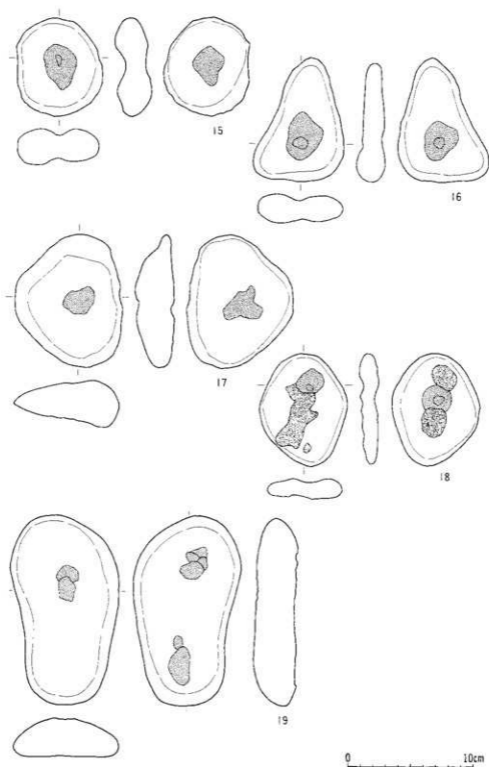
第185圖 遠構外出土石器（凹石-1）



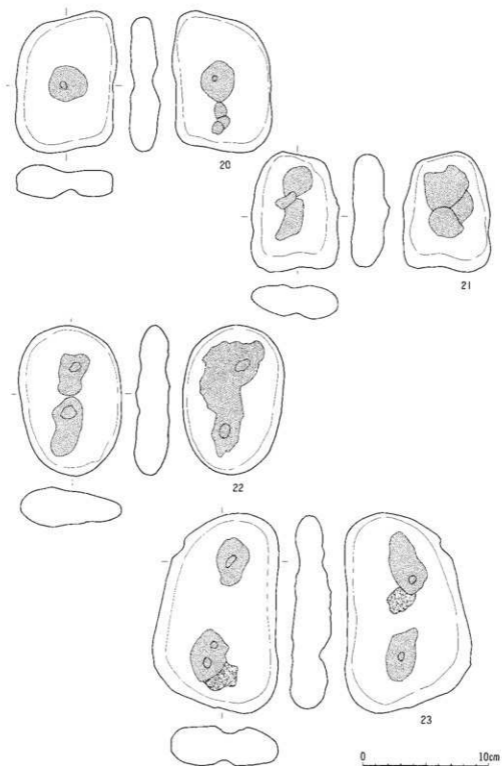
第186図 遺構外出土石器(凹石-2)



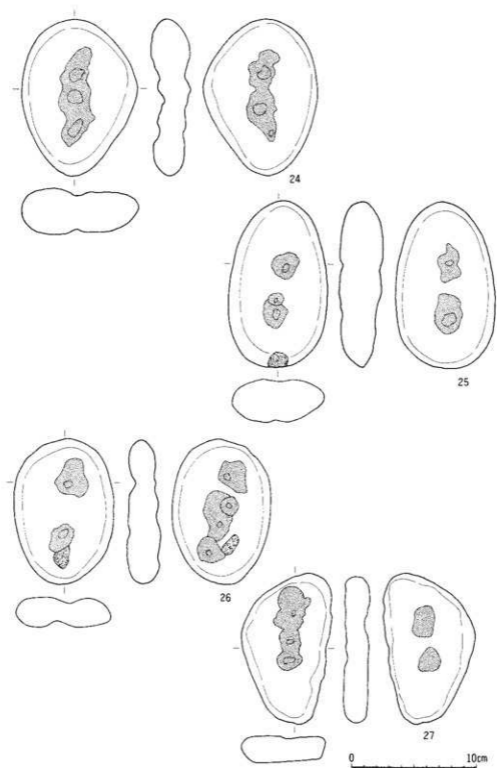
第187图 遠構外出土石器(凹石-3)



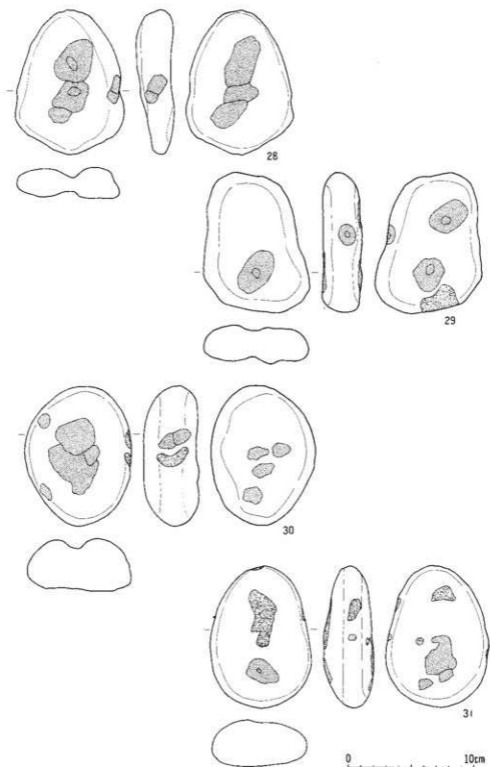
第188図 遺構外出土石器(凹石-4)



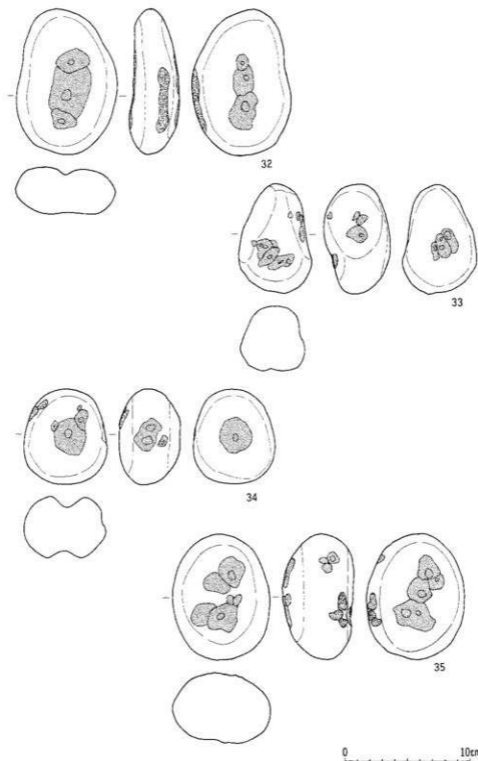
第189圖 遺構外出土石器（凹石-5）



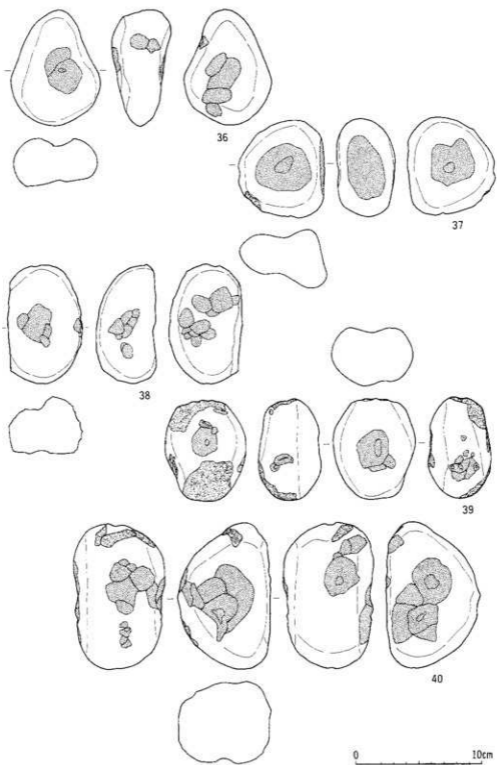
第190図 遺構外出土石器（凹石-6）



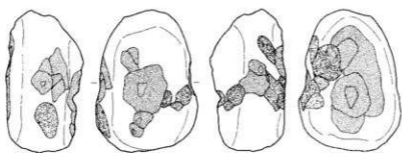
第191圖 遺構外出土石器（凹石-7）



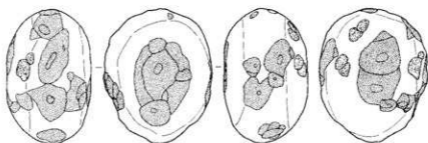
第192圖 遠構外出土石器（凹石-8）



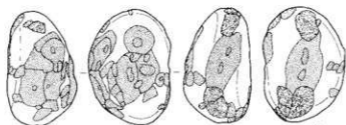
第193圖 遺構外出土石器（凹石-9）



41



42



43



0 10cm

第194圖 遺構外出土石器（凹石-10）

凹み石

図版番号	出土地点	層	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	石質	整理番号
第五図-1	H-34	Ⅲ	95	86.5	47	536.9	安山岩	5686
-2	H-58	Ⅱ	108.5	62.5	38	322	砂岩	5684
-3	K-70	Ⅲ	119	47.5	39	305.9	安山岩	5683
-4	Ⅱ-48	Ⅲ	88.5	52.5	43.5	279.2	安山岩	D-22
-5	I-51	Ⅲ	113.5	48	43	289.7	安山岩	D-26
第六図-6	Ⅱ-74	Ⅲ	90.5	71	50	259.5	安山岩	5613
-7	H-38	Ⅲ	109	2	37	358.2	安山岩	5676
-8	I-77	Ⅲ	78	57	50.5	313.2	安山岩	D-21
-9	H-48	Ⅲ	119.5	72.5	50.5	675.8	安山岩	5691
-10	W-100	Ⅱ	80	60	44	246.2	砂岩	D-19
第七図-11	H-54	Ⅱ	93	81	55	480.1	砂岩	5620
-12	D-19	Ⅱ	108	85.5	60.5	862.9	安山岩	5682
-13	I-35	Ⅲ	92	81	40	270.9	凝灰岩	D-2
-14	F-35	Ⅱ	133.5	55	28	295.3	安山岩	D-20
第八図-15	I-47	Ⅲ	78	68.5	27	191.2	凝灰岩	5638
-16	F-33	Ⅱ	100	74	22.5	165.9	砂岩	5644
-17	P-84	Ⅱ	106	85	47	306	砂岩	D-7
-18	G-29	Ⅲ	90	71	14	111.6	砂岩	5645
-19	G-40	Ⅲ	151	87	35	634.2	安山岩	5052
第九図-20	I-77	Ⅲ	113	80	27	305.3	砂岩	5672
-21	D-20	Ⅱ	95	70.5	25.5	259.3	凝灰岩	5674
-22	I-67	Ⅲ	119	79.5	31	403.7	安山岩	5636
-23	I-41	Ⅲ	159	101	33	662.6	安山岩	5699
第十図-24	I-71	Ⅱ	127	92	32	438.1	砂岩	5642
-25	F-32	Ⅱ	132	79	35	482.9	安山岩	5640
-26	H-35	Ⅱ	115.5	80	24.5	292.9	砂岩	5639
-27	G-30	Ⅲ	120	70	22.5	251.9	砂岩	5643
第十一図-28	H-35	Ⅱ	115	84	27	303.5	凝灰岩	5634
-29	P-85	Ⅱ	110	85	30	347.1	礫	5641
-30	I-77	Ⅲ	108.5	82	39	371.4	安山岩	5637
-31	E-15	Ⅲ	111.5	78.5	38	432	安山岩	5635
第十二図-32	G-34	Ⅲ	117	78.5	36	410.8	安山岩	5633
-33	F-35	Ⅲ	87	59.5	53	236.6	凝灰岩	5615
-34	Q-86	Ⅲ	75	66.5	49.5	299.9	凝灰岩	5612
-35	F-14	Ⅲ	99	80	54.5	613.2	安山岩	5687
第十三図-36	M-78	Ⅲ	92.5	71	45	284.3	安山岩	5680
-37	N-84	Ⅱ	67.5	77.5	45.5	280.4	砂岩	5690
-38	O-85	Ⅱ	98	60	48	298.8	安山岩	5076
-39	E-23	Ⅲ	80	65.5	50	307.8	安山岩	5614
-40	D-16	Ⅱ	116	75	72	685	砂岩	5618
第十四図-41	G-38	Ⅲ	114	82	62	603.7	砂岩	5619
-42	H-44	Ⅲ	107	88	67	671.7	砂岩	5617
-43	I-39	Ⅲ	91	66	55.5	344.4	砂岩	5616

する粒子が均一なもので、各面はそれぞれ湾曲している。本類では数少ない硬質の素材を使用している。

19などはそれぞれ数条の溝状の研磨痕を有するもので、玉砥石として分類されるものである。おもに凝灰岩を素材として、石皿の転用と考えられるものが多い。磨製石斧などの側面加工に使用された可能性も考えられたが、各溝の幅及び湾曲度は石斧とは合致しなかった。

このほかに、硬質の安山岩に凹みと1条の溝が切り込まれているものなどがあり、何らかの道具を研ぎ出すという性格よりも、石製品としての要素が強いものもある。

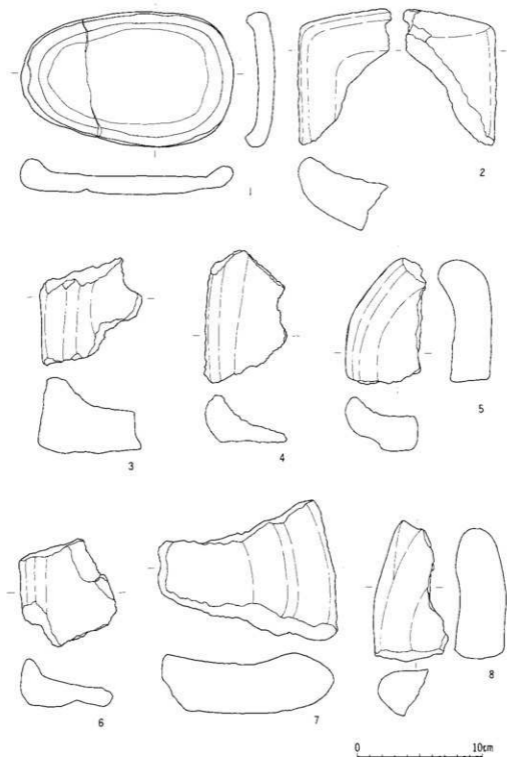
本類の使用石材は、凝灰岩と砂岩がおおの約3割程度を占めており、全体に軟質のものが多い。

軽石

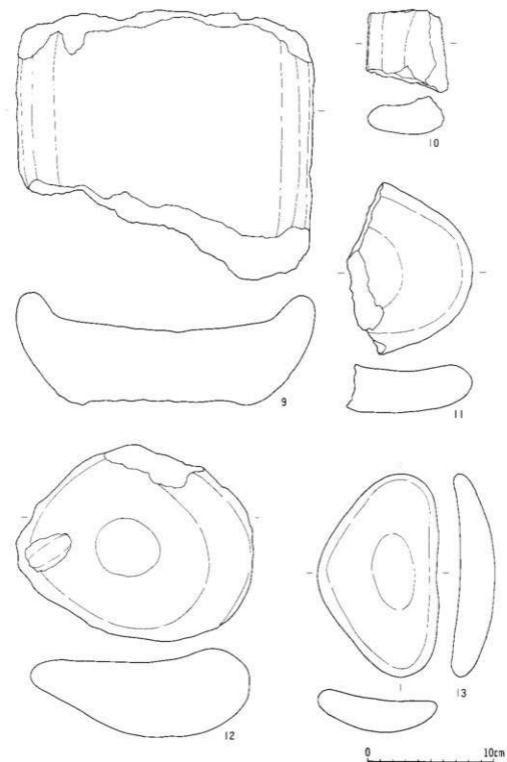
30点ほど出土したが、ほとんどが細破片で、形状を確認できたものは6点である。いずれも黒っぽい浮石で、ほとんどが蜂の巣条の多孔質のものである。各個体とも平坦な面や湾曲した面は観察できるが、明瞭な加工痕跡は認められない。道具として使用したものが、または製品であったものかは不明である。このため、単に軽石として一括した。

軽石

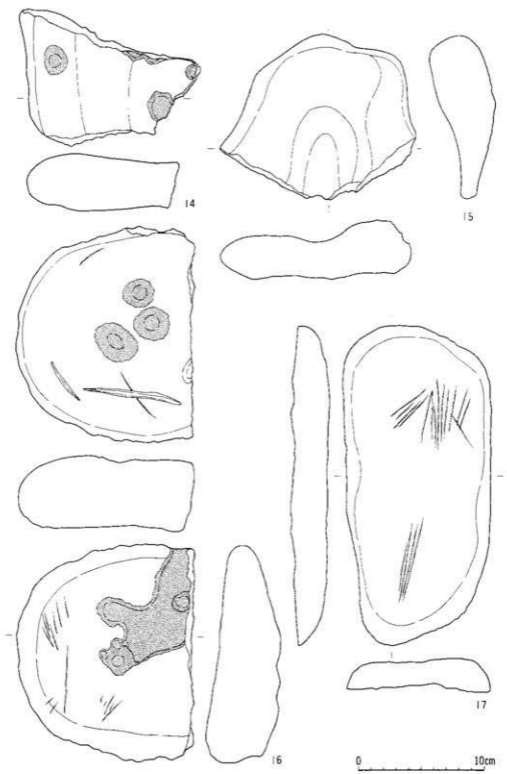
図版番号	出土地点	層	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	備考
写真参照	J-75	II	92	74	49	88.4	軽石	
#	II-64	III	123	92	65	278.5	軽石	
#	I-55		56	41	34	36.5	軽石	
#	II-57	III	99	61	51	68.7	軽石	
#	H-37	III	151	98	49	84.7	軽石	
#	II-48	II	72	60	40	49.3	軽石	



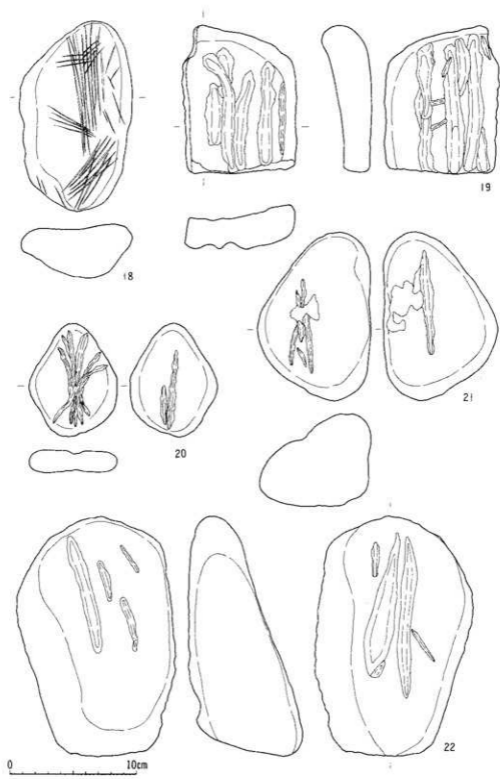
第195図 遺構外出土石器（石皿-1）



第196图 遺構外出土石器(石皿-2)



第197図 遠構外出土石器（石皿-3・砥石-1）



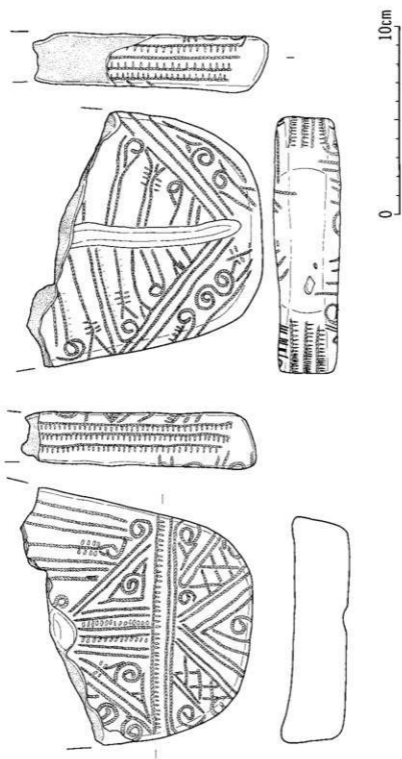
第198図 遠構外出土石器(砥石-2)

石皿

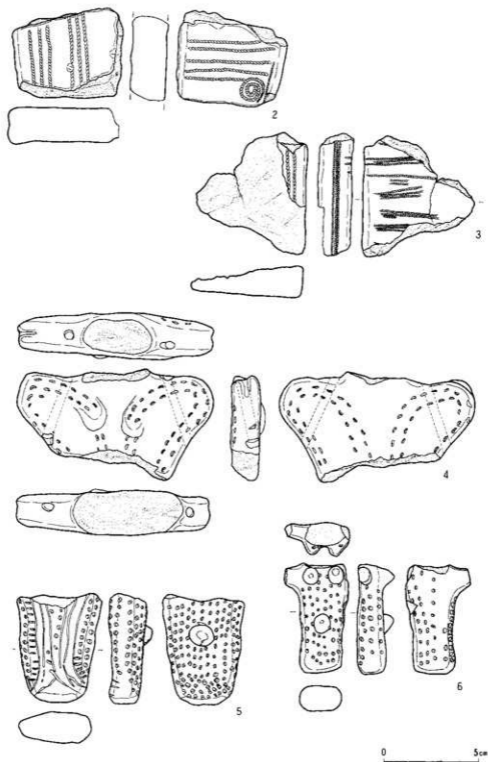
図版番号	出土地点	層	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	備考
第16図-1	H-56	II	109	170	28	359.8	凝灰岩	縁辺に高まり
-2	I-35	III	(96)	(91)	51	(234.1)	凝灰岩	被熱、縁辺に高まり
-3	N-108	II	(79)	(79)	(63)	(392.5)	安山岩	被熱、縁辺に高まり
-4	S-92	II	(106)	(73)	(39)	(184.7)	礫	縁辺に高まり
-5	H-50	II	(103)	(63)	42	(233.5)	凝灰岩	縁辺に高まり
-6	I-55	III	(75)	(74)	(42)	(122.7)	凝灰岩	縁辺に高まり
-7	J-36	II	(111)	(144)	52	(833.1)	安山岩	縁辺に高まり
-8	E-26	II	(110)	(56)	44	(299.1)	砂岩	
第167図-9	H-66	III	(210)	(238)	(83)	(3390.1)	凝灰岩	扉部あり、縁辺に高まり
-10	D-24	III	(60)	(59)	(29)	(120.2)	凝灰岩	縁辺に高まり
-11	G-33	III	(100)	(137)	54	(539.4)	安山岩	
-12	6土		(180)	(150)	64	(1620.1)	安山岩	中央部湾曲
-13	H-74	III	161	93	33	627.5	安山岩	全面湾曲
第137図-14	H-58	III	(102)	(147)	49	(691.1)	砂岩	破片、両面に凹み
-15	H-34	III	(129)	(155)	52	(881.4)	凝灰岩	中央部湾曲
-16	F-34	III	(141)	(174)	(51)	(1400.5)	砂岩	楕円?、裏面に凹み

砥石

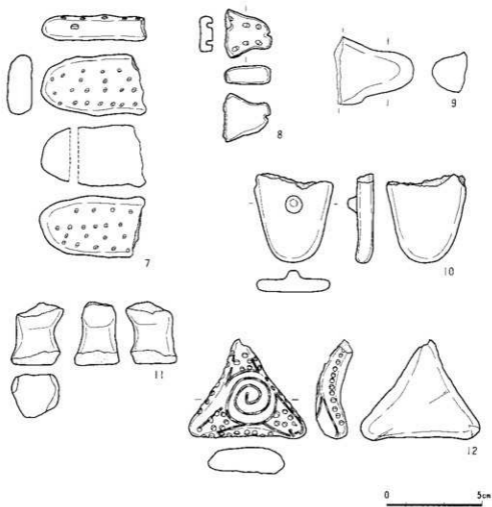
図版番号	出土地点	層	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	備考
第137図-17	I-64	III	250	118	(30)	1134.7	凝灰岩	擦痕
第138図-18	I-57	II	153	82	42	533.8	凝灰岩	小型皿状、両面に擦痕
-19	O-85	II	(119)	91	34	342.5	凝灰岩	石加転用、両面に溝、玉砥石
-20	H-48	III	90	69	17	121.3	砂岩	両面磨切状の擦痕
-21	H-56	III	139	89	76	919.3	凝灰岩	両面に凹みと擦痕
-22	H-49	III	194	120	81	1745.3	砂岩	玉砥石
	E-15	III	(68)	(47)	(32)	(129.6)	凝灰岩	破片、両面やや湾曲
	I-74	II	(88)	(58)	19	(126.2)	頁岩	破片、両面に研磨面
	F-33	III	(115)	(95)	41	(480.5)	凝灰岩	溝2条
	O-84	II	93	63	44	308.5	砂岩	微小な擦痕
	H-45	II	112	98	26	283.3	凝灰岩	擦痕
	F-27	III	(133)	(62)	(28)	(326.8)	安山岩	破片、水平な研磨面
	F-22	III	71	(55)	15	(71.2)	砂岩	両面に擦痕
	N-85	II	110	91	23	245.4	礫	湾曲した研磨面
	G-71	II	(147)	72	60	(709.6)	砂岩	4面に筋状の擦痕
	i-62	III	(85)	34	21	(113.9)	砂岩	4面に研磨面
	i-70	III	72	32	37	84.2	砂岩	両面湾曲した研磨面
	H-55	II	(73)	(47)	23	(149.6)	凝灰岩	破片、筋状の擦痕
	H-49	II	67	62	38	81.3	砂岩	擦痕
	H-63	II	(43)	(29)	12	(23.8)	砂岩	ほぼ全面研磨
	F-32	III	(62)	(39)	16	(37.1)	砂岩	破片、ほぼ全面研磨と擦痕
	G-66	II	(74)	(54)	21	(105.3)	砂岩	研磨面と擦痕
	H-38	III	84	61	66	391.8	安山岩	球状、凹みと深い擦痕



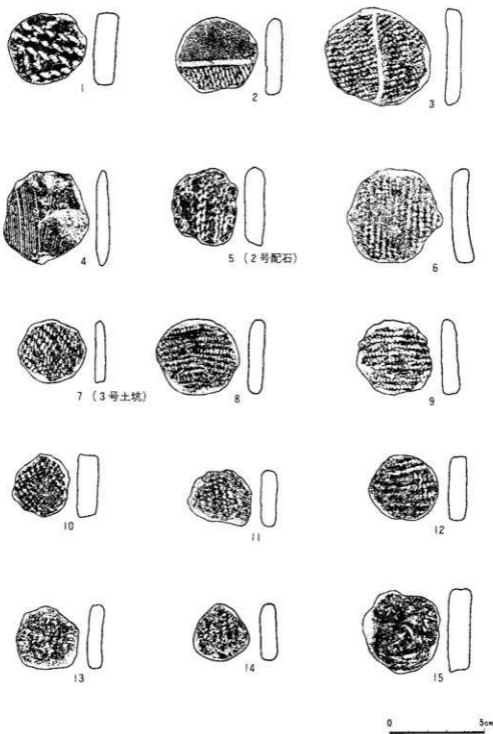
第199图 土製品(土偶-1)



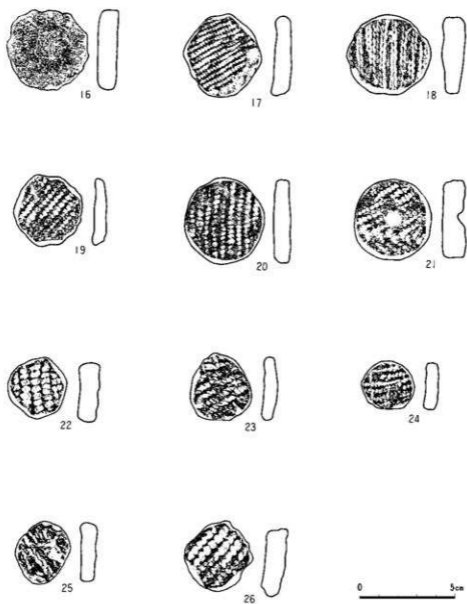
第200図 土製品 (土偶-2)



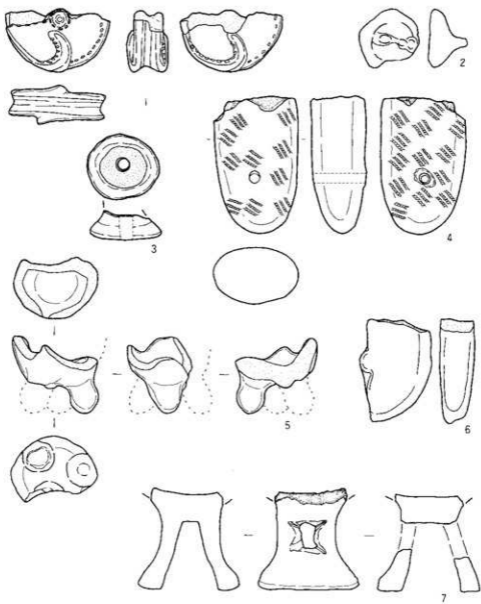
第201図 土製品 (土偶-3)



第202图 土製品（円盤状土製品-1）



第203図 土製品（円盤状土製品-2）



第204図 その他の土製品

土偶

図版番号	出土地点	部位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	文様構成	備考	整理番号
第19図	1 D-19	胴~脚部	124	136	34	燃糸圧痕、肩目線連続刺突、指頭による沈線	円筒上層a式	1
第20図	2 E-22	胴部	48	58	18	燃糸圧痕、指頭による沈線	#	8
	3 F-27	胴部	60	59	18	燃糸圧痕	#	9
	4 N-84	胸部	59	104	25	刺突、両腕部に上下に貫通孔	大木系	6
	5 N-82	胴~脚部	58	45	20	刺突、裏面~刺突-沈線	#	4
	6 P-85	胸~脚部	59	34	14	刺突、頭部欠失	#	3
第21図	7 3土	胴部	33	54	13	刺突、上下に貫通孔	#	5
	8 P-86	胴部	27	25	10	刺突、刻み(沈線)	#	14
	9	腕部	39	43	20	無文、裏面刺落		18
	10 H-50	胴~脚部	47	42	9	無文		10
	11 N-85	脚部	33	25	24	無文		11
	12 P-85	完形	52	63	13	刺突、沈線	三角土偶	2

円盤状土製品

図版番号	出土地点	使用部位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	文様構成	備考	整理番号
第22図	1 F-27	口縁部片	42	39	9	L R(多刺)、燃糸圧痕	円筒上層a~b式	2
	2 L-110	胴部片	49	40	8	R L+沈線+無文	大木系(椀林以降)	8
	3 U-93	胴部片	57	52	7	L R-沈線	大木系(椀林以降)	17
	4 H-46	胴部片	41	50	5	帯目状の磨痕	大木系	7
	5 2配石	口縁部片	35	42	9	R L、燃糸圧痕		16
	6 P-84	胴部片	51	50	9	L R		1
	7 3土	胴部片	37	39	5	R L		14
	8 P-85	胴部片	49	41	7	L R		3
	9 K-76	胴部片	40	40	9	L R		9
	10 H-43	胴部片	28	35	10	L R		11
	11 P-86	胴部片	(34, 0)	30	8	L R		12
	12 H-38	胴部片	37	34	8	L R		6
	13 H-58	胴部片	33	34	6	無文(原簿記載で不明)		10
	14 H-31	胴部片	30	30	9	R L		18
	15 I-73	底部片	41	44	10	無文		4
第23図	16 I-52	胴部片	42	45	9	無文		5
	17 P-85	胴部片	40	40	8	L R		(17)
	18 D-21	胴部片	43	41	12	縞条体		(18)
	19 R-107	胴部片	36	33	6	L R	後期?	(19)
	20 H-71	胴部片	45	42	9	R L		(20)
	21 F-32	胴部片	42	40	12	羽状+木貫通孔		(21)
	22 H-43	胴部片	31	29	10	R L		(22)
	23 R-107	胴部片	34	(31)	7	R L		(23)
	24 D-21	胴部片	27	26	6	L R		(24)
	25 H-37	胴部片	32	(30)	9	縞条体		(25)
	26 H-55	胴部片	34	33	11	L R		(26)

その他の土製品

図版番号	出土地点	層	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	文様構成	備考	整理番号
第205図-1	H-71	Ⅲ	(39)	55	22	刺突文	耳栓	13
-2	H-47	Ⅲ	32	33	21			15
-3	H-55	Ⅱ	38	35	(16)	貫通孔	土器 埴?	31
-4	H-37	Ⅲ	(73)	45	30	織文、貫通孔	蜂節型土製品	7
-5	H-56	Ⅱ	(40)	45	36	武部片	三足土器?	13
-6	H-57	Ⅱ	(54)	38	18		円盤?	12
-7	N-83	Ⅱ	(54)	54	55	透かし2箇所	土器台座	30

4 石製品 (第205～207図)

石器以外の加工痕が認められるものを石製品として一括した。29点が出土している。

1・2は、ミニチュア製品で、1は舟型の石製品である。全面に加工時の擦痕を多く残しており、表面はややザラ付いた感触がある。小型の石皿の可能性も考えられたが、成形時の加工痕以外の使用によると思われる痕跡が認められないことから、舟のミニチュア製品と考えられる。

2は脚付の石皿のミニチュア製品で、平面形は台形である。軟質の凝灰岩を素材としており、器面は底外面を除いて、概ね平滑である。

3は一見、環状石斧の欠損品と思われる破片であるが、外縁はやや楕円気味で、正円とするとは径30cm以上の輪状となる。このことから、湾曲度の強い弧状の製品の可能性が考えられる。

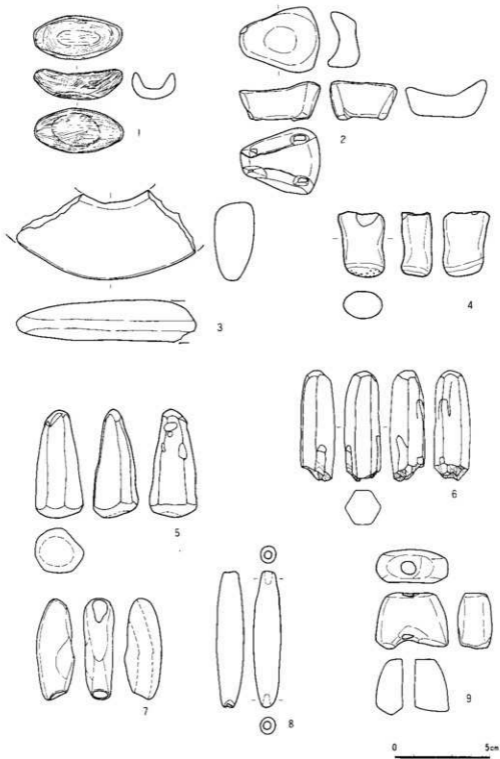
4は硬質で棒状の転石を素材としており、加工もしくは使用により、一端部が乳棒状の半球状になったものである。敲磨器類としての分類も可能であるが、本類とした。

5・6は水晶の加工品である。5は、柱状の各辺が転石化して、やや円柱状になっており、両端部に半球状の加工（もしくは使用による）を行っている。また、若干の面取り加工も行っている。6も5と同様に転石と考えられるが、器面の磨減は少なく、六角柱状を呈している。欠損部は風化もありササクレ状に亀裂がはいっている。端部は、4・5と同様に半球状を呈している。

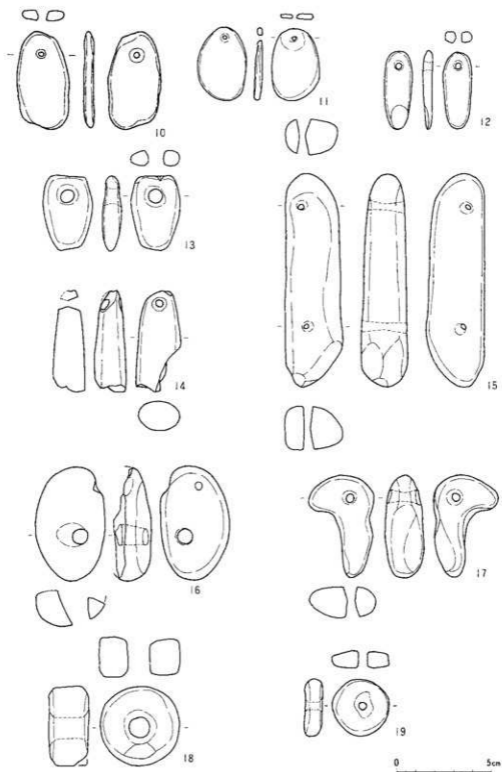
7～21は有孔石製品である。

7は両端からの穿孔による貫通孔がある。一端からはほぼ長軸上に、もう一端からは斜行気味に穿孔している。斜行側の孔端は平坦に加工されており、「石笛」と考えられる。斜行部の平坦面は「尺八」等の「歌口」に類似する。また、笛の葉などをこの面に接着すればリード様に音を出せる可能性も考えられる。

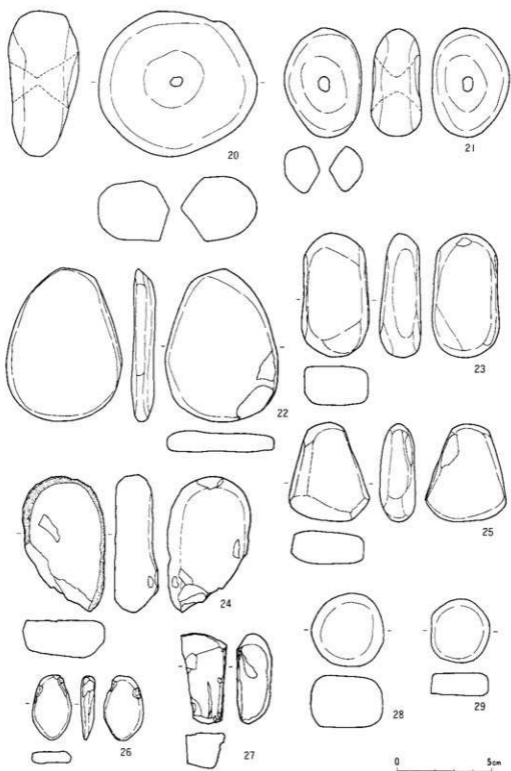
8は、細身で中膨らみの棒状の石材を素材とし、両端から穿孔を行っている。孔はおのおの端部から7mm程で途切れ、貫通には至っていない。穿孔途中のものか完成品かは不明である。



第205図 石製品-1



第206図 石製品-2



第207図 石製品-3

石製品

図版番号	出土地点	部位	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	石 質	整理番号
第25図-1	G-72	III	47	24	16	12.1	頁岩	14
-2	H-69	I	43	35	21	25.1	頁岩	15
-3	H-57	表採	94	48	23	84.9	安山岩	5
-4	H-53	III	33	21	15	30	頁岩	20
-5	E-26	I	57.5	25.5	24	40.6	水晶	28
-6	F-28	III	(58.5)	19	18	31.3	水晶	18
-7	G-38	I	54	20	16	13.9	頁岩	13
-8	表採		72	15	15	17.1	頁岩	12
-9	表採		30	37	18	18	頁岩	21
第26図-10	H-49	III	29.5	38	18	20	粘板岩	17
-11	H-72	II	39	25	4	7.3	粘板岩	9
-12	I-69	II	42	14.5	6	4	頁岩	11
-13	H-50	II	4	26	10	10.5	頁岩	10
-14	II-50	III	54	23.5	16.5	20.2	頁岩	16
-15	E-29	III	113	30	24	61.2	細粒凝灰岩	6
-16	H-62	II	39	25	4	30.6	細粒凝灰岩	7
-17	F-32	III	54	35	20	26.3	頁岩	8
-18	G-69	II	42	42	22	11.8	輝石	3
-19	G-33	III	30.5	30	10	11	凝灰岩	4
第27図-20	6土	フク土	78	84.5	37	237.6	凝灰岩	1
-21	H-66	II	58	41	27	72.7	凝灰岩	2
-22	N-109	II	81	61	12	62	頁岩	24
-23	H-48	II	65	35	22	62	頁岩	22
-24	H-52	II	71.5	44.5	23	69.6	頁岩	23
-25	I-71	III	52	43	19	44	頁岩	26
-26	H-70	II	34	20	7	5.8	頁岩	29
-27	N-81	II	48	24.5	18.5	20.8	頁岩	25
-28	H-53	III	38	39	27.5	56.3	凝灰岩	19
-29	G-69	I	31	34	12	15.1	凝灰岩	30

第IV章 自然科学的分析

1 出土炭化材の樹種について

榎ノ木遺跡出土炭化材の樹種

嶋 倉 巳三郎

青森県上北郡野辺地町に所在する榎ノ木遺跡から出土した炭化材の樹種を調査した。

試料は、1 cmくらいの大きさの木炭で、これらの木口・柃目・板目方向の破断面を落射照明で検鏡した。

結果：

試料番号	出土遺構	層位	樹種	備考
1	第1号土坑	覆土	ヤチダモ	細碎質
2	第3号土坑	覆土	クリ	
3	第3号土坑	覆土	エノキ	

試料は、縄文時代中期前半の土坑墓と考えられる遺構の覆土から採取したものであるという。脆くて砕け易いが、遺跡の時代が古いためであろう。樹種のうち、クリは建築・器具・家具・薪炭・その他に広く使用されてきた材であり、エノキ・ヤチダモもそれに近い用途があり、ヤチダモはクリの模倣材にもなるという。

炭化材の組織

クリ *Custanea crenata* Sieb. et Zucc. ぶな科

孔圍道管の大きな環孔材、晩材部の小道管は多数集まって火炎状に配列する。放射組織は同性、単列と部分的2列のみである。周圍仮道管状の木纖維がある。

エノキ *Celtis sinensis* Pers. にれ科

孔圍道管の大きな環孔材、晩材部の小道管は不規則に集団して、斜めまたは接線方向に散在し、側壁にラセン肥厚がある。放射組織は異性で、1-10列くらい、さや細胞がある。

ヤチダモ *Fraxinus mandshurica* Rupr. Var. *japonica* Maxim. もくせい科

環孔材、孔圍道管は大きく、数列に並び、晩材部の小道管は単独、まれに2-3個ふくごうして疎らに散在する。放射組織は同性で、1-3列。



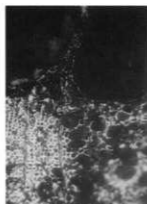
1. ヤチダモ (No.1) 木口



2. 同左、径目



3. 同左、板目



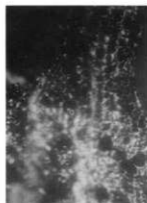
4. クリ (No.2) 木口



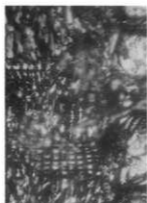
5. 同左、径目



6. 同左、板目



7. クリ (No.3) 木口



8. 同左、径目



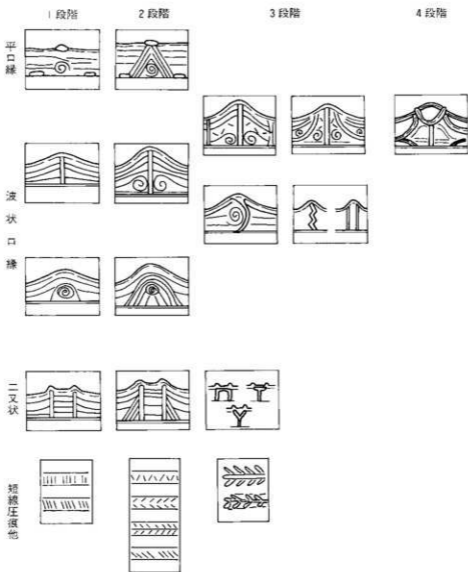
9. 同左、板目

(×50)

機ノ木遺跡出土の炭化材

然としたものも多くみられ、すべてがこの段階のものとは言い得ない。

また、巻き込んだような依条の隆帯などの意匠は、突起が大きく発達する上層b式に受け継がれるものと考えられる。



椋ノ木遺跡における円筒上層a式の口頸部文様の変遷（模式図）

文様構成による変遷を考えてきたが、今回は主に、本遺跡の出土例に拠ったため、他の遺跡の出土例とは異なった様相を呈するかもしれない。

初期段階や2段階では、空白を埋め尽くそうとする意識が働いていたようであるが、擦糸圧痕の意匠に種々の文様が施文されはじめた段階から空白部が多くなり、短線圧痕に替わる圧痕もその間隔が広くとられるようである。また、これに反して、肉厚の隆帯を多用したものは、前段階のように密集した文様を展開している。このことは、文様構成上の何らかの規範が緩和された時点で、より自由な方向を指すものと、従来の構成に立脚した上で、さらに発達させようとする二者が存在した可能性が考えられる。

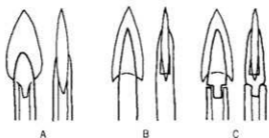
アスファルトの付着のみられる石鏃の着柄について

定形石器中でもっとも多く出土した石鏃の中で、32点にアスファルトの付着が観察された。これは総点数350点中の約1割にあたり、この時期、アスファルトが、相当量流入していたものと考えられる。出土資料の中で付着痕の認められるものを集成図にした。

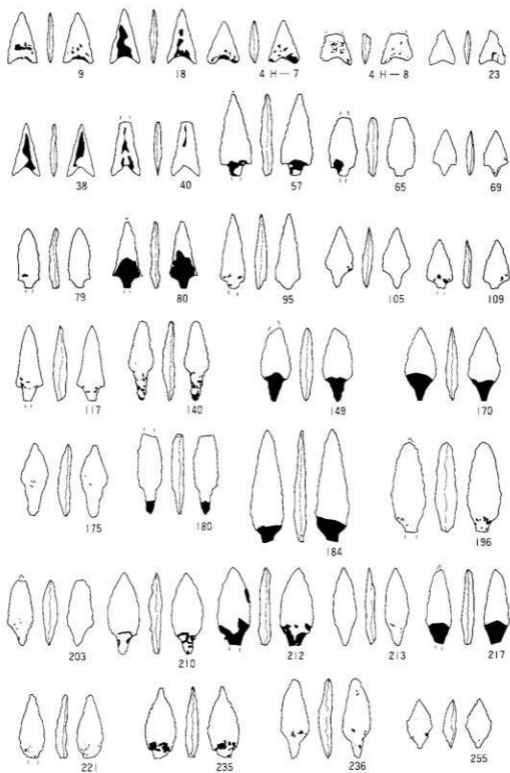
アスファルトは、石鏃と柄との着装時の接着剤と考えられる。付着範囲は、当然のことではあるが、茎部の有無で大きく異なっている。付着の残存率の高い数点での比較では、無茎鏃は18・38・40にみられるように、器体の先端まで及んでいる。これに対し有茎鏃では149・170のように、茎部及び基部のみに付着がみられ、完形品では茎部端まで及んでいるのが観察される。

これらの付着範囲から、着装法を推定してみた。ただ、すべての鏃の装着にアスファルトを使用したとも思えないことから、接着剤を伴わない装着法の存在もあったものと考えられる。本稿では、単に付着範囲からの推定である。

まず、柄の材質としては竹管が考えられ、矢柄研磨器と推定される石器の例からも妥当と考えられる。特に、本県では円筒土器以降に圧倒的に出土率の高くなる有茎鏃においては、中空であることから、装着に最も適している素材と考えられる。逆説的にいえば、竹管が柄として



着柄推定模式図



アスファルト付着石隕集成図



遺跡近景（崖上-調査区）



調査区（北東側から）



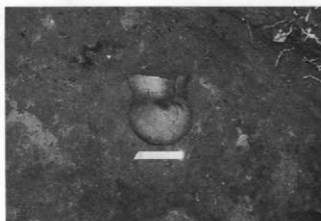
調査区（北東側から）



基本層序



第4号壑穴住居跡ほか



遺物出土状態



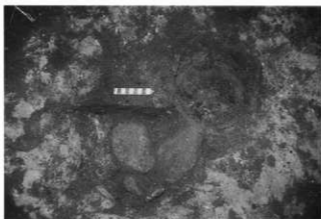
第3号竪穴住居跡



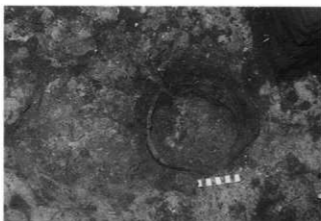
第3号竪穴住居跡



第3号竪穴住居跡



第4号窑穴住居跡 Ⅰ

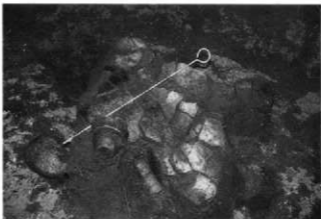


第4号窑穴住居跡
Ⅱ・埋設土器



第4号窑穴住居跡
土器出土状態

第4号竖穴住居跡
土器出土状態



第4号竖穴住居跡
土器出土状態



第5・6号竖穴住居跡
第10号土坑

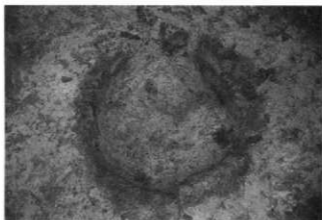




第6号竖穴住居跡



第6号竖穴住居跡



第6号竖穴住居跡 炉

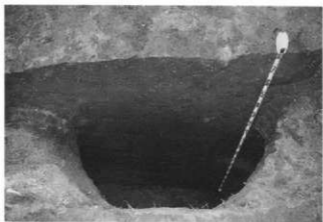
第1～7号土坑



第1号土坑

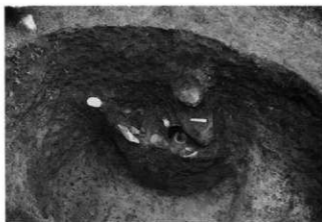


第2号土坑





第 2 号土坑



第 3 号土坑



第 3 · 7 号土坑



第4号土坑



第5号土坑



第5号土坑



第9号土坑



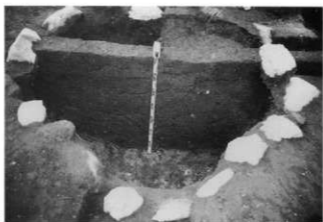
第1号屋外炉



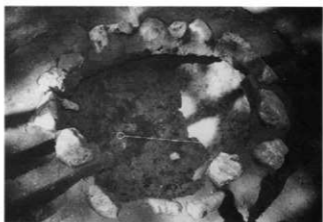
埋設土器遺構



第1号配石



第1号配石



第1号配石



第1号配石



第3～7号配石



第3号配石



第3号配石



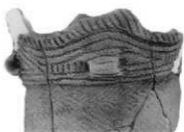
第4・5号配石



第1号溝状ビット



1



2



3



4

写真-14 第3号竖穴住居跡出土土器-1

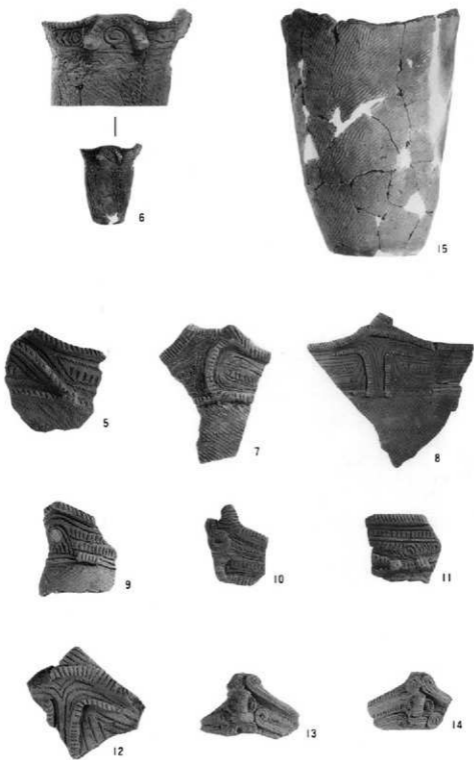


写真-15 第3号竖穴住居跡出土土器-2

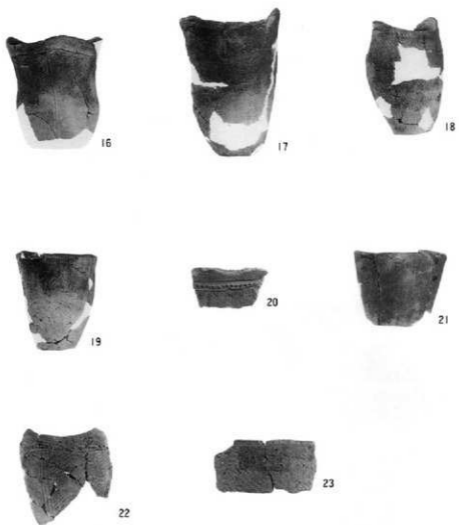


写真-16 第3号竖穴住居跡出土土器-3

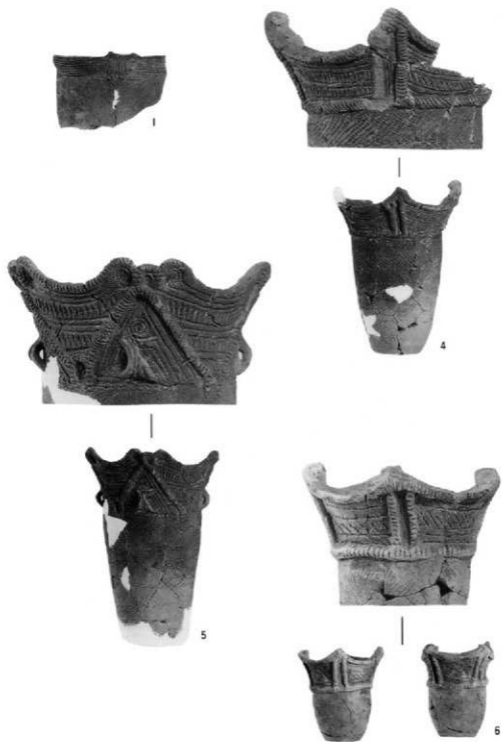


写真-17 第4号竖穴住居跡出土土器-1

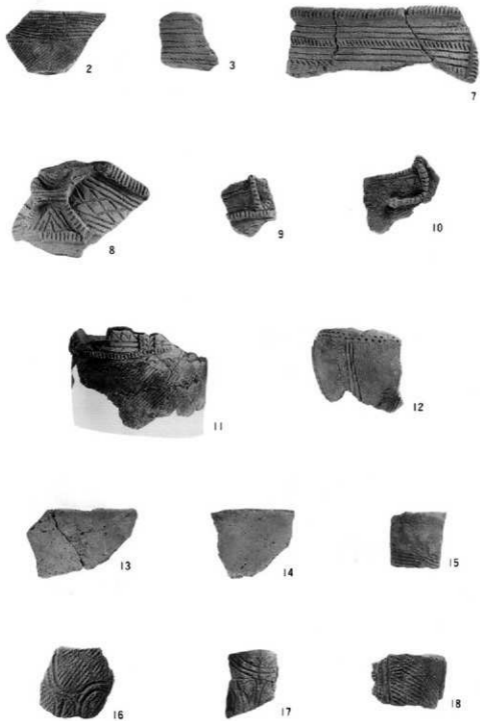


写真-18 第4号竪穴住居跡出土土器-2

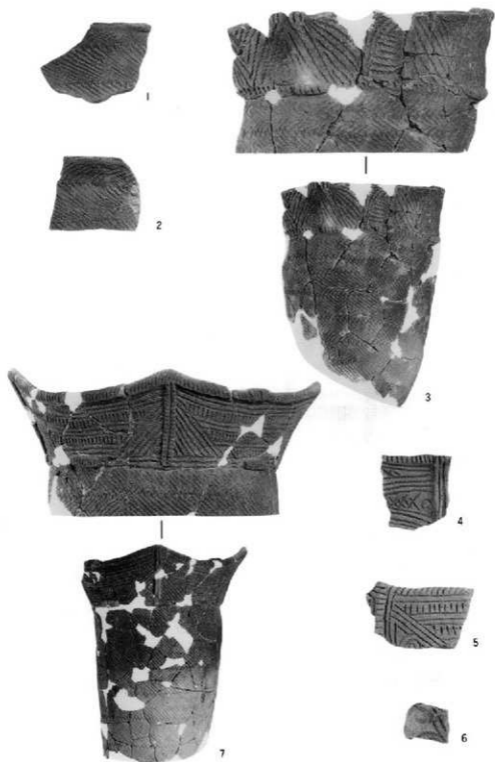
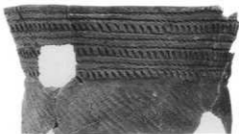


写真-19 第6号整穴住居跡出土土器-1



8



9



11



10

写真-20 第6号竖穴住居跡出土土器-2

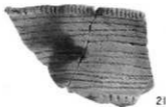


写真-21 第6号竖穴住居跡出土土器-3

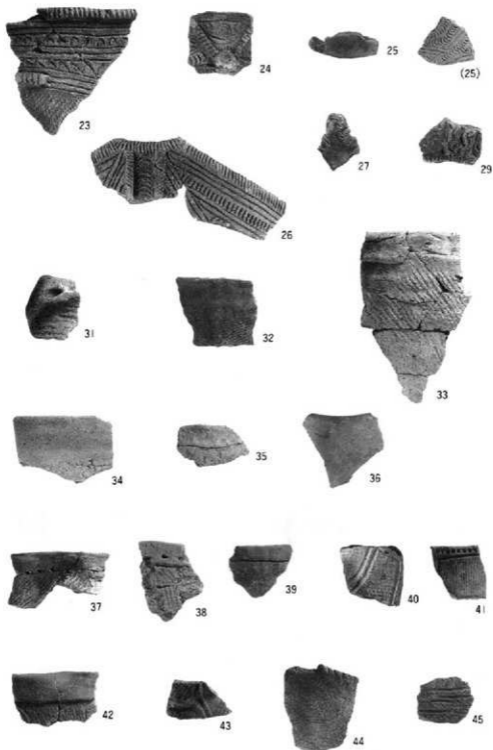
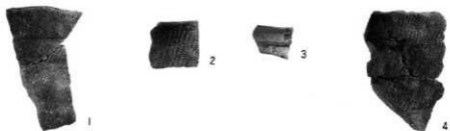


写真-22 第6号竖穴住居跡出土土器-4

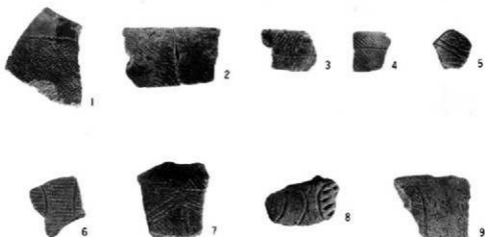
第1号土坑

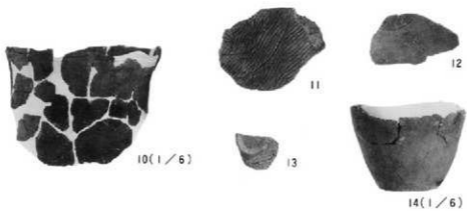


第2号土坑

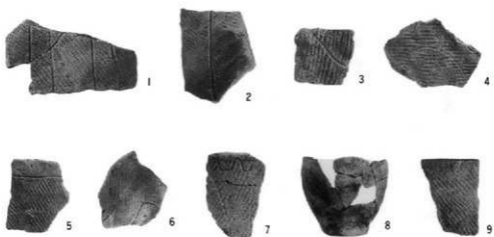


第3号土坑





第4号土坑

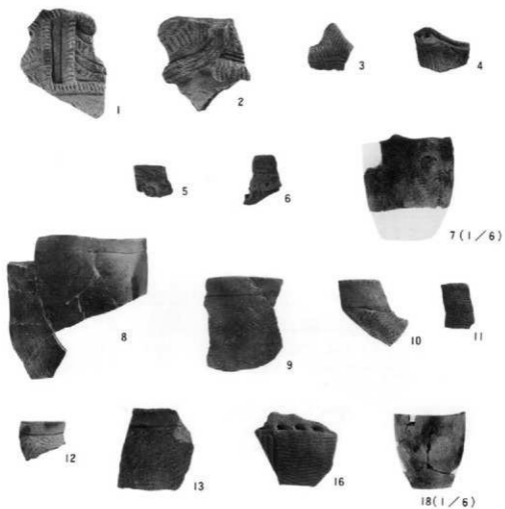


第6号土坑

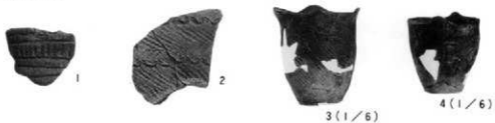


写真-24 土坑出土土器-2

第8号土坑



第9号土坑



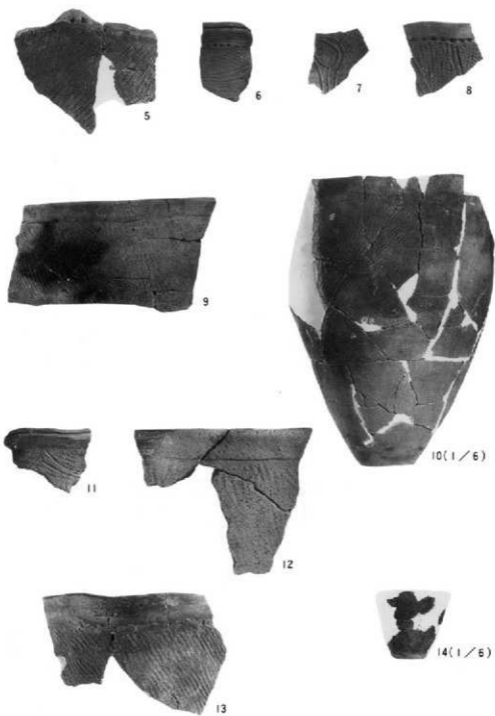


写真-26 土坑出土土器-4

第10号土坑



1(1/6)



5(1/6)

写真-27 土坑出土土器-5



6(1/6)



7

第1号石配

埋設土器



1

第2号石配



(1/6)



2



3



4



5



6

写真-28 土坑・配石遺構出土土器、埋設土器

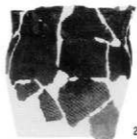
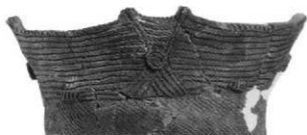


写真-29 遺構外出土土器-1 (第II群)



写真-30 遠構外出土土器-2 (第II群)



5



6 (1/4)



7



8 (1/4)



9 (1/4)



10

写真-31 遺構外出土土器-3 (第II群・第III群1類)



11



12



13



14(1/4)



15(1/4)

写真-32 遺構外出土土器-4 (第III群1類)

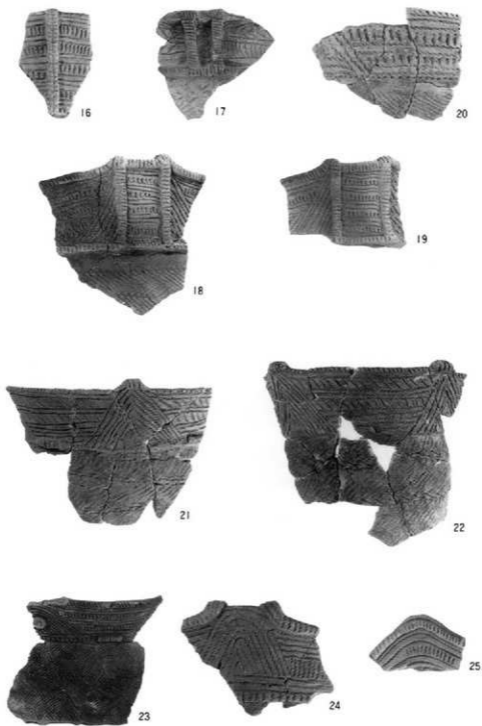


写真-33 遺構外出土土器-5 (第III群1類)



26



27



30



28(1/6)

写真-34 遺構外出土土器-6 (第III群1類)

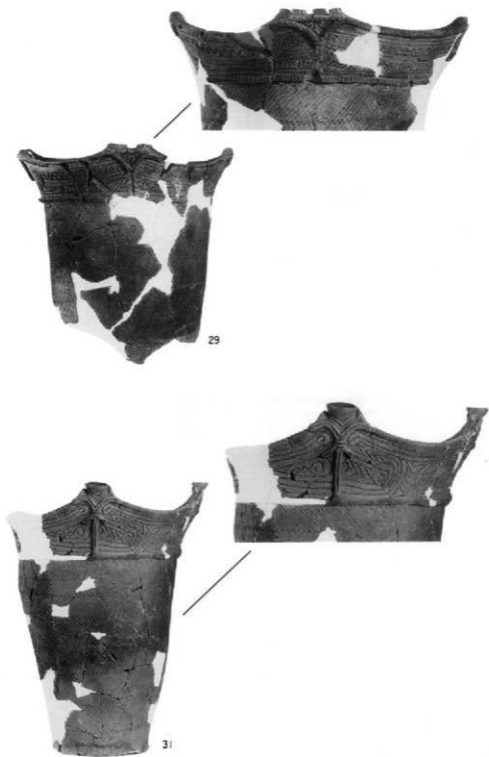


写真-35 遺構外出土土器-7 (第III群1類)

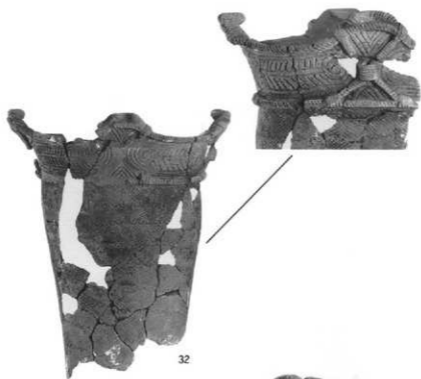


写真-36 遺構外出土土器-8 (第III群1類)

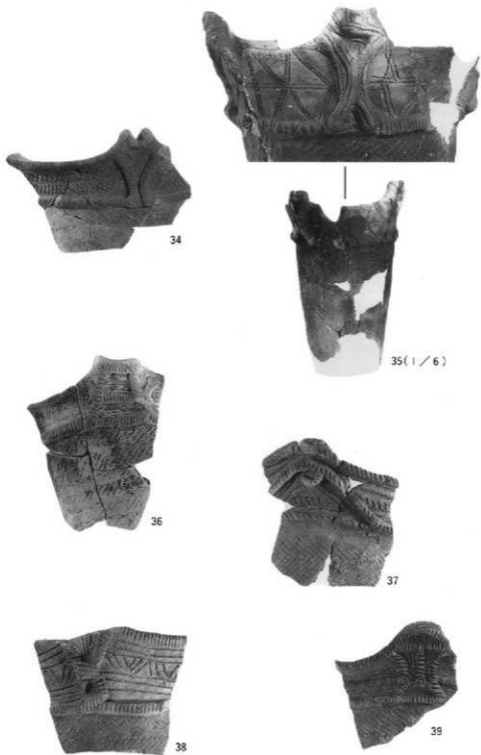


写真-37 遺構外出土土器-9 (第III群1類)



40



41



43



42



44



45



46



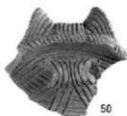
47



48



49



50

写真-38 遺構外出土土器-10 (第III群1類)

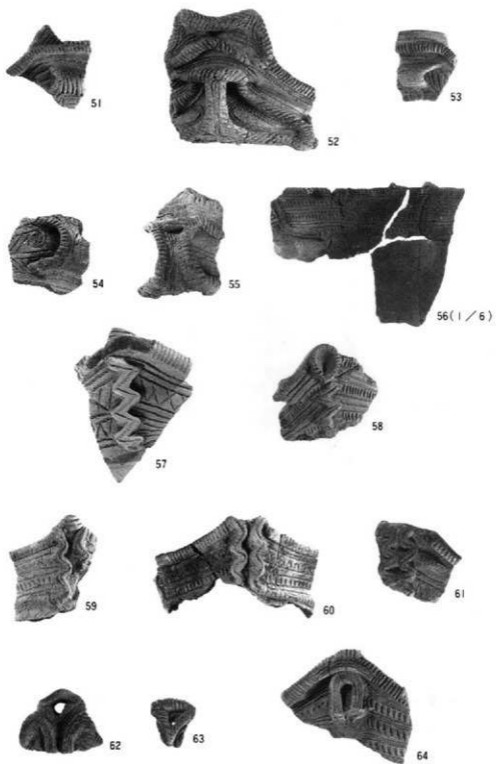


写真-39 遺構外出土土器-11 (第III群1類)



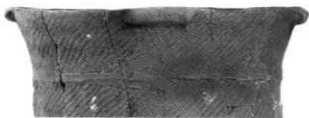
65



66



67



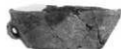
68(1/6)



69



70



71(1/6)

写真-40 遺構外出土土器-12 (第III群1類)

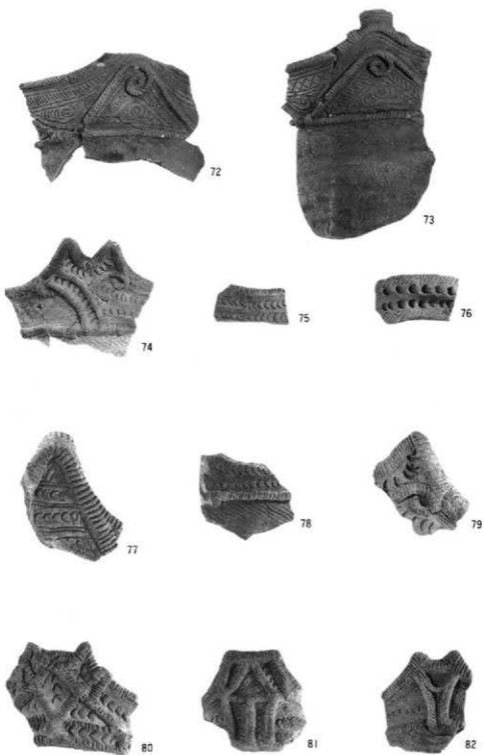


写真-41 遺構外出土土器-13 (第III群2類)



83



85



86



87



88



89(1/6)

写真-42 遺構外出土土器-14 (第III群 2類・3類)



90



92



93



94

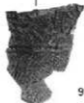


95(1/6)

写真-43 遺構外出土土器-15 (第III群3類)



96(1/6)



99(1/6)



97



98



100



101



102



103



104



105



106

写真-44 遠構外出土土器-16 (第III群3類)



107(1/4)



108(1/4)



109(1/4)



110



111



112



写真-45 遺構外出土土器-17 (第III群3類・4類)

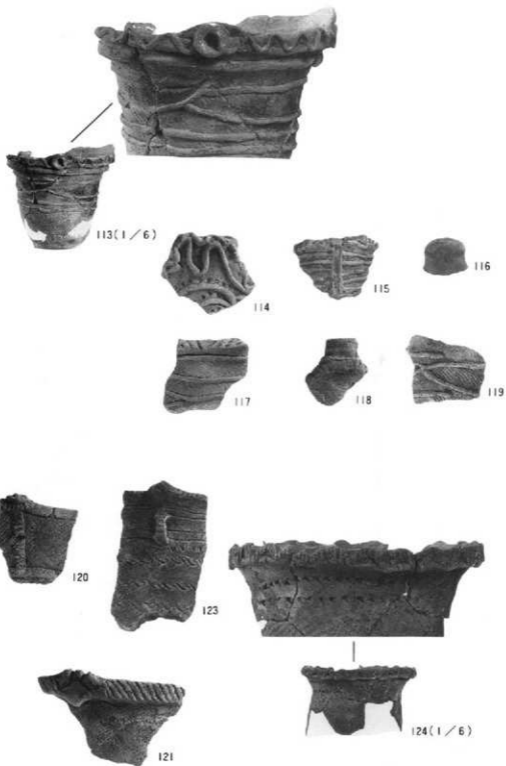


写真-46 遺構外出土土器-18 (第III群4類・5類)

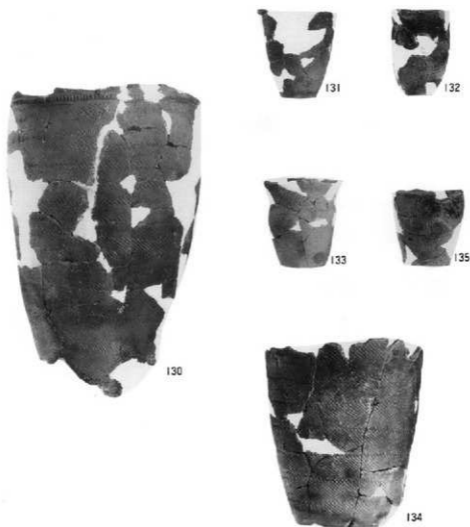
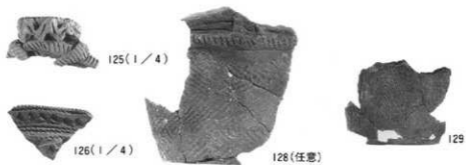


写真-47 遺構外出土土器-19 (第III群6類)

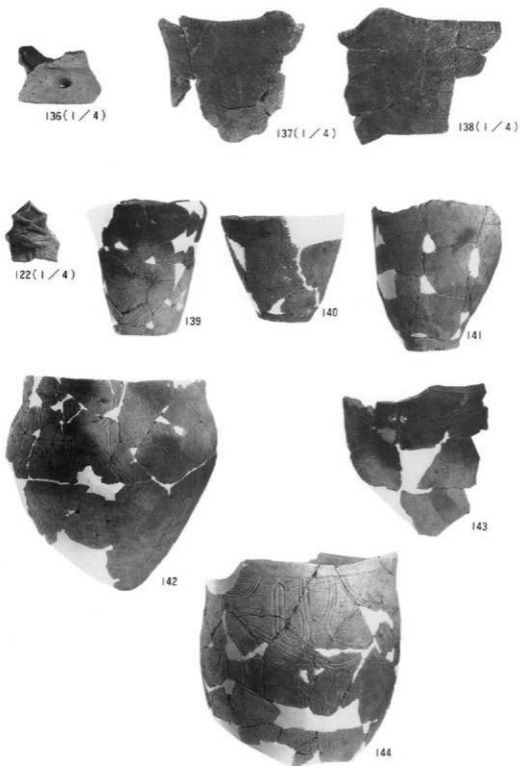


写真-48 遺構外出土土器-20 (第III群6類・第IV群1類)

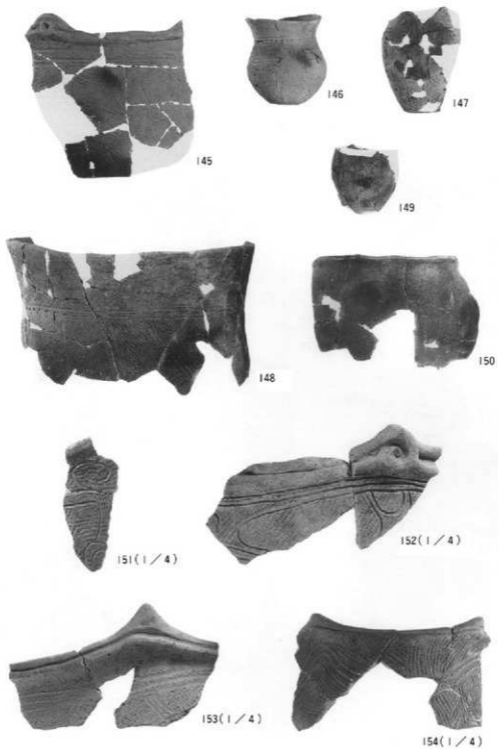


写真-49 遺構外出土土器-21 (第IV群1類)

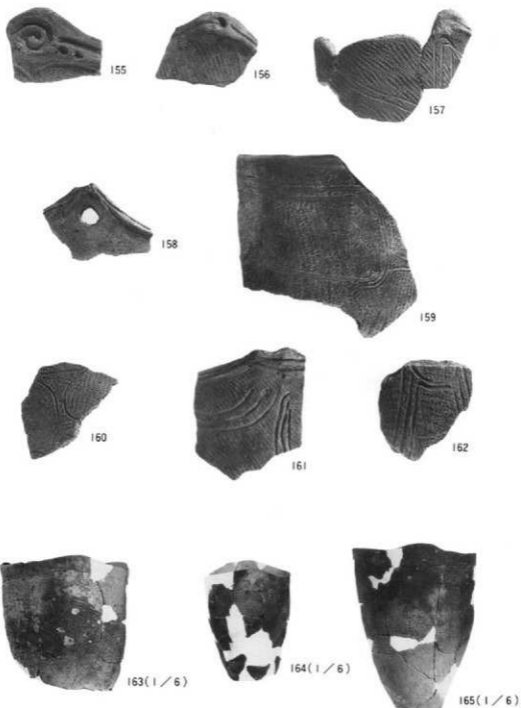


写真-50 遺構外出土土器-22 (第IV群1類)

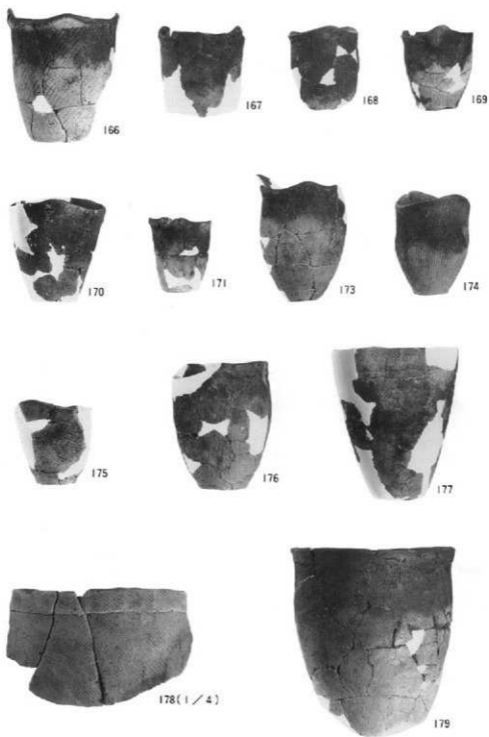


写真-51 遺構外出土土器-23 (第IV群1類)



180



181



183



184



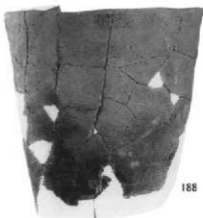
182(1/4)



185



186



188



187

写真-52 遺構外出土土器-24 (第IV群1類)



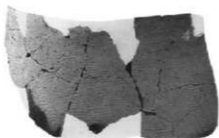
189



191



192



190(1/4)



193



194

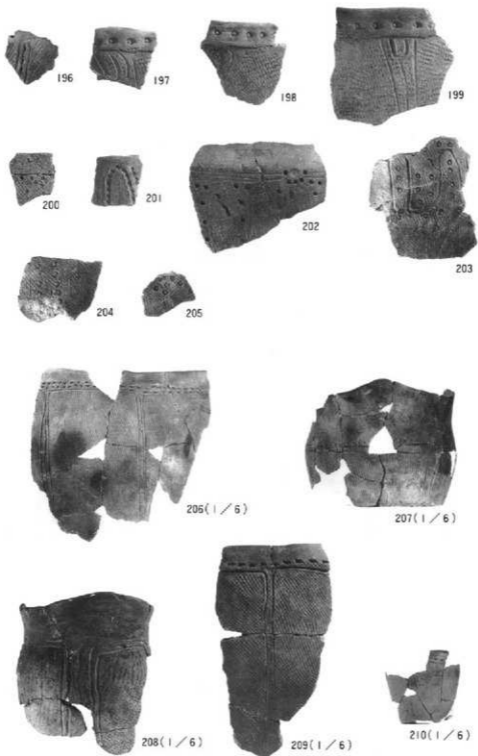


写真-54 遺構外出土土器-26 (第IV群2類)

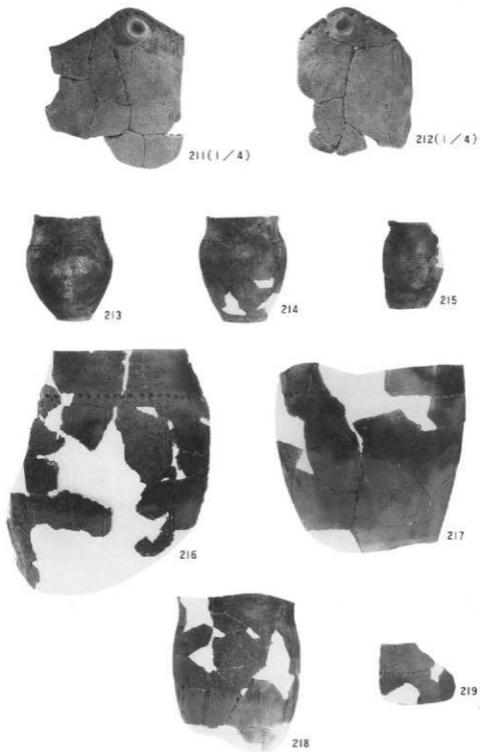


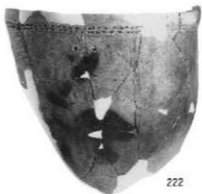
写真-55 遺構外出土土器-27 (第IV群2類)



220



221



222



223



224

写真-56 遺構外出土土器-28 (第IV群2類)



225



226(1/4)



227(1/4)



228(1/4)



229



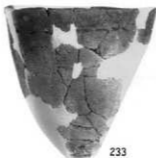
230



231



232



233

写真-57 遺構外出土土器-29 (第IV群2類)



写真-58 遺構外出土土器-30 (第IV群2類)

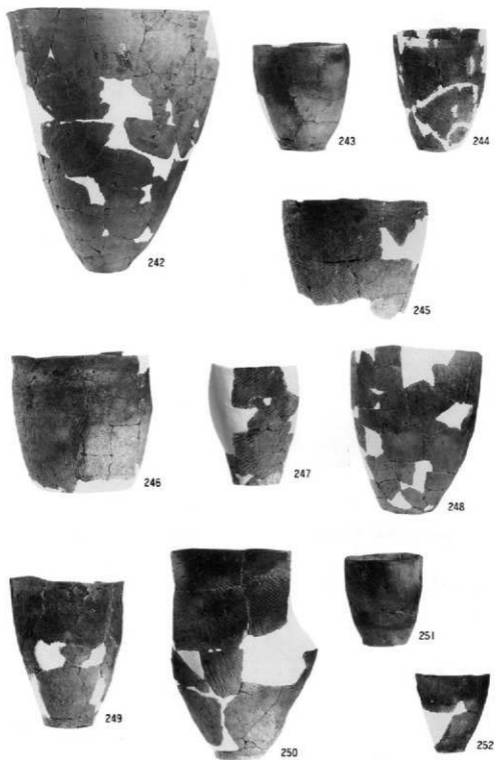


写真-58 遠構外出土土器-31 (第IV群2類)



253



254



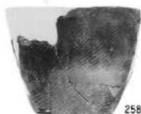
255



256



257



258



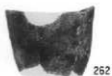
259



260



261



262



263



写真-60 遺構外出土土器-32 (第IV群2類・3類)

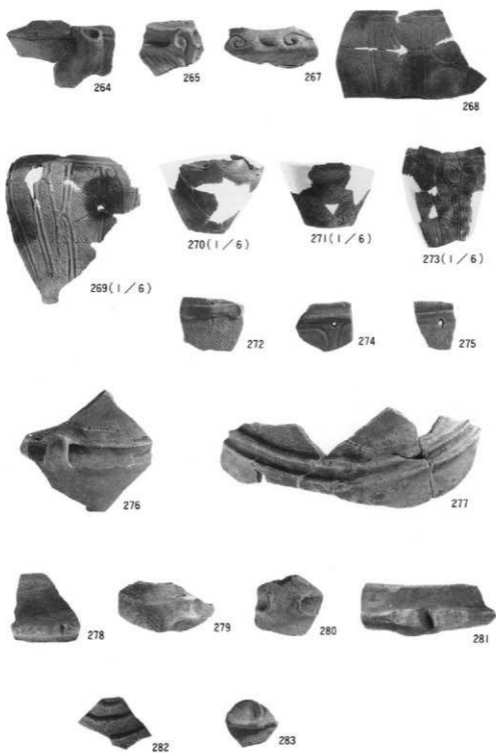


写真-61 遺構外出土土器-33 (第IV群3類)

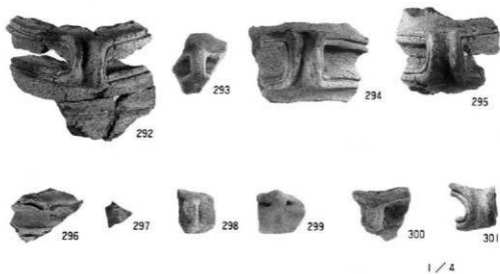
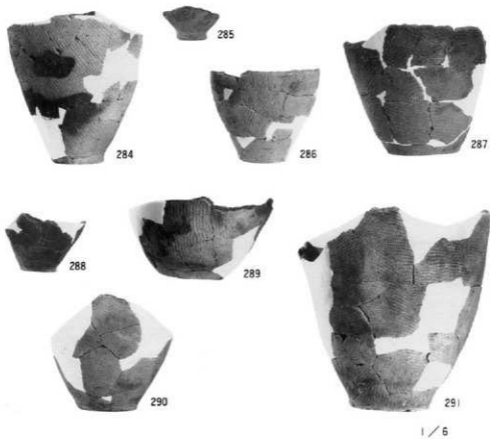


写真-62 遺構外出土土器-34 (第IV群4類・第V群)

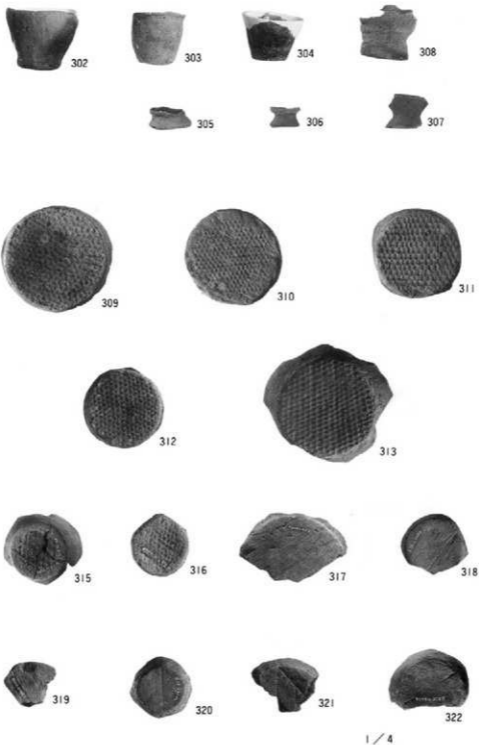


写真-63 遺構外出土土器-35 (第VI群・第VII群)



323



324



325



326



327



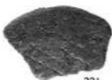
328



329



330



331



332

1 / 4

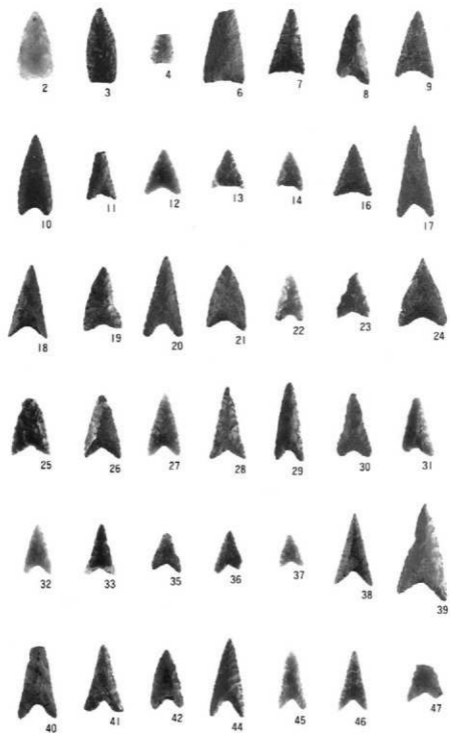


写真-65 遺構外出土石器-1 (石鏃-1)

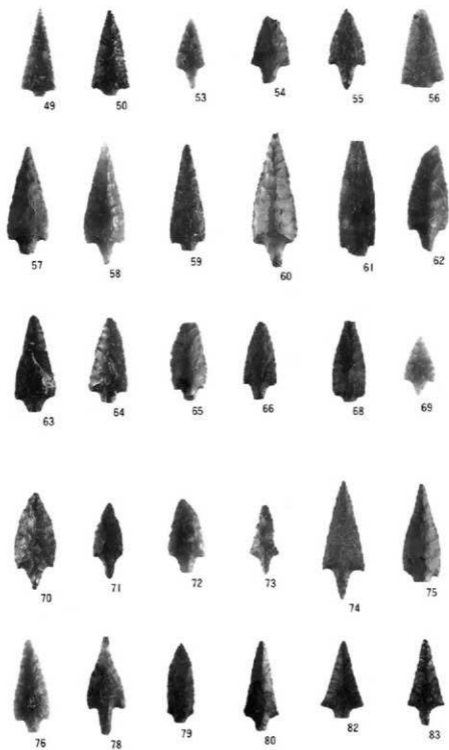


写真-66 遺構外出土石器-2 (石鏃-2)

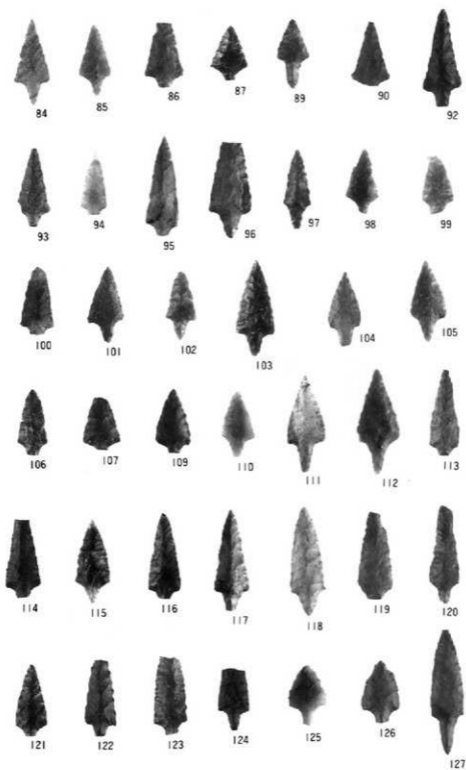


写真-67 遺構外出土石器-3 (石鏃-3)

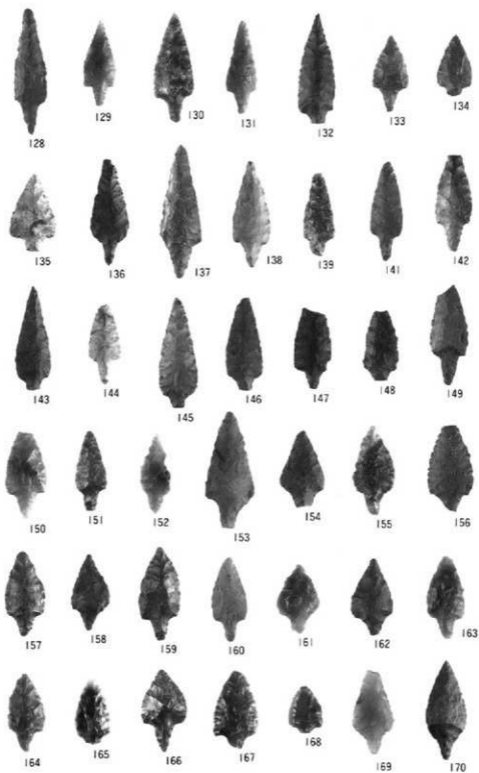


写真-68 遺構外出土石器-4 (石鏃-4)

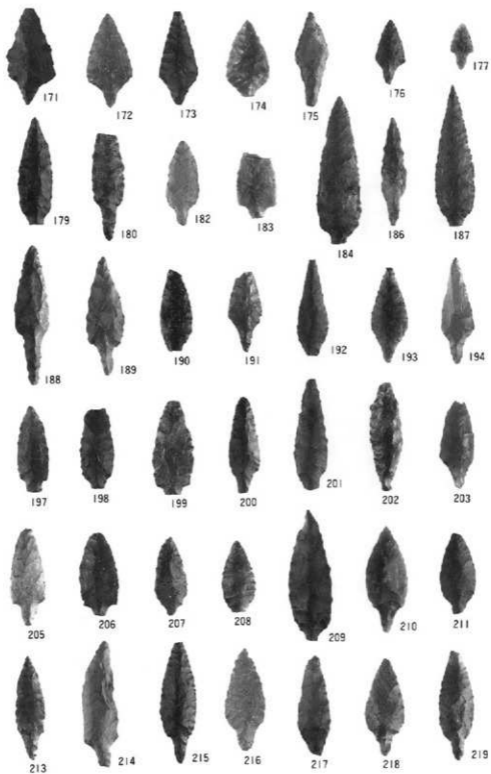


写真-69 遺構外出土石器-5 (石鏃-5)

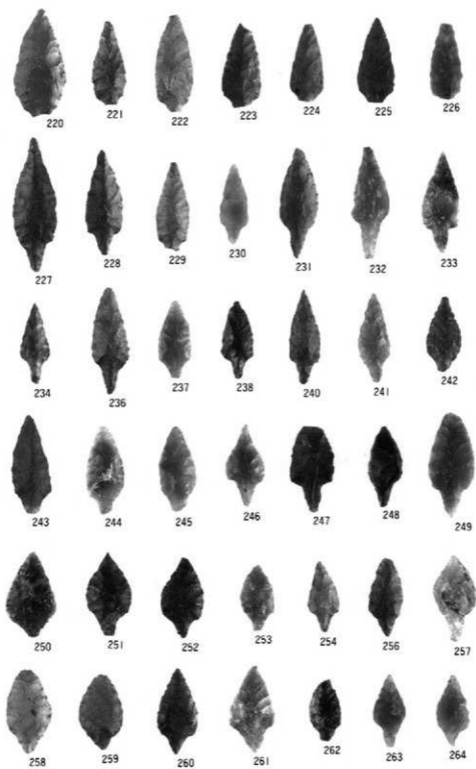


写真-70 遺構外出土石器-6 (石鏃-6)

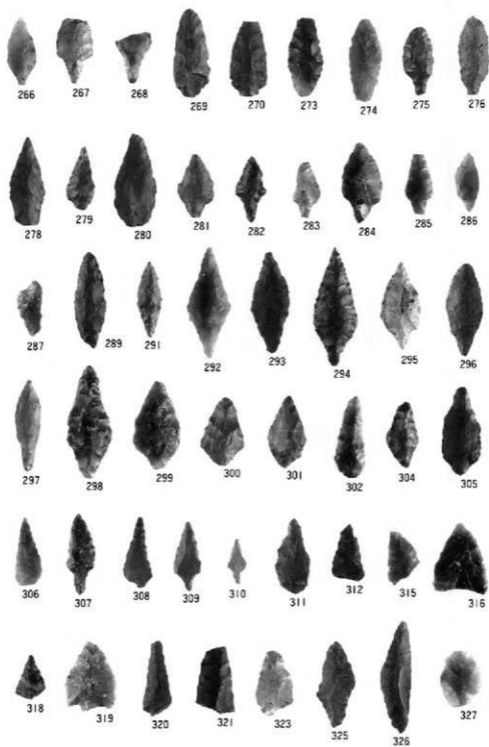


写真-71 遺構外出土石器-7 (石鏃-7)



写真-72 遺構外出土石器-8 (石槍・石錐)

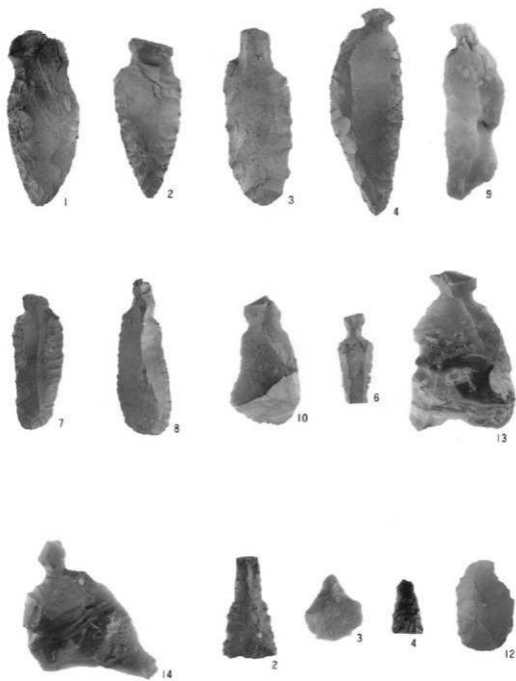


写真-73 遺構外出土石器-9 (石匙・石鏟)



写真-74 遺構外出土石器-10 (石筥・異形石器)



写真-75 遺構外出土石器-11 (不定形石器)

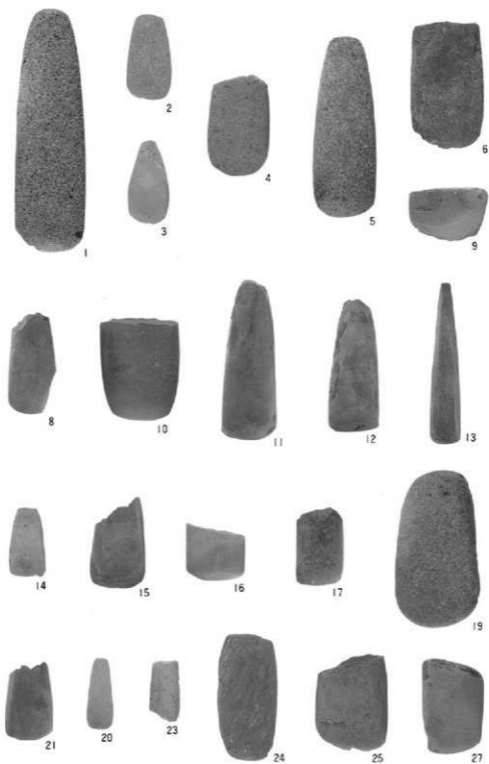


写真-76 遺構外出土石器-12 (石斧-1)

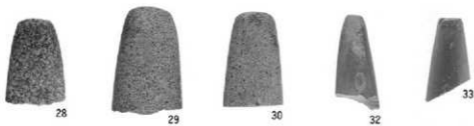
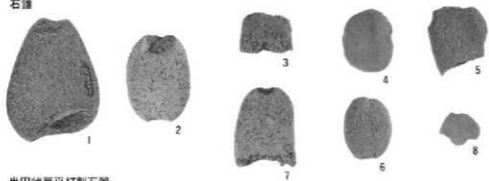


写真-77 遺構外出土石器-13 (石斧-2)

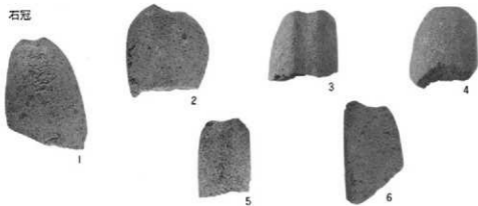
石錘



半円状扁平打製石器



石冠



S = 1/4.5

写真-78 遺構外出土石器-14 (石錘・半円状扁平打製石器・石冠)

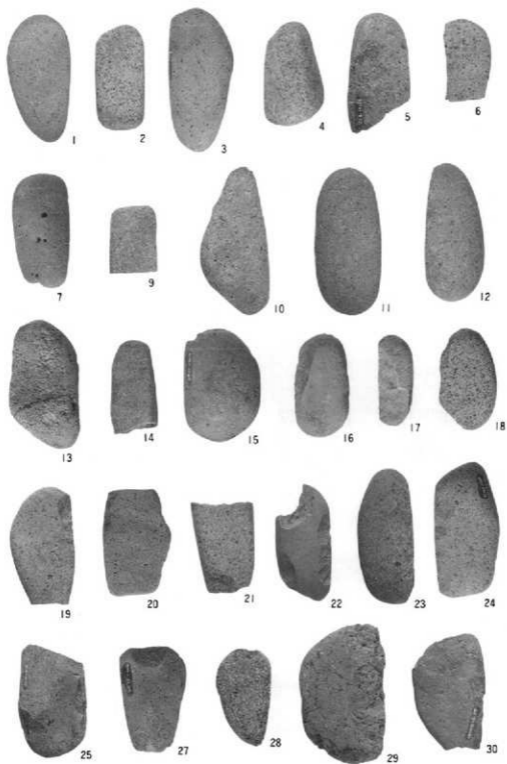
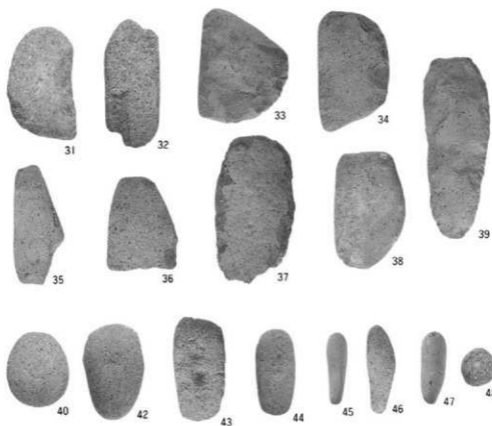


写真-79 遺構外出土石器-15 (スリ石)

S=1/4.5



凹み石



写真-80 遺構外出土石器-16 (スリ石・凹み石)

S=1/4.5

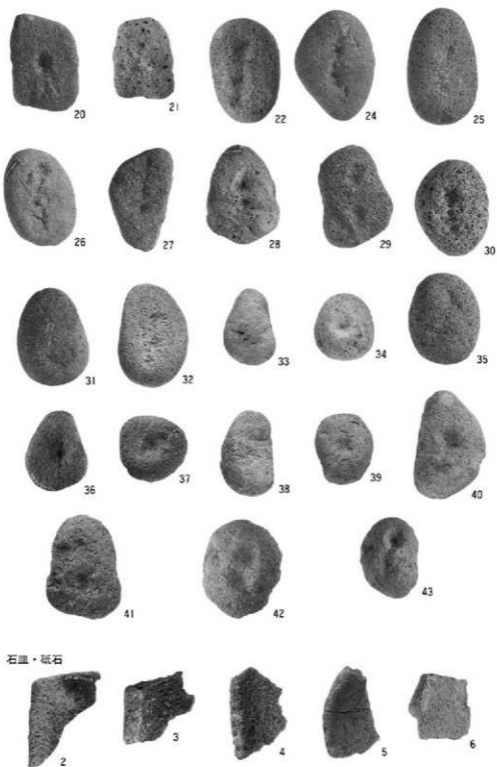


写真-01 遺構外出土石器-17 (凹み石・石皿)

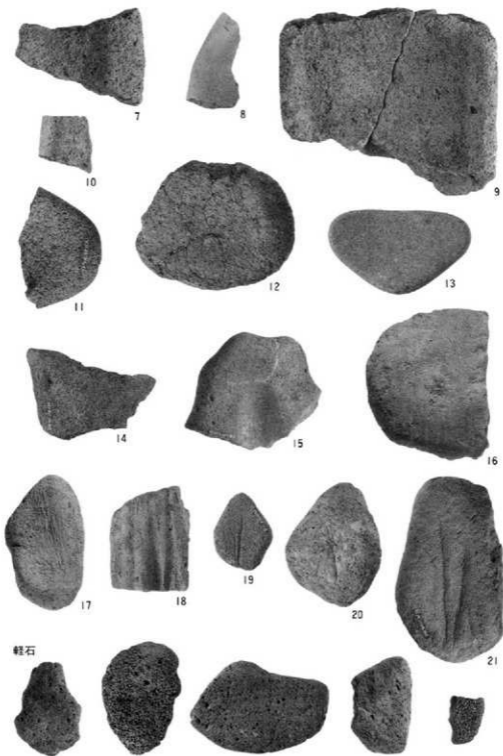
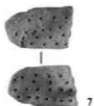
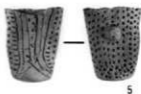
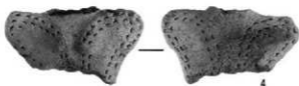
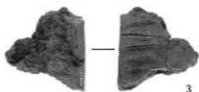
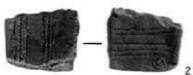
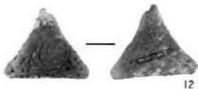


写真-82 遺構外出土石器-18 (石皿・砥石・軽石)

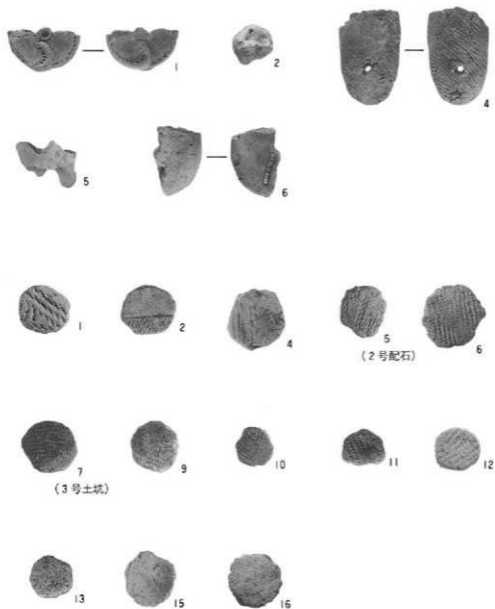


11



S = 1/3

写真-83 土製品-1 (土偶)



S = 1/3

写真-84 土製品-2 (円盤状・その他の土製品)



S = 1/2

写真-85 石製品

報 告 書 抄 録

ふりがな	つきのき(1)いせき						
書名	槻ノ木(1)遺跡						
副書名	野辺地町近沢川砂防ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書						
巻次							
シリーズ名	青森県埋蔵文化財調査センター						
シリーズ番号	第169集						
編著者名	白鳥文雄						
編集機関	青森県埋蔵文化財調査センター						
所在地	〒038 青森市大字新城字天田内152-15 TEL0177(88)5701						
発行年月日	西暦1995年3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
槻ノ木(1)	青森県 上北郡	市町村	40° 51° 54°	141° 05° 44°	19930705 ～ 19931118	5,176	野辺地町近 沢川砂防ダ ム建設事業 に伴う発掘 調査
	野辺地町字 槻ノ木31	遺跡番号					
	外	02401 40001					
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
槻ノ木(1)		縄文	竪穴住居跡 土坑 屋外炉 埋設土器遺構 配石遺構 溝状ピット	縄文時代中期の 土器・石器 土偶・土製品 石製品、 縄文時代後期の 土器・石器			

